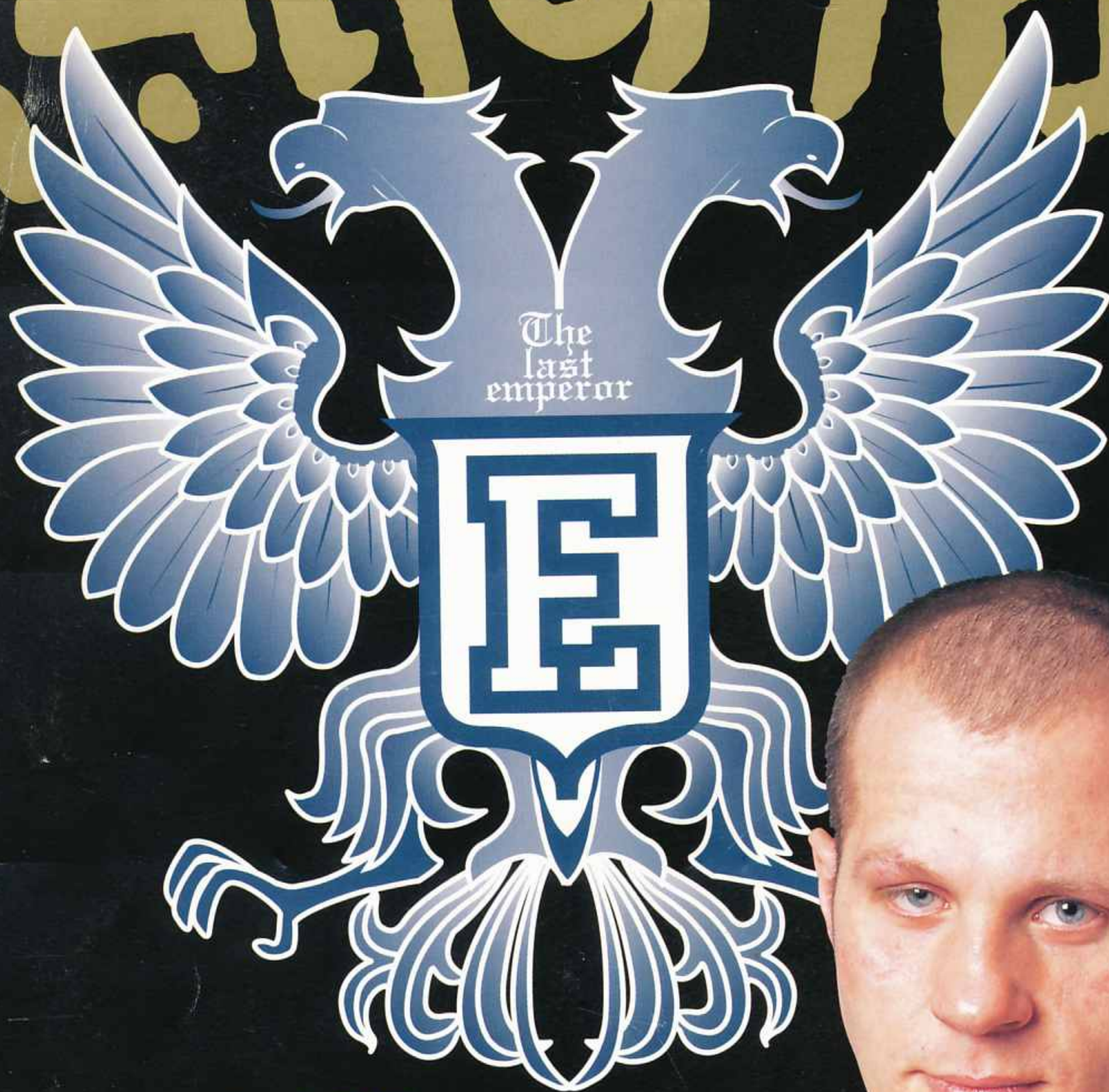
驚ガクのファンタジー対談実現！ 武藤敬司×須藤元気
紙のプロレス
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
RADICAL
60
2003
ノゲイラ政権を崩壊させた
“最後の皇帝”!!
エメリヤーエンコ・
ヒョードル
The last emperor
E
ま、まさか!!
サクを失神KO!!
ニーノ・
“エルビス”・
シェンブリ
この男はいったい何者か!?
『PRIDE』、RE・BORN!!
特別立会人が大総括!!
髙田延彦
この男がプロレス界をブン回す!!
高山善廣
対抗戦でも「いっちゃうぞバカヤロー!」
小島 聡
フジテレビ放送開始で
WWE日本侵攻が加速!!
ますます面白い!!
ZERO-ONEに
春の嵐!!
袋とじ級
衝撃インタビュー
2連発！
田代まさし
倉持隆夫
気づいてますか!?
マット界は、これから
変わりますよォオ!!
英雄、変貌を好む!!
仰天!! 5・2新日ドームでVT!!
10周年のパンクラス、ド直進!!
3・4『DEEP』大爆発！
マッハ&三島参戦の影の仕掛け人登場!!
紙のプロレス RADICAL
2003 No.60
マット界が生まれ変わる!!
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

「サクが負けたのに仕事なんかしてられるか!!」

——と思いつつもメイン終了1分後には『PRIDE.25』全試合結果アップしました。

マット界の事件・ニュース、特選コラムを毎日更新!!

ユーザーとプロレスする携帯サイト

『紙プロHand』担当
桜庭和志ファン・ささきい

『紙プロ』BN38号に、ただのサクファンだった頃のささきいが出ています

4月1日、着メロ・待画追加!! だが、オープン記念・着メロダウンロード無制限サービスは3月末まで。加入するなら今だ!!

（※着メロ・待画は一部機種には対応しておりません）

iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶ 紙プロHand

ez-web版も、もちろん同時刻にアップ!!

ez-web版 メニュー
月額 ¥200

- 動画対応の機種なら、動画も見れる!!
- 日々のニュースをどこよりも早くドラマチックに送る「メガNEWS速攻」
- マット界の流れをもう一度見たい時に「メガNEWS保存版」
- リニューアルして見やすくなりました「試合結果速報」
- コボレ話的なニュースを中心に送る「ブッコミTOPICS」
- 『紙プロ』認定要注目団体の細かな情報を随時アップ!!「団体別TOPICS」
- 会見・試合写真等、毎週写真つきニュースを公開!!「ビジュアルニュース」
- 意外なほど（?）その的中率は高いぞ!「噂の万華鏡」
- 1カ月ごとに見れる「試合スケジュール」で観戦計画もバッチリ!
- ez-webオンリーのスペシャル画像多し!「画像ギャラリー」

こちらも4月1日着メロ&待画追加ダーッ!!

トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or ezインターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶ 紙プロHand

PRIDE
いったい、この“リアル感”はなんなんだ!?
RE-BORN!!

う舞が“怪物”化した!!

ーローでさえ
われない者”
りにされる!!

遠い遠い海の向こうでは戦争が始まったが、世界中の人々が平和を願っても、いつもどこかで戦争、紛争が起きている。『PRIDE』のリングも平和ではなかった。

闘いの向こうに平和が訪れるのか？

それとも闘わなければ平和が訪れるのか？

人類は、ズーッとこの問題に悩まされてきた。それくらい「闘い」というのは人間にとって根源的なものなのだ。ズバリ言って、話が大きくなりすぎたのでこの話はこれでやめる。

3・16『PRIDE．25』のリングには、「闘い」があった。それも「なくなるんじゃないか」とまで言われた『PRIDE』が、大きく変貌してファンの前に現れた。

ボーッと見てると変わらない印象を受けるかもしれないが、見てみ、このクオリティ！　見てみ、このリアリティ！　見てみ、このハプニング！　見てみ、このドラマ！

と叫びたくなるほど、客席もリング上も含めて熱があり、実に濃密な空間だった。まさにプロレスから一番かけ離れたところにプロレスがあった。そんな感じだ。

サクが負けた。ノゲイラが負けた。

本当に恐ろしいまでの“リアル感”だった。

完全に競技の枠は超えているリアル感だ。

サクが電池が切れたかのようにリングに顔を埋めた。大映しになったサクの顔から鼻血がツーッと滴り落ちた。

ヒョードルが一発、蒼き炎のパンチを打つ度に、観るものの背筋を戦慄が走り抜けた。ノゲイラは何度も白目を剥きかけてるにも関わらず、

『PRIDE』は平和ではない

『PRIDE』という鉛

もはやヒーロ

"生まれ変わ

は置き去り

ヒョードルの腕を取りに行った。

大山峻護はスタンドで失神し、なおかつキレイに投げられ、その頭部はマットで何度もバウンドして弾んだ。

タックルに行ったところ、そのカメハメ波の周波数をアンデウソンの膝がとらえ、ニュートンは一瞬で崩れ落ちた。

ランペイジが緻密な剛腕で、あの暴れん坊ランデルマンをなぎ倒した。そしてその後シウバを呼び込み、格闘技史上稀にみる大乱闘劇へと発展した。

凄惨で残酷な一瞬が何度も訪れるが、それでも初期UFCのような、機械が人を殴っているかのような不安感、不快感はない。

この「闘い」の向こうに平和な風景が待っている。そう思えるかような温もりがある。

つまり、今回の『PRIDE』は、人間対人間が表現できうるギリギリで荒っぽい〝生の格闘芸術〟だったのだ。

これだけクオリティの高いリアルな場では、〝生まれ変われない者〟は置き去りにされていくだろう。ヒョードル、ランペイジ、ニーノ、ダンヘン、アンデウソン——この日の勝者は短期間で驚くほど変貌を遂げた者たちだ。

ある人は言った。

「人間は常に変化していく必要がある。断定したらスッキリはするがそれで終わりだからだ。そして常に周辺に触覚を立て変化しながら、本当に変えてはいけないものを見つける旅。それが人生だ」

ん〜、プライドッ!!

リングス最後の皇帝、ノゲイラを破り『PRIDE』制圧！
この男こそが“王の中の王”だ！

KING OF KINGS

新PRIDEヘビー級王者

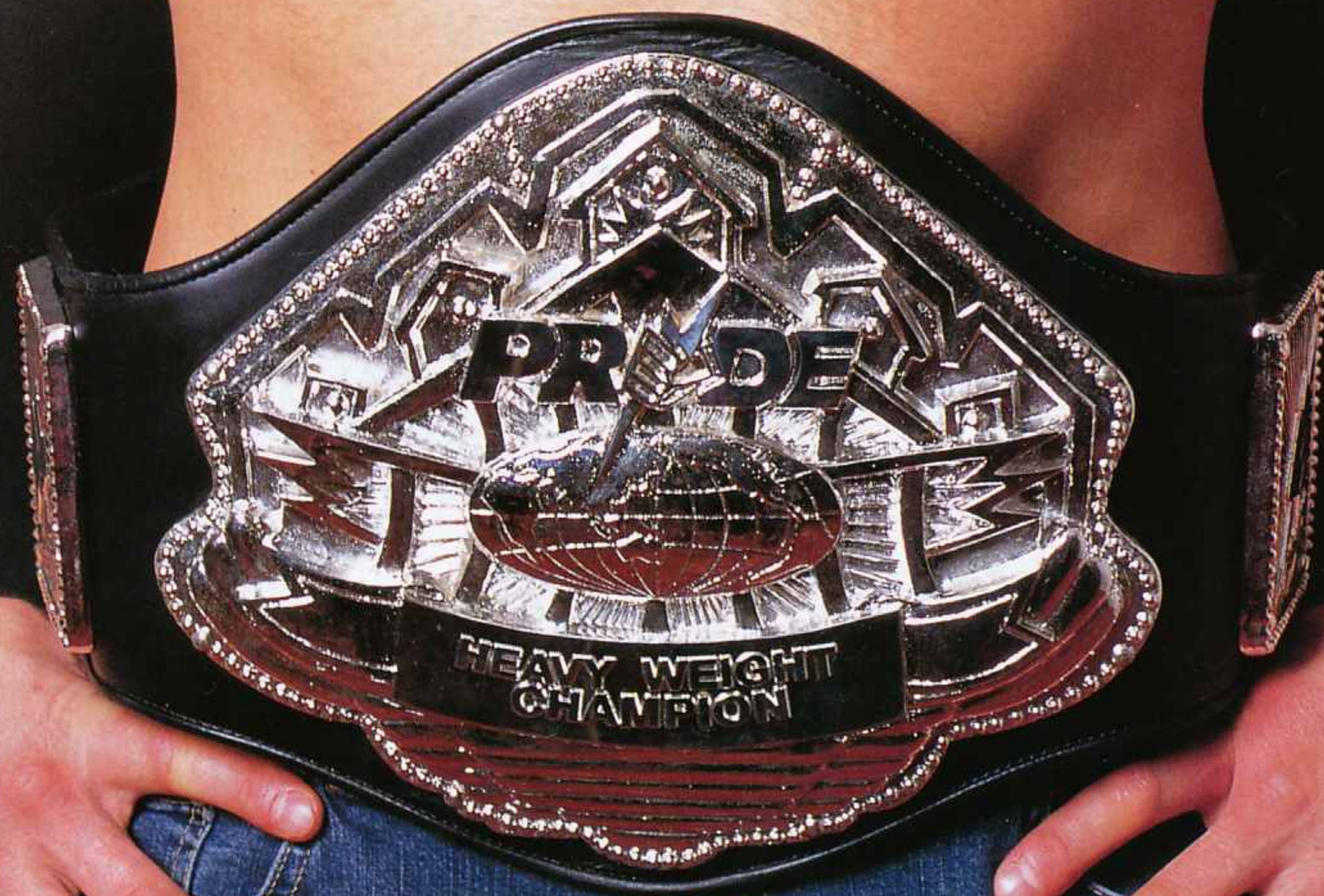
エメリヤーエンコ・ヒョードル

EMELIANENKO FEDOR

かくして“狼の伝言”は現実となった！

「近い将来私の魂を受け継いだ弟子が、君を困らせることだろう」本誌前号で掲載した、
2年前にヴォルク・ハンがノゲイラへ宛てたメッセージ。それが遂に現実となった！
リングス最後の皇帝エメリヤーエンコ・ヒョードル、最強の王者ノゲイラを破りPRIDEヘビー級の頂点に！
これはロシアの勝利、リングスの勝利、そしてヴォルク・ハンの勝利だ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／森鷹博　designed by hisa (Two Three)

「今回の勝利は、
先人達の思いが
私に宿った
結果でしょう」
PRIDE
HEAVY WEIGHT
CHAMPION

——昨日はPRIDEヘビー級王座奪取おめでとうございます！　2年前、師匠であるハン選手がノゲイラに負けたとき、「近い将来、私の弟子がノゲイラを倒すだろう」と言ってたんですけど、まさにそれが実現したんで、これはホントにロシア2世代に渡っての悲願達成ですね！

ヒョードル　ありがとうございます。ハンにもこの試合の前に「成功を祈る」という言葉をいただきましたから。実現できて非常に嬉しいですね。

——では、いまは最高の気分ですか？

ヒョードル　最高の気分というより……眠い（笑）。

——眠い！　最強の王者ノゲイラを破ってPRIDE王者になった感想が「眠い」ですか！（笑）。

ヒョードル　いやぁ、昨晩は祝勝会で寝てないんですよ（苦笑）。

——そうでしたか（笑）。では、眠い中すみませんけど、改めて昨日の試合の感想を聞かせてもらえますか？

ヒョードル　凄く難しい試合でしたね。私もノゲイラも死力を尽くした闘いでした。それぐらい白熱した試合だったと思います。その上で勝てたので大変嬉しいです。サポートしてくれた多くの人々、そしてファンに感謝したいですね。

——今回は綺麗な奥さんも連れてきていたようですけど、奥さんを連れてきたということは、実は自分の勝利を確信していたんじゃないですか？（笑）。

ヒョードル　そうです（笑）。

——ホントに確信してましたか！（笑）。奥さんを連れてきたのは初めてですよね？

ヒョードル　いや、2度目ですね。リングスのチャンピオンになったときも連れてきました。

——ほう！　それじゃ、勝利の女神じゃないですか（笑）。

ヒョードル　そうですね（微笑）。今日はそのご褒美じゃないですけど、午後から妻をアキハバラ（秋葉原）に連れていく約束をしてるんですよ。凄く眠いのでホントは寝ていたいんですけど……。

——いまも眠いでしょうけど、もうちょっと我慢してくださいね（笑）。

ヒョードル　はい（笑）。

——今回、試合前に〝秘密特訓〟を積んでいたという報道がされていたんですが、どこでどんな練習をしていたんですか？

ヒョードル　それは秘密ですよ。秘密特訓ですから（笑）。

——そこをなんとか！

ヒョードル　まぁ、ホントは秘密でもなんでもなくて、エカテリンブルグにあるリングス・ロシア道場とトゥーラにあるヴォルク・ハンの道場で一流サンビストたちと集中特訓を積んでいたんです。あと、打撃についてもここにいるニコライ・ピトコフコーチとずいぶん練習を積みました。

——ロシアン・トップチームのメンバーともスパーリングをやったりしたんですか？

「リングスは終わったのではなく、PRIDEとして続いていると思います」

EMELIANENKO FEDOR

ヒョードル　もちろんやりました。ニコライ・ズーエフ、アンドレィ・コピィロフ、ユーリ・コーチキンらですね。彼らはこれまで数々の修羅場をくぐり抜けてきた、経験豊富な実力者ばかりですから、スパーリングをやるたびに勉強になりますね。

パコージン（ロシアン・トップチーム代表）　今回のエメリヤーエンコの勝利のために我々はチームをあげて協力したんだ。中でも最も貢献したのはここにいるニコライ・

①『紙プロ』通販で絶賛発売中のヒョードルTシャツ（宣伝）を着て、実に落ち着いた表情で入場したヒョードル。これこそ不動心だ。②試合開始から1分、スタンド状態からヒョードルの右フックが顔面を捕らえ、ノゲイラは転がるようにガードポジションへ。しかし、その体勢からヒョードルの恐怖の顔面パンチが襲う！③ノゲイラは下から得意の三角絞めを再三狙うが、上からヒョードルの容赦ない連続ミサイルのようなパンチが降り注ぎ、のちのちまで響く大ダメージを負ってしまう。王者・ノゲイラ初っぱなから大ピンチだ！

戦慄の政権交代 3.16 PRIDE.25 最強対決

BOUT REVIEW

エメリヤーエンコ・ヒョードル
(3R 3-0判定)
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

ズーエフだよ。実際、ノゲイラ戦を前に15日間にわたりエカテリンブルグで集中特訓を行い、特にノゲイラの得意とする関節技に対して、サンビストだからできる脱出方法を徹底的に教え込ませたんだよ。

——ということは今回、ノゲイラ選手の三角絞めや、アームロック、オモプラッタなどをヒョードル選手はことごとく抜け出してましたけど、やはりそれはズーエフさんとの特訓の賜物だったわけですね？

ズーエフ　そうですね。ノゲイラの足がどうやって絡みついてくるか、それを徹底的に研究し、ノゲイラの得意な下になった体勢での練習に全力を尽くしたんです。だから試合が始まるまではノゲイラもあの体勢を「自分にとって有利なポジションだ」と思っていたでしょうが、それは私たちが準備をしていたポジションでもあったんです。

——では、これまでノゲイラは、ロシアン・トップチームのハン、コピィロフ、コーチキン、ラバザノフを倒してきましたけど、やはりそれは今回も意識しましたか？

ヒョードル　もちろん意識しました。

——これまで多くのロシア人が勝てなかったノゲイラにヒョードル選手が勝てた一番の要因はなんだと思いますか？

ヒョードル　そうですね……おそらくノゲイラはこれだけ勝ち続けたんで、もうロシア人に勝つことに飽きてたんじゃないですか？（笑）。

ロシア一同　ワハハハハハ！

——そんな理由ですか（笑）。

ヒョードル　まぁ、それは冗談ですけど、ノゲイラと闘ったとき、ハンもコピィロフもすでに40近い年齢でしたので、技術というよりそういった年齢的な問題があったんじゃないかと思いますね。やはり私はまだ若いのでスタミナと体力には自信がありま

④ガードポジションのまま殴られ続けたノゲイラは、スイープ、そしてご覧のような必死の形相でタックルに行きトップポジションを奪おうとするが、その都度ヒョードルは冷静に対処。⑤一発でも入ったら昇天間違いなしの重く早いパンチをくらい続けたノゲイラは、ご覧のような状態に。しかし、ほとんど意識なない中で20分間闘い抜いた精神力は賞賛に値する。⑥最後の最後までオモプラッタ、アームロックなどを狙うノゲイラだが、どうしても形勢逆転できないまま無情のゴング。歓喜のヒョードル陣営と、マットに顔を埋めてうずくまるノゲイラ。非常なまでのコントラストだ。⑦判定はもちろん3－0でヒョードル！　遂に“ブラジルの太陽”とまで呼ばれた男が沈んだ！　しかし、ここからのノゲイラ物語も逆に期待できる！

すが、サンボのテクニック自体はいま挙げたような大物選手たちから、まだまだ学ばなければならない状態ですから。

パコージン　ここにいるズーエフを始め、ソ連時代に鍛えられたサンビストは、もしあと10歳若ければ、恐らく『PRIDE』でも大活躍して、ブラジルの選手に対しても多大なトラブルを巻き起こしたのは疑いのないことだよ。なぁ、ズーエフ？

ズーエフ　ハハハハ。まぁ、もちろん私も若かったらこのような闘いに参加したかったし自信もあるが、いかんせん我々の世代はバーリ・トゥードというこの新しいスポーツに関する知識が不足しているから、ハンやコピィロフが敗れたのもそういった意味合いが強いんじゃないかな。

パコージン　だから、これまで我々がブラジルの選手に喫してきた何度かの敗北というのは、むしろ我々にとって知識の蓄積に繋がったんだ。もともとブラジル人が『PRIDE』、バーリ・トゥードで試合をするというのは〝ホーム〟で試合をするのと同じ意味を持つ。自分の慣れた環境で闘うわけだからね。ところが我々にとっては、これはまったく違う文化の試合だったので、それに慣れるための時間が必要だった。だから今回のヒョードルの勝利は、バーリ・トゥードに我々が慣れてきたということの表れだと言えるだろう。

――やっぱりノゲイラに勝つことはヒョードル選手にとっても、ロシアン・トップチームにとっても悲願でしたか？

ヒョードル　そうですね。やはり今回私がノゲイラに勝てたのは、ロシアのみんなが強く願ってくれたから、彼らの力が私に宿ったんだと思います。

――かつてノゲイラと闘った彼らから、今回も何かアドバイスは受けましたか？

「柔道金メダリストのヨシダは凄く興味がある相手です」

EMELIANENKO FEDOR

ヒョードル　みんな様々なアドバイスをしてくれましたし、技術的にも私をサポートしてくれました。

――そもそもヒョードル選手が総合格闘技を始めたのも、ヴォルク・ハン、それからピトコフコーチと出会ったからですよね？

ヒョードル　はい、そうですね。

ピトコフ（コーチ）　ヒョードルがプロになるというのは、私たちも望んでいましたけど、ヒョードル自身が「やりたい」と言ったことが大きいんです。もちろん、彼ほどの才能の持ち主でしたから私がスカウトした後みんなで支えてきました。そしてまずロシアでデビューさせ、それから日本のリングス、そして『PRIDE』へ。そういった段階を踏んでいったのも良かったのでしょう。

――ロシアの若い選手の中で、なぜヒョードル選手だけがこれだけ活躍できるのだと思いますか？

ヒョードル　いや、私だけじゃないですよ。アターエフを始め、ほかの若い選手もどんどん育ってきています。だからこれから、もっと多くのロシア人ファイターが『PRIDE』で活躍する日も近いと思います。

――ほぉ～、それは楽しみですね！

パコージン　いま、かつてリングスで活躍した大物選手たちがコーチとしての手腕を発揮し始めて、もっともっとたくさんプロフェッショナルな格闘家をロシアの中で育てるために頑張っているんだよ。

――その選手育成のために、いま大きな施設も作ってるらしいですね？

ズーエフ　ええ、「リングス・スポーツセンター」という施設をエカテリンブルグに作っています。そこでは、いろんな格闘家たちが集まって練習もできるし、大会も開ける。さらにホテル、レストラン、カジノも建てています。こうしてハン、コピィロフ、そして私たちが築いたリングス・ロシアの歴史を新しい世代に引き継いでいこうと思っているんです。

――そういう話を聞くと、日本でのリングスは活動休止になってしまいましたけど、今回のヒョードル選手の勝利は、同時にリングスの勝利ではないかと思うんですけど、どうですか？

ヒョードル　そういうことが言えると思います。ノゲイラだってもともとはリングスの選手ですからね。それからダン・ヘンダーソン、日本人のタムラ、カネハラ。他にもたくさんリングスの選手が『PRIDE』に出ていますよね。ですから、私たちはリングスが終わったのではなく、『PR

試合後、新チャンピオン・ヒョードルに早速ボブ・サップが挑戦状！　サップが3・30K－1でミルコに勝てば、これこそ究極の最強決定戦だ！　猛烈に見たい！

IDE』として続いていると考えています。

――いやぁ～、いまの発言を雑誌で読んで、涙を流しているリングスファンもたくさんいると思いますよ（笑）。一部インターネット上の噂では、リトアニアのリングスでヒョードル選手が試合をするという情報があるんですが、これはホントですか？

ヒョードル　確かにオファーは来ています。ただ、今回ノゲイラ戦という非常に大事な闘いがあったので、他のことは考えないようにしていましたから、ロシアに帰って体調をみて参戦するかどうか決めたいと思います。

――もし出場したら久々のリングスルールでの試合になりますよね。でも、グラウンドでのパンチを得意とするヒョードル選手の場合、リングスルールよりバーリ・トゥードの方がやりやすいんじゃないですか？

ヒョードル　いや、個人的にはリングス最後のルール、スタンドでのパンチが認められて、グラウンドでは顔面ナシ、そしてロープエスケープ有りというルールが一番好きなんですよ。

――エスケープルールが好きなんですか？

ヒョードル　はい。あのルールだとミスを冒してもロープに行くことで取り返すチャンスが出来るので、ミスを恐れずに自分の技術をたくさんの人に見せることができますからね。でも、『PRIDE』のルールで、しかもノゲイラのような達人を相手にした場合、一瞬のミスが命取りになる。だからトレーナーから「確実にノゲイラに勝つには、関節技は使わずにとにかくパンチで行け」と言われていたんです。だからああいった闘いになったのでしょう。

――ヒョードル選手は実は〝極め〟が弱いんじゃないかという評判もあるんですが、そんなことはないですか？

ズーエフ　どうしてそんな評判が立つのか私にはサッパリわかりませんね。彼はリングス時代に一本で勝った試合が何試合もあります。そんなことを言う人は、格闘技について勉強不足なんでしょう。

――関節技の達人のズーエフさんがそう言うのだから間違いなさそうですね（笑）。

パコージン　今回、ヒョードルはグラウンドでのパンチで勝つことができたが、本来こういった倒れた相手の顔を殴るということは、ブラジル人のやり方であって、我々が本意とするものではないんだ。言うなれば、ブラジリアン柔術家と違い、我々ロシアのサンビストは闘いにおいてジェントルマンであるということだよ。

――ジェ、ジェントルマンですか！（笑）。

パコージン　だからどうしても、グラウンドでパンチや蹴り、さらにはヒザを顔に落とすというような障壁をなかなか超えることができなかった。その部分をようやくヒョードルが克服した。今回の勝利はその証明と言っていいでしょう。

――「克服しすぎだろ！」っていうくらい凄い打撃でしたけどね（笑）。

パコージン　だから我々はヒョードルのことを〝新・ロシア人〟と呼んでいるんだよ（笑）。

――新・ロシア人！（笑）。ホントにそんな風に呼ばれてるんですか？

ヒョードル　はい（微笑）。

ピトコフ　私は2～3年前からエメリヤーエンコに打撃を教えているが、彼は非常にキックボクシングの才能がある選手なんです。だからノゲイラをスタンドでKOすることもできたと思うが、やはりスタンドで打ち合うというのは、KOする可能性も高いが、される危険性もあるんです。12月の

アターエフがいい例でしょう。だから今回はグラウンドでの打撃に賭けました。ただ、まだまだヒョードルは打撃に関しても寝技に関してもその潜在的な力を十分に見せてはいないと思うので、それは我々コーチがじっくりと引き出していこうと思います。

——ノゲイラ戦の試合後には、ボブ・サップが挑戦をアピールしてきましたけど、彼の印象はいかがですか？　ノゲイラとの試合はビデオで見ましたか？

ヒョードル　はい。私があの試合を見た感想は、ボブ・サップの印象というより〝ノゲイラは凄い〟ということでしたね。一見、サップが有利なように見えますけど、実は攻められながらもノゲイラはすべて計算していることがわかりましたから。そして結果的にあの大きなサップから一本勝ちを奪った。本当に素晴らしいですよ。

——ヒョードル選手だったら、サップをどうやって仕留めますか？

ヒョードル　それはまだ考えてませんね。

——では、サップ以外にヒョードル選手の相手として期待される吉田秀彦選手の総合格闘技の実力はどう思いますか？

ヒョードル　ヨシダ？　ああ、柔道の金メダリストですね。彼の試合は私も気に入ってます。凄く興味のある相手です。

——吉田選手と闘ったら自信ありますか？

ヒョードル　う〜ん、勝てる自信があるかとかは考えてないんですよ。いつも試合前は勝つことだけを考えているので、結果はあとからついてくるものだと思います。

——では、逆に言うと試合前はいつも自信があるということですか？

ヒョードル　まぁ、そうですね（微笑）

——凄いなぁ（笑）。では最後に、これからの目標を教えて下さい。

ヒョードル　そうですね……もっと強くなることですね。

——さらに強くなっちゃいますか！（笑）。

パコージン　そりゃそうだよ。今回、ヒョードルはチャンピオンになったが、我々にとって、これですべて問題が解決したわけではないんだ。まだ乗り越えなければいけない、解決しなければいけないことがたくさんある。ノゲイラだってもっと強くなるだろうし、他にも強い選手はどんどん出てくるだろう。ただ、我々は今後もそういった『ＰＲＩＤＥ』の強豪たちの最強のライバルであり続けたいと思っているよ。

——なるほど。ヒョードル選手もそういうことでよろしいですか？

ヒョードル　はい。私が言いたいことを全部言ってくれました（笑）。

——では、今日は眠い中ありがとうございました（笑）。

【03年3月17日／決戦翌朝、都内某ホテルにて収録】

EMELIANENKO FEDOR

1976年９月28日、ウクライナ出身。96年柔道ロシア選手権、97年サンボロシア選手権、97年サンボ欧州選手権を制す輝かしい実績を持つ。その後、「ヴォルク・ハン格闘術」に入門。リングスではヘビー級と無差別級の２冠を制す。昨年から『ＰＲＩＤＥ』に参戦。３月16日、遂に帝王ノゲイラを下し第２代ＰＲＩＤＥヘビー級王者となる。182cm、107kg。

ブラジリアントップチームの首領が語る ノゲイラの敗因とヒョードルの強さ

マリオ・スペーヒー

「我々は幸運だ。ヒョードルという目標ができ、また強くなる機会を得たのだから」

ヒョードルにまさかの敗戦を喫し、PRIDEヘビー級王座から転落してしまったノゲイラ。本誌は事前に試合翌日の取材アポを取っていたが、ノゲイラのダメージが深いため、今回の取材はすべてキャンセルになってしまった。そこでノゲイラの師匠マリオに、改めてヒョードル戦を語ってもらった。

取材／堀江ガンツ　designed by hisa (Two Three)

——非常に残念な結果になってしまいましたが、いまの心境はいかがですか？

マリオ　まぁ、闘いおいて、こういったことはよくあることなので、しょうがないと納得してるよ。ミノタウロ（ノゲイラのあだ名）は怠けていたわけでも、凡ミスを冒したわけでもなく、勝つための準備を本当に一生懸命やって負けてしまったのだから、今回の敗戦を糧にまたさらに頑張ればいいことだよ。

——昨日はかなり強烈なパンチを喰らっていたんで、ノゲイラ選手の様態が心配なんですけど、いまどんな状態ですか？

マリオ　鼻をちょっとケガしたけれど、そんなに大したことはないよ。今日は休んでいるが、昨夜は彼の大好物であるスシを一緒に食べに行ったぐらいだからね。

——それは安心しました。昨日のビデオを見直してみて、改めてあのパンチの凄さに驚いたもんですから。マリオさんにとってもヒョードルの強さは予想以上でしたか？

マリオ　予想外ではないね。非常に強いことはわかっていたし、その通り強かった。ミノタウロの勝利は信じていたが、勝負は紙一重だとも思っていたしね。

——今回の敗因はなんだと思いますか？

マリオ　ひとことで言うのは非常に難しいが、試合が始まったときに彼が集中力を欠いていて、そのときにグラウンド状態で受けた非常に強いパンチのダメージが、結局最後の最後まで響いたことだ。

——ノゲイラ選手が序盤で集中力が欠いていたのは、何か原因があるんですか？

マリオ　それは私にもよくわからない。通常彼の場合、常に集中を絶やさず、序盤にああいったパンチを喰らうということはありえないのだが……。

——準備は万全だったんですよね？

マリオ　もちろん。リオはカーニバルの真っ最中で、国全体がお祭り騒ぎだったが、我々だけはジムで厳しいトレーニングを積んでいたから、準備は万全だった。

——では、いつもノゲイラ選手の関節技は、来るのが分かっていてもかかってしまうのに、なぜヒョードルだけは逃げられたのだと思いますか？

マリオ　おそらくヒョードルはミノタウロのことをよく研究していたんだろう。それだけでなく、もともと逃げる力も持っていた。それからあの最初のパンチ、やはりあれがすべてを狂わせたと思うよ。

——では、最初のパンチを喰らってからは、いつものノゲイラ選手ではなくなっていたということですね？

マリオ　とにかく最初の段階で、まだ疲れていないヒョードルの100％の力で、しかも乾燥したグローブでミノタウロの顔面を捕らえたので、そのダメージが20分間に渡って続いてしまい、それによってミノタウロ自身が本来のミノタウロでなくなってしまった。それが大きかった。

——もともと作戦はどんなものだったんですか？

マリオ　作戦としては、スタンドで打ち合ってヒョードルを疲れさせてから、最後はグラウンドで料理しようと思っていた。そのために打撃の練習をいつも以上にしていたんだが……。

——では、ノゲイラ選手があまりスタンドができなかったのは予想外だった？

マリオ　とにかく本来ミノタウロはスタンドでの闘いにも長けているし、しっかりとしたトレーニングも積んでいた。だが、やはり序盤にあれだけのダメージを受けてしまうと、それも難しくなってしまう。

——今回、ノゲイラ選手の最も得意なガードポジションでダメージを受けて負けてしまったわけですけど、今後は闘い方を変えなければならないと思いますか？

マリオ　常によりよい闘い方を模索するのは当然のことだが、今回に関してはヒョードルが上のポジションで非常にいい闘いをやったということ以上に、やはりミノタウロが100％ではなかったということを強調したいと思う。

——ノゲイラ選手は同じように凄いパワーで上から殴ってくるボブ・サップには一本勝ちできましたけど、ヒョードルには負けてしまいました。サップとヒョードルはどこが違ったのでしょうか？

マリオ　ダメージの度合いがまず違ったと言える。ボブ・サップ戦のダメージは今回ほどのダメージではなかった。だが、今回は初っぱなに強い衝撃を受けて、その後も休むことなく攻撃が加えられ続けて、回復する機会が与えられなかった。それプラス、ボブ・サップ戦のときにはスタンドで闘って、相手を疲れさせることができたのだが、今回はそれさえもできなかった。やはりそれは何度も言うとおり、最初のダメージが強すぎて彼本来の闘い方ができなかったことが原因だ。

——でも、サップ戦にしてもヒョードル戦にしても、あんな状態になっても最後まで闘い続けるノゲイラは改めて精神力が強いと感じましたね。

マリオ　とにかくそれは我々が信条としていることで、最後まで全力を尽くして闘い勝利を目指すということは、我々にとって一番のポリシーだよ。だから私もセコンドとして最後まで「スイープを決めろ」とか、「とにかく絶えずに何かを試みろ」とアドバイスを送り続けたんだ。

——最後まで闘い続けた結果、敗れたノゲイラ選手にも観客から大きな拍手が送られていましたけど、マリオさんから見ても「ノゲイラ、よく闘った」と思いますか？

マリオ　私は常に弱者にとっての負けは単なる負けだが、強者にとってはさらに強くなるための糧だと思っている。だから今度ミノタウロが『PRIDE』のリングに上がったときは、さらにスケールアップした姿をみなさんにお見せすることができると確信しているよ。

——ノゲイラ選手自身もすでに復活に向けて燃えている部分があるんですか？

マリオ　「すぐにでもブラジルに帰って練習がしたい」と言っているよ。だが、私はコーチとして彼をしばらく休ませなければならないと思っている。とにかくこの1～2年、彼は大変な相手とばかり闘ってきたので、かなり見えないダメージが蓄積されていると思うんだ。だから少し休ませてリラックスさせて、それからゆっくりと練習を再開させて、より強いミノタウロにしたいと思う。

——では今後のトップチームの課題は、もちろん打倒ヒョードルになりますか？

マリオ　もちろんそうなるね。我々はヒョードルという選手が偉大な格闘家だと敬意を表したい。また、彼のような格闘家と出会えたことに対して非常に幸運だと思っている。我々は今回負けたことで、新たにヒョードルという大きな目標ができ、もっと強くなる機会に恵まれたのだからね。そういった点で彼のような強い選手に負けたことを、我々は幸運だと思っているんだ。そしてとにかく激しい練習を積んで、今後も彼だけではないでなく、多くの強者を破っていきたいと思う。それがトップチームの総意だよ。

——わかりました。今後のトップチームのさらなる活躍。そしてノゲイラ選手の復活を期待してます！

【03年3月18日／都内・某ホテルにて収録】

遂に敗北を喫し、ガックリを肩を落とすノゲイラ。しかし、今回の試合で改めてその精神力の強さを見せたことも事実。この敗戦によって、さらに強くなったノゲイラが見られることを期待したい！

ニーノの実力は
寝技でこそ
発揮される!!
「リマッチはパンチもキックもない
アブダビ・コンバットでやろうじゃないか」

3・16『PRIDE.25』

桜庭和志をヒザ蹴りKO葬!!

“ヒクソンの再来”

NINO "ELVIS" SCHEMBRI
ニーノ・“エルビス”・シェンブリ

聞き手／堀江ガンツ
構成／ジャン斎藤
撮影／森鷹博
designed by matsu（Two three）

3月16日、『PRIDE』リスタートを見守る大観衆をア然とさせた桜庭和志、まさかの敗戦!!　以前より「桜庭から一本極めることができるのはこの男」と囁かれていた柔術の実力者、ニーノ・“エルビス”・シェンブリであるが、打撃による桜庭打倒を誰が想像したであろうか。『PRIDE.25』の翌日、ホンキートンクマンに成り代わり、名実共に“マット界のエルビス・プレスリー”の座に君臨したニーノに、桜庭戦の感想、今後の展望、そして『ELVIS.LOVE』について語ってもらった!!

――昨日は見事なKO勝利、おめでとうございます！

ニーノ　ありがとう！　サクラバという偉大なファイターに勝つことができて、とても嬉しいよ。

――ニーノさんにとって桜庭選手は「アイドル」らしいですもんね。でも、憧れの選手に勝った割には、試合終了後の会見ではちょっと元気がなかったように見えたんですけど。

ニーノ　サクラバとの試合がハードだったこともあるんだけど、時差ボケが治らなくて睡眠不足で疲れていたんだよ（苦笑）。

――時差ボケのせいでしたか（笑）。

ニーノ　やっぱり、自分の国にいるわけじゃないから落ち着かないところもあって、早朝になってから眠れるという日々が続いていたんだよね。

――あの会見のとき、ニーノさんのエルビスな入場に対して記者から「アンデウソン・シウバのダンシング・パフォーマンスと競演したら？」と質問されて、「ボクはエルビスをふざけてやってるんじゃない。マジメにやってるんだ！」って怒り気味に言っていたんで、それで不機嫌だったのかと思いましたよ。

ニーノ　それはないけど……ボクがエルビスをお遊びでやってないことは、改めて日本の皆さんにも認識してほしい（キッパリ）。ふざけてなんかない。ボクは本当にエルビスをリスペクトしてるんだ！

――話によると、家族揃ってエルビス・プレスリーの大ファンらしいですね。

ニーノ　父もファンだし、ボクもそれを受け継いでいるんだよ。昨日の入場したときの衣装だって、ボクの母親が作ってくれたんだからね。

――お母さんの手作り！　筋金入りのエルビス・ファミリーですね（笑）。

ニーノ　日本の皆さんには、ボクがエルビスに尊敬の念を抱きながら入場をしたことを理解してほしいよ！

――しっかりと伝えますよ！　で、話は戻りますけど、時差ボケはコンディションに影響したりしました？

ニーノ　いや、コンディションはパーフェクトだったよ。だからこそ、サクラバに勝利できたと思うしね。

――これまで桜庭選手はグレイシーの選手を何人も倒してきましたけど、対戦するにあたって特別な思いはあったんでしょうか？

ニーノ　特に意識もしてないし、考えたこともないよ。変に意識しちゃ

うと試合に悪影響を及ぼすことがあるからね。試合では最高の柔術テクニックを披露することしか考えてないんだよ。

――それにしても、まさかニーノさんの打撃で決着が付くとは思いませんでしたよ！

ニーノ　そうかい？　寝技に限らず打撃で倒せるチャンスがあれば、ノックアウトを狙うのはファイターとして当然だよ。今回はヘンゾ（・グレイシー）のニューヨーク道場には行かずにブラジルで練習したんだけど、主にベーシックな技術をトレーニングしてきたんだ。グラウンドでは極め技、スタンドでは首相撲からのヒザ蹴りなんかを重点的にやってきたんだよ。立ち技の練習は、去年キクタと闘ったエドワルド・パンプローナが我々のムエタイのコーチをしてくれて、立技も十分に練習してきたよ。

――というと、あのヒザ蹴りのKOは、ある意味で狙い通りだったんですか？

ニーノ　もちろん！　サクラバのローキックもちゃんと防いだからダメージもそれほどなかったし、ムエタイのトレーニングをしっかりやってきた成果が出せたよ。

――桜庭選手の打撃は脅威ではなかったと？

ニーノ　いや、パンチはかなり効いたよ。鼻血も出ちゃったし（笑）。でも、ヘンゾから「サクラバの打撃には気をつけろ！」ってアドバイスされていたし、耐える覚悟はできていたよ。

――桜庭選手はモンゴリアン・チョップや猫撫でパンチも繰り出しましたけど、喰らった感想はいかがでしたか？

ニーノ　（モンゴリアン・チョップの構えをしながら）これのこと？

――はい（笑）。

ニーノ　う〜ん。ボクはいつも、相手を尊敬しながら闘っているから、あの相手を見下したパフォーマンスにはちょっと戸惑ったよね。それに、サクラバがどんなに相手を見下した動きをしても、お客さんは「ワーッ！」って歓声を送ってたでしょ？　あの雰囲気にはかなりの違和感を感じたよ。

――それでハートに火が付いたのか、直後にニーノさんのヒザ蹴りが炸裂するわけですけど。そのフィニッシュの直前、前進してきた桜庭選手にニーノさんが組み付きにいったら、偶然バッティングが入っちゃったようですね……。

ニーノ　ボクも試合後に言われてビックリしたんだよ！　闘ってる最中は、バッティングした感触がまったくなかったから。

――桜庭選手も「あとで聞いたら（バッティングが）入っていたというんですけど、その辺はわかんないです」と試合後のコメントで言ってましたけど、闘っていた当人同士はバッティングの感触はなかったんですか。

ニーノ　（ヒザをさすりながら）感触があったのはこのヒザだけだよ（笑）。

――なるほど（笑）。

次はヨシダとやりたい。ボクが“ギ”を着れば20キロの体重差なんてまったく関係ないよ

ニーノ　まぁ、この件については、サクラバとは誤解をちゃんと解いたよ。試合後に会ったときに確認し合ったからね。だから、何の問題もないよ。

――桜庭選手も潔いですね。セコンドに付いていたヘンゾ選手なんかは「再戦するのも面白い」と言ってましたけど、ニーノさんにもそういう気持ちはありますか？

ニーノ　ボクも全然、構わないよ！　もし良かったら、5月にブラジル・サンパウロでアブダビ・コンバットがあるから、そこでリマッチするのもいいんじゃないかな（笑）。

――寝技限定ルールでニーノvs桜庭ですか！　それは見たい（笑）。

ニーノ　今度はパンチもキックもないルールで勝ってみせるよ。サクラバとだったら、（シェイク・）タハヌーン王子が大喜びする良い試合ができると思うしね。

――アブダビ・コンバットもブラジルに舞台を移して一昨年振りの開催になりますけど、当然ニーノさんも出場するんですよね。

ニーノ　ボクは出場の意志があるんだけど……まだ出場通知が来てないからね。だから、ブラジルに帰ったら履歴書を書いて出場応募しなきゃいけない（笑）。

――ワハハハ！　前回のアブダビ・コンバットのモースト・テクニカル・プレイヤーが、履歴書を提出するんですか！（笑）。

ニーノ　サクラバに勝ったことも書き加えて応募するよ（笑）。「早く申し込まなきゃ！」っていつも思ってるんだけど、エルビスのことを考えていると忘れてしまうんだよね……（遠い目をしながら）。

――アブダビより、やっぱりエルビスなんですね（笑）。で、今回の桜庭選手との試合では、まったくグラウンドの攻防がなかったですよね。

ニーノ　そうだったね。ボクの極めの力を日本のファンに披露できなかったのは心残りだよ。ボクが寝技に持ち込もうとしても、サクラバはスッと間合いを外していたからね。寝技の攻防を避けているのを感じ

PLAY BACK NINO vs SAKU

○ニーノ［1R6分7秒※KO］桜庭●

ニーノは入場テーマは『監獄ロック』!!　サクは般若面を被り華麗なヌンチャク裁きを披露。ザ・グレート・カブキをイメージさせる入場だが、アンダーマスク（写真）の模様具合、手からクモの糸が飛び出るあたり、あれは日本凱旋当時のAKIRAだ!

グラウンドには一切付き合わず殴り蹴りまくるという、ホイラー&ホイス戦を彷彿させるブラジリアン柔術キラーぶりを発揮したサク!!　「ウォ～イ!」と観客も大合唱で後押し！　ニーノの足は紫色に腫れあがり鼻血ブー。勝負は時間の問題と思われたが……。

たよ。サクラバと寝技で闘うのを楽しみにしてたんだけどね……。

――寝技になったら、桜庭選手から一本取れる自信はあったんですか？

ニーノ　もちろんだよ（余裕の笑みを浮かべて）。今回の作戦も寝技に持ち込んで、一本極めることだったからね。

――それにしても、簡単に言いますね（笑）。

ニーノ　ボクは自分の柔術の力を信じてるんだ。寝技になったら、ボクは間違いなく極めることができる。これは間違いないよ！

――それほど極めの力に優れているからこそ、"ヒクソンの再来"と呼ばれてるわけですね。

ニーノ　あのヒクソンにたとえられるのは、すごく光栄だよ（ニッコリ）。でも、ボクはまだ若いからね。まだまだいろんな経験を積まないといけないと思ってるよ。

――次回の『PRIDE』参戦も楽しみなんですけど、ニーノさんってミドル級としては体重が軽すぎますよね。

ニーノ　そうなんだよね。今回は84キロまで増やしたけど、ベストの体重は79キロなんだ。ボクの身体は小柄だし、『PRIDE』のミドル級だとちょっと合わないんだよ。柔術の試合であれば、何十キロ差があってもさほど気にならないんだけど。

――ギ（衣）を着れば体重差は問題ない、と。ニーノさんは試合後に「ボクはギのスペシャリスト。ぜひヨシダ選手と闘いたい」と言ってましたけど、吉田選手とは20キロ近く体重差があるし、しかもオリンピックの柔道金メダリストじゃないですか。その彼とジャケットマッチで闘っても勝つ自信はあるんですか？

ニーノ　別に問題なく勝てると思うよ（アッサリ）。

――これまたアッサリ言いますね。さすがです（笑）。

ニーノ　体重差がいくらあっても、ギを着ればボクにアドバンテージがあるからね。ヨシダよりボクの方がテクニックがあるし、日本の皆さんにもボクの寝技を凄さを披露できると思うよ。

――ちなみに柔術vs柔道の対決となった、ホイスvs吉田の感想はどうでしたか？

ニーノ　ホイスが良いパフォーマンスをできなかったのはたしかだけど、柔術が柔道に負けたわけではないと思うよ。

――ニーノさんが吉田選手との対戦を望むのは、柔術復権のためでもあるんですか？

ニーノ　やっぱり柔道より柔術が上ということを証明したい気持ちはあるよ。ただ、さっきも言ったけど、変な意識を持つと従来の自分の動きができなくなるからね。ボクは自分の持っているテクニックを見せることだけを考える。そうすれば絶対にヨシダを極めることができると確信してるんだ。そしてその勝利を……エルビス・プレスリーに捧げるよ！（真顔で）。

――金メダリストを捧げられたら、エルビスもきっと喜びますよ（笑）。今後の活躍を期待しています！

【03年3月17日／都内ホテルにて収録】

NINO "ELVIS" SCHEMBRI

【にーの・えるびす・しぇんぶり】1974年ブラジル出身、173センチ、85キロ。ポイント争いが主流になった現在の柔術で常に極めに拘る姿勢から"ヒクソンの再来"と呼ばれる実力者。数々の柔術大会で優秀な成績を収め、アブダビ・コンバットでは、最優秀技術賞の表彰を受けるなど、アブダビ王子のお気に入り。『PRIDE.14』でジョイユ・デ・オリベイラを鮮やかなムーブからの腕十字で一本勝ち。『THE BEST』では高瀬大樹に判定勝ちを飾っている。ハワイのエルビス別荘を訪れたときに『ELVIS.LOVE』を開眼する。

寝技に引きずり込みたいニーノは、だっこちゃんのように桜庭に組み付く！　が、桜庭はバランスを保ったままボディにパンチ！　レフェリーの視点で試合が楽しめる「島田アイ」カメラを背負った変な格好の島田さんが、ニーノの鼻血にドクターチェックをかけた。

モンゴリアン・チョップまで炸裂させた桜庭に、誰もが勝利を確信したが、前に出た桜庭にニーノが組み付きにいったところでまさかのバッティング！　そしてニーノは首相撲からのヒザ蹴りの連打！　さらに打撃を落とすニーノに慌ててレフェリーが試合を止めた。

コールマン並に自軍の勝利を喜ぶヘンゾ兄貴!!　終了のゴングと同時に瞬く間にリングに上がり込み、ニーノを肩車しリングを旋回した!!　まさかの大逆転劇に観客は呆然……。解説席の高田総裁も数十秒、言葉を失っていた。

人生ジャンピングニーパット!!（意味不明）　歴史に残るリアル感＆熱を生んだ3・16『PRIDE.25』を総裁が大総括!!

髙田延彦

PRIDEヘビー級
タイトルマッチ
特別立会人

「サクとノゲイラにとっては嫌な1日が、逆に『PRIDE』の未来感を皮肉にも示したね」

聞き手／山口日昇
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by hisa（Two Three）

髙田　今日は何も話すことはないよ。
—あ、『週プロ』では話せても、『紙プロ』では話すことはないと。
髙田　そう。ワンテンポ遅いからさ。
—当たり前じゃないですか、月刊誌なんですから、こっちは。
髙田　はい、コーヒー。
—押忍。ありがとうございます。それにしても『PRIDE.25』は実に面白かったですね！
髙田　面白かったね。
—いままでとは質感の違う"何か"が潜んでますね、あの大会は。
髙田　どう違うの？
—まず一番驚いたのは、ファンの地熱。客席とリング上の信頼感と緊張感が同時にブ厚くなったように感じましたね。

桜庭 引退
桜庭 流血 失神

髙田　一つにイベントっていうのは実績だから、5年半間かけて、いろんな材料を投入して、試合やリング、あるいはイベントに信頼感ができたということだね。その信頼の背景にあるのは、いままでそのときに出せる最高のものを提供してきたという姿勢だよ。それと試合の内容を見せてきたことと、それを続けることによって、『PRIDE』というソフトに様々な意味での体力が出てきたということが大きいと思うね。
—客席も桜庭さんが負けたときはさすがに茫然自失状態になったけど、そんなことではヘコまない体力をファン側も身に付けてきてるっていう感じがしましたね。
髙田　最初はプロレスファンが『PRIDE』に流れてきて、応援しにきた選手が結果を出さないと、抗体というか免疫がないものだから、もの凄く沈んでしまう。「これはないだろう！」っていうね。
—いや、僕も何度もそれは味わいましたよ（笑）。
髙田　自虐的な意味も込めて言ってるんだよ（笑）。それが回数を重ねるごとに、ファンが『PRIDE』を育ててきたのと同時に、『PRIDE』がファンを育ててきた手応えを感じたね。『PRIDE』の場合は、リングとファンがいい綱引きしてるよ。
—なんか、熱の質が上がってるような気がしましたよ。
髙田　これは言葉では表せない。あの空気感が変わってるのはね。立ち直りも早いしね。一つ一つの試合を、いい意味で単発で観てるよ。しっかり観てる。
—だから『PRIDE』ってこんなに求心力があるジャンルなんだなって改めて思いましたね。
髙田　求心力はあるよ。私が何回も言ってきたことでしょ。人の話を聞いてなかったんだな。
—いや、だから「改めて」と言ったじゃないですか。人をどこかの大編集長扱いするつもりですか（笑）。『PRIDE.25』のPPVは見ました？
髙田　まだ見てない。
—いや、凄いですよ。

PRIDE.25

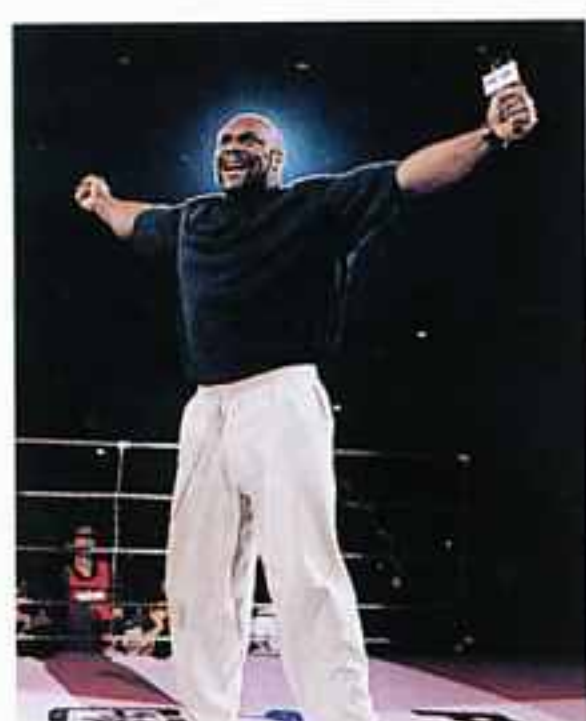
髙田　あ、そう。やっぱり後から画面で見ても違うんだ。
—髙田さんは『PRIDE』を「ゴールデンタイムで流したい」って言ってましたけど、メインなんか、見慣れてるボクらでも…もう怖い！（笑）。これはもう、ゴールデンなんていう悠長な時間帯で流してる場合じゃないっていうか。
髙田　どうなっちゃうかわからないってことでしょ？
—信頼感がある中でもリアル過ぎるんですよね。
髙田　うん。だからこそ、いまゴールデンタイムで流してみたいよね。
—いまだからこそ、ということですか？
髙田　イベントっていうのは生モノでしょ。どこで失速するかわからないから、いいときにいいものを流したいな。今度の戦争にしても、やっと日本がリアルに感じ取ってきたでしょ。もしかしたらこっちに火の粉が来るかもしれないって。でも、あいかわらずゴールデンタイムでは、そういった時代のリアリティからはズッとかけ離れたことをやってるわけだよ。
—そうですね（笑）。
髙田　だからこそ、もの凄いリアルなものをブチ込むじゃないけど、他にないリアル感を見せてあげたいね。
—逆に言うと、いまの日本のテレビ界ではそのリアル感には対応し切れないとも言えますよ。K—1は会場で観てもお茶の間で観ても面白いけど、またビデオで見直すってことはあんまりない。『PRIDE』の場合は、観てる側が何度でも引っ張り出す質のものですよね。
髙田　たとえばこの間のメインでも、ヒョードルの顔を間近で見ても、試合が終わったときにはブルーの瞳がもの凄く優しいんだ。馬乗りになってブン殴っても、やっぱり終われればノーサイドだよ。一見、ハードでリアルだけど、その背景には、終わればノーサイド

3.16 PRIDE.25 REVIEW アラカルト

故・森下社長への追悼ゴング鳴る イノキ・サップがダーッ!!

大会開始前、急逝した故・森下直人DSE社長（享年42歳）に1分間の黙祷が捧げられ、横浜アリーナ史上最高動員数である19274人（超満員札止め）の観客が故人の冥福を祈った。

大会本部席には森下社長の遺影が置かれた。試合後、榊原常務取締役は「3月中に新体制、新組織を発表したい。次回大会は5月末か6月を考えている」。首都圏会場での開催が濃厚だ。

休憩明けに『炎のファイター』が流れるや、アントンマスクを被った大男が登場！　観客からの大「イノキ」コールが会場に轟いたが、正体はサップ!　第一声は「ゲンキデスカー!」。

パラオ訪問中のアントン総帥は「生きてますかーッ!?」と過激なメッセージVでビジョンに登場！　会場では、サップが「ダーッ！」

というバックボーンがあるわけだよ。
──お互い凌げる技術があるわけだし、ハードでリアルであることに不安感があるわけじゃないんですよね。
高田　そこを見てもらいたいね。もの凄い大会だったよ。
──ボクもより多くの人に見てもらいたいというのは当然あるんですけど、PPVというメディアが、ちょうどピタッと合ってるんですよ。レベルが上がってるからこそ、目を凝らして、目を見張るという感覚が。
高田　なるほどね。
──メインにしても、勝って存在を突きつけたヒョードルも凄いけど、負けてなお光ったノゲイラもやっぱり凄い。一つの結末が次の物語を生んでますからね。
高田　あれは勝ったヒョードルばかりじゃなくて、負けたノゲイラも普通じゃないよ。コーナーに詰められたときにパンチを一番もらったんだよね。でも、そのときに腕を取りに行ってるからね。朦朧としてるときにね。あの精神力は常人じゃないよ。
──敗者に光を無理矢理当てるんじゃなくて、あのレベルの中で負けてなおかつ光れるっていうのは凄いですよ。
高田　あのレベルだよ、まさしく。
──レフェリーの島田裕二が言ってましたけど、ノゲイラは2～3回は目がイッちゃってたらしいですね。
高田　イッてたよ。
──で、ヒョードルのパンチで目が覚めて、すぐさま腕を取りに行ってる（笑）。凄惨なシーンは数多くあるんだけど、初期のアルティメットみたいな、機械が人を殴るような残酷さや不安感みたいなものはない。観てる方もリング上に対して、"あのレベル"でっていう部分で信頼感が持てるんですよ。
高田　これは不思議なんだけど、試合中でも選手にすぐブレーキをかけられる意識があるね。
──ブレーキ？
高田　そう。コンマ1秒前まで殺す気でいても、その次の瞬間にはスッとブレーキをかけられる意識を持ってる。それは"野獣"と言われる人たち、たとえばヴァンダレイ（・シウバ）であっても誰であってもね。そのあたりが昔のUFCの初期の頃のような、ただ喧嘩の延長のような雰囲気のものとは全く違うね。意識も中身もプロフェッショナルだよ。これは言葉じゃウマく説明できないんだけど、見えるんだよね。
──外面も内面も進化してるんですね。
高田　あとは全選手の中に"この『PRIDE』はこのままズッと続いていくに決まってる"というのが無意識の中にあった。どんな人でも会社や組織に所属してたらそうなるんだろうけど、"まさか！"という事態が起きて、無くなってしまうんじゃないか？という現実に初めて直面したわけだよ。そのときに"俺はどうすればいいのか？『PRIDE』をどうすればいいのか？"と、選手も考え出したんじゃないかと思うよね。
──簡単に言うと危機感を持ったということですよね。
高田　そう。
──高田さんが大会前にオススメマークを付けていたランデルマンvsジャクソン戦、あの試合はどういう印象でしたか。
高田　予想通りだね。私はジャクソンだと思ってたからね。
──ジャクソンっていうのは変貌してますね。
高田　変貌してる。あれをよくサクは倒したと思うよ。
──ですよね（笑）。それはジャクソンの試合を見るたびに思いますよ。
高田　イゴール（・ボブチャンチン）との試合でも普通じゃないなと思った。まだまだ強くなるんじゃないかな。あの試合もね、ランデルマンの一発の空振りもそうだけど、あれだけレベルの高い2人が、コーナーで四つに組んでる、あの迫力。ただの差し合いでも筋肉の軋む音が聞こえるんだもん。一見スッと簡単に終わったような試合だけど、あのステージの高さまで行く道のりは長いよ。
──その道のりが短くて濃いんですよね。ジャクソンの進化の場合は。
高田　そう。
──桜庭さんと闘ってまだ1年半ですよね。外国勢の変貌するスピードとモチベーションはホント、凄いですよね。
高田　あと、「バーリ・トゥードは潰し合いなんだよ」という強い意識を持ってるよ。日本人は競技的に捉え過ぎるきらいがある。外国人でも一時、イゴールがグラウンドに走り出したり、（ゲーリー・）グッドリッジもグランドを覚えだしたりしたときは何か平均化してしまうのではないかという危機感があったけどね。
──持ち味を自ら消しちゃったっていうイメージはありましたね。
高田　でも最近また変わってきた。この前の試合結果もほとんど打撃だからね。だからそうやって見ると、トータルなものを身につけなくても、一つドンと突出してれば。その代表的なのがヒョードルだよ。それから

"狼の伝言"から2年──ノゲイラを"蒼き炎の拳"で打ち抜き、新ヘビー級王者となったヒョードル。閉会式にはサップがリングに上がりなんと挑戦表明。この予測不可能な一戦は、はたして今年中に実現するのか!?

PRIDE.25

3.16 PRIDE.25 REVIEW **01**

○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン（1R7分0秒 KO）ケビン・ランデルマン●

奥深きド迫力 骨と肉が軋む 野獣対決!!

シウバが持つミドル級ベルトへの挑戦権が賭けられた黒い野獣対決。空振りでもKOされそうなランデルマンのパンチが豪快に空を切り裂く！　まさしく野獣が本能のみで闘ってるようなスリリングな攻防が繰り広げられた。

差し合い膠着のために両者にイエローカードが出される局面も。「俺もかよ!?」と怒りの表情を顕わにしたランペイジは、差し合いからのヒザ蹴りを炸裂させると返しの右アッパー!!　驚天動地の一撃!!

すぐさまマウントを奪取したランペイジは、パウンドなんて生やさしい言葉では表せないほどの野獣パンチの連打でランデルマンをKO。このランペイジは、ただの暴走ホームレスではなかった。緻密な剛腕だ。

ジャクソン、ダンヘン、アンデウソン。また打撃系のキャラクターがハッキリしてきて面白くなってきたよ。

――そういう中で、桜庭さんやノゲイラみたいに寝技を得意とした選手が、その局面をどう克服していくかっていうテーマも出てきましたからね。

高田　だけど、いまのヒョードルを見ると、あと2～3回ノゲイラとやっても同じ結果が出るという気がするな。

――ほぇ～。

高田　ホントに強いわ！

――髙田さん的に全体を見渡してMVPを挙げるとしたら誰ですか。

高田　そうだなぁ……やっぱり最後の2人かな。

――やっぱりヒョードルとノゲイラ。

高田　みんなに戦慄を覚えさせるような、「これが究極のレベルのバーリ・トゥードの怖い試合」っていうものを見せてくれたからね。あと私的にはランペイジとヘンダーソンと大山（峻護）にあげたいね。

――大山選手も今回は負けて光りましたね。

高田　負けて光った。彼にはあの試合をみんなは期待してるんだよね。生き様や思いがビンビン伝わってきたよ。一人一人大事な役目を果たしたっていう感じだよね、今回は。大事なところを。

――髙田さんは大会前に「プロレスより〝プロレス感〟が漂ってるマッチメイクだ」と『週プロ』の佐藤大編集長相手に言ってましたよね。

高田　まあ、〝プロレス感〟っていうのは10あっても20あってもいいと思うよ。各々持ってればいいことであって。ただ、競技を見に来てるんじゃなくて『PRIDE』の場合は、みんな「闘い」を見に来てる。昔のプロレスもその時代性の中での「闘い」を見に来てた。その闘いがいまは全くなくなっている。『PRIDE』は「闘い」そのものだよ。ただの競技を見せられてるような試合も中にはあるけれども、確実にそういう匂いは消えていってる。これからも淘汰されていくよ。結局、「闘い」ができる選手しか残らなくなった。「闘い」ができる選手は上に上がっていく。それも『PRIDE』が5年半間かけてやっとここまで来た中で、そういう匂いを持った柔術の選手がドンドン消えていった。同じ柔術の選手でもアグレッシブな人間が残ってる。ブラジル勢もやっぱり打撃系が生き残ってくる。だから見えないところでドンドン進化してるよ。その反面一番強く感じるのは、選手寿命が短い。

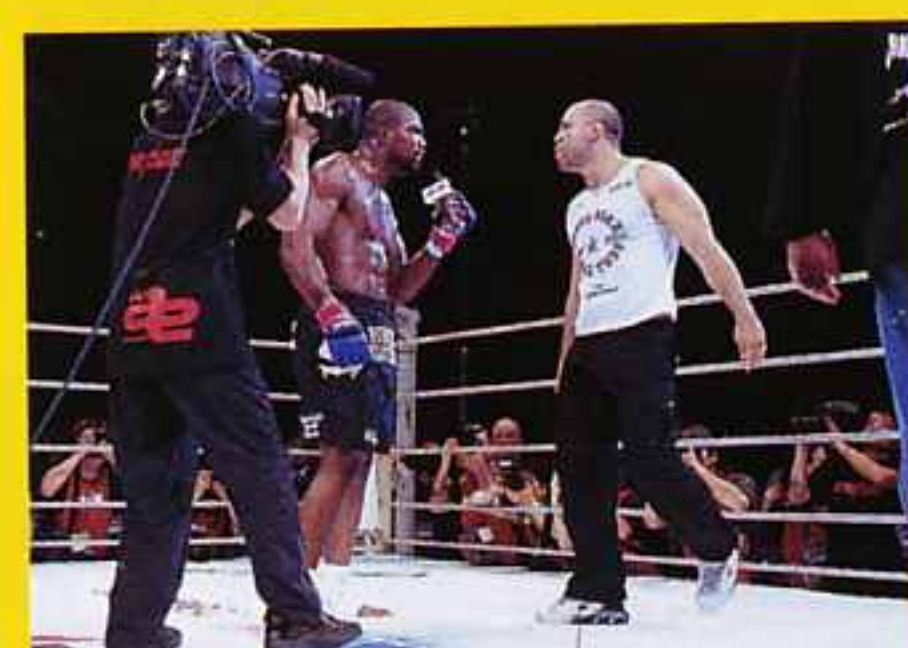
――そうですね。

高田　これは、ボンヤリ考えても『PRIDE』で3年以上活躍してる選手はそうそういないよね。回転がもの凄く速い。

試合後、ランペイジは観戦していたシウバを挑発！激怒したシウバはリングに駆け上がり、そのまま大乱闘に！両者はもともと険悪な仲だった。これを茶番と書いたマスコミもあったが、この奥のリアル感になぜ気づかないのか。♪なんでだろ～

――そういう回転の速さに従来のプロレスファンっていうのは全くついていけないんですよ（笑）。

高田　そりゃそうだろう。メインイベンターが20年もいるんだから！　ちょっと間違えると40年はいるからね。

――ガハハハハハ！　40年いますか（笑）。そのプロレス界のスピード感やプロレス感を剥ぎ取ってよく見てみると、たとえプロレスラーが出てなくても、『PRIDE』が生み出したプロレス感」みたいなものがたしかに見えてくるんですよね。

高田　それはこの前のような、『PRIDE』のいいところが出たイベントを見れば、理屈抜きでわかると思うんだ。

――選手も変貌していかないと置いていかれるし、ファンも同じ視点ばかりで見ていても置いていかれる。好きな選手が負けたからってヘコんでたら、見る資格がなくなるくらい、観るほうにとってもシビアな場ですよ。髙田さんは、『PRIDE』とK―1をソフトとして見た場合、どう違うと思います？

高田　一時言われてたのが、寝技が見にくい。でも、この前のイベントを見る限りではそういう感想ってないんだよね。とにかく寝技であれだけ動かれると周りが騒ぐ。周りが立ち上がるんで自分も立ち上がってみたら驚くような光景が見れる。だから逆に『PRIDE』の見方っていうのをファンがドンドン作り上げている。『PRIDE』ってこういうふうに見るんだ」っていうものが出来上がりつつあるよね。

――下からアームロックを狙ったって、昔だったらわかんなかったですからね（笑）。

高田　わかんない。それが沸くからね。手を差して、ノゲイラがアームロックの態勢になっただけで沸くからね。

――ヒョードルが腕を抜いて凌いだら、またそれでドッと沸きますからね。

高田　あれは20年前のテリー・ファンクがスピニング・トゥ・ホールドに行こうとしてる態勢と同じなんだよ。

――得意技という意味ではそうですね（笑）。

高田　でも、客にアピールしなくてもあれだけ沸く。その違いだね。

――スピニング・トゥ・ホールドの届き方と同じぐらい届いちゃってるわけですね（笑）。

3.16 PRIDE.25 REVIEW **02**

○ダン・ヘンダーソン（1R3分27秒 KO）大山峻護●

負けて光った大山！　勝って光らないダンヘンもまた恐ろしく強し!!

悪夢のハイアン戦以来の『PRIDE』登場となった大山は、あのノゲイラを苦しめた実力者・ダンヘンと対戦。いきなりダンヘンの右ストレートをモロに浴びて崩れ落ち、このままあっけなく敗れるかと思われたが……。

ダンヘンの猛攻の前に、ふらつきながらも大山は反撃開始！　真っ向から打撃で打ち合いダンヘンを追いつめるシーンも見せた。「勝っても負けても、ファンに伝わるような試合をしたかった」。今回は十分伝わったぞ、大山！

驚愕のフィニッシュ！　ダンヘンの右フックで半失神状態となり首がグラグラする大山は、そのままダミー人形のように放り投げられ、マウントパンチの連打を浴びる!!格ゲーのコンボを思わせるダンヘンの離れ業が炸裂した！

髙田　そう。ファンの中に届いてるってことだよ。ちょっと前までは関節技イコール地味だった。いまは一番派手な技だからね。

――今回の大会を「ボクシングに近い雰囲気だ」と言った人もいたんだけど、ボクなんかは全盛期の新日本の現代版みたいな感じがしましたね。客席とリングの間にある信頼感や緊張感、何が起こるかわからない感。なんかいろんな期待が入り混じった感覚が近いんですよ。あの熱の生まれ方とか、その中から濃いファンが生まれていってる感覚も近いですよね。

髙田　そういうのはジワジワ広がっていくんだよね。

――ところで、髙田さんは実況席にいたわけですけど、桜庭さんの負けた瞬間を目の当たりにした時はどんな感想を抱きました？

髙田　一瞬何が起こったかわからなかった。Vを見てバッティングだっていうことが確認できた。バッティングがアゴに入った瞬間から、サクの体が30センチぐらい沈んだ。あとはノーガードで膝蹴りもらってたから、あのKOの原因は100％バッティングによるものだよ。ただこれは故意ではなく、流れの中で生じた事故だね。悔しいけど怒りのやり場がどこにもないんだよ。つくづく何が起こるかわからないリングだね。

――バッティングについては、髙田道場の長としてはクレームをつけたいところですか。

髙田　DSEには当日確認済みだよ。当然、彼らが正当な判断を下すと思うんだ。それを待ってるという状況だね。あの場面はレフェリーからも死角だったようだね。つくづく運がないなっていうのが実感だね。

――髙田さんの引退試合のちょっと前に桜庭さん本人は「運気とかは気にしない」って言ってたんですけど、髙田さんから見ると、やっぱり桜庭さんの運気が下がってるとか、そういうのは感じますか。

髙田　感じるよ。感じざるをえないよ。人にはやっぱり運気があるんだね。俺の捉え方だけどね。あの数年前の状態から比べると、ちょっと考えられないからね。何か時代に押さえられてる気がするんだよ。

――時代に押さえられてる！

髙田　封じ込められてる。桜庭が表に出ないように。でもミドル（級）がつまらないのかというと、もの凄く面白い。ヴァンダレイ中心にね。ランペイジが桜庭に負けたときは周回遅れだった。それがいつの間にか追いついてきて、いまはヘタしたらサクを抜かそうとしてる。そしてすぐその後ろにダン・ヘンが来てる。アンデウソンも来てる。いつもヴアンダレイの横にはサクがいて競ってたものが、最初のシウバ戦、次のシウバ戦、そしてミルコ（・クロコップ）戦があって、今回のことがあった。ホントはもっとスムーズに前に進めてるものが、2年かかって進めてない。だから、動いてるいまの時代からもの凄い圧力で阻止されてるような、そういう運気みたいなものをあの試合の直後に感じたね。過去GP含めて27回、『PRIDE』があったけど、ああいうバッティングはないもんね。やっぱりこの夏のGPに向かって、また一つ影響が出てくる。一個宿題を残したままだからね。

――髙田さんとしては再戦をやらせたいと思いますか。

髙田　やる状況が整うんだったらね。ただなんとしても強引にやらせるという思いはないね。自然とそういう空気になってくると思うよ、やる方向にね。サク自身もいい意味で負けを認めているよ。

悪夢のバッティング→ヒザで、サクは記憶が飛んでいるにも関わらず、それでもニーノの足首にタックル（写真上参照）。この男の闘争本能はまったく衰えていない。変貌したサクと、やっぱり試合後にサクの笑顔を見たい

PRIDE.25

――確かに桜庭さんの負け方はショッキングだったけど、いま話してて気がついたのは、いまの『PRIDE』って自分を作り変えていかないと、置いていかれるリングになってますよね。

髙田　なってるね。

――でも桜庭さんだって、シウバ戦を経て、いろんな意味で変わってるはずなんですよ。今回は体重も増やしてるし。そのサクちゃんの変貌ぶりが、"さぁこれから見れるのかな"っていう前に終わっちゃったショックが大きいなぁ。"桜庭は何も変わってないじゃん"っていうイメージを持たれちゃったっていう。

髙田　それが結構大きいよ、それが。あそこまで思いっきり攻めてても、「でもこの終わり方？」っていうふうに思われちゃうからね。いい状態のサクを見せなきゃいけない時期に試合を組まれて、あの流れの中でまず起こりえないバッティングがあった。ある意味ではシウバに負けたこと、ミルコに負けたことより大きいよ。というのは、彼が持ってる時間はあり余るほどないからね。

――さっき髙田さんが言ったように、回転がより速くなってる流れの中では、桜庭さんもベテランの域ですからね。

髙田　年長組だよ。

――年長組（笑）。ヘンな言い方すると、桜庭さんって負け方がヘタなんですよね。敢えてプロレス的な言い方をしちゃうと（笑）。

髙田　それだけ不運な負け方をしていると

3.16 PRIDE.25 REVIEW 03

○アンデウソン・シウバ（1R6分26秒 KO）カーロスニュートン●

カメハメ波の周波数をアンデウソンのヒザが捉えた

攻防がスタンドに戻るとシウバが本領発揮!!　リーチを活かした打撃をヒットさせ、タックルに合わせてヒザ蹴りをブチ込み勝負を決めた。試合後シウバは、M・ジャクソンの衣装に着替えムーンウォーク!!　ホーッ!!

ニュートンの腕十字は残念ながら、不発!!　今度はシウバが上を取るが、下になってもニュートンは達人振りを見せつけシウバに何もさせず。シウバは消極的と見なされ、イエローカードが出された。凄ぇぜ、ニュートン！

「ボールになりたい」ニュートンは、ボールどころか流れる水のような動きをグラウンドで展開！　パスガード→サイドポジションへ移行するムーブで観衆に感嘆のタメ息をつかせた。ニュートンの試合はまた見たい!!

いうことだよ。
――まだ全然電池は残ってるんだろうなぁと思ってるときに、電池がフッと切れるような負け方じゃないですか、全部。
髙田　それは山口氏は桜庭に対する思い入れが強いからそう思うんだよ。誰だって負けるときは電池が切れるように負けるんだよ。今回のニュートンにしたって、それまで攻勢だったけど一発の膝蹴りでスパッといかれてる。ランデルマンもそうだけど、あのリングは電池が切れるときには負けなんだよ。だからこそ面白いとも言えるんだ。何が起こるかわからないというところに緊張感がある。
――そこまでのリアルさは、怖いけども面白いですよ。あのクオリティでっていうのはハズせないですけど。
髙田　ただサクとノゲイラ、この2人にとって嫌な1日になったことで、逆に『PRIDE』の未来感を示したね。『PRIDE』を見てるファンにとって未来を見る上において、あるいは『PRIDE』をアピールするには皮肉にもいい材料になってしまったね。
――今回はホント、主役は『PRIDE』という舞台ですよ（笑）。「RESTART」っていうよりも、「RE・BORN」っていう感じですよね。生まれ変わったっていう感じがしましたね。
髙田　「RE・BORN」ね。
――そんな言葉があるのかどうか知りませんけどね（笑）。
髙田　あるのかな。
――いやでも、髙田道場の長でもある髙田さんが、サクでさえ、ノゲイラでさえ負けるというレベルをヨシとしてるところが、『PRIDE』っていうもののナチュラルな変貌ぶりを感じますよ。妙な言い方だけど、『PRIDE』は〝怪物化〟してますね。
髙田　あそこの中でヒーローになる、スターになる奴は常人じゃないよ。
――さっき話してたランペイジにしても、サクちゃんがいまやったら難しいだろうっていうイメージもスンナリ出てくるリングに変わってますよ。
髙田　厳しい相手が多いよね、ミドルは。
――だからこそ、今度こそ変貌したサクを見たいというか、その変貌ぶりを楽しみにしたいという欲求は出てきますよね。ところで、日本人が外国勢のパワーと変貌ぶりにどう対抗していったらいいんですか？
髙田　………（ジーッと聞き手を見つめる）。

――そんなに見つめられても（笑）。
髙田　心当たりがないんだよ。いまノゲイラとその下が随分、空いてる。でも空いてるって言ったって、その下にいるのはシュルトやヒーリング。そこまでいく日本人がイメージできない。
――ヘビー級は特にそうですね。
髙田　ここにミルコやサップが入ってきたら恐ろしいことだよ。だから吉田選手がどういうふうに見てるかだよね。
――吉田選手が『PRIDE』という舞台にのめり込む度合いにもよるでしょうからね。ミドル級も同じような感じですよね。
髙田　もちろんそうだよ。よくサクのことを「突然変異」って言うんだけど、バーリ・トゥードの中で彼が生まれたのは突然変異であり、奇跡。だけど普通に考えたらバーリ・トゥードは日本人向けじゃないんだよ。バーリ・トゥードから使える技を削っていくと、だんだん日本人が勝てるようになるんだよ、KOKのように。逆にフリーにすればするほど外国人に有利になる。要するに外国人向けになる。
――でもK―1の外国人天国とは違うんですよね、質感が。
髙田　うん。『PRIDE』の外国人天国のほうが殺伐としてるよね。何か戦場的なイメージがあるよ。外国人同士の闘いでも。
――人種抗争とか民族闘争とかを昔のプロレスはビジネスとしてモチーフにしてたけども、『PRIDE』はナチュラルにそういう匂いがリング上に立ち昇ってる部分はありますね。
髙田　もう一点あるよ。なんで『PRIDE』のほうが戦場的イメージがあるかと言うと、多国籍軍というか、次から次へと強いヤツらが出てくる。ヒョードルだって半年前まではそんなに名前を知られてなかったよ。あとはアンデウソンが出てきたり、ランペイジが出てくる。ヘンな表現だけど、白いのがいたり、黒いのがいたり、猛獣がいたり、熱いヤツがいたり、冷たいイメージの人がいたりね、このへんの色合いが風景的に面白いんだよ。
――でも昔のプロレスはご当地のヒーローが必要不可欠だったけども、もはや『PRIDE』は、ようやくそこの部分も超えようとしてますね。
髙田　この前のUFCがティト（・オーティズ）vs（ケン・）シャムロック戦でPPVで20万世帯。『PRIDE』も今回、アメリ

3.16 PRIDE.25 REVIEW **04**

○アレクサンダー大塚（3R終了 判定3-0）山本喧一●

終了と同時にブーイングが!! 崩っぷちの日本人対決噛み合わず!!

試合は徐々に膠着状態に陥った。アレクは終盤、低空ドロップキックも繰り出したが、空気を変えることはできず。ブーイングの嵐の中、アレクに凱歌が上がった。「判定と試合内容、共にとても恥ずかしいです」（アレク）。

アレクは、なんとゴッチ式パイルドライバーを敢行!! しかもゴッチ式だから、マニアのファンは感涙!!……したのか!? ちなみにゴッチ式は力をあまり必要とせずに相手を持ち上げられる、理論にかなった技なのだ。

『PRIDE.24』でのヤマノリ戦に続いて日本人対決となったアレクは、終始アグレッシブに攻め込みアレクサンダーバード・パンチorキックも見せた。しかし隙を突かれヤマケンもヒザ十字を極めかけらる危ないシーンも。

力に配信を開始してる。これから、日本からシフトチェンジしていく方向性もあるんだよ。この間リングに上がってアピールしたUFCのミドル級のチャンピオン（ムリーロ・ブスタマンチ）じゃないけど、それによってトップ選手の目をもっとこっちに向かせるという作業にもなるし、それによってヒョードルみたいな強いヤツがゴロゴロ出てくる可能性もある。イベントを開催するということも含めて、アメリカに『PRIDE』を広めていくという作業はこれから重要になっていくだろうね。

――日本人が勝てないことで、ファンが離れていくことはないだろうと思えるくらいのグレードをこの間は見せられたわけですけど、新日本のバーリ・トゥード進出に関してはどう思ってますか？

高田　もう言ったよ。

――だから、それは『週プロ』ですよ（笑）。

高田　どう思ってるの？

――いや、見てみなければわかりませんけど、まぁひと言で言うと、5年遅い（笑）。

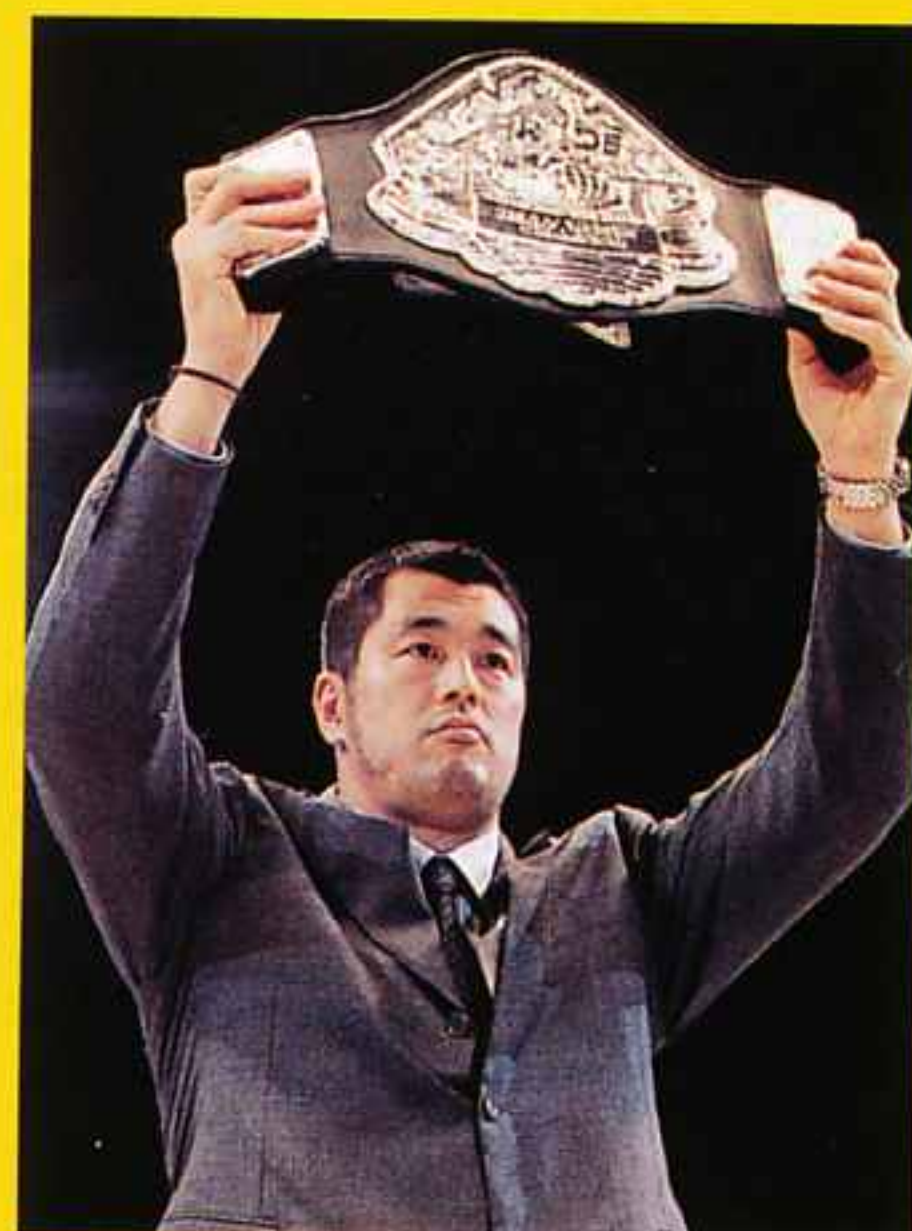
高田　そう。5年以上は遅いな。でも、やりたいことがよくわからないのはもう10年ぐらい経ってるからね。それでもいまこうやって話題にしてるんだから大したもんだ。

――もしかしたらボクらは新日本が大好きなんじゃないですかね（笑）。

高田　ハハハハハハ。人様のやってることなんだから見ていくしかないけど、一つだけ言えることは、どうせやるんだったら新日本のトップからズラッと5人なら5人出て行かないと全く無意味だよということは言える。

――ホント、高田さんが言ってたように全部外部ですからね。新日本の昔の風景を取り戻すということに関しては本気みたいですけどね。

高田　でも、やっぱり言葉じゃないんだよ。行動と姿だよ。言葉は後からでいいんだよ。最初に「ファンタジー」とか言っちゃうとおかしくなる。

ヘビー級タイトルマッチの特別立会人として登場した高田総裁。インタビュー中にある通り、ビッシビシ大一番の空気を味わったようだ（本人まで緊張）。特別立会人が震えるほどの戦慄の名勝負を行ったヒョードルとノゲイラに拍手！　そしてサクも衝撃の敗戦の後にも関わらず、全試合終了後マイクで挨拶。「PRIDEをもっともっと続けられるように頑張ります」。サク、やっぱオマエは男の中の男だ!!

PRIDE.25

――今度の5・2新日本・ドームは高田さん的には商売敵という感じなんですか？

高田　いや、現時点ではない。『PRIDE』もここまでくるのに5年半かかってる。一つのものを確立するには、そこそこ長い年月とそれを大きくしていくための材料が必要なわけだよ。

――素材が素晴らしくても調理する側が何を作りたいのか見えてないと、食べる側も不安でしょうがないですよね（笑）。

高田　その通りだよ。

――でもファンは新しいもの好きでもあるから、食べてないものは食べてみたいと思うかもしれない。そういう部分で『PRIDE』にとって脅威にはならないですか？

高田　いまはないけど、いつでも周りに対しての触覚を張ってなければならないね。周りに左右されるのではなく、『PRIDE』が『PRIDE』であり続けるためにやれることはなんでもやっていくよ。だけどそれに対してあっちがこうしたからこうしようとか、そういう必要はいまの『PRIDE』には全くないよ。

――去年、高田さんは「『Ｄｙｎａｍａｉｔｅ！』が『ＰＲＩＤＥ』の総決算みたいな形で、1年の締めくくりが『猪木祭り』じゃ困る」と言ってましたね。いまも……。

高田　変わらないよ。

――これから『PRIDE』の中で、高田さんの役割は具体的にはどうなっていくんですか？　巷でプロデューサー就任という話も持ち上がってますけど。

高田　正式な要請が来てから考える。

――いまマッチメイクは高田さんの意向は反映されてるんですか。

高田　意味は言わせてもらってるよ。だけど、ある意味、これはみんなが求めてる、ファンのマッチメイクなんだよ。やっぱりファンが見たいものをどれだけ提供できるかってことだからね。

――広い意味ではサービス業ですからね。

3.16 PRIDE.25 REVIEW 05

○小路晃（3R終了 判定3-0）アレックス・スティーブリング●

アメリカ武者修行の成果か、以前よりグッと引き締まった身体の小路。アレックスとのリーチ差を無視して打ち合いに挑戦!!　強烈なロボコン・フックでアレックスをマットに這いつくばらせた！　ニュー小路、発進!!

小路は、上四方から頭部へヒザ蹴りを見舞うが、アレックスがマウントを奪い返し一転してピンチに！　バックからチョークを狙われると場内からは大「小路」コールが巻き起こった。2R終了のゴングに救われた。ふぅ〜。

3Rはやや攻め手に欠けたが、判定勝利を飾った小路！『PRIDE』では2年振り、5連敗を止める嬉しい白星。やったぜ、小路！　久しぶりに炸裂したド真ん中なマイクアピールはP121へ。

高田　選手にとっては世界で一番しんどいサービス業だよ。

——これから猪木さんは、どういう関わり方をしていくんですか？

高田　変わらないんじゃない？　いままでと。

——エグゼクティブ・プロデューサー。

高田　そういう形でいくと思うんだけどね。どっちにしても最終的に4月初めぐらいには新体制のラインナップが揃うよ。次の日程も含めて。だからそのときにハッキリすると思う。

——今回の大会を見て、森下社長の件での傷は癒えそうな感覚は持てましたか。

高田　森下さんの情熱や思いを残しながら、負った傷だけは時間をかけて、イベントを成功させることを重ねていくことによって少しずつ消えていくんじゃないかと思うよ。

——なるほど。あ、そういえばこの間、タイトルマッチの特別立会人ということで認定書を読みましたよね。

高田　この10年で一番緊張した！

——あ、やっぱり！（笑）。

高田　あれだけ緊張したことは記憶にない。何度も私はあの中で試合をしたでしょ？　あのリングの中がどれだけ神聖な場所ということがわかってるし、彼らはもうセレモニーのときから試合を早くしたくてしょうがないわけだよ。ピリピリしてる。あのロープをフッと潜ったら、ノゲイラの緊張感が振動のように伝わってきた。

——ノゲイラも明らかにいつもと顔つきが違ってましたもんね。

高田　ヒョードルからは緊張感は伝わって来なかった。やわらか～い空気が来たよ。で、リングにボーンと入った瞬間にガチっとまた緊張してしまったね。字を読んでてもわからないぐらい緊張したね。

——試合後に認定書を渡す時に「ドリームステージエンタープライズ」って読んでましたよ（笑）。

高田　そう（笑）。よくチェックしてるね。リングまでの階段を登っていくのも5～6段なんだけど、長く感じたしね。あのリングは素晴らしいリングだよ。あのリングは凄い！　これはどっかでも言ったことあるんだけど、『PRIDE』はいまやっと20歳ぐらい。これから成熟期に入っていくわけだから、まだ先は長いよ。

——酸いも甘いも噛み分けるのは、まだまだこれから（笑）。

高田　そういうことだよ。

——プロレスファンも視点を変えながら見ていかないと、置いていかれるなぁ。

高田　でも山口氏は言葉の端々にまだプロレスに対する愛情があるね。

——ボクは「プロレス・LOVE」ですから（笑）。なんせ雑誌名に「プロレス」って付いてますからね。

高田　温かいんだけど、もの凄くイカサマっぽい（笑）。

——ヒ、ヒドイ（笑）。

高田　何で付けてるの？

——変えるのが面倒くさいし、『紙の格闘技』っていうのも何かヘンだし。もういいや、ズーッとプロレスでって感じです（笑）。

高田　男だな（笑）。まぁ、『紙プロ』の場合は全部ひっくるめて「プロレス」なんだろ。要は雑プロだよ。

——雑プロ！（笑）。

高田　でも、純プロしかプロレスとしか認めないよりは数倍いい。今世紀の「プロレス」として、『PRIDE』があるんだからね。そういえば、この前の大会の地上波放映は、いつもの土、日の夕方からの放送じゃなく、月曜の深夜なんだよね（3月24日に放映済み）。

——その深夜っていうことにいまコンプレックスを持つ必要は全くないと思うんですよ。K―1と同じ手法のライトな遠心力っていうのは、この競技の性格上では持ちづらい。プロモーション一つ取ってもこの得体の知れない求心力を活かした方向でやっていけば、もっともっと面白くなりますよ、『PRIDE』は。

高田　そういう意味では、今度の時間帯でどういう見え方になるのか？　面白いよね。一個いい？

——はいぃ？

高田　〝人生、ジャンピング・ニーパット〟で行こうよ！

——は？　どういう意味ですか？

高田　いいから。「ヨッシャ、ヨッシャ、ヨッシャー！」の〝人生、ジャンピング・ニーパット〟だよ。いいだろ？　それくらい、勢いつけて行こうってことだよ。

——高田さん、ふ、二日酔いですか？

高田　酒は3日目前から飲んでないよ（ニッコリ）。

【3月19日／東京・武蔵小山／高田道場にて収録】

3.16 PRIDE.25 REVIEW **06**

○アントニオ・"ホジェリオ"・ノゲイラ（2R3分30秒 腕ひしぎ十字固め）中村和裕●

大物感漂う中村！柔道の底力見せるもノゲイラ弟に斬られる

オープニングマッチは一流柔道マン・中村が登場!!　ブルーの柔道衣を身にまとい、吉田秀彦をセコンドに従え堂々の入場をはたした。柔道着は試合直前になって脱いだが、ブ厚い肉体が露わになると、観客からどよめきが。

VT初挑戦にも関わらず、物怖じせずに攻め込む中村は、ノゲイラ弟を豪快な大腰で投げ飛ばした!!　中村は上から顔面へパンチを浴びせるが、ノゲイラ弟も三角絞めやオモプラッタ、腕十字を仕掛けて逆襲!!　いい攻防が続いた

新人らしからぬ勝負度胸を見せた中村だったが、最後は経験豊富なノゲイラ弟の背後から絡みつくような鮮やかな腕十字の前に無念の一本負け!!　しかし、末恐ろしい可能性をビッシビシ感じさせてくれた中村には注目だ！

That's Entertainment!!

［格闘芸術家対談］

「元気君みたいな格闘家が現れちゃ こっちは商売上がったりだよ（笑）」（武藤）

プロレス界と格闘技界が誇る、二人の天才格闘アーティストが夢の対面！
魔裟斗戦でその変幻自在な魅力を爆発させた須藤元気と、
元祖・変幻自在のグレート・ムタこと武藤敬司が、エンターテインメントについて語りあった！
はたしてここからどんな夢が生まれるのか？ 芸術はバクハツだ!!

聞き手／堀江ガンツ 撮影／森鷹博 designed by hisa（Two Three）

プロレス・格闘技の
天才芸術家同士が初遭遇！

——さて、今日は実に魅力的な顔合わせとなったわけですけど、お二人はこれが初対面ですか？

須藤　はい、初めてですね。

武藤　え〜と、名前は何でしたっけ？　堀口元気？

——ガハハハ！　それじゃ闘龍門か『がんばれ元気』ですよ！　須藤元気選手です！

武藤　あ、そうかそうか。失礼しました（笑）。それは本名なんですか？

須藤　はい。

——いきなり武藤さんらしさが爆発してますけど（笑）、武藤さんは須藤選手の試合は見たことないんですか？

武藤　いやぁ、こないだのK—1（ワールドMAX）はTVで見ましたよ。トリッキーで面白い人だなって思ってさ。

須藤　ありがとうございます。

武藤　というか、ダンスが上手いよねぇ（笑）。いまファイターでもさ、ボブ・サップにしてもホーストにしてもみんなダンスが上手いじゃん。俺、ダンスは覚えられねぇからさ、元気君の入場を見て、これからのレスラーはこのぐらいのことはできないといけないのかなって勉強させられましたよ。ダンスって元々できるんですか？

須藤　そうですね。昔から踊ったりパントマイム的なものは好きでしたね。

武藤　な〜んか、試合も普通のキックボクサーと違った形を持ってるじゃないですか。元々はキックボクサーじゃないの？

須藤　違いますね。K—1はまだ3戦目なんですけど、結構、変則的なものが好きで普通の闘い方が嫌いなんですよね。

武藤　じゃあさ、元々のベースは何なの？

須藤　高校と大学でレスリングをやっていて、その後は総合格闘技を本業でやってます。

武藤　あ、総合格闘技の選手なんだ。失礼しました（笑）。

——かなり手探りな会話からスタートしてますけど（笑）、今回なぜお二人に対談していただこうと思ったかと言うと、何かと共通点があるんじゃないかなと思ったんですよ。まず華やかでしかも個性的という。

武藤　なに言ってんだよ！　俺は個性的じゃないよ。スタイル的には主流じゃん。ド真ん中だよ！

（笑）

——ド真ん中でしたか！　それは失礼しました（笑）。でも元々の拠点はお二人とも海外なんですよね？

武藤　あ、そうなの？

須藤　はい。日本でデビューする前にビバリーヒルズ柔術クラブというところでやってました。

——それで逆輸入ファイターとして、ドレッドヘアーで背中にタトゥーを入れて日本でデビューしたんですよ。

武藤　へ〜それは面白いなぁ。向こうは総合格闘技は盛んなんですか？

須藤　日本のほうが興行的には盛り上がってますね。

武藤　ということはギャラ的には向こうのほうが良くないんだ。

須藤　そうですね。UFCっていう一番大きい大会はいいですけど、他の大会はどうですかね。

武藤　テレビはついてる？

須藤　UFCはPPVがついてるんですけど、民放的なものはやってないですね。金網の中に入ってやるんで、そのへんがやっぱり難しいみたいで。

武藤　あ〜、バイオレンスはダメなんだ。アメリカって結構うるさいんだよな、戦争とかは仕掛けるくせにね！　ホントに矛盾した国だよ（笑）。

ムタの毒霧の作り方？ それはいくら元気君でも 教えられねぇよ（笑）［武藤］

——そのアメリカから武藤さんはUWF全盛の新日マットへ、須藤選手はストイックなパンクラスにそれぞれエンターテインメント性を引っさげて凱旋帰国したわけですけど、やはりそういったものって最初から心掛けていたんですか？

武藤　俺は……須藤さんお先にどうぞ。その間に考えないと俺わかんねぇよ（笑）。

須藤　自分はプロデビューする時に「格闘技界に足りないものはエンターテインメント性だ」と思ったんですね。やはり真剣勝負でやるといっても、エンターテインメント性がないと興行的に盛り上がらないし、お客さんが見ててつまらないんじゃないかというのを凄く感じたんですよ。あと自分は身体が小さいので、色を出さないと一山いくらで終わってしまうと思って、強さにプラスアルファがないといけないというのは常に考えてましたね。

武藤　プロ根性あるね〜。でも、あんまり格闘技の人たちに、そういうことまで追及されると俺たち商売上がったりだよ（笑）。

——そのへんはプロレスラーの専売特許で触れないで欲しい部分でしたか（笑）。

武藤　だってさぁ、このあいだのK—1だって、魔裟斗？　彼より元気君の方が全然興味ひいたからね。

——それはどのへんで一番興味をひいたんですか？

武藤　そりゃあ普通じゃないからだよぉ。

——普通じゃないから（笑）。

須藤　でも、「普通じゃない」って言われるのは嬉しいですね。自分は『W—1』で普通じゃなかったジョー・サンに凄く興味を持ちましたから（笑）。あの色物的な人にインパクトで勝つにはどうすればいいだろうって。

武藤　いやぁ、あれには勝てないよ（笑）。

須藤　もしジョー・サンと試合をしたらどうやったらもってけるだろうって考えて、今回K—1に出るときも凄く意識してたんですよ。

——打倒ジョー・サンを胸にK—1に出たんですか！（笑）。

須藤　やっぱり格闘技界だと、今のところあれが究極だと思うんですよね。一回、『THE BEST』に出て秒殺されちゃったときも、たった1分なのにどんな試合をやっても食われちゃうくらいのインパクトがありましたから（笑）。

武藤　ただその点、『W—1』のときの橋本は上手く裁いたよな。

須藤　あれは橋本さんにとってもおいしかったんじゃないですか（笑）。

——あの破壊王侍っぷりは最高でしたからね、「成敗！」って感じで（笑）。

武藤　その後さ、ZERO—ONEに全

3・1有明コロシアム、K－1ワールドMAX日本代表トーナメント1回戦で優勝候補の大本命・魔裟斗と対戦した元気は、半身に構えて回し蹴り、バックブロー、さらにはコーナーに駆け上がったりとありとあらゆる方法で撹乱。まったくスタイルは違うものの魔裟斗と互角に渡りあった。一見デタラメのようでいて、これがすべて計算されているのだから凄い。

日本の選手、社員47人で殴り込み（2・2ディファ有明）したじゃん。あれ決めたのって急遽前日だったんだけど、その前の日に俺ホントは「ジョー・サン呼んでくれ」って言ったんだよ。

――ガハハハ！　全日本の助っ人にジョー・サンですか（笑）。

武藤　いや、助っ人じゃなくて、橋本が『W―1』でジョー・サンとやって「武藤敬司なめるな！」とか言ってたじゃん。だから俺の代わりにジョー・サンにグレート・ムタの格好をさせてZERO―ONEに行かせたら面白いかと思ってさ（笑）。

――ガハハハハ！　武藤来場を要求したら、またジョー・サンが来ちゃうっていうのはネタとして最高ですね（笑）。

武藤　だけど時間とかすべての都合でダメだって言われたんで、しょうがなく47人みんなで行ったんだよ。

2・23日本武道館で実現したムタvs破壊王の三冠戦は、ムタが破壊王に敗れ王座を失ったものの、久々に相手をスカし惑わす"ムタらしさ"が爆発！　実に見応えある一戦だったが。テレビ中継には向かない試合だった。

――ジョー・サン版グレート・ムタのインパクトに勝つには47人必要だったわけですね（笑）。

武藤　そうそう（笑）。

――それだけ武藤さんもジョー・サンを買ってるってことですか？

武藤　そりゃ買ってますよ。

須藤　ボクもイチ押しですね（笑）。

――そういえば、深夜中継版の『W―1』を見たら、番組名が『ジョー・サンのバトルエンターテインメント』になってたんで大爆笑しましたよ（笑）。

武藤　マジで？（笑）。俺、見てねぇからわかんないけどさ。

――番組タイトルになっちゃうって凄いですよね。それでゴールデンの方は『ボブ・サップのバトルエンターテインメント』でしたけど、ジョー・サンを買ってる須藤さんから見て、ボブ・サップの印象っていかがですか？

須藤　そうですね、彼はやはり外国人ということで日本に来て、そのへんを吹っ切れるんじゃないですかね。日本人があああいうことをやったらテレとか何か少なからずあると思うんですけど、全く言葉が通じない国で好きなようにできるっていう吹っ切れた感じは凄いありますよね。

武藤　そうだよなぁ。多分、俺たちだって、例えばテレビであんな風に映えてくれっていう依頼があったら断るね。裸になって「ウーアー」言ってさ。それを平然とやるじゃん。そこがエライよ。

須藤　サップも違う国だからできるっていうのは絶対ありますよ。自分もアメリカの取材とかだったら凄いバカなことできるんですよ。日本の取材だとちゃんとやらなきゃいけないんですけど、前もアメリカのインタビューでパントマイムしながらずっとコメントしたりして、日本だったらできな

いんですけど、違う国だとできちゃうんですよね（笑）。

武藤　へぇ～、そこまでできたら大したもんだなぁ！

須藤　だからボブ・サップもこういう心境なんだろうなって。ジョー・サンはわからないですけど（笑）。やっぱり吹っ切れることが大事なんだなって思いますよ。

――いまテレビで受ける人ってみんなそうですよね。星野総裁のビッシビシもそれだと思うし（笑）。そんな中でも須藤さんは特にテレビ局からの評価が高いんじゃないですか？　評価されてるからこそ、番組の頭で7時にポンッと魔裟斗戦が流れる構成になってたわけですから。

武藤　そうだよな。凄いよ。ただ、あのシチュエーションを見たら魔裟斗ってどう見ても絶対的なベビー（フェース）だよね？　だけど会場の声援とかどうだったの？　やっぱり元気君はヒール？

――いや、もう圧倒的に声援は須藤選手だったんですよ。入場の時の大声援は凄かったですからね。

武藤　あ、ホントに？　へぇ～！

――ある意味、魔裟斗選手って昔のNWAのダーティーチャンプみたいな部分があったりするんですよね。

武藤　え！　なんでなんで？

――いわゆるキザでそしてムチャクチャ強い王者っていう。

武藤　あ～、もしかしたら男のファンからは嫌われるかもしれないな。

――だから老若男女誰からも好かれる須藤選手が会場人気では圧倒的だったんですよ。

武藤　だけど、基本的に元気君は実力があるからいいけどさ、ジョー・サンなんてねぇ（笑）。やっぱりプロレスって一回で勝負が終わりじゃないじゃない？　ずっと続けていかなきゃならないから、いつかはボロが出ちゃうよな。

須藤　あのいい加減なところがファン的には凄く好きなんですけどね（笑）。

武藤　俺らの業界ってファンがマンネリっていうものを一番嫌うからね。同じものがボーンボーンと通用するのは何回かしかないもんね。

――須藤さんも毎回、入場を期待されるとプレッシャーを感じるんじゃないですか？

須藤　そうですね。一番最初は誰もやってなかったからやってみたんですけど、いまは自分の中では入場が第1ラウンドになるんですよね。

エンターテイナーとして意識するのは ジョー・サンのインパクトですね（笑）［元気］

武藤　ウハハハハハ！　凄ぇなぁ（笑）。

須藤　入場が終わると、「ああ、やっと無事に入場ができた」って。あれも失敗したら困るんで、試合前にプレッシャーなのにあれをやるっていうので逆に凄い落ちつくんですよ。そういうのって武藤さんはありませんか？

武藤　俺？　俺は自然体の入場が多いからなぁ。ただ俺も入場する時にね、上から降りてきたことがあるんだよね。

――横浜アリーナの天井からグレート・ムタが降りてきましたよね（笑）。

武藤　あれさぁ、ワイヤー引っ張ってたの人力だったんだよ！　4人か5人で人力で降りるんだよ。

――じゃあ手が滑ったら……（笑）。

武藤　うん。その恐怖と、上で待ってる時に試合前ってさぁ、緊張感で小便に行きたいのよ。だけど吊り下げられてるから行けなくてさ、凄い困った経験があるよ。

――グレート・ムタが小便で困ってたとは知りませんでした（笑）。

須藤　自分もグレート・ムタの毒霧に憧れてたんですけど、あれって胃薬のサクロンか何かでやってらっしゃるんですか？

武藤　いや、それは企業秘密だよ（笑）。いくら須藤君でも教えられねぇよぉ。

須藤　パンクラスの時に一回、毒霧やったらどうなるんだろうと思って作ったんですよ。高橋義生さんが「あれ、サクロンじゃないか？」とか言ってたんで、教えてもらいながら作って。でも、一回練習してみたら凄く苦くて「これは試合にならないな」って（笑）。

武藤　でも、それって反則じゃん（笑）。

――須藤さんはリングスに出た時にもペイントをして出ようとして前田さんに止められたことがあるんですよ（笑）。

武藤　リングスもいたんだ。へ～、じゃあ、リングスとアメリカはどっちが早いの？

須藤　アメリカで修行してて、逆輸入っていう形を狙ってパンクラスに上がって、その後にリングス、K―1、UFCって感じですね。

武藤　じゃあ、基本的にフリーランサーみたいなもんだ。大したもんだねぇ。フリーで実力がなかったら、生きていけないからね。例えばレスラーで言ったら高山とかさ、あれ実力があるから使ってくれるけど、実力がなかったらどこも使わないからね。

須藤　高山さんはリングインだけで自分はもう大満足ですね。あれ格好いいですよね。真似しようにもできないんですけど（笑）。

――須藤さんはその入場にかなりお金を掛けてると思いますけど、一番掛かった時でどれぐらいですか？

須藤　一番掛かったので50万ぐらい掛かりましたね。ファイトマネーより全然高くなっちゃって（笑）。

武藤　マジで⁉　だけど俺のほうが金掛かってるな。いまのグレート・ムタとか高いよ、あれは。俺の型でとってるから、マスクだけでも40～50万するからね。……あ、言っちゃった！　マスクって言ったらダメだったんだ（笑）。

一同　アハハハハハ！

――やっぱり須藤さんの入場で一番高かったのは『コロシアム2000』のドームですか？

須藤　ドームも高かったですし、あとK―1の一番最初に出た時はコラボレーションで出たんで、その人たちのギャラも掛かるんで。

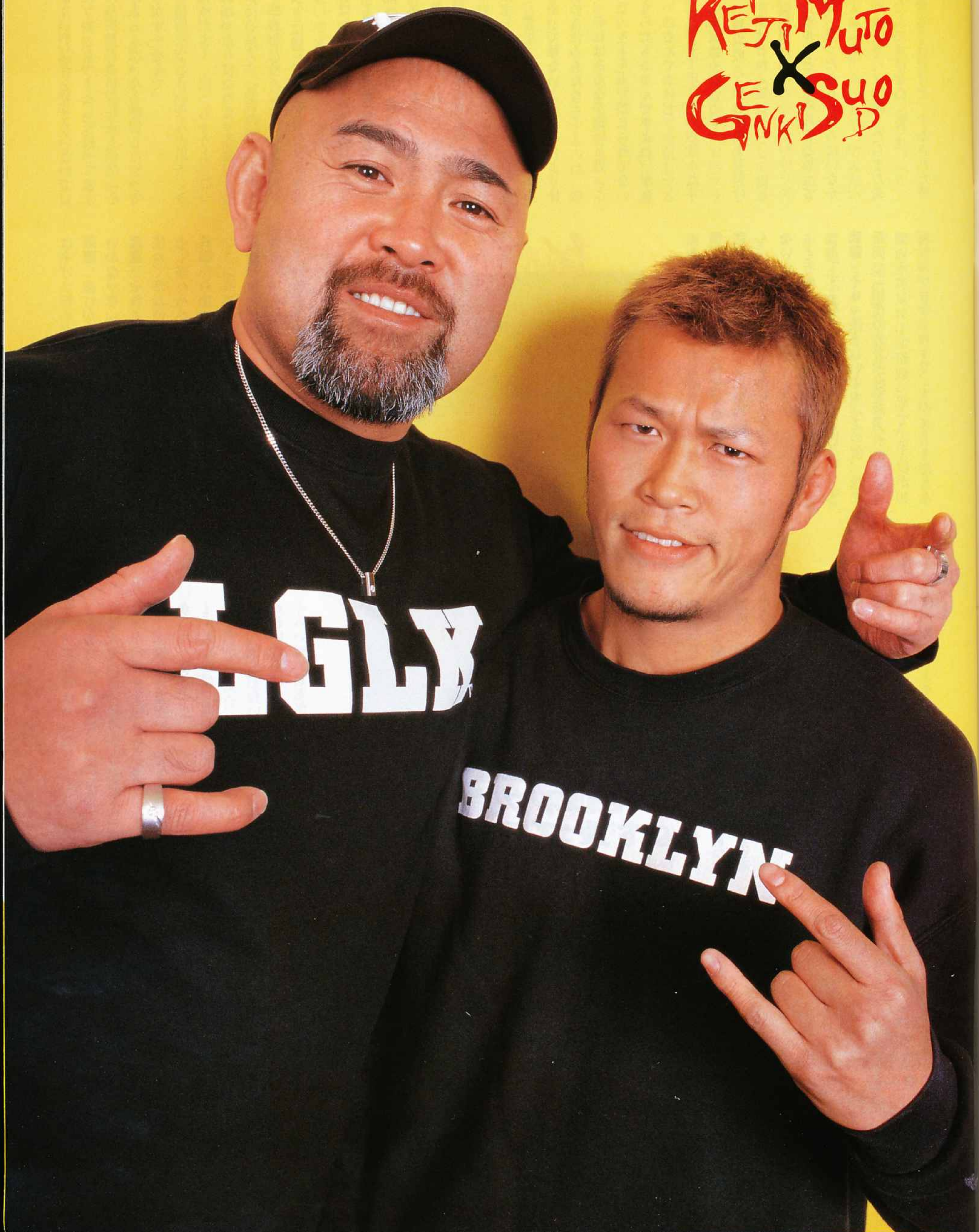
武藤　え！　それって自払い⁉

須藤　そうですね。最初の頃、デビューしてから3～4戦はファイトマネーより高くついてましたからね。

武藤　か～～、エンターテイナーだなぁ。尊敬するよ！　俺はそこまで犠牲にできないなぁ。

須藤　あれで自分を追い込んでるんです

KEIJI MUTO
×
GENKI SUDO

BROOKLYN

よ。入場よりいい試合を見せないとっていうのは常にプレッシャーとして持ってますね。負けたらボロカス言われますから。「そんな時間があるんだったら練習しろ」って言われるのがオチなんで。

武藤　でも格闘家でこういう人が出てくるのは凄い脅威だよ！　困っちゃうよ。こっちが商売あがったりになっちゃうよ！

――入場だけでなく、試合の方も相手をスカしたり惑わしたりっていう、なにかグレート・ムタに通じるものがありますよね？（笑）。

武藤　それはわからねぇけど、ただ相手はやりづらいよね。あれも計算してるの？

須藤　全部計算ですね。雑誌とかのインタビューで試合前に言ってることも全部メチャクチャなんですよ。言ってることとやってることが違ってたら相手もやっぱり戸惑うじゃないですか。自分は試合する前から勝負は始まってると思うんで。

武藤　へ～、考えてるねぇ。でも、K―1で勝ち上がるって難しいよね。総合より枠がもっと狭められるもんな。

須藤　でも、それはみんなが狭いと思いこんでるだけで、ルール上で禁じられてないことっていくらでもあるんですよね。ボクはそこを突いてるんですけど。

武藤　だけどコーナーポストから跳んだりとか、あれは反則じゃないの？

須藤　あれで減点取られて減点1で負けちゃったんですけどね（笑）。

武藤　やっぱ反則だぁ。

須藤　ムーンサルトとかもやろうと思ってたんですけど、登ったらもう後ろにいなかったんですよね（笑）。

――ムーンサルトキックで勝ったらまた素晴らしかったんですけどね（笑）。

武藤　ただ俺もそうだけど、すかされた時はすげぇ惨めだよ（笑）。

須藤　それがまたジョー・サン的要素でいいかなって（笑）。

武藤　それよりシャイニング・ウィザード使ってほしいよな！（笑）。

――ガハハハハ！　いいですねぇ（笑）。

武藤　ちょっとレフェリーを土台にするとかさ（笑）。

須藤　次にK―1出た時に挑戦してみます（笑）。

――須藤さんは最近、プロレスの方はご覧になられてないんですか？

須藤　最近はちょっと見てないですね。

武藤　だっていまって見る方法がないじゃん。新日本とノアの深夜しか民放でやってないからね。

――そのへんがプロレス界の一番の悩みどころですよね。K―1が羨ましいというか。

武藤　そりゃ羨ましいよぉ。この前、読売新聞で「10代の若者が好きなスポーツ」っていうアンケートが載ってて、1位が40何％のプロサッカーで、次がK―1だもんね。プロ野球より上だぜ⁉

――ああ、そうらしいですね。

武藤　それでプロスポーツ選手で一番好きなのがベッカムで2位がボブ・サップだぜ？　松井（秀喜）とかイチローより上だからね。凄ぇよ！

――ちなみにプロレスはどれぐらいだったんですか？

武藤　12％ぐらいだったよ。それがいいのか悪いのかはわからないけど、水泳と一緒ぐらいでバレーボールがもっと上だったんだよなぁ。

――そのへんはやっぱり悔しいですよね。

武藤　ただかぁ、あれって全部テレビの露出度じゃん。

――ああ、水泳も世界水泳とかガンガンTVでやってますからね。そのためにも必要なのが『W―1』であると。

武藤　そうそう。

――でも須藤さんも以前、ウチのインタビューで「プロレスをやるんだったらバリバリのエンターテインメントをやりたい」っ

元気君にはK-1で シャイニング・ウィザードを 使ってほしいよな!

3·1有明コロシアム
K-1 WORLD MAX
日本代表決定トーナメント
PUTIT REVIEW

撮影（望遠）／吉澤晃

○安廣一哉
（3R 判定3―0）
小比類巻貴之●

昨年の準優勝者、小比類巻がリザーバーとして出場した安廣にダウンまで奪われてのまさかの完敗！　捲土重来を期して出場したはずのコヒであるが、正道会館のホープ安廣のダイナミックな攻撃の前にもろくも崩れ去ってしまった……。

○村浜武洋
（2R2分48秒 KO）
阿部裕幸●

プロレス、K―1、総合を股にかける“ちっちゃいサップ”こと我らが村浜武洋は、1回戦で修斗の阿部兄ィこと阿部裕幸と対戦。パンチ力のある阿部に対し、村浜は経験と技術の差を見せつけ、ボディアッパーで悶絶KO！

○魔裟斗
（3R 判定3―0）
須藤元気●

“K－1MAXの主役”魔裟斗と、変幻自在のトリッキーな戦法で昨年、小比類巻をあと一歩まで追い込んだ元気という、TV的にド真ん中の一戦は、期待通りの“まったく噛み合わない名勝負”。今大会のベストマッチとなった。

て言ってましたよね？

武藤 へ〜、いいねぇ！　じゃあ、『W―1』しかないじゃない！

須藤 ゼヒ、ジョー・サンとやってみたいですね（笑）。

武藤 ただ『W―1』もまだどういうふうに視聴者に訴えていいかわからないからな。だって、この間グレート・ムタとして橋本とやった三冠戦なんて、最初の10分はほとんど攻撃らしい攻撃はしないで、お客プラス橋本で心理戦をやってたわけじゃん？　あれはライブのファンに向けて発信してるからいいけど、ゴールデンでやったって通用するわけないよな（笑）。

――いまのチャンネルをすぐ変えられるっていう状況でああいう試合をするのは、難しいかもしれないですね。

武藤 かつ試合が始まった途端、顔中血だらけじゃん。あれは完全に「テレビプロレス」ではないよな（笑）。

――食事時に見るモノではないですよね（笑）。

武藤 だから「テレビプロレス」は「テレビプロレス」で作らなきゃマズイんだよ。

――確かにK―1も「テレビ格闘技」の方法論を見つけて人気が出たと言っても過言じゃないですからね。

武藤 ただ、その「テレビプロレス」をどういうふうに表現したらいいのかっていうのはまだわからねぇな。実は『W―1』のテレビ番組が決まったんだよ。詳細はまだ言えないんだけど。

――その番組をどんなものにしようか、もう案はあるんですか？

武藤 いやぁ、まだわからないよ。ただざぁ、こないだ天龍vs長州っていうのがあったじゃない。俺は見てないんだけど、あんな50歳同士の闘いを一般の人に普通に見せてもつまらないでしょ？　それを違った側面から見れば面白いと思うんだよな。

――50何歳同士がやる特殊性みたいなもののアピールをするわけですか？

武藤 「なぜ、コイツらは闘うのか!?」とかさ、違った方から撮ってあげるのがこれからのテレビじゃないかなって思うよね。

――二次加工が必要ということですね。K―1だって選手みんなに個性をつけようっていうんで作りこんでますからね。

須藤 ちょっとあれは個性をつけ過ぎですけどね（笑）。

武藤 ただK―1みたいな打撃系って空手とかキックボクシングとか、あらゆるところに存在するじゃない。なんとなく強ければ済む商売だけどプロレスは違うんだよな。そっから仕込んでいかなきゃいけないから、それが時間掛かるんだよね。職人芸なんだから誰でも彼でもって感じにはいかないじゃない。そこが難しいですよね。いや〜、難しいわ！　段々難しくなってきてるからね。

――ガハハハ！　昔はそんなことあんまり考えてなかったのにって感じですか（笑）。

武藤 だってさぁ、大体こんな世の中、戦争やるかやらないかの時代にプロレスでどうやって〝闘い〟を表現するんだよ（笑）。

――ZERO―ONEとも〝全面戦争〟やってますけど、本物の戦争以上のものを見せるのはさすがに難しいでしょうからね（笑）。逆に須藤さんは〝闘い〟じゃないところを提供してる部分はありますよね？

須藤 そうですね。いま戦争が起きそうだから、ボクは逆に闘いを通じて平和のメッセージを伝えたいなというのがあって、準備期間的には厳しいんですけど、4月25日にUFCの試合に出ることにしたんですよ。いつも自分の中に「WE　ARE　ALL　ONE」っていうテーマがあって、国連の旗をオクタゴンで振ってるんですけど、戦争が起きそうな今だからこそアメリカで国連の旗を振ろうと。いまアメリカでそれをやるのは危ないんじゃないかってみんなに言われるんですけど、やっぱり

今こそUFCに出て闘いを通じて平和のメッセージを伝えたいですね

○武田幸三
(3R 判定3ー0)
小次郎●

今大会の目玉、外国人として4人目のムエタイ王者・武田幸三。K−1初戦でどんな闘いぶりを見せるか注目されたが、堅くなったのか、小次郎のパンチを中心とした攻めにまさかの大苦戦。最後はローキックで逆転したものの冷や汗勝利だった。

○魔裟斗
(3R 判定3ー0)
村浜武洋●

昨年1回戦で魔裟斗相手に持ち前の回転の速いパンチを次々とブチ込み、ベストバウト級の活躍を見せた村浜が、今年は増量して再び打倒魔裟斗に挑んだ。しかし、今回はカウンター攻撃に苦しみ、あわやのシーンを作ることができず。魔裟斗強し！

○武田幸三
(3R 判定3ー0)
安廣一哉●

1回戦でまさかの大苦戦を強いられた武田がようやく本領発揮！　コヒを破り勢いに乗る安廣から得意のフックでダウンを奪い、あとは抜群の切れ味を誇るローキックの雨を降らし、文句ナシの判定勝ち。遂に魔裟斗戦に進出！

○魔裟斗
(3R 判定3ー0)
武田幸三●

K−1中量級のスーパースター魔裟斗とムエタイの頂点を極めた武田幸三、キック界が誇る超夢のカードがホントに実現！　魔裟斗の重く速いパンチと武田の執拗なまでのローキックの打ち合いとなったが、魔裟斗が手数で上回り判定勝ち！

いまやらなきゃいつやるんだって思ってやることにしましたね。
武藤 それはいい意味でチャンスかもしれないね。
須藤 イギリスのUFCで勝った時も最後にその旗を振ったら、終わった後のパーティでみんなに「あの旗は良かった」って言われたんですよ。特にイギリスに来てる留学生とかイギリス人じゃない人に言われたんで、みんな一つなんだなって。
武藤 面白いねぇ。そうかぁ、世界平和だもんなぁ。元気君、そのうち『TIME』とかに出るんじゃないの?
――その姿で表紙とかになったら格好いいですよね(笑)。
武藤 でもさ、元気君みたいに、アメリカのUFCのようなものに出るというのも大変だと思うよね。昨日の『PRIDE』にしても、なんか桜庭も負けちゃって、結果だけ見てると、これ日本人は誰も上がって来なくなるよ。このままだと絶対に。
須藤 それが自分の階級まではいけるような気がするんですよね。それ以上いっちゃうと力とかで外人が強くなっちゃうんですけど、70キロ以下なら何とか世界でチャンピオンが取れるかなって。UFCは日本人でまだ誰もチャンピオンに取ってないんで、なんとか取りたいですね。
武藤 それは近い将来に手応えありそう?
須藤 自信はあるんで今年中には取りたいですね。
武藤 へ～、頑張って欲しいなぁ。
――でも、武藤さんと仲のいい宇野ちゃん(宇野薫)と同じ階級なんですよ(笑)。
武藤 え! 同じ階級なの? それは困ったなぁ!
――ガハハハハ! では、武藤さんの今後の目標っていうのは何ですか?
武藤 俺の今後? レスラーとしてあんまりねぇよ。もう、やること全部やってるじゃん! ベルトも6本身体に巻いたりしてさ、他に何しろって言われてもわかんねぇよな。だからやっぱり、個人より「全日本プロレス」とか、「プロレス界」っていうもんに考えが行っちゃうよな。
――なるほど。業界全体のことを考えなきゃならない立場ですもんね。
武藤 ただ、俺は全日本プロレスのことをこれだけ思って頑張ってるのに、全日本のファンの間ではヒールだからね(笑)。
――ガハハハ! それも難しいところですよね(笑)。まぁ、武藤さんには今一度プロレスを大衆のスポーツにする使命があるから、それも仕方ないんじゃないですか?
武藤 いや、でもさぁアングラだったらアングラでいいんだよな。宝塚だってアングラだぜ? あれテレビに出てこないけどあれだけ集客してるでしょ? 『劇団四季』とかも凄いらしいけどあれだってアングラだからね。やっぱり全日本でそういうものを求めつつ、『W―1』と両方やりたいし、やらなきゃいけないよね。
――全日本でムタvs橋本みたいなものを見せて、『W―1』では大衆性のあるものを作り上げる、と。それにはグレート・ムタと須藤元気の絡みみたいな夢のあるものが最適じゃないですか(笑)。
武藤 それはゼヒ! 元気君も『W―1』に協力してよ。ああいうものってみんなで盛り上げていかなくちゃできないじゃない。よろしくお願いしますよ。
須藤 そう言っていただけると光栄ですね(笑)。
――いまこれだけ格闘技とプロレスがリンクしてるんで、相互作用で盛り上がっていくといいですよね。ボクの個人的な希望だと、K―1の須藤さんの試合を一度武藤さんの解説で見てみたいですけどね(笑)。
須藤 解説されたいですねぇ(笑)。
武藤 お呼びが来ないよ!
――ムチャクチャ面白いと思うんですけどね(笑)。
武藤 まぁ、それはともかく、今度のUFC頑張ってくださいよ! 影ながら応援してますから。
須藤 ありがとうございます!
――では、この対談から何かまた夢が生まれることを期待しつつ、今日はこの辺でお開きにさせていただきます。ありがとうございました!

【03年3月17日/水道橋「後楽園飯店」にて収録】

むとうけいじ■1962年12月23日、山梨県出身。日米を股にかける天才レスラー。昨年1月に新日本を離脱し全日本入り、現在は全日本社長に就任。『W―1』で新しいプロレス確立を目指す。

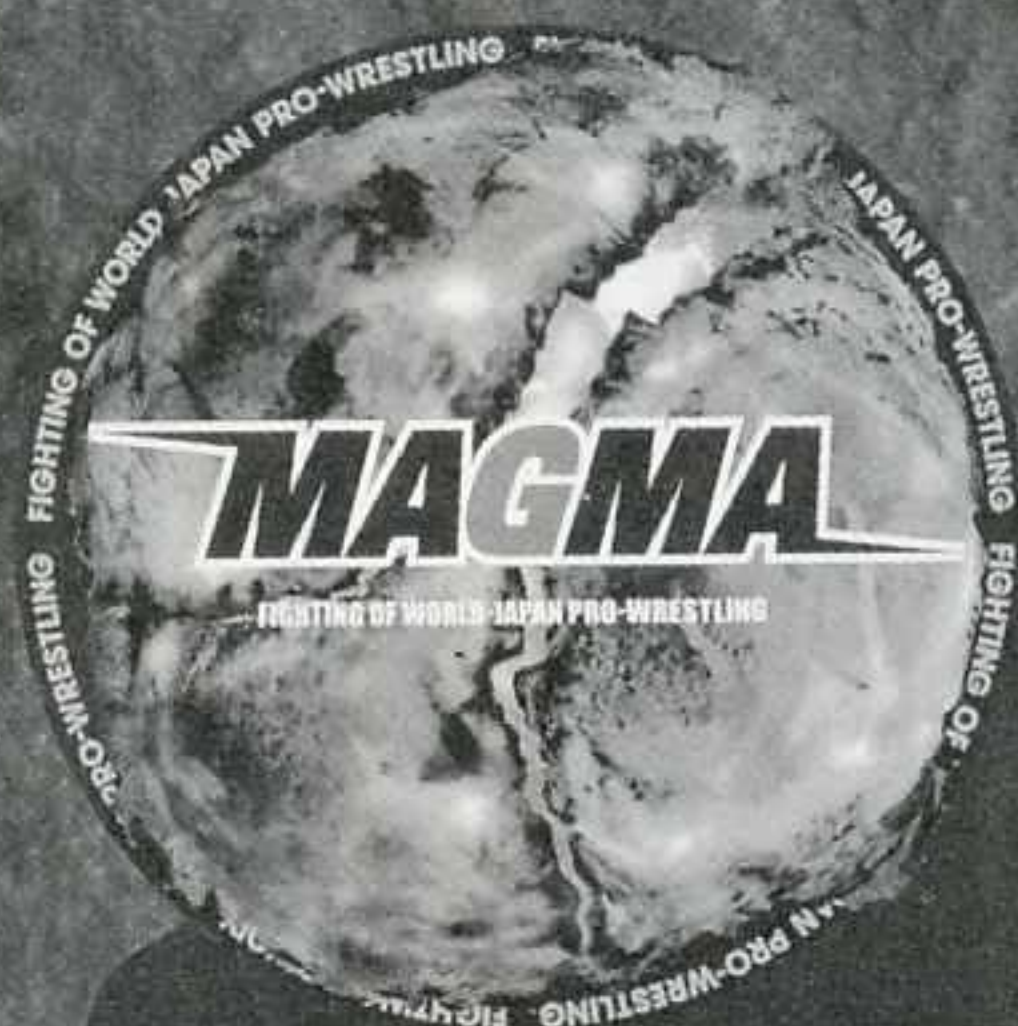
すどうげんき■1978年3月8日、東京都江東区出身。パンクラス、リングス、コンテンダーズ、K―1、UFCなんでもござれの天才格闘家。入場パフォーマンスは必見。177cm、73kg。

全日本プロレス『2003チャンピオンカーニバル』日程

日時	会場
3月28日(金)18:30	北海道・北海道立総合体育センター
3月31日(月)18:30	北海道・函館市民体育館
4月 3日(木)18:30	福島・富岡町総合体育館
4月 4日(金)18:30	福島・ビッグパレットふくしま
4月 5日(土)18:30	新潟・長岡市厚生会館
4月 7日(月)18:00	富山・富山産業展示館テクノホール
4月 8日(火)18:30	岐阜・岐阜産業会館
4月 9日(水)18:30	大阪・大阪府立体育会館第二競技場
4月10日(木)18:30	広島・広島グリーンアリーナ
4月12日(土)18:00	東京・日本武道館

●どっこい生きてた『W―1』! 4月から遂にレギュラー放送決定!! 詳細は3月28日(金)深夜3時～4時フジテレビで放送の『WRESTLE―1』で発表!

“永島のオヤジ”RADICAL初見参

ド真ん中解禁

ド真ん中ッ! 3·1横浜アリーナで、ついに旗揚げしたWJプロレス。WJと言えば、長州力、永島専務をはじめ、『紙プロ』が長い間、取材拒否中の新日本の流れを汲む団体だけに「取材できるのかなぁ」と思っていたが、そんな矢先にWJからリリースが届き、数々の名言が飛び出した会見の情報を掲載することができた。長州、健介、越中、福田社長等々……魅力溢れる人たちの取材実現に向け、永島専務に直訴!

聞き手／松澤チョロ

designed by matsu(Two three)

WJ専務取締役

永島勝司

（『紙プロ』は）もう少し物事を正面から捉える記事があっていいんじゃないか？

――すいません、永島さん！　まず最初に写真撮影からお願いします！

永島　写真は（撮らなくて）いいよ！

――わ、わかりました。それでは早速お話をうかがいます。前号でも取材を申し込んだんですけど、『紙プロ』はちょっと」ということで受けてもらえなかったわけですが、具体的に『紙プロ』のどういうところが気に入らないんでしょうか？

永島　気に入らないっていうかね、もう少し物事を正面から捉える記事があってもいいんじゃないのかなって思うなぁ。

――正面から捉えていない記事が多いと感じるわけですか？

永島　俺はそう思うよ。

――『紙プロ』は、ひねくれてるというか、レスラーを茶化しすぎだということを、以前おっしゃってましたけど。

永島　茶化すというか、なんつうかねぇ（苦笑）。そっちが一番よくわかってんじゃないの？

――まあ、プロレスマスコミ界のド真ん中はいってない気はしますけど（笑）。

永島　いってないよな。

――でも、WJさんのように"目ン玉が飛び出るようなストロングスタイル"でいきたいなとは思ってますから！

永島　あっ、そう（笑）。でもパラパラって見る限り、ちょっとなって思うところは正直あるよな。

――正直、ありますか（笑）。

永島　でもやっぱ、『紙のプロレス』を読んでるファンも当然いるんだろうからね（笑）。

――そうですね。全国1千万人ぐらいはいると思いますけど（笑）。

永島　そりゃ凄いや（笑）。まあ、そういう捉え方を好むファンもいるんだろうから、それが絶対的に悪いとか、そういう意味で俺は言ってるんじゃないのよ。もうちょっと真っ正面から真面目に捉えてもらいたいなっていうだけなんだよ。

――WJさんに関しては、旗揚げ前の会見から何から真っ正面から捉えて報道してるつもりなんですけどね。会見も毎回毎回、抜群でしたからね！

永島　そうか（笑）。でも、会見ホメられてもしょうがないだろうよ（苦笑）。

――いや、それも大事じゃないですか！

永島　まあ、それはそうなんだけどな。

――ボク的には、非常に微力ながらも応援していきたいと思ってるわけですよ！

永島　そういう考え方を持ってる人も『紙のプロレス』にはいるんだ（笑）。

――ボク1人かもしれませんけど（笑）。

永島　そうなのか（笑）。

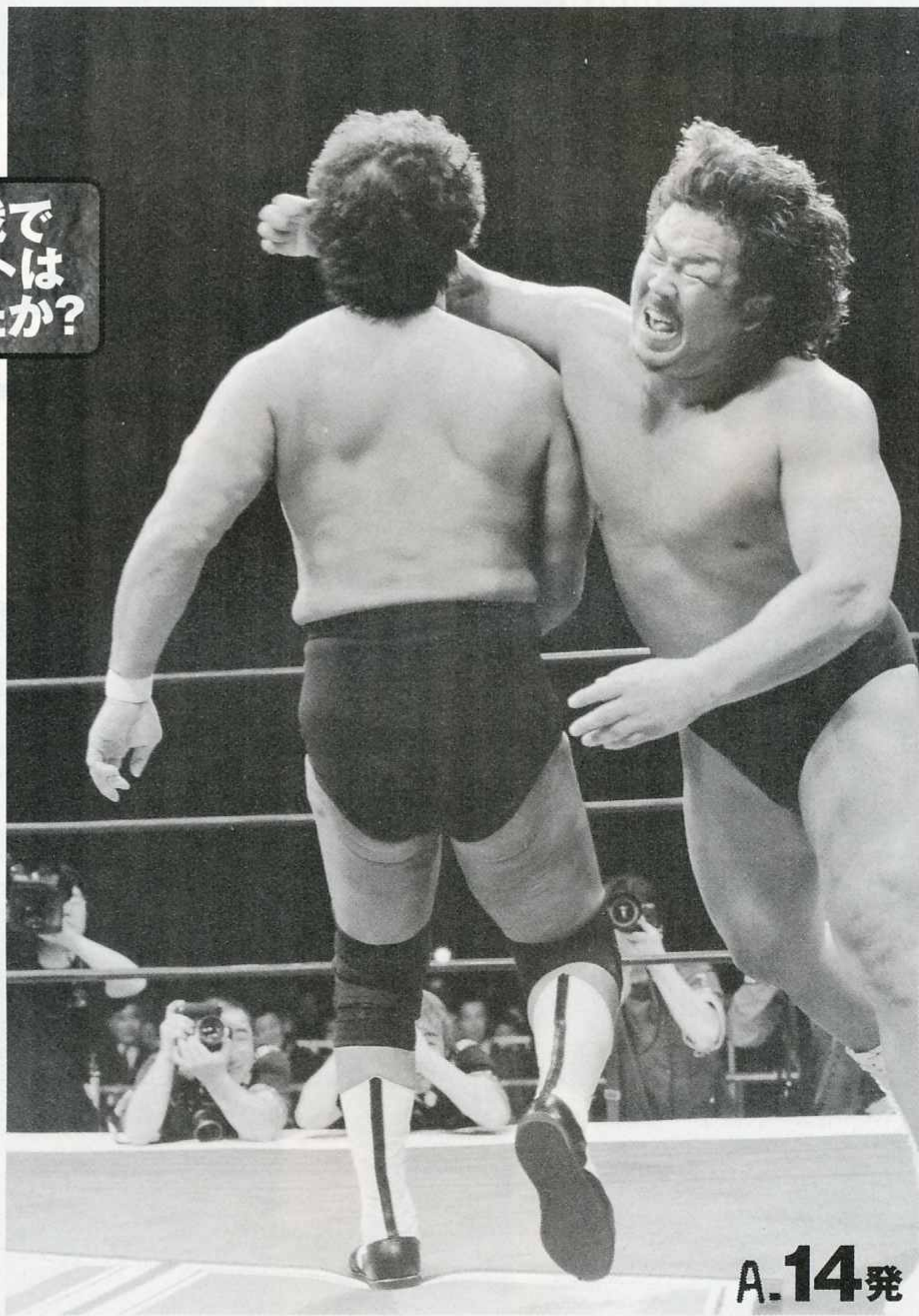
――いやいや、そんなことはないです。長州さんとは言いませんので、福田社長や旗揚げ戦で大活躍したダン・ボビッシュとか、子供が産まれたばかりの健介さんとかインタビューで取り上げたいんですよ！

永島　要は、ちゃんとした捉え方をしてくれるんなら、いくらでも協力しますよ。

――あ、ありがとうございます！　まあでも、ウチはダメなものはダメってハッキリ書きますし、一言二言多いって思われることが、選手や関係者の中にも多いってことは自覚してますので（笑）。

永島　いやいや、ダメなものはダメでいいんだよ！　ズバッとそう書いてくれた方がいいんだよ！　なまじっか若い選手なんかを、おだててさぁ、勘違いすることもあるしね。そういうスタンスを守ってくれればいいんじゃないの？

――わかりました。

永島　何も俺は文句言ってるわけじゃない

3・1マグマ噴火記念 数字で見るWJ

Q 旗揚げ戦でラリアットは何発出たか？

長州、健介、ウォリアーズ、さらには大森（アックスボンバーだが）などラリアットの使い手が名を連ねたWJ。試合スタイルも含めて、一体何発飛び出すかカウントしてみたが、思ったよりは飛び出さなかった？

A.14発

んだよ。なんで、もうちょっとこういうふうにできないのかなって思うだけだから。でも会社によって、当然、編集方針っていうのは違うんだからさ（笑）。
――そうですよね。ボクも金沢編集長のように「おい、松澤！」って、長州さんに呼ばれるようになりたいものです！（笑）。
永島　まず無理だろうな（笑）。だから、そういうところが茶化してるって思われるんだよ。
――き、気をつけます（汗）。で、WJさんといえば〝業界のド真ん中を行く〟って方針ですよね。
永島　ウチはね。俺は、よその方針とかそういうところまで口を挟むつもりは一切ないから。
――ウチは新日本さんからは、それこそ永島さんがいる頃から取材拒否中なんですけど……。
永島　あっそう？　取材拒否されてるの？（笑）。でも、いつも本送ってきてたよなぁ。
――永島さんには送本はしてましたから。いつか取材できる日を期待して（笑）。
永島　また嘘ばっかり！　そういう姿勢だから取材拒否されるんだよ（笑）。
――こ、今後、改めます！（汗）。
永島　他にも取材拒否されてんの？
――そうですね、NOAHさんはダメみたいですね。
永島　あっそう。何をしでかしたの？
――いろいろとあるんでしょうけど、ミスター高橋さんのインタビューを載せたのも一因だって聞いてますけど。
永島　ほぉ～。
――永島さん的には、高橋本に対してはどう思ってるんですか？　最初の高橋本が出た頃は永島さんもまだ新日本にいたわけですけど。
永島　う～ん、俺は別に無視。
――無視⁉　書きたきゃ書けばっていうスタンスなんですか？
永島　いや、そういうわけじゃないけど（笑）。無視っていう意味は、いろんな意味を含んでるってわかるでしょ？
――ちょっと前の『週プロ』で永田選手と新間さんの対談があって、新間さんが「新日本の代表として高橋本に対する反論をしろ！」ってことで、永田さんが公式な反論を述べてましたけど、それまでは新日本の選手や関係者は、ほぼノーコメントというスタンスでしたよね。
永島　うん。別に俺は……無視ですよ。それを誰が取り上げようが……無視！
――わかりました。
永島　無視っていうのは逃げてるわけじゃないからね。
――真っ正面から無視すると？（笑）。
永島　まあ、そういうことだな。
――それで、旗揚げ戦自体は永島さんはPPVの解説でも大会後も言ってましたが、おおむね満足してるんですよね？
永島　いや、やっぱり反省点はいっぱいありますよぉ（しみじみと）。ああすりゃ良かったかな、こうすりゃ良かったかなって部分はたくさんあるよ。
――実際、不満の声も結構出てますからね。具体的に

3·1マグマ噴火記念 数字で見るWJ

Q 旗揚げ戦PPV解説で“ド真ん中”というフレーズは何回出たか？

A. 数えきれず

“ド真ん中”“マグマ”等々、旗揚げ前から様々な名言が飛び出したWJ。象徴とも言える“ド真ん中”をカウントしてみたが、永島専務だけではなく、実況の高柳アナ、解説の『東スポ』柴田氏も連発し測定不能！

3·1マグマ噴火記念 数字で見るWJ

Q 旗揚げ戦で花はいくつ届いたのか？

A. これまた数えきれず

旗揚げ戦ということで、会場の横浜アリーナには藤波社長をはじめ、様々な人からの花が２階ロビー（！）までズラリ。WJへの並々ならぬ期待感が感じられた

たび重なるレフェリー要求など、何度も大仁田から挑発されている永島専務。いつの日か2人のリング上での絡みが見られるのだろうか？

言うとどういった部分が反省点として挙げられます？

永島　電流爆破っていうのは試合の中に組み込んじゃいけないよね。

——今回、電流爆破は4試合目に行われたわけですけど、セッティングとか、試合後の撤去に時間が掛かりますからね。

永島　セッティングがね（苦笑）。新日本のときは、それを考えて第0試合なんてのを作ったりしたんだけどな（笑）。

——旗揚げ戦っていうことを考えると第0試合ってわけにもいかないでしょうし、リングを2つ作るとかしなきゃいけなかったですかね。

永島　う〜ん……そりゃ国立競技場あたりだったらいいけど、横浜アリーナじゃ、それも厳しいからな（笑）。

——国立競技場で電流爆破マッチをやったら、それこそ『Dynamite!』ですけどね（笑）。

永島　うまいこと言うねぇ（笑）。でも、そうかぁ。リング2つ作るっていう手もあったか！（笑）。

——いや、過去に『週プロ』でやったドーム興行で大仁田さんが爆破マッチをやったときは2つ作ってましたよ。

永島　あぁ、そうだったっけ。でもインドアじゃできないよなぁ。

——では、試合的にはどうでしたか？

永島　試合的にはね、全部が全部ってわけじゃないんだけど、第一試合なんて凄いいい試合したじゃない？

——ボビッシュが出たセミと第一試合が良かったっていう人は多いですよね。

永島　あれがね、結局若い選手の試合の必死さというか、あれなんですよ！　俺はよく、"勇気""怒気""殺気""元気"って言うじゃない？

——4つの"気"で四気ですね。

永島　そう！　あれですよ。

——試合後は石井選手もノーコメントでしたけど、長州さんはどういう評価だったんですか？

永島　評価してましたよ。あとは、八つとか九つとか試合がある中で、う〜んと思う試合も必ず出てくるんだよ（苦笑）。

——そういう試合もあったと（笑）。逆に満足できた部分っていうと、どういったところになりますか？

永島　反省点が多い中でも中嶋勝彦っていうのはね、あれは面白いんですよぉ〜。

——パワーホールに乗っての入場を見るだけでも相当期待してるんだろうなっていうのは伝わってきましたね。

永島　期待してますよ！　実際に見た？

——見ましたよ。

永島　あの蹴りとかパンチ！　あれ、やっぱ半端じゃないですよ！

——そうですね。やっぱり、横浜アリーナというデカイ会場ではミット打ちとか届きづらいとは思うんですけど、それでも音とかスピードを見るといいものを持ってるんだなって伝わってきましたからね。

永島　そうだろ？　俺もずっと会場の雰囲気を見てたら、徐々にボルテージが上がっていったからね。やっぱり皆さんの期待に応えるような選手になりそうだなぁって。本人も早くデビューしたくてしょうがないみたいだけどね（笑）。

——そうなんですか（笑）。いまは長州さんのゴーサイン待ちなんですよね？

永島　もうちょっと、やっぱり基礎体力を付けなきゃいけないでしょう。

——なんと言っても14歳ですからね。15歳でデビューできたら船木さん以来ですから、かなり話題になるでしょうね。

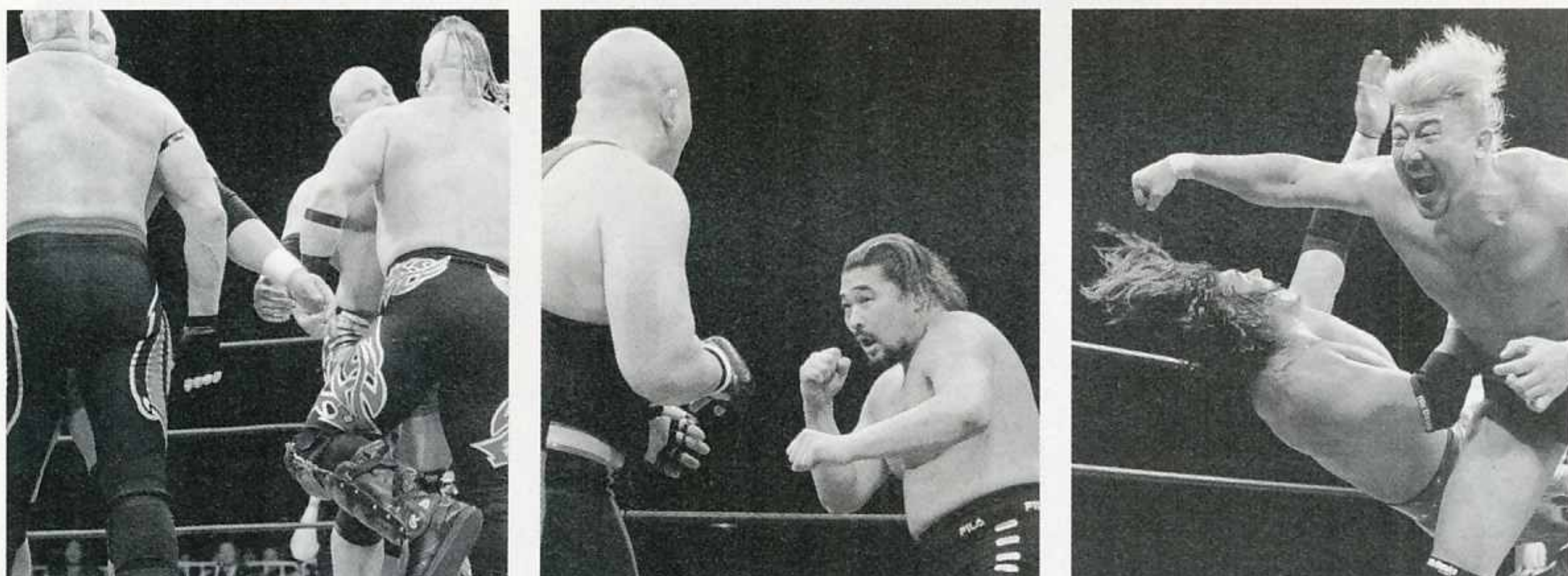
永島　そうだよね。3月に15になるんだけど、なんとか15歳中にはデビューできるんじゃないかと思ってるけどね。

——中嶋君は、あくまでもプロレスルールでのデビューになるんですか？

永島　う〜ん、いろんな可能性があるんじゃないかと思うんだけどね。プロレスラーとしてっていうか、長州が彼の身体を作り上げていく部分で、それは長州にお任せですよ。なんとか俺の方は「今年中にデビューできるように仕上げておいてくれ」とは頼んでるからね。

3・1WJ旗揚げ戦で光った男たち

旗揚げ戦で一番のインパクトを残したのは、馳健と対戦したダン・ボビッシュ（写真左）。前評判以上の暴れっぷりを見せ急遽4月シリーズに再来日決定！　第一試合の石井vs宇和野戦は顔面へのグーパンチでの壮絶フィニッシュ！（写真中）。パワーホールに乗って学生服姿で登場した中嶋勝彦。デビューはいつなんだ？（写真右）。

3・1WJ旗揚げ戦で光れなかった男たち

前評判が高かったクラッシャーズだったが、ウォリアーズ戦は本領発揮できず（写真左）。『紙プロ』でもお馴染みの谷津は安生と対戦。首決め監獄固めで仕留めたものの盛り上がりは今ひとつ（写真中）。ノアを辞めてやってきた大森とWJの未来を背負った健想の一騎打ちは、大森のアックスボンバーで呆気ない幕切れに（写真右）

――聞いたところ、打撃だけじゃなく、グラウンドというかバーリ・トゥード系の寝技とかも相当強いらしいですね。

永島 そうそうそう（ニッコリ）。アイツ、向こうっ気強いからね。そっち方面もやる機会あるんじゃないの。だから一通り飲み込むような、そういう試合やってくれたら一番いいよな。

――期待してます。あと会見で永島さんは、サップとダン・ボビッシュをやらせたいって言ってましたけど、WJ的には、たとえば『PRIDE』とかに選手を送り込むっていう形も考えてるんですか？

永島 う〜ん、まあそれはいろんなこと考えてみなきゃいけないね。

――ボビッシュはプロレスルールも適応できてましたけど、総合の方が自信はそれ以上にあるでしょうからね。

永島 だろうね。ただ、彼はプロレスがやりたいっていう思考がかなり強いんだよ。だから、そういう部分で清濁併せ呑むような、そういう選手にもっともっと育っていくんじゃないかなって思うよ。

――ボビッシュは良かったですけど、前評判の高かったクラッシャーズは、正直イマイチでしたね。永島さんも長州さんも「凄いタッグだ」って言ってましたけど。

永島 相手が悪かったなぁ……（しみじみと）。ただ、まだまだウォリアーズだってあんなもんじゃないし、今回は、お互い相手が悪かったっていう部分は大きいよ。それにアイツら（クラッシャーズ）も、まだ発展途上中だからねぇ。

――でも、年齢は35歳ですし、キャリア的にはかなりのものなんですよね。

永島 そうそうそう。でも日本のリングっていうはね、特にウチのリングなんて特に激しいでしょ？ だから、次のシリーズも来るけどね、一戦一戦ドンドンドンドン変わっていくと思うよ。

――あんなもんじゃないと？

永島 あんなもんじゃない、あんなもんじゃない！

――戦前は永島さんも「これまでのタッグの歴史が変わるかもしれない」って言ってましたし、もっと活躍してもらわないと困りますよね（笑）。

永島 期待してるよ。まあ旗揚げは別にして徐々にベールを脱いでいきますよ。まあ、それでダメだったらダメだろ！

――まあそうですよね（笑）。あとエンセン（井上）のことも聞きたいんですけど？

永島 エンセン？

――結果的には新日本に出場してますが、小原さんが「長州のところと争ってたヤツを連れてくる！」と言って、登場したのがエンセンだったんですけど。

永島 そんなこと言ってたの？

――言ってましたよ（笑）。エンセンさんも「長州さんに会ったけどいい人ネ」とかインタビューで言ってましたから。

永島 あ、そんなこと言ってたんだ（苦笑）。全然知らなかった。

――実際、WJでもエンセンは狙ってたわけですよね？

永島 その問題はノーコメントだな。向こうに行ったんだから向こうで頑張って欲しいよ。……こんなもんでいいですか？

――は、はい。では、これからも取材の方、よろしくお願いします！

永島 誰もかれもってわけにはいかないけどな（ニヤリ）。まあ、考えますよ！

――インタビューしたい選手はたくさんいますので、よろしくお願いします！

永島 わかりました。まあ、ちょっと様子を見てみましょう（笑）。ねっ？

――はい。今日はありがとうございます！ これから、末永いお付き合いをできればと思っております！（笑）。

永島 それはそっち次第だよ（笑）。まあ、よろしくお願いします。こちらこそ。

【3月4日／WJ事務所にて収録】

3・15WJ後楽園で マグマ大噴火!!

←↑旗揚げ戦で脳震とうを起こして敗れてしまったことと、友情出演のように思われるのが嫌だったという天龍。この日はイスやテーブルまで持ち出す荒れっぷりで長州をボッコボコに。長州もそれに応じて白熱の好勝負に（GKいわく長州のベストバウト）。試合後には大森が乱入し、両者との対戦をアピール。長州はノーコメントで会場をあとに

←客席から「谷津、仕事しろ－！」とヤジが飛ぶと、谷津は「わかったよ－！」と答え、ノリノリのファイトでターメリックを下した。オリャー！

↑健介は、過去にバトルロイヤルで三沢から3カウントを奪ったことのあるというビッグ・ビト－相手に、正直危なげない勝利！

←大森vs越中戦は互いに鼻をつかんでパンチを入れ合う意地の張り合い。最後は新技アックスギロチンドライバーで大森が勝利を飾った

ながしま・かつじ■長きに渡って新日本プロレスで活躍した、自称・背広レスラー。過去には『闘魂ふたり旅』という本を出すなど、アントニオ猪木を様々な側面からサポートしたが、新日本離脱後は、長州力とともにWJの顔として精力的に活動中

ターザン山本、
月曜『生ゴン』永久追放記念(!?)

業界No.1の"WJウォッチャー"

ターザン山本がWJを徹底解剖!

「俺はもう、ド真ん中で、長州という恋人を奪っていったGKから取り返しますよォオォ!」

3・1横浜アリーナでのWJ旗揚げ戦から、その後のシリーズすべて足を運んだというターザン山本。3・16はリスタートとなった『PRIDE.25』を蹴ってまでWJの仙台大会を観戦するほどの入れ込みようだ。ターザンと長州といえば因縁浅からぬ関係であるが、何がそこまでターザンを突き動かしているのだろう? 業界NO1の"WJウォッチャー"ターザン山本にWJを徹底解剖してもらった

構成／松澤チョロ　designed by matsu(Two three)

―山本さん！　この間の『PRIDE25』は最高でしたよねぇ。

山本　……その日、俺はWJで仙台に行ってたんだよ！

―せ、仙台まで！　そういえばWJのシリーズ全6戦すべて行くって言ってましたよね。でも『SRS・DX』で『PRIDE25』のこと書いてたじゃないですか？

山本　『PRIDE』なんかは何度も見てるからわかりますよ。でもWJっていうのは、まだできたばっかりだからさ。

―まあそれはそうですけど。GKこと金沢編集長も『PRIDE』に来てたくらいですよ（笑）。

山本　だって、俺はさぁ、長州力と1つの時代を同時代人として青春を生きてきたんだから。そんなねぇ、ポッと出の『PRIDE』とかに行かないで、逆にそれに背を向けて、自分の青春をともにした人たちと新たなる時間を共有するというね。ハッキリ言って、それをやらなかったら人生終わりですよォオォ！

―そんな理由でしたか（笑）。山本さんはWJというより、長州力にだけ興味があると前から言ってましたよね。

山本　要するに、同時代人としてともに闘ってきたというかさ、闘いながら青春をともに生きてきた人たちの闘いを観に行かなかったら、俺は一体何なんだよォオォ！

―何なんでしょうね（笑）。

山本　俺は今回のWJの6連戦は、オールすべてぜぇ〜んぶ自分の金で行ってんだから！　ちゃんとチケット買ってね。

―山本さんが自腹ですか！（笑）。

山本　そうだよ！　それはちゃんと書いといてくれ！

―わ、わかりました。まだ旗揚げしてから間もないですけど、WJを全戦観戦してる人ってマスコミでも少ないでしょうね。

山本　いや、そんなもん俺1人しかいませんよォオォ！

―そうかもしれませんね（笑）。

山本　俺は貴重な存在ですよォ！　そういう形のマイノリティっていうかさ、少数派の生き方をするのがプロレスファンなんだよ。

―まさにマイナーパワーですね。

山本　うん。少数派の中に真実があると思うよ。でも、時代に背を向けて生きるのはカッコいいなぁ（満足そうに）。

―我ながらカッコいいな、と（笑）。

山本　そういうことですよォ！（怪訝そうに）で、お前の目的はなんだ？

―WJについては、旗揚げ戦しか見ていない山口日昇と吉田豪が厳しい意見を言ってるんで、ここは業界NO1のWJウォッチャーの山本さんに、WJを徹底解剖していただければと思いまして。

山本　俺は豪ちゃんと山口の尻拭いをするのかよ！　ヒッドイなぁ、お前は（笑）。

―いやいや（笑）。旗揚げ戦は、たしかにイマイチでしたけど、後楽園大会は抜群だったじゃないですか？

山本　うん。後楽園は良かったよ。

―金沢編集長も、後楽園での天龍戦は長州力の生涯のベストバウトだって言ってましたからね。

山本　その見方はおかしい！

―「あんなに技を受ける長州力は初めて見た」って言ってましたけど。

山本　全然おかしい。その見方は間違えてる。贔屓のひき倒しですよォオォ！

―贔屓のひき倒しでしたか（笑）。でも山本さんも後楽園大会は良かったって言ってましたよね？

山本　面白かったよ。旗揚げ戦の方は小

（3・15）後楽園大会を見てないヤツがWJを批判するなって言いたいよ、俺から言わせたら！

屋がデカ過ぎたんだよね。
――ＷＪにアリーナはデカ過ぎたと？
山本　小屋がデカ過ぎると拡散してＷＪの基本コンセプトと合わないんだよ。ちっちゃな小屋でみんながリングサイドで見てるような世界の方がＷＪは本領発揮するわけですよ！　そうするとＷＪのプロレスの良さがみんなに伝わるっていうかね。
――後楽園クラスの会場だと、それこそ"目ン玉の飛び出るようなストロングスタイル"が見せられると？
山本　まぁ、技の少ない凝縮した試合をやるので、後楽園ホールみたいな小屋がピッタリなんだよね。それで、もうひとつは、土曜日の昼間にやったっていうのは、いままでないんだよね。
――そう言われればそうかもしれませんね。
山本　日曜日の昼間はあったけど、それは非常に新しい試みなんだよ。いまの社会人は週休二日制なんだよね。
――だいたいはそうですよね。
山本　土曜日にやって、あれだけ客が入ったということは、結局ＷＪに関心がある人だけが、いっぱい来たんだよね。関心と興味はあるっていうので。
――旗揚げ戦の評価が良くなかったたから、逆にどんなもんだろうっていう。
山本　いやいや、違う。もう、旗揚げとか関係なくＷＪに興味がある人たちが集まったと。だから、あそこに来た人たちにとっては、あれが旗揚げだったんだよ。
――後楽園大会がホントの意味でのＷＪ旗揚げ戦だったと？
山本　そう。それが非常にいい形のムードを生んだというか、やはりプロレスというのは、リングの中の試合よりも観客が世界を作るものなんだよね。そういう意味があったから成功したんだよ。もうひとつ成功した理由っていうのは、旗揚げ戦でバッシングされて、やっぱり叩かれると「コノヤロー！」って思うんだよ。
――それは長州さんだけじゃなく？
山本　要するにフロントにしろ、選手にしろ。だから、バッシングされたことが、彼らのさ、ようするに「バカヤロー！」というかさ、負けん気というか、反発心とか反骨魂を、じゃあ見せてやろうっていうね。あの後楽園で、客も入ってるし、みんな身近で観てるし、いい形で作用が働いていたんだよね。だから、小屋の大きさ小ささというのと、バッシングされたことに対する反発心と、まあ要するに観客にとっての旗揚げ戦だったわけよ、あれは。この3つでＷＪのいいところが満たされたというか、ＷＪの本領が発揮された大会なんだよ。後楽園を見てないヤツがＷＪを批判するなって言いたいよ、俺から言わせたら！
――それは同感です！
山本　だから、ひとつのものだけ見て言うのはさ、一事が万事全てなんだけど、長い目で見るというやり方もあるんだよね。ロングスタンスっていうか。ボクのように六連戦全部観ようと宣言してやったということは、なんていうかさ、トータルにＷＪを批評しようとすればね、長州を憎んでいるわけじゃないよ。長州と対等に勝負するためには、ボクは6回行かなきゃいけないのに、長州は……。
――途中で脱落してしまったと（笑）。
山本　それも3回で（笑）。非常に寂しいというかね。闘わずしてターザン山本の勝利になったもんなぁ。
――不戦勝ですかね（笑）。
山本　まあ不戦勝っていうのは気に入ってるわけじゃないんだけどね（苦笑）。だから、プロレスの興行ではね、ビッグマッチという思想と、後楽園のようなコアな興行と、地方興行と3つあるんだよね。まあ大会場のビッグマッチは失敗、コアな後楽園では成功した。で、地方興行は初めてのことなので、要するにまだ知名度もないし手探り状態なので、客が入ってた入ってないっていうことじゃなしに、それだけじゃ全てを決められないので、これはちょっと評価はおいとかなきゃいけないなと。
――もう少し見ないと何とも言えないと。
山本　そう。ＷＪは、その3つのパターンをシリーズを通して見せてくれたんだよね。だから、それは俺みたいに全部追っかけていって初めてわかることだよ。大会場、コアな会場、地方興行というローカルなもの。要するにプロレスにある3つの興行のパターン。スリーパターンをキチンと見せてくれたんだよね。それを見てから判断しないとダメだよねぇ。
――外人選手とかも、巡業で揉まれていくうちに本領を発揮するっていうパターンもありますからね。
山本　いや、だから結局外人でもね、名前の売れてるウォリアーズを地方興行に出させるのと、あと将来のある若手たちを育てるという意味でクラッシャーズを売ってい

WJでターザンが最大の興味を持っていたのが、3・1の旗揚げから続く長州力と天龍源一郎の6連戦。残念ながら3戦を終了した後、天龍にドクターストップがかかり2人の一騎打ちは中止。翌日には長州もけん怠感を訴え欠場、さらに翌日にはイラク情勢にともなう非常事態に対し国会で24時間の「禁足法（各自調査）」が発令され大仁田先生もやむなく欠場に。大物3人の欠場という、マグマ級の波乱が続出した旗揚げシリーズとなった

こうというね、そういう二面作戦で戦略的には正しいんだよね。あとはまあ、新団体の明るい未来を求めてきた、鈴木健想と大森隆男がもう少しパッとハジけてくれればいいなと。

――いまのところ、その2人の評価は芳しくないですからね。あと、WJの中での大仁田厚っていうのはいかがですか？

山本　いや、要するに大仁田厚の試合は、あれはWJの中のおまけなんだよ。

――お、おまけですか!?（笑）。

山本　おまけというか、保険として存在してるんだよ。それ以外の試合はWJイズムで、少ない技で大技を使わないで勝負を決めるという。お客に媚びないプロレスをやってるわけですよ！　必殺技を信じて。それは非常に美しいんだよね。

――まあ、WJとしては、おまけが目立っちゃいけないわけですよね。

山本　手っ取り早く地方で場外乱闘やって、それで大仁田が目立つのは仕方ないんだけど、それは見逃して、他の人たちはリングの中で闘いを求めてやってるんだよね。それが、やがてお客に届くのか届かないのかっていうのが、これからの課題だと思うけどねぇ。だから、トゥー・ビー・コンティニューというか、どこまで辛抱してやれるかってことだよね。忍耐と辛抱の闘いになるよ。要するに経営上の問題とかさぁ、スタイルの問題とか、観客やマスコミとの闘いとか、そういう闘いっていうのは、忍耐力と辛抱と我慢の闘いなんですよォォ！

――それは大変そうですけどね。

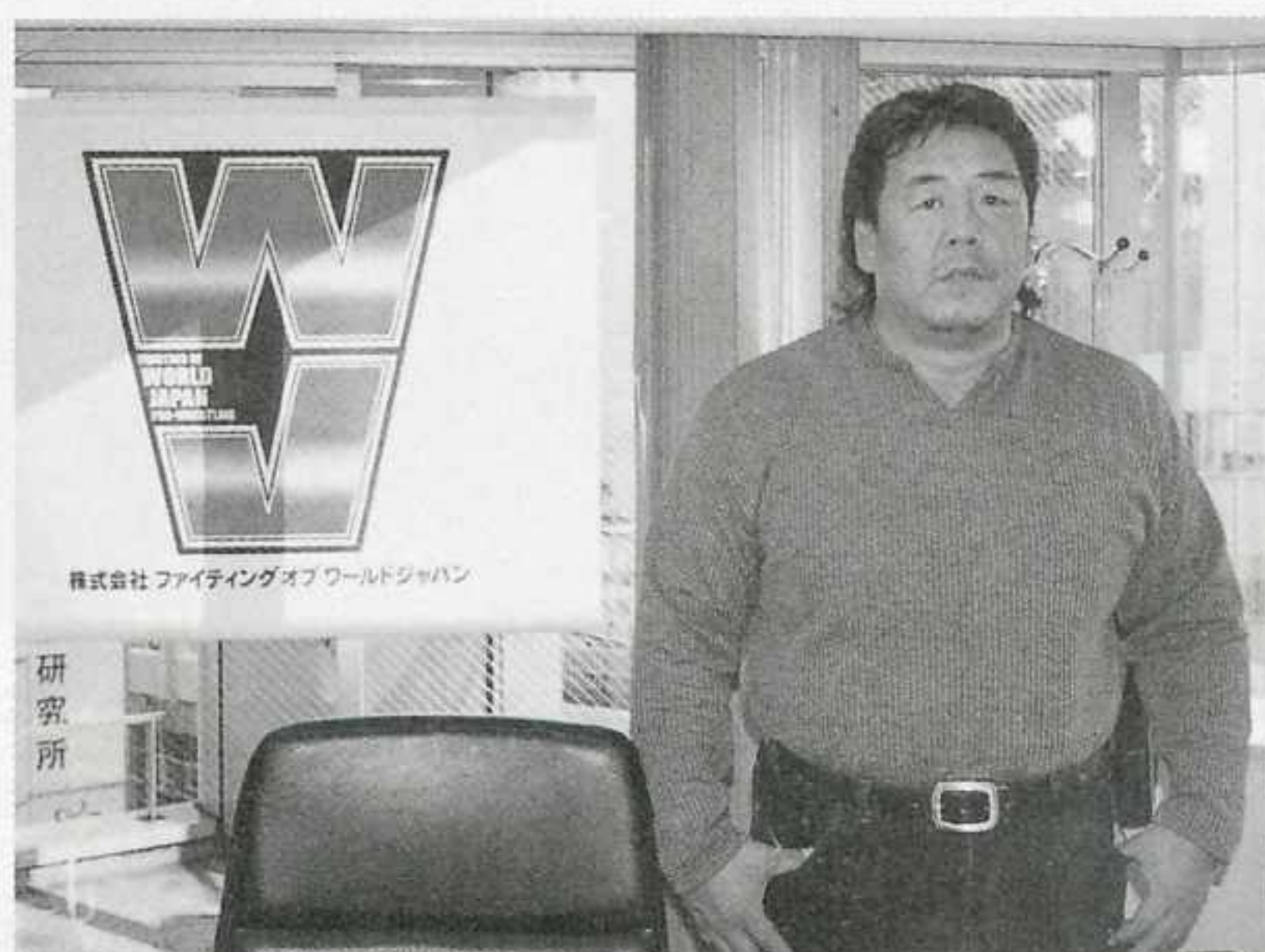
山本　でもまぁ、肝心の天龍と長州が我慢できなくて、脱落しちゃったのが一番まずいよなぁ（苦笑）。

――まあそうですね（笑）。

山本　やっぱり、長州みたいに気張ってやると、どっかで破綻するからね。まあ、それぐらいやらないと評価されないっていうのがあるんだけどさ。まあ俺は欲をかかないで……もっと気楽に生きるよ。

――気楽に生きますか（笑）。

山本　俺には背負うものがないんだよ。

――そうなんですか（笑）。そういえば、WJの地方興行に行ったら、休憩時間にサイン攻めにあったみたいですね。

山本　うん。ボクはもの凄い人気あるよ。「『生ゴン』見てました」とか、生ターザンを見て、みんな興奮してるんだよ（笑）。

――やっぱり、地方でも『生ゴン』の影響は大きかったんですね（笑）。

山本　そうだよ！　だって、「『生ゴン』見てたけど、いまは山本さんが出てないからつまんない」って言う人が多いよ。これからは一週間に1回は地方に行ってさ、気分いい時間を過ごしたいねぇ（笑）。

4月の終わりに出る長州本を読めばボクと長州力の絆がわかりますよォォ！

――アハハハハ！　サイン攻めにあって相当気分が良くなったわけですね（笑）。やっぱり、欠場して長州力がいないWJと、山本さんがいない『生ゴン』には興味がないっていう人も多いでしょうね。

山本　いるだろうねぇ。でも俺はWJに行ってさ、ハッキリ言って貢献度高いと思うよ。サインしてやったり一緒に写真撮ってやったりして、みんなお客は得した気分になってたからねぇ。もう俺は、WJから表彰されてもおかしくないよ。

――アハハハ。なんの表彰ですか!?（笑）。

山本　俺は『生ゴン』で「WJの旗揚げシリーズの全6戦行きますよォォ！」って宣言したからさ、やっぱりみんな注目してたんだよねぇ……（しみじみと）。日頃はさ、つじつまが合わない矛盾だらけのことを言ってるけどさぁ。

――アハハハハ！　自覚してたんですか（笑）。でも、これからはプロレスよりも格闘技の中にプロレスを見ていくしかないみたいなこと言ってましたけど、WJは追いかける価値がある団体だと？

山本　それこそ目に見えない絆があるんだよな。長州、天龍と。あと永島（勝司）さんもそうだよな。なんらかの絆が引き寄せるんだろうねぇ。まあ2人とも欠場という結果になってしまったけども、草加だとか流山で長州vs天龍戦をやるというのはこれは凄いことなんだよね。

――トップ同士の6連戦っていうのは、これまでありそうでなかったですからね。

山本　普通は大会場でしかやらないカードを地方でもやると。そこに最大の興味を持ってたんだけど、なくなっちゃったから、こっちはショックですよォォ！　ひとつの賭けだったのにねぇ。

――賭けだったんですか？

山本　「こんなところでも、こんないいカードやってくれるんだ」っていうファンの喜びがあるからね。凄く残念だよ。……でも俺は賭けに負けてないよ！

――山本さんは負けてない、と（笑）。で、WJ旗揚げシリーズ全六戦追いかけて、それを本にするんですよね。

山本　4月の終わりに出るよ。『ド真ん中』というのが。

――そのまんま、ド真ん中ですか（笑）。

山本　いや、『ド真ん中の結末』か知らないけどさぁ（人ごとのように）。

――それを読めば、WJというか、長州力の全てがわかるわけですね？

山本　ボクと長州力の絆がわかるよ。

――絆で結ばれてたんですか？（笑）。

山本　長州について考えるということを本にするんですよ。だから『WJとは何か？』というより、長州力とボクとの関係の中でいまの時代を浮き彫りにしていくというね。

――長州さんにも読んで欲しいですね。

山本　いや、長州さんは読まなくていいよ。きっと俺の本破るよ（笑）。

――そうかもしれませんね（笑）。

山本　でも逆に破って欲しいよねぇ（笑）。破り捨てるか投げ捨てて欲しいよ！

――アハハハハ！（笑）。『ド真ん中』を破り捨てる長州力！（笑）。まあでも、長州さんにはそうあって欲しいですけどね。

山本　俺はもう、ド真ん中でさ、長州力という恋人を奪っていったGKから取り返すよ！　いまがチャンスだよ。

――長い闘いになりそうですけど、恋人を取り戻すために頑張ってください！（笑）。

山本　（無視して）俺は、長州力をGKから取り返しますよォォ！（炎上）。

【03年3月19日・天龍に続き長州まで欠場してしまったWJ草加大会後の深夜、電話にて収録】

紙のプロレス RADICAL

2003 NO.60 CONTENTS

3月の興行戦争をぶった斬り!!

山口日昇&吉田 豪

月刊Y2談

プロレスの根源的な支柱は観客に快楽を提供することだ!!

ヴァーッと、クァーッと

カタルシスを感じさせろ!!

VOL.03

※山口日昇の代わりにターザン山本が出席した58号のY2談はカウントしないことにしたので、今回が3回目。

構成/ジャン斎藤

designed by matsu(Two three)

※観る者をハッピーにさせてくれる本誌認定レスラー橋本真也さんと佐々木健介さん

山口　（なぜかハイテンションで）さぁ、この『Y談の事情』もいよいよ3回目だよ、豪ちゃん！　3回目の大会があっさり延期になった『W―1』と違って、評判もいいんでしょ？（笑）。
吉田　（いきなり冷たく）……そろそろコーナータイトル変えたほうがいいんじゃないですか？
山口　へ？　そろそろって、先月やっと読み方を決めたばっかでしょ。
吉田　やっぱり『Y談の事情』とは読みづらいから、もっと簡単な『わいわいだん』でいいですよ。
山口　よし、じゃあ変更！（笑）。え～、全国1千万人の『紙プロ』読者の皆様、今月からタイトルが『わいわいだん』に変更になりました！……で、なんでそんなに豪ちゃんはローテンションなの？
吉田　こないだ会長（山口日昇のアダ名）が失踪したせいで、ホント大変だったんですよ！
山口　……はぁ？？　俺、先月このコーナーにはちゃんと出席したじゃん！（子供のようにムキになって）。
吉田　いや、倉持アナがゲストだった（『紙プロ』イベントの）『青空プロレス道場』のことですよ！
山口　あ、そっちのこと。あの日は急に『レッド・ドラゴン』が見たくなっちゃってさ（笑）。
吉田　結局、いつものように会長の代打としてターザン（山本）が登場したんですけど、倉持アナのミスター高橋を超える暴走ぶりを前にして、ターザンがすっかり黙っちゃいましたからね。たまに口を開いても「倉持さん、スペインはどうなの？」とか、来てる人にしてみたらまったく興味のないようなことしか質問しないし（笑）。
山口　ターザンは場の空気を読めないことでは、確実にアジアで三本の指に入るからね。そこが面白いとこでもあるけど（笑）。
吉田　あとで聞いたら「いや、ヘヴィな話題が多かったから中和させようと思ったんだよ！」「だって昨日の客層だと、あんまりドぎついネタは求められてないでしょ？」って、なぜか余計な気を使ってたことが明らかになったんですけど（笑）。
山口　ガハハハ！　『サムライTV』の『月曜生GON』では、余計な毒を撒き散らしてたらしいけどね（笑）。
吉田　前回もネタにしたターザンの『生GON』降板騒動は、どんどん面白いことになってきてますね。
山口　そうなんだ。
吉田　騒動が勃発した最初の頃こそターザンも、三沢社長が会見で知り合いの記者に向けてしか話してないことに対して「あれがノアのマイナーで駄目なところだよォォ」と結論づけたのは失言だったって反省してたのに、なぜか『サムライ』に対して逆ギレするようになっちゃったし（笑）。
山口　いまだにノアは怒ってるらしいね。
吉田　そうやって他人事みたいに言ってますけど、ターザンの代打で『生GON』に出演した会長が「方舟！」発言を連発したことで、さらにノアというか仲田ドラゴンが態度を硬化させたらしいんですよ（笑）。
山口　へ、俺も悪いの？
吉田　あのとき、スタッフから「勘弁してください！」とかカンペは出なかったんですか？
山口　全然出なかった……と思うよ。俺、カンペ見るクセないから（笑）。でもさ！（再び子供のようにムキになって）、それに俺、ノアの「ノ」の字も言ってないもん！「方舟」って言っただけだもん。「方舟」が放送禁止用語なんて聞いたことがないよ。それが問題になったんなら、おかしすぎるね。
吉田　だけど、会長がノアと『サムライ』の関係を悪化させたせいで、諸事情により生放送から録画になった『月曜生GON』の冒頭で、笹田（道子）さんがターザン追放の声明文を読まされちゃったんですよ。
山口　ゲッ！　愛しのささぽんにそんなことさせたんだ！　許せないなぁ、なか……や～めた（笑）。
吉田　その声明文っていうのは「月曜『生でGONG！×2』出演者でありましたターザン山本氏に関しまして、番組内および雑誌メディア等での不適当な発言があり、加入者の皆様を混乱させたことを深くお詫びいたします。なお誠に遺憾ではありますが、今後、同氏の当社番組出演は控えさせていただきますのでご了承願います」って内容で、要は絶縁宣言みたいなものだったわけですけど。
山口　そうなるとターザンが生け贄になった一種の言論統制だね。まぁ、問題が小さすぎて興味はあんまり湧かないけどさ。
吉田　おまけに『木曜生GON』で菊池孝先生が「マンネリのノアにはZERO―ONEの外人はもったいないぐらい」とか言ったら、リピート放送でその部分だけ音声が消されるという事件も勃発しちゃったし（笑）。
山口　ダハハハ！　『サムライ』も大変だなぁ（他人事のように）。でもさ、これだけ団体やらイベントが増えると、どれもおしなべてプッシュしたり、どこともウマくやっていくなんて不可能だからね。ウチのほうでも取捨選択させていただきます。
吉田　無意味に偉そうですねぇ（笑）。
山口　俺は、いつ何時でも無意味にド真ん中だから（笑）。
吉田　そんなわけで今月もノアのガチっぷりを痛感させられたところで、とっとと本題に入りましょう！
山口　はい（笑）。いやぁ、でも今月もいっぱい興行があって、正直、追うだけでも莫大な時間取られるよね。
吉田　まず、3月頭の興業戦争に関して言うと、ボクはWJしか会場で観てないで

プロレスは、他のジャンルに比べてサービス業としてナメてる部分がある【山口】

月刊Y²談

Y²談出席者

吉田 豪
本誌・スーパーバイザー。菊池孝リピート放送事件が勃発するや、すぐさまターザンへの報告をスモーにバイズするなど、火に油を注ぐこと決して怠らないを32歳。写真は梶原一騎17回忌祭での、真樹先生、故・梶原夫人との一枚。

山口日昇
本誌・鬼畜編集長。「恥知らずみたいな部分は俺らの世代にはない」と言いながらも、ノリノリでド真ん中ボード撮影にトライ。嫌がる吉田豪にも強要させ、とびっきりの笑顔でスタイナーズポーズもしっかりキメてくれる39歳。

すけど、ホントに最悪な興行だったから心底疲れましたよ！　ターザンもあんな大雨の中、わざわざ横浜まで行ってあの内容だったから「俺には年齢的に時間がないんだよォォ！」って切羽詰まった怒りをぶつけてましたけどね（笑）。

山口　ガハハ。でも、お客さんにお金と時間を使わせてるんだから、広い意味でのエンターテインメントとしての空間をしっかり構築してほしいよね。まず演出と進行がひとつのイベントとして悪すぎる。横浜アリーナという空間にはそぐわない、試合を見る気を削ぐ進行だもん。エンターテインメント空間っていえば、この前、久々に映画館に行ったときに思ったんだけどさぁ……。

吉田　あぁ、『青空プロレス道場』をスッポかしたときの話ですか？（嫌みたっぷりに）。

山口　（無視して）いま映画館って椅子に飲み物もちゃんと置けるし、結構広くて座り心地がいいんだよね。で、2時間で1800円くらい？　それなら安いもんだと思ったよ。もちろん映画の中身は関係してくるけどね。それに比べて、プロレスはいったいいくら取ってんだって話でしょ（笑）。

吉田　しかも高い上に、いまの時代ではエンターテインメント空間としてのレベルも低いから、手っ取り早く緊張感は味わえるし、イベントとしても完成しているシュート興行に客が流れるのは当然なんですよね。

山口　プロレスは、格闘技に限らず他のジャンルと比べても、あまりにもサービス業としてナメすぎてる部分もあるもん。それも団体が細分化しすぎて、各団体の体力まで細分化されちゃったっていう部分も大きいから、プロレス界も生き残るためには、馳先生が言うように「いらない団体は潰す」というくらいの思い切った作業をしていく必要はあるんじゃない。誰がどう潰すのかはわからないけど（笑）。

…ですよ［吉田］

吉田　いらない団体って、会長の大嫌いなWJのことですか？（嫌みたっぷりに）。

山口　俺、そんなことひと言も言ってないだろ！　きっとWJはこれから"ド真ん中"を突っ走ってくれますよ。

吉田　「これから」ってことは、つまり旗揚げ戦ではド真ん中は走れなかった、と（笑）。

山口　旗揚げ戦に限ってはね（笑）。

吉田　とりあえず、WJは長州興行というよりも永島興行って感じでしたよね。

山口　永島のオヤジが堂々とやってるよね。昔の手法で。でも、聞くところによると、さすがの永島のオヤジも旗揚げ戦後には自信喪失したらしいけどね。

吉田　あれで自信満々だったら異常ですよ（笑）。

東京スポーツ　平成15年（2003年）3月5日（水曜日）　（10）

WJ68%が不満

試合後ファン100人に直撃　満足した 32　不満だ 68

3・1旗揚げ戦　あなたのナマ批判　前代未聞の結果　出口調査

ファンから厳しい声続々

あの頃の『長州は死んだ』

「パワーホール」流れる中、堂々の入場シーン。長州の健闘に燃えたファンもいたようだが…

「パワーホール」聞くだけで感動…少数ながら満足派も

メーンの天龍戦7分53秒決着「あっけなさすぎ」

ファンが望む長州の対戦相手

順	選手名	票
1	佐々木健介	31
2	大森　隆男	14
3	鈴木　健想	11
4	高山　善廣	6
5	橋本　真也	5

※その他、33票

長州次の相手は　1位健介　2位大森

	WJ旗揚げ戦　ファンからの意見	名前　（年齢）
不満	いくら長州の看板があるとはいえ、メーンの試合内容があまりに悪い。WJはもう行きたくない	小山　裕之（28）
	メーンがちょっとあっさりしすぎてたね。もう少しなんだけど…。次はもっと気合を入れてがんばって！	林田　正樹（33）
	興行的にも失敗だと思います。天龍さんが、長州さんのケツをもっとたたかないとダメ。残念です	青木　秀則（22）
	長州さん、天龍さん、年取ったなぁって感じですね。試合も静かでつまらない。がっかりですよ	喜多　栄義（26）
	だいたい長州と天龍がメーンを張ってるようじゃ、団体としてこれから生き残れないよ	越塚　健之（26）
	旗揚げ興行なのだから、もう少し「ファンと一緒に」というメッセージを見せて欲しかったですね	鶴岡　卓也（26）
	天龍選手の長州選手への思いがぜんぜん伝わってこなかった。試合も予想外の早さにビックリです	岡野　光佳（34）
	メーンはもちろん、他の試合も全体的に活気がない。ウォリアーズも往年の輝きがなかったし…	佐々木昭三（45）
満足	試合内容などどうでもいい。パワーホールが鳴って、長州がリングにいるのを見られただけで満足！	田中　博人（33）
	今日は大阪から来た。長州を見たとき涙が出てきた。猪木を倒せ！長州さん、がんばってや！	松田　茂人（36）
	パワーホールを聞いたときは鳥肌が立った。WJに熱いものを感じました。馳ケンが良かったです	藤井　智行（27）
	今日は、健介だけを見に来たんです。だから、勝って大満足！次はシングルで！それ以外興味なし	遠藤　清江（32）

週刊東スポ　読者参加で作るウイークリープロレス　ブラックジャック・マリガン

ファイトクラブ

長州がマスコミとして唯一存在を許していた『東スポ』が、「旗揚げ戦68%が不満」「あの頃の長州は死んだ」と辛辣なアンケート結果を掲載したのは事件だ!!　マット界のパワーバランスは明らかに変化している。

山口　それに3月5日付の『東スポ』もすごかったからなぁ（笑）。

吉田　「マスコミは『東スポだけでいい！』」と公言してきた長州が、よりによってその『東スポ』に「長州は死んだ！」とか書かれるようになっちゃうんですからね（笑）。

山口　『東スポ』がWJ旗揚げ戦の出口調査をやったんだけど、100人のうち「不満だ」っていう声が68人もいたんでしょ。

吉田　あの興行を見たら、"68人しかいなかったんだ？"って気にもなりますけどね。『W—1』を否定して「本当の闘い」を打ち出したはずの長州が、『W—1』よりヒドイ興行を提供するとは思ってもみなかったですよ（笑）。

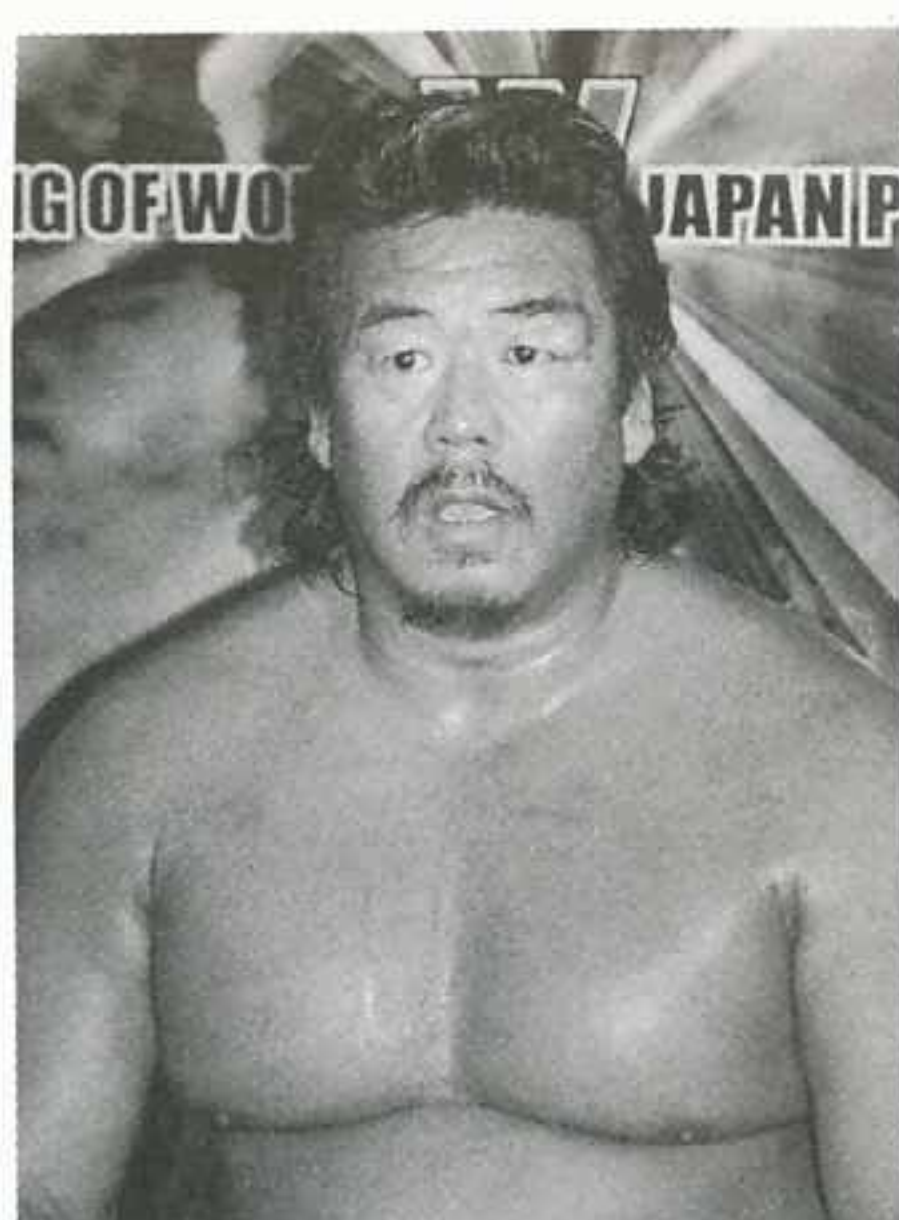
山口　第1試合（石井智宏vs宇和野貴史）でやろうとしたことは伝わってきたけどね。観てない人に向けて簡単に言うと、ガッチリとロックアップから始まって、お互い血をほとばしらせながらのハードヒットな張り手の応酬、プロレス技の応酬を経て、ゲンコツで殴り合う。で、あげくの果てには最後はマウントの態勢からゲンコツで殴ってるんだよ（笑）。でも、たしかにハードで凄いことやってるし、WJの方向性を示す、あるいはプロレスの凄みを見せるっていう意気込みはわかるんだけど、なぜあの2人がゲンコツで殴り合わなきゃいけないのか？　そこが伝わりきらないんだよね、会場が広すぎることも手伝って。

吉田　そもそもジャイ子（『紙プロ』の非常勤巨人スタッフ）のイチ押しファイターとして『紙プロ』に登場したこともある石井は、昔から北原（光騎）の地下室マッチでボコボコのケンカファイトをやってた人だから、ド真ん中というより地中のスタイルなんですけど（笑）。

山口　バーリ・トゥード自体が過渡期に入ってる時期、しかもレベルアップしてるときに、なぜ競技性をはぎ取ったバーリ・トゥード的なもので「プロレスのド真ん中」を見せなきゃいけないのか？　そこがどうも引っかかるんだよね。見終わった後に凄いものを見せられたっていう解放感よりも、重くて切ない気持ちがしたんだよなぁ。

吉田　でも、切ない気持ちが残るだけまだいいじゃないですか。ボクなんか谷津vs安生から見始めたから、何も残ってないですよ（笑）。唯一会場が沸いたのは馳健コンビの試合だけでしたからね。

山口　ああ、馳先生はやっぱ常々「プロレスの基本が大事」と唱えてるだけあって、その通りの試合を見せたね……って、いまさら馳先生の試合が一番湧いてていいのかって話だけどね。でもその試合はダン・ボビッシュが良かったよ。でも、驚くことに

旗揚げ戦の試合後、「もっと熱くなるプロレスをやっていく。みんなの思っているプロレス？　冗談じゃない!!　オレが変えてやる!!」とマグマを噴き出すがごとく、ヴァーッと、クァーッとコメントした健介。白髪が出るまで悩んだ男に恐れるものなど何もない！

3・1旗揚げのメイン、天龍に勝利した長州は「俺自身は、周りがどう思おうが、これでＷＪが真ん中に座ったという確信と自信を持った」と盟主宣言！　しかし、目玉であった天龍とのシングル6連戦は両者の負傷欠場により途中で頓挫。どうなるＷＪ!?

長州のテーマは「闘い」じゃなくて「信頼」なんです

ボビッシュにプロレスを教えたのは、近所に住んでるマット・ガファリだっていう話もあるよ（笑）。

吉田　本当にすごいのはガファリの方だったんですか！　ＺＥＲＯ―ＯＮＥは底知れないなぁ（笑）。

山口　だから、ボビッシュは〝マッチョ・ガファリ〟に改名してほしいね（笑）。永島さんがさっそくボビッシュvsボブ・サップをブチ上げてたけど、それはいまは無理としても（笑）、あのボビッシュの持つストレートな凄みのほうがプロレスのド真ん中って気がするけどなぁ。いまの時代性の中では。

吉田　永島さんは「サップってギャラ高いの？」って、よりによってウチのチョロに聞いてたらしいですからね（笑）。

山口　ガハハハ。うん、間違いなく永島さんはド真ん中ですよ。なんのド真ん中なんだかわからないけど（笑）。

吉田　それでチョロが、「サップのギャラをＷＪが払う心配がない『ＰＲＩＤＥ』やＫ―１だったらできるんじゃないですか？」って言ったら、「それじゃウチにメリットがない」って答えたっていう。そんなの、サップがＷＪに上がることのほうがメリットなんかないはずなんですよ（笑）。

山口　ガハハハ！　さすが背広レスラーだね、永島さんは。

吉田　話を戻すと、問題はあの興行の中で「闘い」からは最もかけ離れた馳健の試合が一番面白かったことだと思うんですよ。「しょっぱい」と言われ続けた健介が抜群にウマく見えたっていうのは、どれだけ他の試合がヒドかったのか。そして馳先生のサポートがどれだけ絶妙だったのかがわかりますよね。

山口　でも、健介はさらに化けるかもしれないよ、ホントに。花道でファンが持ってた「ド真ん中」ボードを奪って堂々と掲げたじゃない（笑）。そういうところは、新日本の呪縛から離れたところで活きてくるかもしれないなぁという可能性は感じた（笑）。

吉田　裏に「反猪木」って書いてることにも気づかずに「どうだ！」って持ち上げた瞬間、こっちも幸せな気持ちになれましたからね（笑）。

山口　あのさ、以前、糸井（重里）さんが「これくらいまでやらないとケツの穴が小さいと思ってやっているうちに、ケツの穴が脱肛になっちゃう。そういうとこを猪木さんには感じる」って言ってたことがあるけど、そういう許容量の広さというか、ある人の言葉を借りると、美意識の高さというか、あるいは、いい意味での〝恥知らず〟みたいな部分？（笑）。そういう部分って猪木さんや新間さんや永島のオヤジの世代から長州力や石井館長までの世代には確実にあるじゃない。俺らの世代にはないでしょ、そういう部分は。恥を知っちゃってるからね、俺らの世代は（笑）。でも、そういう上の世代の遺伝子を堂々と健介は受け継いでるよね。

吉田　革ジャンのバックに堂々と「健介」って書いたりとか、ライオン顔のガウンを着てみたりとか（笑）。ああいうセンスがド真ん中で揺るぎがないんですよね。小島、大谷、高岩といった面々が新日本を辞めてから自分のキャラをより際立たせることによって、それまで不快に感じていたものを無理矢理観客に認めさせたみたいに、今度は健介が大化けしそうな気がしてきましたね（笑）。恥知らずといえば、大仁田なんか相当恥知らずだとは思うんですけど、会長的にはどうでした？

山口　いや、さっきから恥知らずって言葉を使ってるのは、美意識が高いって意味で言ってるんだからね、俺は。誤解が生じないようにもう1回言っておくけど（笑）。でもそういう大仁田の美意識は爆発しなかったからスカされたね、今回は。

吉田　ホント、セルフパロディーでしかなかったんですよね。タバコ片手の入場、ロープエスケープで爆発する試合の構成、「こんなもんで反則か！」って叫ぶ試合後のマイク、そしてアナウンサーとのやりとりまで、どこかで見た風景の繰り返しだったし。

山口　越中がヒップアタックをかわされて、有刺鉄線に突っ込んでるのに爆発しなかったのもスカされたけどね（笑）。

吉田　代わりに、会場が笑いで大爆発してましたよ（笑）。誰もが試合前から「くるぞ、くるぞ」と思ってたシーンが実現したときにしくじるのは、話にならないですよね。

山口　ああいうので、客席とイベントを作る側の温度差は余計広がるからね。選手を含めた作る側が一生懸命なのはわかるけど、リング上と客席、イベントを作る側と見る側の温度差は広がったままだったでしょ、最後まで。

吉田　大雨のせいか、客席が想像以上に冷えきってた興行でしたからね。あんなに野次が飛び交うとは思わなかったですよ。

山口　ウォリアーズvsクラッシャーズなんて相当観客を凍えさせてたのに、当たり前のように巡業で連戦させちゃうんだからすごいよ（笑）。

吉田　長州やウォリアーズにしても、もともとハイスパートな闘いが支持されてきたのにすっかりスローダウンしてましたからね。長州なんかはそれが年齢的にやれなくなってきたから、猪木さんがキラー猪木になったようにキャラを変えて間合いと気迫で「闘い」を表現するプロレスをやろうと

してると思うんですけど、まったくリズム感がなかったじゃないですか。

山口　でも、（3・15）後楽園でのリマッチはキャパ的にも届きやすかったから、盛り上がったでしょ。

吉田　ただ、ウォリアーズは相変わらずだったみたいですけど（笑）。そもそもウォリアーズは、ZERO—ONEにしろ全日本にしろバトラーツにしろ各団体が使うたびにダメだって評判になってるのに、なんでいまさら使おうとしちゃうんですかね。フィニッシュ技がクローズラインだから？

山口　それは、駒を揃えれば風向きが変わるだろうっていう発想でやってるからでしょ。いまは〝駒〟よりも、根本的な部分での〝何をやるか〟〝何を見せるか〟というほうが大事なんだけどね。

吉田　ただ対新日本とか対ノアへの挑発みたいな意味で駒を集めてるだけだとしか思えないんですけどね。そういえば、〝何をやりたいかわからない〟という声も多かった『W—1』は新しい組織を作るって話でしたけど、話は進んでるんですか？

山口　さあ？　でも4月から、10分だけど『W—1』は週イチの帯番組として新たに始まるし、3月末にも1時間番組があるから、テレビサイドはやる気満々なんじゃない。でもさ、『W—1』にしてもそうだけど、森下社長の件と石井元館長の逮捕は、予想以上にこの業界に多大なる影響を及ぼしてるよね。よくも悪くもカオス状態になってる。格闘技も純プロレスも、いままで成功してたとこ失敗したとこ、全部含めて、みんなナイフのエッジを歩いてる感じだもんね。最終的には細胞レベルで生まれ変われるところが勝つと思うけど。

吉田　そんな時期に、猪木さんがこの機に乗じて新日本でガチンコをやるっていうのは非常に興味深いですよ。高田は「外部の人間にやらせるな。VTやるならそこにトップ級の新日選手が上から順にずらり並ばないと問題外！」って、他人事だからこそ正論で突っ込んでましたけど（笑）。

山口　高田総裁は『PRIDE・LOVE』が人一倍ある人だからね。ただ、新日が5・2東京ドームでバーリ・トゥードをやることは、風向きをホントに変えようとしてるんだと思うよ。

吉田　鈴木みのるを上げようとしてたのも「風」にこだわったからなんでしょうね（笑）。

山口　ウマいね、どうも（笑）。これは成功するか失敗するかはわからないけど、風向きはそれくらい強引にやらないと変わらないのも確かだからね。

月刊Y²談

吉田　その点、猪木さんはかなり強引ですよね。猪木事務所系の選手で「新団体NWFを作る」って噂も流れ始めてるし、（3・16の）『PRIDE．25』には来場しないで「生きてますか〜っ！」って追悼興行史上稀にみることをパラオで撮ったビデオで叫んでるしで（笑）。

山口　もともとパラオからジェット機をチャーターして来るプランもあったらしいけど、莫大な金がかかるってことで取り止めになったらしいよ（笑）。

吉田　でも、恒例の猪木劇場がないと会場に開放感がなくなるってことは痛感しましたね。あのサップでも猪木さんの代役は苦しかったんだから、ましてや高田総裁だとさらにキツくなるだろうし。

山口　そう？　確かに猪木さんが現場にいないのは寂しいけど、俺は大会全体としてリアルな刺激があったから、『PRIDE』は生まれ変われる芽をうまく掴んだなぁと思ったね。でも今後、猪木さんがどういうスタンスを取っていくのかは興味深いね。K—1が成功した要因として、石井館長という〝顔〟がハッキリ見えていたのはデカいじゃない。『PRIDE』はKRS時代には代表者の顔が見えなかったことで叩かれたけど、『PRIDE．10』以降、猪木さんが顔になってから状況は変わったしね。

吉田　『W—1』も元子さんを顔にできてたら奇跡が起きた気がしますけどね（笑）。

山口　ダハハハ。それは抜群に面白いね！

吉田　WJは長州じゃなくて永島さんが顔でしたよね。旗揚げ戦でもこれでもかってぐらいビジョンに出まくってたし（笑）。

山口　いま思ったんだけど、もしかしたら「ド真ん中」というのは、長州力や永島のオヤジがまだ業界のド真ん中にいるっていう確認作業をしたいだけなのかな？

吉田　かつてド真ん中にいた時代を思い出して、そのときの気分でやってるだけってことですか？

山口　う〜ん、というか、「俺たちはいま年齢的にも時代的にも端に追いやられたよ。でも、再びド真ん中を目指す！」っていう、ある種の弱みをさらけ出しながらのストーリーならわかりやすいし応援しやすいけど、最初から「まだまだド真ん中にいるんだ」っていうつもりでいるんじゃ何も伝わらないんじゃないかなぁと思ってね。

吉田　そもそも「ロックアップ」と「闘い」っていう2つのキーワードが矛盾してるじ

K-1中量級は、興行として後楽園ホールの臭いがし過ぎた［吉田］

魔裟斗、須藤元気などのタレントを擁して、ゴールデンタイムで放送されたK-1中量級トーナメント。同日にノア、WJのビックマッチと重なったが、世間からすれば視界に入るのはK-1であり、対世間のソフト力は数段どころじゃない差があるのだ。

有明コロシアムの会場規模を考えたら凄まじい話だが、客の熱気が興行をうまくリードしていたK-1中量級。観客が手の平に乗せられたのは須藤元気vs魔裟斗ぐらいか。

ゃないですか。「ロックアップ」は両者が信頼の上で闘うことを確認する非常にプロレス的な行為だし、そこに「気迫」を込めることで「闘い」を表現するのはわかるけど、「気迫」だけだと「闘い」の要素は希薄になってくるというか。

山口　今日はウマいね、いちいち（笑）。

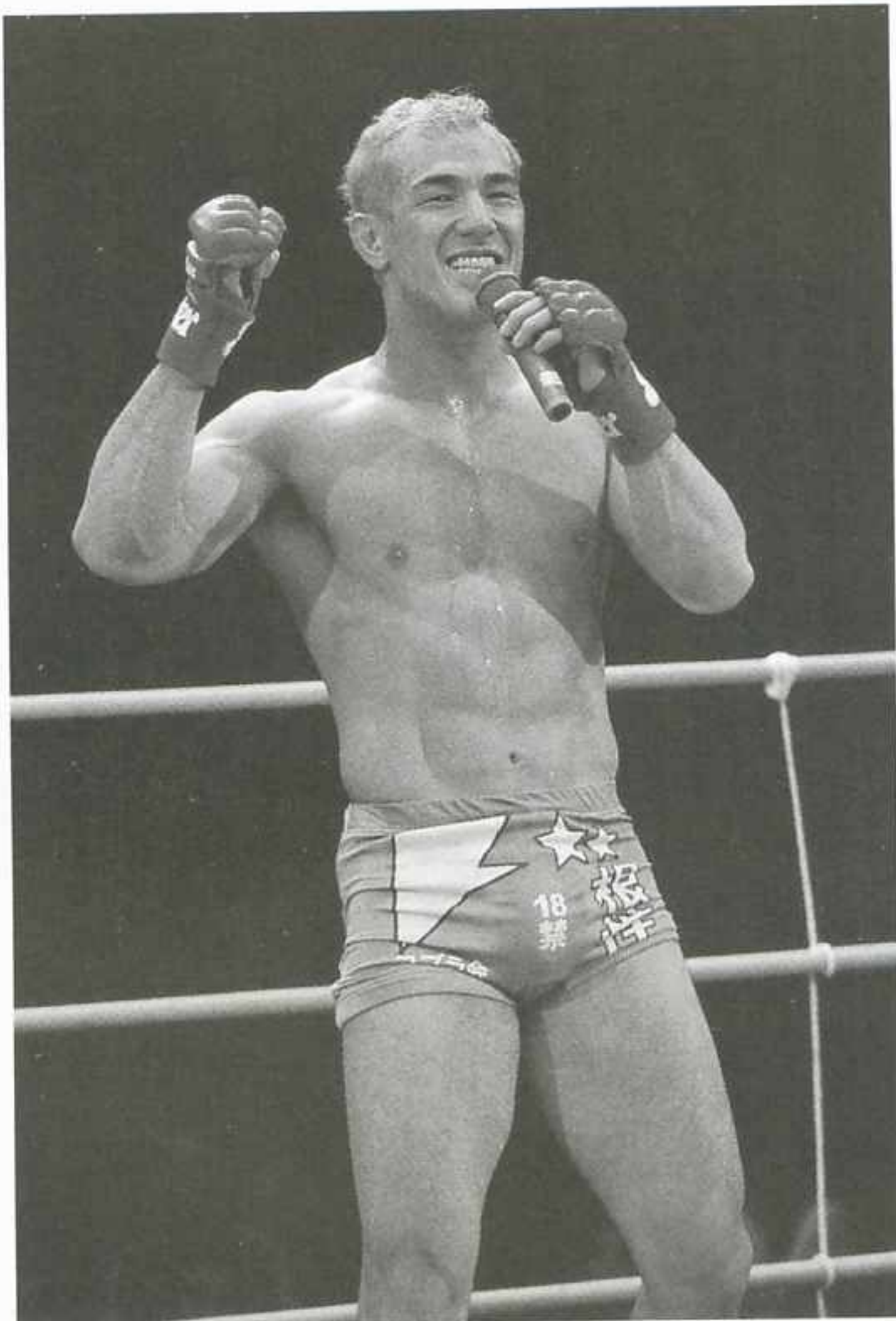
吉田　以前、『ゴング』で長州が「マスコミをみんなロックアップしてやる！」って吠えてたことがあったじゃないですか。あの時は「なんで俺たちがロックアップに付き合わなきゃいけないんだ⁉」とか突っ込みたくなったけど、要は「信頼関係の上では、俺が主導権を取るぞ！」ってことだと思うんですよ（笑）。でも、それは「闘い」じゃないですもんね。

山口　いや、主導権の奪い合いには「闘い」は生じるんだよ。プロレスはイニシアチブの奪い合いだから。長州がマスコミや他団体に噛みつくときには緊張感が走るじゃない、いまでも。でも、WJ自体は、長州の考え方を「埋め込んでいく」団体なんだから、異分子が出ようがないし、真の意味での主導権の取り合いは生まれにくいでしょ。だから、長州スタイルを単なるスタイルとして見せていきたいのかな、というふうにも見えちゃう。

吉田　結局、長州にとってのテーマは「闘い」じゃなくて「信頼」なんだと思うんですよ。前に長州は「誰かターザンを殺してくれ。もし殺したら、そいつは俺が一生面倒を見る！」って名言を吐いたって『ゴング』のGKが言ってましたけど、やっぱり「俺が面倒を見る」スタイルをやってるだけだと思うし。だからこそ、いまは矢口一琅みたいな大仁田一家、高智みたいな谷津一家、石井みたいな天龍一家も含めて、みんな面倒を見てるんじゃないですか？

『DEEP』には、まだ〝頑張るファン〟が付ききっていない【山口】

山口　うん、長州力が「面倒を見たくなる奴」を集めている感覚はあるよね。だから、団体内の闘いでは主導権の争いは活きないというか、長州がどんなに「闘いを見せる」と叫ぼうが、どんなに激しいことをやろうが、一番肝心な部分が抜けてるように見えちゃうんだよね。これは長州組が新日本を制圧してたときもそうだったけど。

吉田　長州vs天龍のカードだって、やっぱり見えてくるのは「信頼」なわけじゃないですか。そういう見方に反発して後楽園のリマッチでハードコアな試合をした天龍はさすがなんですけど、過去の長州vs天龍に関してはやっぱり信頼の確認作業にしか見えなかったし。

マッハ＆三島の活躍で大爆発した3・4『DEEP』後楽園大会。修斗のスター選手を起用することで、修斗ファンを取り込み異様な熱気を生み出した。この熱を引き続き継続できるかが、『DEEP』の勝負どころである。

山口　やっぱり同じ全日本系でも、天龍vs鶴田とか長州vs鶴田とか天龍vs輪島に比べると、インパクトは落ちるからね。

吉田　やっぱりイデオロギーが同じ者同士で「闘い」を表現するのは難しいんですかね。

山口　評判のよかった石井vs宇和野の第1試合も俺から見るとその類なんだよ。「激しさ」や「ハードヒット」は伝えられてるんだけども、さっきも言ったけど、なんであの2人がそれをやるのかイマイチわからないわけ。たとえばU—STYLEみたいに全試合Uスタイルでいくっていう方向で、第1試合のスタイルでWJは全試合行くっていうんならまだわかるんだけど、第2試合、第3試合になったら違う試合スタイルをやってるわけだし、バラエティに富ませたいのかと思うとそうでもないし。何か目に見えない呪縛がある感じがするんだよなぁ。開放感がない。

吉田　結局、第1試合も石井のスタイルでしかなかったわけですからね（笑）。

山口　ああいうスタイルで、プロレスの凄みを見せようとするのはわかるんだけど、それはなにか我慢比べの凄みになっちゃう気もするんだよ。

吉田　ド真ん中じゃなくて我慢中（がまんなか）というか（笑）。

山口　ガハハハ！　我慢比べっていうか耐久競技としてのプロレスにもいろいろ種類があるけど、たとえば（3・1）の三沢vs小橋なんかも最高級の耐久競技でしょ。花道の上から場外にタイガースープレックスやったりさ、ハッキリ言っちゃうと、プロレスという概念より、2人で組み上げる最高級のスタントだよね。

吉田　あれはボクもテレビで見ましたけど、本当にすごかったですよ。一番すごかったのは、試合開始早々に三沢がダイビングエルボーで場外に飛んだときに、小橋がかわしてそのまま鉄柵にアゴから突っ込んで流血して6針縫うことになったシーンなんですけど、なんでそんなことやってんだろうって思うじゃないですか（笑）。

山口　聞いてるだけで、こっちが痛くなってくるよなぁ（笑）。

吉田　ボクも正直、ポイントポイントで「すげえ！」とは思いながらもビデオ見ながら4～5回寝ましたからね。

山口　ガハハハ！　ノアの宝、プロレス界の宝を見ながら寝るなよ！　でも、あの2人がプロレスに命を懸けてるというのはホントにわかるけどね。

吉田　いや、客の盛り上がりもすごいし、絶賛されるのもわかるんですけど、やっぱり全日本系はタッグでこそ活きるスタイルだから、長めの試合をやろうとするとどうしてもリズムが間延びしちゃうじゃないですか。高山がこの試合を「この2人の間には信頼関係しか見えないから闘いじゃない」とか言ってたんですけど、やっぱり感情が見えないんですよね。

山口　その信頼関係っていう部分にノアファンは喰いつくんだろうし、自分たちの居場所がここにあるっていう気持ちがする

んだろうけどね。

吉田　秋山があの試合に声援を送るファンを否定して、「確かに凄い試合でしたよ。でも早死にしますね」「素晴らしいには素晴らしい。でも俺はああいう試合はしない！」とコメントしてましたけど、そういう理念の違う者同士の試合なら「闘い」になるのかもしれないですけどね。

山口　そう。やっぱりイデオロギーが違ったり、スタイルが違う者同士がイニシアチブの取り合いをするプロレスが一番面白いからね。秋山vs永田とか三沢vs蝶野とか、最近は信頼という尻馬に乗ったプロレスを「闘いだ」と打ち出すことが多すぎるんだよ。でも、ノアの凄みとか面白さは理解できるんだけど、なんでこんなに入っていきづらいんだろうなぁ（笑）。

吉田　きっと純プロレスにおける安全パイだからですよ。そこに行けば一定レベルの商品は提供されるんだろうけど、やっぱりめったに美味しいものが提供されないとはわかっていてもボクらは新日本に行っちゃうし、3・1の興行戦争でもWJに札を張っちゃわけじゃないんですか（笑）。

山口　（水道橋）博士に不思議がられたもんなぁ。なんで「K―1に行かないの!?」って（笑）。

破壊王には業界じゃなくて“世間のド真ん中”を歩くエネルギーを感じる［山口］

吉田　ボクも、なんでK―1中量級じゃなくてWJなんだよって自分で自分に突っ込みを入れてましたけど、これは義務感であり、そして「ヒドい目に遇った！」ってボヤくのが好きだってことなんでしょうね（笑）。

山口　WJ観た後に、ビデオでK―1中量級を見たけど、やたらと選手が若くてフレッシュでエネルギッシュに見えるよ（笑）。

月刊Y2談

吉田　いや、WJの中島（勝彦）君の方が若いですよ！

山口　（無視して）だってWJのメイン張ってるのは51歳と53歳だよ！　それはいいし、その意気込みは心底買えるけど、歳を取ってリングに上がるんならそれなりの見せ方があると思うけどね。天龍なんかはいままでそれがウマい形で発揮されてたんだろうし。

吉田　しかも、WJは一度引退した人が3人いて、そのうちの2人が国会議員なんだから、考えてみたらすごい興行ですよ（笑）。

山口　豪ちゃんもビデオでK―1を見たんでしょ。感想はどうだったの？

吉田　前ほどの奇跡的な内容ではなかったですよね。それに、K―1は興行としてキックボクシングの臭いを排除させることに徹してきたのに、今回は後楽園ホールの匂いがしすぎたじゃないですか。唯一、ゴールデンタイムで一見さん相手の試合をやろうとしていたのは須藤元気ぐらいだったと思うし。

山口　そこら辺がK―1中量級の課題になってくるんだろうけど、競技に徹底させたとしても見せちゃうし熱を生むんだから、やっぱり彼らの若さとエネルギーという武器はデカいよ。

吉田　ホント、若さとビジュアルでマイナス面はいくらでも埋められるんですよね。『DEEP』も、メインと三島の試合は良かったらしいですね。

山口　マッハ（桜井速人）もいいけど三島☆ド根性ノ助は、試合のリズムを作るのがウマいね。俺は何をやるにしてもリズムを作れる奴はすごいと思っちゃうんだけど、ド根性ノ助は上昇気流に乗ってた頃のサクを彷彿とさせるね。試合中に「頭いいな、こいつは」って思わせるし、調子に乗ってるところが嫌みに見えないキャラもまたいいし。「こいつにはプロレスができる！」と思ったもん。競技系の格闘家にはめったにそんなこと感じないんだけど（笑）。

吉田　（2・15の）U―STYLEでは村浜（武洋）に「お前にプロレスできるんか！」って言われてましたけど、U―STYLEに出てもなんとかできそうですか？

山口　全然できるでしょ。本気度にもよるけど。片手間って考えてたら当然長続きはしないだろうけどね。『DEEP』ではマッハも感動的に強かったし、会場では「修斗バンザイ！」っていう気になったね（笑）。

吉田　『DEEP』でこれだけ頑張ってきたのに上山ファンは少なかったらしいですね。

山口　いや、歓声は大きかったけど、それ以上にマッハファンが多かった（笑）。『DEEP』には、まだ〝頑張るファン〟が付ききってないんだろうなぁ。やっぱり修斗は〝頑張るファン〟を作ってきてるから、ああいう場になると強いよね。修斗ファンの熱をすごく感じたね。U―FILE側は田村潔司が一番熱かった気がした（笑）。

吉田　マッハの3ポイントの反則ヒザ蹴りに大激怒して、エプロンに上がり込んだらしいですね（笑）。このまま田村vsマッハとかに繋げていけたら面白いんですけどね。

山口　しかしさ、ここ最近はいろんなビッグマッチがあったけど、「プロレスや格闘技ってなんなんだろう？」って改めて考え直したよ、つくづく。

吉田　ボクはWJを見に行って「この忙しい中、俺は何やってるんだろう？」って改めて考えましたよ（笑）。

山口　ガハハハ！　俺もWJを見たらさ、翌日（3・2）の両国も行く気がしなくなってきたわけよ。「ZERO―ONEも同じようなものだったら、やだな」って思っちゃってさ。でも、やっぱりZERO―ONEは抜群に面白かった！

吉田　興行自体は普段の地方巡業や後楽園に比べるとイマイチだったけど、メインと

最後の乱闘で元を取れたって評判ですね。

山口　あの乱闘はいろんな意味で面白かった。以前にも言ったけど、たとえばWWEは絶対に試合は壊れないし、ショー・ビジネスとして組み上げるでしょ。マイクも基本的には演出通りなんだろうけど、言ってることはかなりのシュートが入ってる。脚本家が選手にとっては言いにくい脚本を書いてるでしょ。本音を活かす脚本というか。ようやくそういうプロレスが、日本に生まれてきたと思ったね。これはZERO—ONEに脚本家がいるって言ってる意味じゃないからね、読者の皆さん。

吉田　結局、ボクなんかはハラハラする瞬間が見たくてプロレスを見てるわけなんですよ。

山口　それは試合に限らず、マイクや場外乱闘なんかも含めてハラハラさせてくれればいいと思うんだよ。そういう意味だと、ZERO—ONEのエネルギーの放射の仕方は素晴らしいの一言！　だって俺でさえ「オーちゃんは絶対、全日本や高山とは絡まないだろうなぁ」と思ってたからね。それがいざ乱闘になったら、高山とやり合ってるし、あれだけ各々の持ち味が出る乱闘は久々に見た。あれを宴会にたとえると、全員が酔っぱらってる宴会の面白さだね（笑）。

吉田　武藤だけがシラフだったって感じですか？

山口　いや、武藤はいないことでまた活きたでしょ。あの場にいたら絶対いい酔い方を見せてくれたと思うし（笑）。だって小島が「橋本、小川、俺が全部いっちゃうぞバカヤローッ！」と言ったら、橋本が「俺だってやっちゃうぞ、バカヤローッ！」って言い返すんだよ（笑）。

お家芸と化したZERO—ONE名物の大乱闘!!　誰もが"とりあえず"絡んでいく姿勢だからこそ、観客の予想を超えた爆発的な面白さが生まれるのだ。高山も新日本のリング以上に大暴れ。高山のマイクがもっとも活きるのはZERO—ONEだ！

吉田　ダハハ！　絶妙なアドリブ合戦ですよね（笑）。

山口　「コントじゃないんだから」って意見も稀にあるだろうけど、橋本は主導権の奪い合いという意味での「闘い」を見せたと思うよ。気がついたら、ガファリが小島を投げ飛ばしてるし、ホントわけわかんない無闇なエネルギーを感じるよね（笑）。

吉田　最近は「プロレスは全てが筋書き通り」みたいなイメージがありますけど、とりあえず「そこで何かドラマが生まれたらいいや」って感じで行き当たりばったりのまま乱闘する姿勢は面白いですよね（笑）。

山口　このイレギュラーが次のドラマを生んでいければ最高なんだよね。俺なんかは贔屓目なしに見て破壊王に世間のド真ん中を歩くエネルギーを感じるよ。業界のド真ん中じゃなく世間のド真ん中を歩くというエネルギーを感じる。破壊王自身は無意識なんだろうけどね。世間から矢のようなツッコミを受けて血ダルマになっても、そのまま「俺はプロレスを武器にして世間のド真ん中を歩く！」というね。結局、どプロレスを武器にしてド真ん中を歩けるかどうかはこれからやってみなきゃわからないんだけど、その「つっこむならつっこめ、俺は下がらんぞ！」っていう意志表示が気持ちいいじゃん。

吉田　長州の意思表示は気持ちよくないんですか？

山口　長州は業界のド真ん中を歩くつもりなんでしょ。破壊王は業界なんて小さなもんじゃなく、目指すは世間のド真ん中だから（笑）。当然、世間のド真ん中に出ていけばツッコミを受けまくるジャンルなんだよ、プロレスは。でも、業界相手にツッコミを遮断していく方向と、そんなツッコミなんてハネ返すゾ！っていうエネルギーじゃ、自ずと違ってくるじゃない。乱闘の最後にさ、破壊王が締めてくれたのも楽しかったよね。最後の締めの解放感なんて、ようやく興行という宴会を締める役割として、猪木さんに代わる人が出てきたなって思ったよ。真の意味での世代交代を見たね（笑）。

吉田　ようやく闘魂伝承できたんですか（笑）。

山口　だって、わざわざ「1、2、3、ダーッじゃないぞ」って言ってから「スリー、ツー、ワン、ゼロワン！」ってやるんだよ（笑）。破壊王の視野には対アントニオ猪木っていうのもあるでしょう。存在として勝負してるっていうか。格闘技を武器に世間に討って出ている猪木さんに対して、「どプロレス」で猪木さんも世間もなぎ倒してやるって意識を感じるんだよね、破壊王には。

吉田　ZERO—ONEって野放しのイメージが強いですけど、実際は段取り組めないだけって気もするんですよ（笑）。

山口　言ってみれば破壊王も強引にまとめてるだけだからね（笑）。破壊王は試合後、高山にも「いままで好き勝手やってやってきたかもしれないけど、ウチに来たら好き勝手にはさせねえぞぉ！」ってコメントしてたけど、高山と橋本の絡みなんかもハラハラするもんね。

吉田　『真撃』のときに裏でいろいろあったらしいですね。

山口　日本のプロレスビジネスが沈んだのは、団体が細分化しすぎて、舞台裏でゴタゴタがあったら「あそこと組みたくない」「あいつらとは仕事したくない」となると

こが大きいけど、それがリング上でやり合ったり絡んだりしたんだからかなりの進歩だよ。さっき言ってたイニシアチブの取り合いにリアリティが出てくる。それで試合が壊れるのをファンが期待してるかっていうと、いまはそういう時代じゃないから。気の合う奴らだけでやってたらビジネスは縮小していくに決まってるんだから、最後はリングでやり合って、プロレスそのものを武器にして、みんなで世間のド真ん中を歩いてほしいよね。

吉田　こうなったら、ＺＥＲＯ—ＯＮＥに健介を引っ張り出してほしいですねぇ。

山口　ＷＪとＺＥＲＯ—ＯＮＥの対抗戦なんてもしあったら、盛り上がるだろうなぁ（笑）。

吉田　破壊王には、何かしら長州や健介を怒らせるようなことやってほしいですよ（笑）。

山口　そのとき、ＺＥＲＯ—ＯＮＥ勢はゴレンジャーの格好して出てきてほしいなぁ。破壊王がキレンジャーとかでさ（笑）。

吉田　それ、『夢の掛け橋』のみちプロとネタが被ってますよ（笑）。

山口　いや、だけどピリピリした対抗戦にＯＨ砲を始めとした、ＺＥＲＯ—ＯＮＥ勢がゴレンジャーで出てきたら、長州や健介が怒る姿が目に浮かぶでしょ（笑）。そういうハラハラさを見せつつ、最後は試合で帰結させてほしいよね。ＷＪの一大特徴として、やっぱり「笑うな！」っていう空気があるじゃない。「笑うなよ！」「またぐなよ！」っていうバリアを張ってるというかさ（笑）。でも、業界内はともかく世間を相手にしたらそんなバリヤは通用しないからね。

月刊Y²談

プロレスは観客に快楽を提供するビジネスだいう根源的ことを忘れてる［吉田］

吉田　長州なんかも「1試合でも笑われたら終わりだ」とか言ってたけど、客席は明らかに笑ってましたからね。ボクなんか、永島さんが鉄柵から大仁田を挑発したりするだけで笑いましたよ（笑）。

山口　『生ＧＯＮ』に安生が乱入したとき、「お前、ヒットマンか！」って真顔で言ったっていうのを聞いて俺も笑ったよ（笑）。それを「笑うな」っていう方が無理だっていう時代性と向き合ってほしいね。

吉田　あの人はとことん『東スポ』体質なのに、「『東スポ』の見出しで笑うな！」って言ってるようなもんですからね（笑）。「こっちは真面目にドラマを仕掛けてるんだ！」って怒られても困りますよ。

山口　そういう点でも、健介の天然の美意識の高さは素晴らしい。

吉田　要は天然の恥知らずってことですね？（嫌みタップリに）。

山口　いい意味でね。また、その上をいく破壊王の美意識も素晴らしい！

吉田　その2人が仲悪かったのは不思議ですよね（笑）。

山口　破壊王は「笑うなら笑え。成敗してやる」という姿勢だからね。そのエネルギーが「いつのまにか笑われてる」健介とは違うとこだよね。

吉田　破壊王には笑わせてるって自負があると思いますよ（笑）。

山口　「俺だってやっちゃうぞ、バカヤロー！」だからな（笑）。健介も新日本の呪縛から解放されてこれからまだまだ大きくなる可能性はあるけど、ひと回り大きくさせる、破壊王のようなショッキングな敗戦がないからね、健介には。

吉田　世間レベルでの恥を掻いてないわけですね。

山口　でも、興行にはリングにも客席にも喜怒哀楽があってあたり前っていう意味では、笑いもあって当たり前っていうね。プロレスは興行が終わってファンが帰っていくときにハッピーになってなきゃダメなジャンルじゃん。

吉田　プロレスがなんで生まれたのかを考えると、格闘技だとアン・ハッピーエンドになることも多いけど、プロレスは確実にハッピーで終われるところに行き着くはずなんですよね。最後の最後にベビーフェイスが勝つから、カタルシスを感じさせることができるはずのジャンルなのに、なんでこんなスッキリしないプロレスばっかりになっちゃったのか不思議でしょうがないですよ。

山口　プロレスの凄みを見せることに試行錯誤しすぎちゃったんだろうね。リアリティーとか、ドラマとか、ハプニングをどうやって見せるかっていうことをこねくり回しすぎたというかさ。

吉田　スポーツ性や意外性を意識しすぎて、カタルシスがなくなってきたことが大きな問題だと思いますよ。プロレスは観客に快楽を提供するビジネスだっていう根源的なことを忘れている気がするし。

山口　バーリ・トゥードだったら例えアンハッピーな結末になったとしても、競技の持つ緊張感やピリピリした空気を感じるだけでひとつハードルはクリアできてる。でも、いまプロレスは、見に来た人をハッピーにして帰すことが最重要課題だよ。興奮したり笑ったり泣いたりすることも含めて。

吉田　ＺＥＲＯ—ＯＮＥの評判がいいのは、そこに尽きるはずですからね。

山口　『ＰＲＩＤＥ』なんかは安定したカタルシスは得られないというリアル感や残酷さが、『ＰＲＩＤＥ』が『ＰＲＩＤＥ』である存在意義だろうし、それをファンが支持してきてるからこそ、日本人が負け続けてもあの熱を生んでるんでしょ。『ＰＲＩＤＥ』という場は怪物化してきてるよね。この前の『ＰＲＩＤＥ.25』を観て思ったけど。

吉田　そういうシュート興行の実験って意味では、バーリ・トゥードとプロレスの2部構成でやる新日本ドームは興味深いですよね。これが成功したら、地方興行ではプロレスをやって、ビッグマッチだけバーリ・トゥードになるとかシフトされる可能性もあるだろうし。

山口　1年間ずっとプロレスでドラマ作って、決着戦だけバーリ・トゥードとか、そういういままでにない形になれば面白いけど……どうだろうなぁ。今度のドーム自体が面白くも危険な賭けだよな、新日本にとって。

吉田　そんなときに猪木さんは、5・1東京ドームでスネ相撲大会とパチスロのトーナメント、そしてＯＢバトルロイヤルなんかをやろうとしてるわけですね（笑）。

山口　ガハハハ！　確かにパチスロは危険なギャンブルかもしれないけどね（笑）。まあ、5・2はともかく、5・1はハッピーにさせてくれそうだから楽しみだよね。

吉田　そんなことでハッピーになっていいのかなぁ（笑）。

山口　それがダメなら5・2、新日ドームの裏のＺＥＲＯ—ＯＮＥ後楽園ホール大会があるよ（笑）。いくゾーッ、スリー、ツー、ワン、ゼロ……。

吉田　（氷のように冷たく）帰りま～す。

【03年3月某日／編集部にて収録】

5.2 新日ドーム大会で

謙吾(パンクラス)vs町田龍太(猪木事務所)(マチダ・リョウト)戦決定!!

今年10周年を迎えるパンクラスの尾崎社長が
"新日参戦"から"パンクラスの現状"
さらには"島田発言"から"美濃輪問題"まで

大激白、ダーーツ!!

尾崎允実

［パンクラス社長］

今年10周年を迎えるパンクラスの周辺が騒がしくなってきた。5·2新日ドーム大会での謙吾vs町田龍太に続き、5·18横浜大会でパンクラス頂上決戦・菊田vs近藤戦が決定、夏に行われる10周年記念大会には久々にセーム・シュルト参戦の話まで飛びだすなど話題満載。今回は尾崎社長に新日参戦の経緯から、10周年イヤーのパンクラスの現状まで大いに語ってもらった

聞き手／松澤チョロ　構成／ジャン斎藤

designed by matsu (Two three)

――社長！　先ほど近藤（有己）選手を取材していた『SRS―DX』の人から聞いたんですけど、島田レフェリーに対して、またもや激怒してるってホントですか!?

尾崎　（『SRS―DX』NO．90を出しながら）ボクの名前を出して、何やら言ってるんですよ。ちょっと見てくださいよ。

――島田さんが社長に挨拶すると「下から睨まれますから」って書いてありますね（笑）。島田さんを睨んだ事実はないってことですか？

尾崎　そんなことはないですね。

――睨んだ覚えはないと？

尾崎　まったくないですよ！　だから、こんな形でボクの名前をイチイチ出すんだったら……前のアレク選手（『PRIDE．20』／菊田早苗戦の金的問題）の件に関しては、あれ以上言うつもりはなかったんですけど、すべてを言っちゃいますよ（怒）。

――まとめて言っちゃうぞバカヤロー、と（笑）。

尾崎　あの時は、菊田がマウントからアレク選手にパンチを入れてるときに「そのパンチはポイント稼ぎだから気にするな！」ってサブレフェリーの立場で叫んでたんですけども。それだけでも、レフェリーにあるまじき行為ですけど、実はそれだけじゃなくて、その数日前に「菊田の急所を蹴れ」ってアレク選手に言ってるんですよ。

――んむはぁ～!?　そうなんですか？

尾崎　ボクに教えてくれた人がいるんですよ。これは言わないつもりだったんですけど、ボクの名前を出して茶化すんだったら、もう言っちゃおうかなと。どうせアイツは「嘘だ！」って言うでしょうけど、ボクは真実と確信してますから。あと計量の不正もあるし。

――エ？

尾崎　ま、それはまた、あの男が何かしゃべったら言います。

――この雑誌の中で島田さんは、尾崎社長との因縁を「ビジネスにするほうが面白い」「『W―1』で試合するのは全然OK」と言ってるんですけど、社長はリングに上がるつもりはあるんでしょうか？

尾崎　もうボクをネタにするのもやめてほしいし、名前も出してほしくない。ちょっと人間的におかしいし、人間として認めたくないからです（キッパリ）。

――『W―1』での対戦は見たい気もしますけどね（笑）。社長的には、尾崎の〝お〟の字も出してくれるな、と？

尾崎　そうですね。ファンの人たちにもわかってほしいんですよ。島田というのは嘘つきで悪い男だと。

――島田さんは悪い男ですか!?

尾崎　あんまり人の悪口言いたくないんですけど、ああやって茶化されるとボクの人間性も疑われるかもしれないし、あんな男がいるとファンの方にも失礼です。選手は命を懸けて闘ってるわけですからね。これだけはハッキリ書いといてください！

――は、はぁ。外野で見てるぶんには面白そうですけど、余計な火種が飛び火しそうで怖いですね（笑）。続いて、答えづらいお話でしょうけど、前田（日明）さんがZSTの解説として久々に表舞台に姿を現したわけですが。

尾崎　その日は郷野に誘われたんですよ（笑）。でも、ボクと前田氏の問題で、主催者の方に迷惑がかかるような状況にしたくなかったんで行きませんでしたけど。選手にはボクと前田氏の揉め事は関係ない話なんでね。今回も郷野と（クリストファー・）ヘイズマンが闘って、ああいう形で勝敗や技を競うのは凄くいいことだと思いますよ。

――郷野選手は「一本勝ちしたら、マイクを持って前田さんに対して言いたいことがあったけど、判定だったんでマイクを持たせてもらえなかった」って言ってましたね（笑）。

尾崎社長は、ターザン山本と島田レフェリーが対談をしている『SRS・DX』（NO.90）を取り出すと、島田レフェリーが自分について語っている部分を指差して、「そんな事実はない」と強烈にアピール

（島田レフェリーには）もうボクの名前を出して茶化すのはやめてほしい！

尾崎　郷野は……何を喋るかわかんないですからね（笑）。

――それも魅力なんですけどね（笑）。で、この間のディファ大会の試合後に「世の中もリストラの時代だし、今後のパンクラスは生き残りゲームになる」っていう発言がありましたが、5月の契約更改で何かが起きる予感がプンプン漂ってるんですけど（笑）。

尾崎　さっきからスキャンダラスな話題ばっかですね（苦笑）。

――そんなことないですよ（笑）。具体的には、どういった契約見直しを検討されているんですか？

尾崎　いまのパンクラスには「負けても次の試合は組まれる」とか、そういう甘えがある選手がいると思うんですよね。契約してる限り試合の保障はしてますけど、そこに甘えられても困るんですよ。

――現状の契約システムが、選手のモチベーション低下を生んでいるということですか？

尾崎　まあ全員が全員そうじゃないですけど、外からウチに上がる選手なんかは、ヘタな試合したらもう呼ばれない可能性が大いにあるわけですよね。1試合1試合で勝負してるわけです。それに競技者って、本来は生き残りゲームだと思うんですけど、ウチには生き残りを賭けてない選手がいるような気がするんですよ。

――そういったハングリー精神を内部の選手に植え付けるべく、改革しようと？

尾崎　そうなりますね。ウチで甘えた気持ちでやってる選手がいるならば、それは形として表すことにするよ、と。極端な話をすれば、試合もダメで普段の練習もサボッてる選手に関しては「辞めてください」という話もあるということです。

――そういった選手には、すでに警告というか、注意はされているわけですか？

尾崎　もう自分で気づいてるでしょ。それは上の選手からも言われてると思いますよ。

――上の選手から見て「ダメ」と判断された選手がいたら、契約破棄の可能性も出てくるわけですね。

尾崎　あるかもしれませんね。ただ、それは極端な例であって、ちょっと契約内容は詳しくは言えないんですけど、契約破棄か更新だけじゃなくて、いろんな契約パターンが増えることになりますね。いまは『PRIDE』さんみたいに場としての大会が多いわけですから、それだけ1試合1試合に賭けてる選手が多いってことですよね。パンクラスもそういう舞台にしたいんですよ。

――社長の話は理解できるんですけど、ズバリ言って選手を多く抱えすぎたっていう反動もあったりするんですか？

尾崎　いや、それはないです。逆に去年からは、おかげさまでウチの業績は上向きなんですよ。一昨年は結構厳しかったんですけどね。

――船木さんの引退の余波は、予想以上に大きかったんですね。

尾崎　それもあるかもしれないし、会社として面白いカードが組めなかったこともありますよね。でも、去年からは良くなってきてるんですよ（ニッコリ）。だから、経営的にはもうちょっと選手を抱えてもいいぐらいなんですよ。

――パンクラスはコンスタントにディファや後楽園で大会を開催してますけど、カード云々ではなく、固定客で毎回埋まってますからね。

尾崎　そうなんですよ。

――この間のディファ大会なんかもカード的には、正直、3月頭のマット界興行戦争の中では一枚落ちましたけど（笑）、それでも埋まってましたからね。

尾崎　……カードが落ちますか。選手がかわいそうだなぁ（苦笑）。

――失礼しました！（笑）。でも、あのカードでもキッチリ入るのはパンクラスの強みだと思いますよ。

尾崎　だからといって、それが選手の甘えになったりとか、お客さんにいい試合を見せられないような状況になるんだったら、それは本末転倒ですからね。だからダメな選手はダメの烙印を押さざるを得ないんです（キッパリ）。

――興行的には上向きってことですけど、テレ東で深夜放映中の『格闘Xパンクラス』も3月で終わっちゃうみたいだし、スポンサーのSammyさんもスポンサードを縮小するとかしないとか噂も聞きますけど。

尾崎　そんな噂が出てるんですか（微笑）。たしかに、あの番組は3月で終わっちゃうんですけど、でもそれはね、前向きな話なんですよ。

――前向きな話というと？

尾崎　『紙プロ』さんだけですよ、こんなこと聞いてくるの（やけに嬉しそうに）。いやね、Sammyさんがスポンサーなのに、あの時間帯の放送っていうのはちょっと深すぎるんですよ。

――たしかにSammyさんは、いま飛ぶ鳥を落とす勢いなんで、あの時間帯のスポンサードをしてるのが不思議と言えば不思議な話ですからね（笑）。

尾崎　これは正式決定してるわけじゃないんですけど、もっといい時間帯で特番的にやるという話が出てるんですよ。なので、あれは発展的な終わり方なんですよ（ニッコリ）。

――社長、笑顔が絶えませんね（笑）。

尾崎　いやいやいや、まだ決定した話じゃないですから（それでも笑顔で）。まあSammyさんに関しては、どれだけ感謝しても足りないぐらいお世話になってますんで。

――そうでしたか（笑）。話題を変えて、新日本との交流話をお聞きしたいんですけど。5・2の東京ドームに謙吾選手が出場することで、バーリ・トゥードとプロレスの2部構成という新日本史上始まって以来の大改革にパンクラスが絡むことになりましたが、今回の謙吾選手の出場は上井さん（新日本取締役）のご指名なんですよね。

尾崎　「デビュー当時からウチにほしかった」ということで、凄く評価していただいてるみたいで（笑）。それで謙吾にも聞いたら「やりたいです」ということで話がまとまったんですよ。

――相手の町田龍太（マチダ・リ

どうなる5・1&2 新日東京ドーム!!

謙吾vs町田、TKvsスミヤ以外も注目カード続々!?

決定カード

髙阪剛 [G-スクエア／チーム・アライアンス] VS **スミヤバザル・ドルゴルスレン** [モンゴルプロレス協会]

町田龍太 [猪木事務所] VS **謙吾** [パンクラスism]

5・1『猪木フィステバル』では、スネ相撲、パチスロ大会、OBバトルロイヤルなどの仰天プランをブチ上げたアントン総帥!! 本誌としては永久電機のお披露目式を要望したい! 我らがドラゴンは大物Xと対戦?

現在、狂犬軍団で活躍中のエンセン。5・2ではVT登場も噂に挙がっているが、プロレスルールでの試合が濃厚だ。魔界倶楽部の星野総裁追放劇はシュートなトラブルとの怪情報も。新たな流れが新日本を襲う!?

バード（バーリ・トゥード＝井上用語）とプロレスの2部構成で行われるという、新日本プロレスが遂に“禁断の地”に足を踏み入れることになった5・2東京ドーム！　バード路線では、呑気なアントンこと町田龍太のデビュー戦（vs謙吾）が決定しており、横綱・朝青龍、ブルー・ウルフの実兄・スミヤ（大幅に略）はTKと対戦する。まさかTKのバードが新日本で見られるとは！　他には、新日バード路線の切り札の中邑真輔がヤン・ザ・ジャイアント・ノルキヤと、ジョシュ・バーネットが超大物Xと対戦するプランが浮上。さらには、あの前田日明が格闘技部門のプロデューサーに就任!?――と囁かれるなど、様々な噂が新日周辺には飛び交っている。5・2まで目が離せない!!

ョウト）選手は、猪木さんが「あと半年もしたら、寝技で日本人で敵うヤツはいなくなるんじゃないか」と言うぐらいの選手なんですけど、何か情報は入ってます？

尾崎　ボクは写真でしか見てないですけど、強い選手だと思いますよ。なんとなく伝わってくるものってあるじゃないですか。顔つきとか見ると強さを感じますよ。

――町田選手にはウチでインタビューしたんですが、呑気な雰囲気を漂わせていましたけどね（笑）。

尾崎　でも、ある選手がスパーリングしたらしいんですけど、「強い」って言ってましたよ。それは寝技の話なんだけど、町田選手は空手から入ってるでしょ。打撃もできるし、寝技もできて、それを彼がうまくミックスできれば、総合格闘技としては成り立つわけですから。謙吾も町田選手のことを甘く見てないですよ。

――謙吾さんは、いい意味でも悪い意味でもハラハラさせる試合が多いんで、勝敗も含めて実に楽しみなカードです（笑）。

尾崎　悩んでますね、謙吾は。あとは実力さえつけば完璧なんですけど（笑）。

――あとは実力！（笑）。

尾崎　だって、キャラクターとしてはなんにも言うことないでしょ。

――そうですね。たしかに、上井さんから狙われて、橋本さんも「ウチにほしい！」って以前から言ってますからね（笑）。

尾崎　あれだけの体力と身体能力と、プロとしてのキャラクターも備わってて、あとは実績だけですよ。練習はちゃんとしてますから、何かきっかけがあれば変わるんじゃないかなって思いますけど。

――それが今回の町田戦になるかもしれないですね。5・2には、他のパンクラス勢の参戦の可能性はあるんですか？

尾崎　オファーがあれば可能性はありますけど、いまのところ謙吾だけですね。

――前日の『猪木フェスティバル』では、新日OBのバトルロイヤルやるみたいですけど、そちらへの船木さんや鈴木選手の出場はないんでしょうか？（笑）。

尾崎　いやいや、そんなオファーもないし、ちょっとそれはないと思います……。

――その沈黙が怪しいですね（笑）。

尾崎　いや、ホントにないですよ（笑）。

写真は、大会終了後バックステージでコメント中の尾崎社長。満面の笑みを浮かべる尾崎社長のバックにはパンクラスのロゴと共に大スポンサーのSammyのロゴが。

藤波vs鈴木戦ですか？ 5月はないと思います（笑）

――『ゴング』に「藤波の相手に驚くべき選手が」みたいな話が出てましたけど、新間（寿）さんも提案していた鈴木選手vs藤波さんという、キャッチレスリングvs無我の対決なんじゃないかと勘ぐっている人も多いみたいですよ（笑）。

尾崎　5月はないと思います（笑）。

――5月は、ない。意味ありげな言い方をしますね（笑）。

尾崎　じゃあ、まったくないです（笑）。新日本さんのリングだけじゃなくて、ウチでもないと思います。

――でも、今後も新日本との交流は継続していくわけですよね。

尾崎　継続していきたいですね。やっぱり新日本プロレスの存在は、ボクらにとって大きいですから。パンクラス旗揚げのトップ2人は、新日本プロレス出身ということもあるけれど、それ以上にプロレス業界の中で新日本さんは単に老舗というだけじゃなくて、大きい影響力を持っているところじゃないですか。

――話題や注目度はいまだに高いですし、しかも初のバーリ・トゥード敢行ですからね。でもやっぱり、ビジネス的なことも参戦の理由としてあるんですか？

尾崎　もちろん、ビジネスとして成り立たなかったらやりませんけど、上井さんとの信頼関係が大きいんですよ。ダメになった鈴木vs健介戦の話をしてる間に信頼関係が生まれたんで、変な交流にはならないと思いますし、これからもやらせていただきたいなと思いますよ。

――鈴木選手なんかは「プロレスルールの試合にパンクラスの選手を出すということは認めない」って言ってましたけど、新日本参戦の基本ラインは総合格闘技ルールになるんですよね。

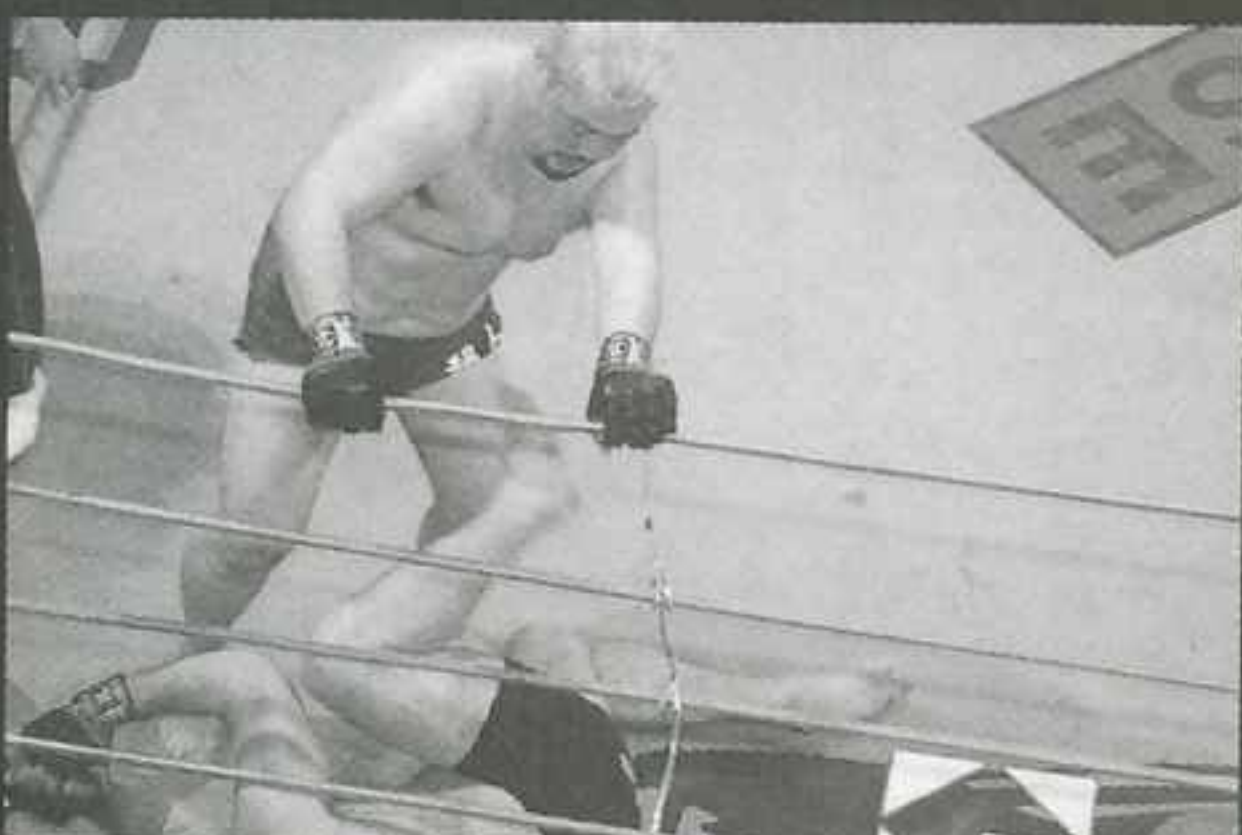
尾崎　基本的にバーリ・トゥードっていうのは外せない部分がありますけども、今後たとえばウチでプロレスをやりたい選手が出てきた場合、そのときはまた考えて（新日本に）お願いするかもしれないです。ただプロレスって、格闘家の中で甘く考えてる人もいるかもしれないですけど、そんなに簡単じゃないことはボクは凄いわかってますから。

――鈴木さんなんかも、難しさを知ってるからこそ「ダメ」と言ってるところもあるんでしょうね。

尾崎　でしょうね。そんなに簡単じゃないですよ。だから、謙吾が魔界倶楽部に入ることはないですよ（笑）。

2003.3.8 PANCRASE『HYBRID TOUR』／ディファ有明

ここ最近、アグレッシブな試合を連発し評価も急上昇中のアライケンジだったが、この日はセコンドにTKを従えた、昨年のJTC全国大会75キロ級以下覇者・関直喜の開始早々のフロントチョークの前に無念のタップ。試合後は花道を全力疾走で引き上げていった

4月12日の後楽園大会でヒカルド・アルメイダと対戦が決定している佐々木有生がリング上からマイクアピールを行った。「ヒカルド・アルメイダというトップクラスの選手と試合ができ光栄です。しかし、自分の技術が引けを取るとは思っていないので必ず勝ちます！」

前回の謙吾戦に続き、大応援団（その数ざっと50人以上）を引き連れ登場した超人クラブの石井淳。客席からの大歓声にノッてサッカーボールキックの連発からのグランドパンチでジェイソン・ゴドシーから見事勝利！　会場はこの日一番の盛り上がりを見せた

――いや、それはぜひ見たいですよ！　でもマスクを被ってもタトゥーで正体バレバレでしょうけど(笑)。

尾崎　いやいや(笑)。でもね、(バス・)ルッテンを見ればわかるけど、新日本の他の選手と比べるとまだまだじゃないですか。よっぽどちゃんと練習してやらないとダメな世界ですからね。ウチの選手の中でプロレスがやりたいっていう選手が出てきても簡単にはやらせないと思いますよ。まだ具体的にそういう選手が出てるわけじゃないんですけどね(微笑)。でもルッテンには頑張れと言いたい。好きだから。

――格闘家のプロレス挑戦ってことで言えば、社長は『W―1』はご覧になりましたか？

尾崎　見ましたけど、やっぱり格闘家はプロレスを安易にはできないなっていうのを感じましたよ。別に『W―1』の興行が悪かったとかじゃなくてね。

――『紙プロ』の対談で武藤さんが船木さんに「フナちゃん、『W―1』出ない？」って誘ってましたけど、それはファンも見たいと思うんですよね。

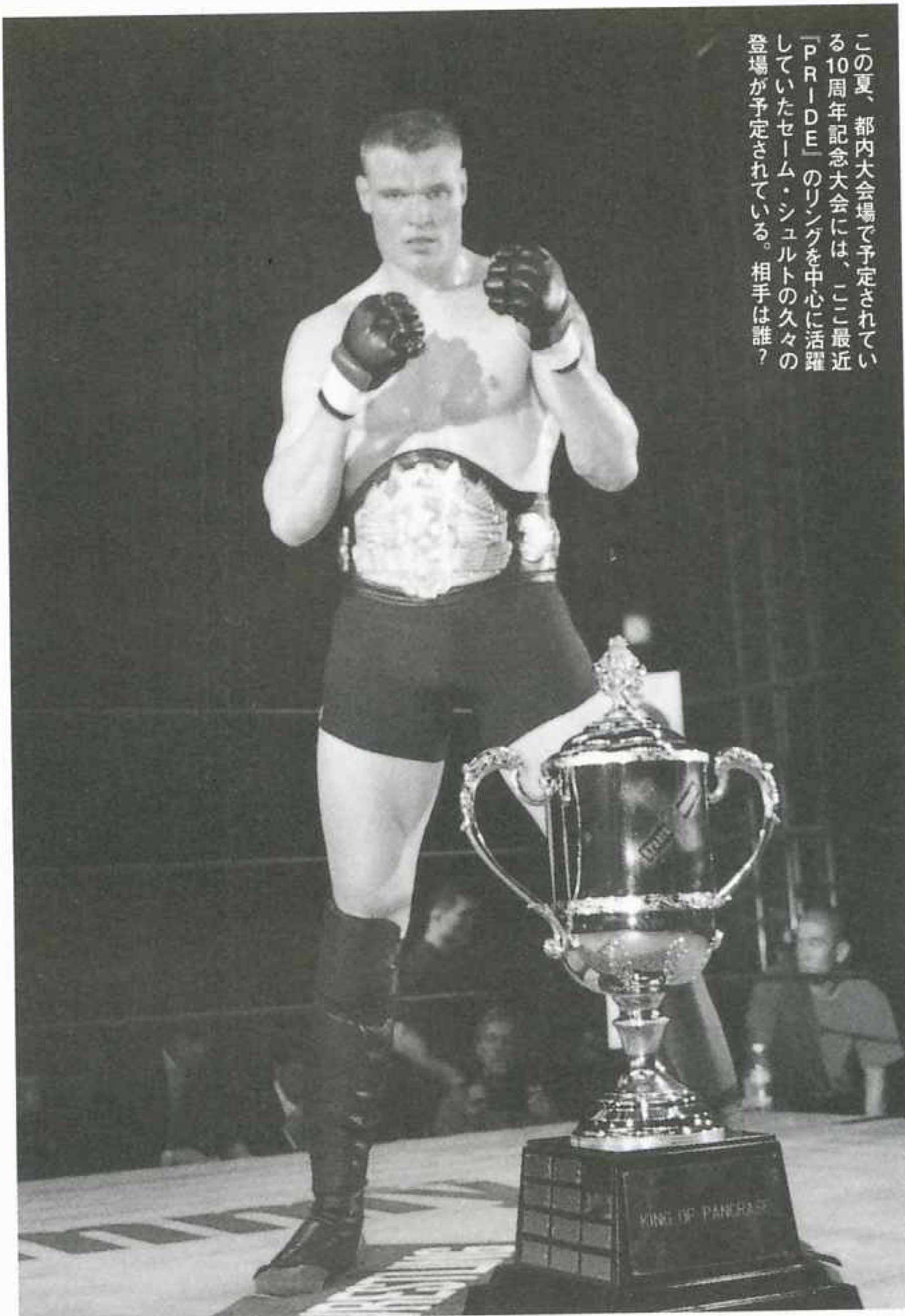
尾崎　それは選手本人が考えることですけど、船木は役者ですからね。ボクの中でやっぱりプロレスするのはプロレスラーだと個人的には思うんですよね。それより、今年の船木は映画にボンボンボーンと出ますから、そっちを期待してもらえればと思います(笑)。

――なんか、3月中旬から続々と公開されるみたいですね。

尾崎　去年は「『踊る！さんま御殿』しか出てこない」って言われてましたけど(笑)。それはロケばっかりずっとやってたからで、今年は船木の役者姿がたくさん見れますよ。

――それは実に楽しみです！　でも『W―1』なんかは、逆に役者だからこそ出てもらいたいですよ。役者繋がりでいえば、『オースティン・パワーズ』に出ていたジョー・サンとの絡みとか見たいんですけどね(笑)。

尾崎　まぁ、『W―1』に関してはボクがとやかく言える立場じゃないんで。

この夏、都内大会場で予定されている10周年記念大会には、ここ最近『PRIDE』のリングを中心に活躍していたセーム・シュルトの久々の登場が予定されている。相手は誰？

――そうですか。逆のケースで言えば、ライガー選手みたいに本格的に総合の練習を積んでいない選手がパンクラスに上がって、その後の〝郷野発言〟であったり話題を呼んだわけですけど。

尾崎　ボクはライガー選手に関しては、いわゆるプロレスラーが総合格闘技に出たというより、総合格闘技の素質や資質があった人間が上がったと思いますから。それにライガー選手が強いのは聞いてましたしね。

――ガチンコは強いって昔から言われてた選手ですからね。では、今後も機会があれば、郷野さんが嫌がるようなマッチマイクもされるわけですか？(笑)。

尾崎　郷野には悪いですけどね。(笑)ウチのリングでやって何事にもプラスになるのであれば実現させますよ。

――みのるvsライガー戦はいろんな波紋を巻き起こしましたけど、客を呼んだのは事実ですし、それこそビジネスとしてはありですよね。

尾崎　そうですね。だからパンクラスは、いろんなイデオロギーがあるリングにしたいんですよ。鈴木がやりたいことや郷野のやりたいことが、ルールの中でまっとうできるんなら、いろんなイデオロギーの対決があっていい場所と考えてますから。もしかしたら郷野vsライガーとかもあるかもしれないですよ(微笑)。

――それは見たいですね(笑)。今年は10周年記念イヤーとのことですけど、まず5月の横浜文体で菊田vs近藤戦というパンクラスの頂上決戦が発表されて、そのあとの8月か9月の首都圏の大会場では久々にセーム・シュルトが参戦してタイトルマッチも考えてるみたいですね？

尾崎　あぁ、その話題ね(微笑)。一応、そういう方向で考えてますよ。

――対戦候補として、新日本の中西(学)選手や安田(忠夫)選手、あと高山(善廣)選手の名前がスポーツ紙紙上を賑わせてましたけど。

尾崎　その件に関しては、この場

修斗からパンクラスに活動の場を移し、3戦目にしてタイトル挑戦となった竹内出だったが、ゴング早々、タックルを交わされると両者スタンドで打ち合いに。マーコートの左フックでぐらついた竹内に、さらにパンチの連打を浴びせ、ネイサン・マーコートの鮮やかなKO勝利！

5月に菊田戦が決定している近藤有己は、鳥合会の小谷野澄雄と対戦。お笑い芸人の三瓶ちゃんにそっくりな小谷野に「三瓶です！」と声援が送られる中、近藤をテイクダウンさせた小谷野だったが、その後、近藤のパンチの集中放火の前にセコンドからタオルが投げ込まれた

グラバカの三崎和雄とタイガープレイスの久松勇二という、寝技を得意とする両者の対戦は予想に反して終始スタンドでの攻防で終わり、結果はドロー。試合後、久松は「今度は3Rでやらせてください。どーですか、お客さん!?」とアントン風マイクアピール

を借りて高山選手に誤解だとわかっていただきたいんですよ。

――「そんな話、パンクラスから全然来てない」ってちょっと怒り気味でしたからね（笑）。あの話は、どういう経緯だったんですか？

尾崎 元々はですね、ウチも今年は10周年だし、シュルトはウチの（無差別級の）現役のチャンピオンだから、今年は出場させたいなって思ってるんですよ。でもシュルトの相手だったら120キログらいの選手を呼ばないといけないし、それってかなり大変ですよね。それでこないだの（ミドル級の）調印式のときに、記者の人がシュルトの相手に「高山選手とか中西選手はどうですか？」ってウチの常務に聞いてきたんで「2人ともいい選手ですよね」って言ったら、翌日バーッと載ってしまったんですよ（笑）。

――アハハハ！ それがあの記事の真相だったんですか（笑）。

尾崎 ボクはその場にはいなかったんで、次の日の新聞を見てビックリしたんですよ（笑）。

――藤波さん状態ですね（笑）。ただ、現状での新日本との友好関係を考えると、中西選手であったり、安田選手であったりとか、改めて高山選手にお願いしに行く可能性は出てくるかもしれないと？

尾崎 またこちらで喋っちゃうと問題起きるかもしれないので、あんまりいい加減なことは言えないですね。

（美濃輪と石井が）会場に来なかったのは、海外に練習に行ってたからですよ

3月のディファ有明大会に姿を見せなかったことから、「パンクラス離脱か？」との噂が流れた美濃輪と石井。2人は大会当日は海外にいたとのこと

――同じくスポーツ紙紙上に出ていた、菊田vs近藤の勝者とヴァンダレイ・シウバが対戦というプランはどうなんでしょうか？

尾崎 シウバ選手のことも、記者の方に聞かれたんで「いいですね」って言っただけなんですよね（笑）。

――またしても！ よっぽどネタに困ってたんでしょうね（笑）。

尾崎 でしょうね。そりゃ呼べるもんなら呼びたいですよ（微笑）。

――そうですよね（笑）。

尾崎 ただ、シウバ選手は『PRIDE』さんとの関係があるわけですし、勝手なことは言えませんから。でも、できる限りネームバリューのある選手を呼んで、いいカードをお客さんに提供したいですね。問題が起きなければ、いろいろと実現させたい気持ちはあります。

――4月に後楽園大会があって、5月は新日本参戦に横浜大会もあってと、その後の大会場も決まって。パンクラスが格闘技界のド真ん中を突っ走る勢いですね（笑）。

尾崎 流行りの言葉ですからね（笑）。ただ、ウチは10周年だからとか、そういう考えはあまりないんです。やっぱり苦しい時期もありましたけど、苦しい時期をちょっと乗り越えた気もするんですよ。だから、今年がたまたま10周年だっただけですから。10周年は10周年でちゃんとやりますけど、1万人以上の会場を年に3回、4回やりたいし、どんどん上に行きたいなって気持ちはありますので、期待してもらっていいと思います。

――『PRIDE』は森下社長の件があって、スポンサー撤退の噂もあるみたいですけど、パンクラス的には今年もSammyさんとガッチリと組んでいくと？

尾崎 同じ業界で起こったことですから、まったく関係ないことじゃないです。ウチだけじゃなくて、どの興行も満員になるのが業界の理想ですよ。ボクらはボクらで自分のところの興行を頑張りますけど、他のところも頑張ってほしい気持ちはありますからね。

――それは以前にトラブった修斗に対しても同じですか？（笑）。

尾崎 同じですよ。選手だってウチに出ていただくのに何も問題がなければ、どんどん出ていただこうと思ってます。……優等生発言ですけど（微笑）。

――アハハハ。でも修斗は、どうやら理事会で「パンクラス以外だったらどこのリングに上がってもいい」というようなことが決議されたみたいですけど（笑）。

尾崎 そこまで嫌いますか（苦笑）。

――嫌われてるみたいです（笑）。そういえば、最近の噂によると、美濃輪（育久）選手と石井（大輔）選手がパンクラスを離脱するんじゃないかっていろいろと騒がれてますけど、どうなんですか？

尾崎 なんか今回、スキャンダラスな話題ばっかですね（苦笑）。

――そうですね（笑）。この噂も美濃輪選手と石井選手が（3・8ディファ有明）会場に来なかったというのと、タイミング良く社長が「リストラ」「契約見直し」の話をされたんで、各方面で推測されてるみたいなんですよ（笑）。

尾崎 いやいや、「リストラ」とかの話とは全然別ですから（笑）。それに会場に来なかったのは、2人ともオーストラリアに練習に行ってたからですよ。

――きな臭い話はないと？

尾崎 と思いますよ（微笑）。まあ、何か動きがあったら、またお話ししますから。

――わかりました。何か動きがあったら、また話を聞きに来ます！

尾崎 まぁ、その話は、ちょっとおいといて、ボクが言った、アイツの悪事はしっかり載せてくださいよ（微笑）。

――（無視して）社長、今日はありがとうございました！（笑）。

【3月11日／パンクラス事務所にて収録】

Here Comes

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

流血の魔術？最強の演技？

~~すべて~~ 全日本の実況はガチンコである

元『全日本プロレス』実況担当

倉持隆夫

聞き手／吉田豪　構成／松澤チョロ　撮影／堀江ガンツ

designed by matsu (Two three)

昭和新日ファンから熱い支持を受けたアナウンサーが古舘伊知郎なら、昭和の全日ファンから最も愛されたアナウンサーは、この人、倉持隆夫で間違いない。その丁寧な口調から、一転、甲高い声での臨場感溢れる実況で人気を博していた倉持アナ。解説の山田隆氏、竹内宏介氏との掛け合いは当時の全日本の風景にマッチし視聴者に不思議な安心感を与えてくれた。現在、スペインで第二の人生を謳歌している倉持さんが一時帰国していると聞き、自宅を訪れ当時の思い出をたっぷり語ってもらった。

—最近、ネットで連載されてる倉持さんのコラムを読んだら元気そうだったので、ぜひともお話を聞きたいと思って取材に来させていただきました。現在はスペイン在住なんですよね？

倉持　そうだね。あのコラムが100本くらい貯まったら、スペインでの生活の思い出本にしようかなと思ってますんで、あと2～3年は書くつもりですよ。

—「スペインの女性は裸同然だぜ！」とか毎回のように書いてあって、スペイン・ギャルの魅力が嫌というほど伝わってきましたけど（笑）。

倉持　やっぱり、それぐらい若い感覚で書かないとね。ホームページとか読んでる世代は20～30代が多いから。

—「●●だぜ！」っていう文体も十分若いですよ（笑）。

倉持　あの文体もワザとなんですよ。いままでああいう書き方はしたことはなかったんだけど、そっちの方が親しみやすいでしょ？

—だからお色気ネタも折り込んでるわけですね（笑）。スペインには日本のプロレス事情とか伝わってきます？

倉持　全く伝わってこないから、インターネットで結果を見てる程度だね。向こうは、プロレスのようなショースポーツって一切ないもの。隣のフランスまでならあるけどね。日本でも使ってるけど、〝ルチャリブレ〟なんかはスペイン語なんだよ。

—「自由への闘い」って意味なんですよね。

倉持　そう。だから、こっちでの喧嘩風景なんか見てると「ルチャリブレ！」なんてよく言ってるよ。それとスペインの国技だけど、闘牛はホントに凄いからね。

—そういう命懸けの闘いを日常的に見てるから、ショースポーツが発展しないわけですか。

倉持　あと、スペインの人はアメリカの文化があまり好きじゃないんだよね。非常に保守的で古典的な国だから、むしろアメリカ人より日本人が好きっていう感じでね。

—そういうわけで、今日はスペインでは受け入れられないプロレスの話をたっぷりとしていただきましょう（笑）。倉持さん自身、全日本の実況の仕事を始める前にはプロレスに対してどう思ってたんですか？

倉持　やっぱり日本テレビ＝巨人軍だったから、スポーツアナウンサーとして入局して、あくまでもやりたかったのは野球中継ですよ。だけど、何年経ってもサブのアナウンサーでメインにはなれなかったの。その頃、ボクの上に大御所が何人かいたから。でも三年ぐらいは毎日、後楽園球場通いしてたんだよ。アナウンサーとして入った以上はどうしても画面に映ってメインでしゃべりたいからね。

—同じ日本テレビの徳光さんなんかは、野球中継をやりたかったのにプロレス中継へ回されたから、最初はプロレスのことが好きじゃなかったし軽蔑すらしてたって著書で告白されてましたね。だけど、いまはプロレスを中継できたことに感謝してるってことでしたけど。

倉持アナウンサー、15年間ありがとうございました。　全日本プロレス、レスラー・社員一同

王道・全日本プロレス中継の実況担当として多くのファンから愛された倉持アナ。全日本での最後の実況が終わるとリング上でタイガーマスク（現・三沢）から花束が贈呈され、会場では実況担当者としては異例のウェーブが巻き起こった

倉持　そうでしょ。それで、ボクの兄貴分だった徳光和夫が「芸能方面に行きたい」ってアピールしたもんですから「代わりは誰かいるか」ってことになって、それまで清水一郎、徳光、倉持でやってたのが、それじゃあってことでボクが上に上がったわけですよね。

—それで、プロレスに対する印象は？

倉持　なにしろ身体の大きい人ばっかりじゃない？

—特に昭和の全日本ですからね（笑）。

倉持　凄いのばっかりいたから、「これがスポーツ選手なのか？　ただ身体がデカいだけじゃないか」っていう印象があったね。

—またハッキリ言いますねえ（笑）。

倉持　でもボクは、西条正三とか大場政夫とかボクシングから入りましたから、格闘技は嫌いじゃないんですよ。ただ、ボクシングをやってる連中っていうのは真面目な連中が多くて、ショーアップスポーツに対する偏見があるわけ。

—ましてや金銭的に恵まれない人も多いから、プロレスに対しての偏見や敵意はかなりあったんじゃないですか？

倉持　あったねぇ（しみじみと）。それで、ボクシング班とプロレス班っていうのは別なチームだったんだけど、その間にキックボクシングがあって、ボクは安部直也なんかと一緒にやってたの。

—現在の安部譲二さんですね。

倉持　そうそう。ボクシングがちょっと廃れてキックボクシングがゴールデンタイムになって、そこでメインを張れるようになってタイから衛星中継とか何度かやったんですけど、それも年ごとに衰えてきちゃってね。

—安部譲二さんも捕まっちゃうし（笑）。

倉持　スキャンダルが多い男だったからね（笑）。招聘元のスポンサーもちょっと危ない感じがしたんで、日本テレビが降りるような時代になったんですよ。それと並行してプロレスをやってたんですけど、徳光がいなくなって必然的にメインに昇格したって形で、それ以来かれこれ18年間ですからねぇ（しみじみと）。

—だけど実況を見てる限りでは倉持さん自身が本気で熱狂してる感じが伝わってきたし、プロレスに対してそれほど距離があったようには見えなかったですよ。

倉持　それは徳さんの教えで、「やる以上は、好きにならなきゃダメだよ」ってことですよ。プロレスって千の技があるって言うじゃない？　だから毎日のように新日本や国際プロレスも観に行ったりしてたからね。なにしろ技を覚えなきゃいけないんでね。

—本当は技の名前も知らなかった、と（笑）。

倉持　だから、まずはそこからだったね（笑）。でも、観てるうちに全日本の選手の人柄とかキャラとか段々良く見えてきたし、合宿なんかにもしょっちゅう行って技とかも教えてもらったりしたもんですよ。

—つまり、実際に選手に技を掛けてもらってたんですか？

倉持　掛けられるんじゃなくてデモンストレーションして、それで解説してもらうって感じで。技を極めてても、最初はどこが痛いのかわからないからね（笑）。それまでは正直言って、プロレスラーって掛けられたフリをしてるのかなっていうぐらいの認識だったんですよ。

—それが、どうやら本当に痛そうだとわかったわけですね（笑）。

倉持　ボクシングの場合はちゃんとマウスピースを入れてヘッドギアをして、ホントの殴り合いをするじゃない？　プロレスの場合はマジでやっちゃったらそのまいっちゃうから、寸止めだよね。だから、これは練習しなくても済むスポーツなんだなっていう印象が最初はあったから。

—ところが、ショーを成立させるためにはかなりの練習が必要なわけですからね。

倉持　ところが、こっちは「ロープに飛んでいって何で跳ね返ってくるの？」っていうところから始まったからね（笑）。ホントの真剣勝負だったら、ロープにしがみついたら逃げられるじゃないかって思ってたし。

—もしかして、そういうことを選手に直接聞いたりしたんですか？

倉持　聞いた聞いた！

—ダハハハ！　それには、どう答えてくれたんですか？（笑）。

倉持「昔から、こういうふうになってんだよ」って（笑）。

——馬場さんは「あれは催眠術なんだよ」ってよく言ってましたけどね（笑）。

倉持　「しょうがないんだよ。お前もロープの反動ってアナウンスで言うじゃないかよ」って言われて（笑）。だから「ああ、間違ったこと言ってなかったんだ」って。

——疑問は全部ぶつけてたんですねえ（笑）。

倉持　もちろん全部！　だって、聞かないとわかんないんだもん。足四の字固めとかもデストロイヤーに「何が痛いんだ？」って聞きましたよ。

——ダハハハハ！　あれは痛いですよ（笑）。

倉持　だって、掛けるまでに随分時間が掛かるわけでしょ？　技を掛けられるように身体をひねっていくっていう、そういうものがプロレスなんだっていうようなことがしばらくしてからわかりましたけどね。

——そういったプロレスならではの演出もあるけど痛みはリアルだ、と。

倉持　そうだね。実況を始めたばっかりの頃は流血戦っていうのが盛んにあった時代なんで、「何で流血しなくちゃいけないのかな？」って思ったんだけど、流血する場所が決まってるわけだからさ。同じところを叩けば、かさぶたが取れて血が出るんだよね。

——それに、額からの流血が視覚的にも一番効果的ですからね。

倉持　俺が額を15針縫った時なんか新聞の三面記事に載ったんだよね。あれはマジだったんだけど。

——ありましたねえ（笑）。あれはザ・シークに襲われたんでしたっけ？

倉持　シークとブッチャーがシングルで闘った後楽園の最終戦でね。それは凄い長いシリーズだったから、エンターテインメントの部分でやるパターンがなくなっちゃって、それでどうもボクが仕込まれたらしいんですよ。

——仕込まれたというと？

倉持　「アイツはいつもオレたちに付きまとって取材に来るから、ちょっとからかってやろう」って（笑）。オレたちは大会が終わったら、しばらくアメリカに帰ってるわけだし、わかりゃしないんだからっていう裏話を後になって聞きましたけどね（笑）。

——試合を盛り上げるために流血させられちゃったわけですか（笑）。

倉持　向こう（アメリカ）のプロレスっていうのは当時、すべてユニオンですから団体が放送用のアナウンサーを雇うわけですよ。この試合しゃべっていくらとか。だからみんな、組合意識が非常に強いわけです。でも日本の場合は放送局があって、団体があってで完全に別なんだけど、仲間意識と思い込んでたらしいね。冗談じゃないよ、あの力で引っ張られたらたまったもんじゃないから（苦笑）。あのときは後楽園のひな壇の13列目ぐらいまで逃げ惑ったかな？　だけど、それ以上マイクのコードが延びないんだから。

——それでも実況は続けないといけないし（笑）。

倉持　もちろん！　当時ボクのアシスタントの松永（二三男）君っていうのがいて、ボクがしゃべってると彼がモニターを持って走るわけですよ。それでも、とうとう、つまずいて馬乗りになられたのかな？

——シークが馬乗りに！

倉持　レスラーに馬乗りになられたら、もうおしまいよ。それでボクは、松永にポーンと自分のマイクを投げたんですよ。松永はボクのやられてるシーンを実況し始めたんだけど、しゃべり続けるもんだからブッチャーもシークもノッてやめないんですよ（苦笑）。

——実況している限りはショーが続行されますからね（笑）。

倉持　「最後までやればいいんだ」ってことで。それで馬乗りになってファンの目にはわからないように、爪の間に●●●を入れてるのわかってたんだけど、ヘタに動いて目に当たったりしたら困るから、ガッと掴まれた時には、もう観念したんですよ。

——下手に動かないで額を割られよう、と（笑）。

倉持　アイツら切るのうまいからワザと動かずにいたの。そしたら動脈まで入っちゃったからね！　最終戦だったからボクもオシャレして、その日おろしたてのダブルの高いジャケットだったんですけど（笑）。

——一日で台無しになっちゃったわけですか（笑）。

倉持　パンツまで全部ダメ！　その後、担架で運ばれたんだけど、その日は最終戦だから日本テレビのお偉いさんも来てたわけ。その運動部長も、そんなことがまさか起こるとは思ってないからさ。

——「ウチの若い者がやられた！」って（笑）。

倉持　そうそう（笑）。自分とこのアナウンサーに手を出すとは思ってないから、もうオロオロしちゃってね。でも、プロデューサーなんかは冷静に中継車にいましたから、知ってたんでしょうね。

——今日はアナウンサーが襲われて血塗れになるってとこまで知っていたと（笑）。

倉持　やられるとこ見てニヤってしてたんじゃないの？（笑）。「これは盛り上がったな」って思ってたかもしれないけど、最終的には放送できなくてお蔵入りになったからね。ウチの社長が、あまりにも酷すぎるっていうんでね。

——そこまでやられた以上は、まだ流してくれた方がいいですよね（笑）。

倉持　それから何年後かに、どうしても流して欲しいっていう視聴者からの要望があったみたいで『全日本プロレス思い出のベスト10』とかで一回は放送したみたいですけど。あの時は、ほとんど脳震盪状態で救急車も来ましたからね。

——実況席には戻れなかったわけですね。

倉持　もちろん。その後、選手の控室で横になってたけども、ドロドロ血が流れてきますし、馬場さんの声で「病院に連れて行け」とか聞こえてきて、選手がいつも担ぎ込まれる赤坂の前田外科に行ったんだよね。その先生はもうレスラーの治療に慣れてるから、平気な顔して「じゃあ縫おうか」っていう感じでバチッバチって縫って、縦7針、横8針だったかな？

——トータル15針！　でも、ブッチャーとは繋がりも深かったんですよね。一緒にレコードを出したりもしてたし。

倉持　ああ、懐かしいねぇ……（しみじみと）。ブッチャーとは試合終わってからよくメシ食ったりしてね。ホントに仲良し！　ブッチャーは来日の度に、その頃なかなか手に入らなかったボクの大好きなシーバス・リーガルっていうウィスキーを必ず3本持ってきてくれたんだよね。それも俺だけにだよ（誇らしげに）。

——取材の度に「マネー！　マネー！」と要求する、ケチで有名なブッチャーがですか（笑）。

倉持　シークはシークで、アメリカ遠征の度に大歓迎されたしね。

——シークはデトロイトの英雄なんですよね。

倉持　そうそう。デトロイトに行ったときは、「あの時のエンターテインメントは悪かった。大丈夫だ

足四の字固めとかもデストロイヤーに「何が痛いんだ?」って聞きましたよ

ったか？」とか言ってくれて（笑）。

——流血＝エンターテインメントですか（笑）。

倉持　メシとかも大盤振る舞いで、しまいには「あの時のお詫びだ」って宝石までくれてね。

——アラブの富豪が付けてそうなヤツですか（笑）。

倉持　日本人が付けても似合わなそうなヤツでしたけど、ちゃんと宝石箱に入れてね。もうどっかに行っちゃいましたけど（笑）。それから、シークの仲間連中とデトロイトで一晩中遊んでっていう思い出がありますよ。

——シークと一晩中どんなことをして遊ぶんですか？

倉持　飲みに行ったりクラブに行ったりね。シークっていうのはデトロイト地区の顔だから、自分の事務所にみんな呼んで。要するにパーティーだよね。

——シーク主催のホーム・パーティーですか（笑）。

倉持　デトロイト地区のレスラー連中が、みんな集まってひたすら飲んだりね。試合が終われば敵も味方もないから、ファンクスとかも来てさ。ボクらテレビスタッフから向こうのプロモーターからファンの人とかまで集めて最後はホテルを貸し切って、もう朝まで飲めや歌えやでね（笑）。あとは、やっぱり薬ですよね。

——ドラッグ関係ですか？

倉持　そうそう。マリファナですから、みんな。ボクは決して手は出さなかったですけど、当時、同行した『東スポ』の記者なんかは得意になってやってたね。

——まあ、いまだから言える話ですよね（笑）。

倉持　あとはねぇ、（小指を立てて）これと（両手をいやらしく動かしながら）これですよ（笑）。

——ダハハハハ！　セックス＆ドラッグ＆プロレスリングですねぇ（笑）。

倉持　（アルバムをパラパラ見ながら）何か、その頃の写真がなかったかなあ……。あ、これはシークに額を切られた時の写真だ。この時は後楽園ホールで収録してたんだけど、やられた瞬間も血みどろの瞬間も全部ウチの報道記者がモニターで見てたわけですよ。それで、その日の『今日の出来事』に出そうとしたんだから！

——「これは大事件だ」、と。たしかに、この写真はどう見ても報道写真みたいですからね（笑）。

倉持　結局、「社内のことだから勘弁してくださいよ」「これはプロレスですから」っていうことで、流しはしませんでしたけどね。でも実際に切られてるわけだから、ホントだったら傷害事件でしょ？　ちゃんとリアルな映像が残ってるわけだから、報道部はニュースとして流せば視聴率を取れるわけですよ。

——それでも倉持さんはあえて訴えないことにしたってことにすれば、男気も上がるだろうし（笑）。

倉持　そうだよね（笑）。だけど、1週間か2週間経った後に馬場さんと元子さんがボクのところに来て見舞金を頂きましたよ。クリーニング代ってことで（笑）。

——流血手当てみたいな感じですね（笑）。

倉持　「倉ちゃん、悪かったな」って、たしか20万円ぐらい入ってたかな？　背広はそんなにしなかったけど、クリーニング代って言い方が格好いいよね（笑）。それでその後、シークから宝石もらってすべておしまい。

——結果的には得したじゃないですか（笑）。

倉持　かもしれないね（笑）。痛くもかゆくもないんだよね、アイツら切り方が上手いから。ただ、血が大量に出たから、ボクのファンっていうわけじゃないんだろうけど、日本テレビへ抗議の電話が凄かったみたいだよね。

——当時は、ファンも今以上に熱かったですからね。

倉持　ホント熱かったよねぇ……（しみじみと）。

——いま思うと、シーク＆ブッチャーvsファンクスとか凄惨極まりない試合を普通に放送してましたけど、実況する側としては、ああいうのってどうなんですか？

倉持　いっつもフォークで刺してザクザクにしてテリーが悲鳴を上げてって感じで、パターンは一緒だったじゃないですか？　ボクのしゃべりの言葉も同じじゃつまらないから、どうやってこれを生々しく伝えようかなっていうのがかえって難しかったよね。

——意外と冷静だったんですねぇ。

倉持　俺が自分で刺されたっていう実体験をしてからは、「フォークがグサッと突き刺さった」とか、「力いっぱい肉を引きちぎるように振り下ろした」とか、生々しさを入れるようになったような気がするな。

——切られた経験を活かしたわけですか（笑）。でも、ブッチャーがテリーの腕をフォークでメッタ刺しにするのとか、ボクなんかもホントにヤバいと思ってましたよ。

倉持　ブッチャーvsテリーなんか一番壮絶だったよね。一回、相撲場でその2人がやったことあって、土とか砂の上でテリーが大流血したの。あの時なんかバイ菌が入って大変だったと思うんだけど、その後の処理はどうやってたのかねぇ？　そう考えると、やっぱりアイツらは野蛮人ですよ！

——アイツらは野蛮人！（笑）。

倉持　ホントそう思うよ（笑）。やっぱり、肉体が強いから菌なんて入らないんだろうね。

——ファンクスもタフですよねぇ（笑）。

倉持　いや、タフっていうか、ボクがファンクスの牧場のあるアマリロに1週間いた時なんか、こういうところに住んでるんだったらタフな人間が生まれても当たり前かなと思ったけどね。

——一体、どんな所だったんですか？

倉持　飛行機から下りた途端に竜巻が来てね。こっちは、そんなの生まれて初めて見るじゃない？　竜巻がガーっと来て車も屋根も吹っ飛ぶような所に住んでるんだよ。アイツらのランチにも行ったんだけど、馬が何百頭もいて従業員のカウボーイもウジャウジャいてね。彼等はそこの親分で街の英雄なんだから、レスラーやらなくても十分食っていけるのにさ（笑）。

——やっぱり注目を浴びるのが好きなんでしょうね（笑）。

倉持　そうなんだろうな（笑）。行って驚いたんだけど、アマリロのアリーナなんていうのは小さい小屋でね。プロレスって華やかな一面、田舎芝居のような空しい仕事もやってるんだなって思ったよね。

——あの頃は、そういうローカ

リスタートの「青空プロレス道場」でも倉持節が炸裂！

担当チョロの不手際で直前までゲストが決まらなかった「青空プロレス道場」（呆れた山口は失踪。代わりに駆けつけてくれたターザンに感謝）。イベントより先に行った今回のインタビューでの倉持節にしびれて、急遽、倉持さんに出演依頼。内容はというと、活字にできない危険な話のオンパレード。さすがのターザンも話題を変えようとしたぐらいだった

Here Comes

実際に切られてるわけだから、ホントだったら傷害事件でしょ？

1980年5月2日、後楽園で行われたシークvsブッチャーの夢の対決。倉持アナは両者の乱闘に巻き込まれ、ご覧のように大流血となり額を15針も縫う大怪我を負った

ルなテリトリーがいくつも存在してましたからね。

倉持　空港の周りもホテルが2～3軒あるぐらいで、1週間いたらホントに何にもすることがないんだからさ。

――そりゃ、たまにプロレスの興行をやればお客さんも入るなっていう（笑）。

倉持　そこにローテーションでジェリー・ローラーとか南部のレスラーが定期興行で来るんだけど、豚小屋みたいな会場が超満員になるんだから。小さくてフワフワのリングでテリーとドリーが一生懸命やってたんだよ。

――他に当時、交流があった選手というと？

倉持　アメリカに行く度にパーティなんかに招待されたのは、ハーリー・レイスですね。もの凄い親日家で、彼の家には畳の部屋があるんだよ。

――あの風貌は畳の部屋と似合いますよねぇ（笑）。

倉持　兜とか刀がたくさんあってね。デカい家でしたけど、泊まらせてもらって毎日奥さんの手料理を食わせてもらったし、夜は夜で近くの飲み屋に行ったりしたね。

――あの人と地元を飲み歩いたら、かなり壮観でしょうね（笑）。

倉持　だって、本当に顔なんですよ！　飲みに行っても、向こうの暗黒街の人たちがこっちに向かって最敬礼してくるようなもんでね（笑）。

――さすがだなあ（笑）。

倉持　ホントそうなんだから（笑）。あと鶴田とも、彼がベルトを持った旅で1ヶ月間ぐらいアメリカで一緒だったしね。

――ＡＷＡのサーキットですね。

倉持　鶴田は常にベビーフェイスだから、向こうでもモテましたよ。

――日本人が向こうでベビーフェイスをできたっていうのも凄いですよね。鶴田さんといえば、アメリカだとホテルに女の子が並んでたとか、女性ファンがパンツを投げてきたとか自分でもよくネタにされてましたけど、それは本当だったんですか？

倉持　モテたというか、鶴田自身がお好きな方で、それなしでは生きていけなかった男だから（笑）。

――ダハハハ！　かなりの下ネタ好きでしたからね（笑）。

倉持　結果的に死んだのもそれが原因だもんな（笑）。

――そういう噂もありましたね（笑）。ちょっとフォローすると、鶴田さんってボクも取材したことがあるんですけど、すごく人柄のいいナイスガイでしたよね。

倉持　そうだね。ボクも何度も彼の家に行きましたけど、それはもう大きなぶどう園で、お家も凄いしね。

――山梨のあの一帯は、見渡す限り鶴田家でしたよね（笑）。

倉持　そうそう。あの辺は鶴田姓ばっかりだったよね。彼は山梨の牧丘のボンボンだから、人の良さそうなところがあったじゃない？

――苦労知らずなようでタフだったし。

倉持　ただ、お金にはシビアな人だったね。まあレスラーっていうのは、みんな身体を売って仕事してるわけだから、自分の身体でナンボになるみたいな考え方は鶴田に限らず根底にあるんだけどさ。

――鶴田さんは特にマイペースで相撲的な習慣も嫌いだから、若い選手にも奢ったりしなかったとは鶴田さん自身からも聞きましたよ。

倉持　お相撲出身の天龍さんとは、そこが違うよね。天龍は「さあ、行こうか！」って感じだから。

――天龍さんはギャラも全部使うタイプですからね（笑）。

倉持　ジャンボはあまりそういうところはなかったね。その代わり自分の大好きな何十万もするギターを買うとか、そういうものにお金を使ってたから。

――他の人が飲んだりギャンブルしたりしてる頃、鶴田さんはフォークのリサイタルを開いてたわけですよね（笑）。

倉持さんの自宅にもよく泊まりに来ていたというジャンボ。無邪気におんぶする倉持さんの表情から2人の親密ぶりが伝わってくる。オー！

倉持　あぁ、やってたねぇ……（しみじみと）。レスラーっていうのはいつまでもできる商売じゃないっていう気持ちがあったみたいで、シコシコお金を貯めてたみたいですよ。まぁ実際、貯められる境遇にあったからね。

――その考え方も、結果的には間違ってなかったわけですからね。

倉持　いい言葉で言うと質実剛健だよね。ジャンボなんかは我が家にも何度も来て、ここのソファーでもよく寝ていきましたよ（笑）。

――他には誰かレスラーは遊びに来てました？

倉持　あとは金がなくてメシの食えない時代の大仁田厚とか三バカが全部来ましたからね。

――渕（正信）さんと（ハル）薗田（＝故人）さんですね（笑）。

倉持　それでメシを食わせてやったり、あとタニマチを探してあげたもんですよ。

――そんな世話までしてたんですか（笑）。

倉持　もはや世話役ですよ（笑）。そういう人たちを何人も紹介しましたね。それでタニマチができるとボクとは離れちゃってそっちと直で付き合いますから、それはそれでいいんですよ。

――大仁田さんは当時から、いまみたいな感じだったんですか？

倉持　ニタはとってもいい性格でしたよ。

――ニタですか（笑）。

倉持　いっつも朗らかでね、相当苦しい時代を過ごしてたんだろうけど、それをあまり表に出さない人だったね。だけど、いまは先生でしょ（笑）。こんなに大物になるとは思わなかったよね。

――国会議員にまでなるとは誰も想像しなかったですよね（笑）。

倉持　いつかやるぞとは思ってたんでしょうけど、先天的な感覚っていうか臭覚っていうのを持ち合わせてたんだろうな。ホント、生き方が上手いよね。ニタといえば印象的な試合があって、タンパでチャボ・ゲレロからジュニアヘビーを獲った試合を実況したんですけど、あれで男になったなって思って。あのとき、まさかチャボ・ゲレロに勝つとは思わなかったからなぁ……（しみじみと）。

――倉持さんにとっても意外だったんですか？

倉持　プロレスって唯一結果が予測つくスポーツで、流れはわからないって感じだけど、ウチのプロデューサーの原章（※現・日本テレビ常務＆東京ヴェルディ会長兼社長）っていうのがいて、決してボクにはそういうふうなことを言わないんですよ。

――あ、倉持さんは何も聞かされてなかったんですか!?

倉持　一切聞いてないです（キッパリ）。「勝負がどっちに転ぶかわからない世界と思ってやってくれ」っていうのが、唯一ボクとの約束でしたからね。

――だから、常に「一体何が起こったんだ！」って感じの新鮮な驚きが伝わる実況になってたわけですね（笑）。

倉持　ボクも絵作りをしてるディレクターも一切教えてもらってない。これが前もってわかっちゃうと、作ったような放送になっちゃうじゃない？

――どうしてもワザとらしくなりますよね。

倉持　ボクと古館伊知郎の違いはそこですよ。古館は何が起こるかってことまで知ってたって話ですからね。

――だからなのか、新日本の中継では「これは何かが起きそうだ！」みたいな引っ張り方をよくしてましたよね。

倉持　だけど、ボクはホントに何が起こるかわからなかったから。知ってるのはプロデューサーと馬場さんだけだからね。

――トップの2人だけですか！　そこは徹底してたんですねぇ（笑）。

倉持　ただ一回だけかな？　ミネアポリスに行った時にプロデ

Here Comes

これが倉持さんが実況を務めていた当時の全日本プロレス解説陣。上が倉持さんの先生役だったという解説の山田隆氏とジャイアント馬場さん。左は、いつまでも少年の目でプロレスを見ていたという竹内宏介氏。蘇れ、昭和全日本ッ！

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

ィと馬場ちゃんが60分一本勝負をやったんだけど、この時は試合前に馬場ちゃんの控室に顔色を見に行ったんですよ。それで「倉ちゃん、ちょっと」って言うから「何ですか？」って聞いたら、ニヤッと笑って「今日は長い試合になるよ」っていうアドバイスをもらったんだよね。

――珍しくヒントをくれた、と（笑）。

倉持　「放送時間に入りっこないんだから適当に」って。ここはアイツのホームなんだから俺が勝つわけにはいかないんだよっていうことを示唆したわけですよね。18年間しゃべってて、そういうことを聞かされたのは後にも先にも、その時だけだったよね。

――18年間で、ただ一回だけですか！

倉持　そう。だって60分間俺の甲高いあのペースでしゃべり続けたら、喉が涸れちゃいますよ（笑）。

――ダハハハ！　馬場さんはその辺を気遣ってくれたんでしょうね。倉持さんの実況は、考えてみると興奮し過ぎて声が嗄れてる印象が強いですよ（笑）。

倉持　うん。でも、それも自分の演出上なんですよ。東京マラソンなんて長いのもしゃべってますから、最初からわかってればペース配分はできるんですけど、そのトーンだと受けないんですよね。

――プロレスには向かないわけですね。

倉持　プロレスはとんでもない高さからいかないと（笑）。やっぱり、竹内宏介との会話は、こっちがポーンと落として低いトーンの方が向こうが活きてくるでしょ？

――そうですね（笑）。

倉持　しゃべりながら状況に合わせて声を全部作っていくのよ。当時は何段階も声が出たしね。

――意識してメリハリを付けて実況していたんですね。

倉持　そうだね。いまをときめく福沢朗なんかはボクのトーンの作り方で「ファイヤー！」なんて言い出したわけだから（笑）。

――「ジャストミ～ト！」とかですね（笑）。

倉持　福沢は「プロレスのおかげです。倉持さんに引っ張ってもらってホントにいまでも感謝してます」って言ってたからね。

――福沢さんは、あのスタイルにピッタリ嚙み合いましたからね。

倉持　それで、いまはもうトップになっちゃったからね。

――倉持さんとしては、解説の山田隆さんや竹内さんとのコンビではどっちがやりやすかったんですか？

倉持　やっぱり、山田さんはプロレスの達人というか、そういう印象で最初から捉えていたし、実際に山田さんがいた頃の『東スポ』っていうのは常にプロレスが一面で、その解説記事も書いてたし、ボクみたいなプロレスを知らないアナウンサーにとっては先生役ですよ。

――わからないことがあったら、「どうなんですか、これは？」とお伺いをたてると。

倉持　そうだね。でも途中からはボクらの方というか、馬場さんの考えとか日本テレビの考えが『東スポ』より先を歩いてないと視聴率が取れないので、戦略的にボクらの方が先に知っちゃって反対に山田さんがボクに取材してくる立場になっちゃったんだけどね。

――戦略的な流れは『東スポ』や他のマスコミ以上に理解していたわけですね。

倉持　「流れはこういうことでいいのかな」とか「最終戦は結局こういう形でもっていくのかな」とか「今年の年末に来るレスラーはここから出るのかな」とか、そういう推理は全部していかなければいけないからね。その辺は、キャリアを積んでいくと自然とわかるじゃないですか。

――団体側が誰をプッシュしようとしてるかを察することができた、と。

倉持　そうだね。思った通りにしゃべって、間違ってれば方向転換させるのはプロデューサーの役目ですよ。「そう言ってるけど、こっちの方向で言ってよ」っていうぐらいで、あとは自由ですよ。何のテーマも与えられないからね。

――それはそれで大変そうですけどね。

倉持　だから長続きしたんですよ。ボクは物語の先を読んで、そういう推理をするようなアナウンスメントも何度も流してると思うよ。「次期シリーズには誰と誰が来て」っていうのが、ボクの放送の特長でもありましたからね。

――あれは倉持さんの推理だったんですか（笑）。

倉持　あくまでも推理だから、間違ってれば「ボクの考えは間違ってたみたいですね、山田さん！」って言うと「ああそうですね」ってことになるから。解説者がフォローする分にはいいわけですから。だから、ボクの放送のテクニ

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

鶴田の嫁さんとの橋渡ししたのもボクですからね。一緒に兵庫の芦屋まで口説きに行ったんですよ

ックは行きっぱなしですよ（笑）。

――倉持さんのハイテンションな行きっぱなしの実況と、山田さんの味がある解説との絡みは絶妙でしたよ！

倉持　山田さんは、なかなか味がありましたよね。ただ、ちょっと新聞社内の抗争とかで疲れちゃったっていうのもあったし、それと同時に、あの頃ファン層が急に下がったじゃないですか？

――ファンクスやマスカラスの人気が大爆発しましたからね。

倉持　中学、高校生のファンが多くなった時代に往年のプロレスファンだったオッチャン連中がみんな浮き足だしちゃったから。そういうものに迎合できない人だったのかもしれないね。

――その後、竹内さんに移行するわけですか。

倉持　そうだね。竹ちゃんは元々プロレス少年でね。いまは出世しちゃったけど、中学しか出てないんだから大した男ですよ！

――プロレス界の最年少編集長でしたからね（笑）。

倉持　竹ちゃんは、いつまでも少年の目でプロレスを見てたから。

――竹内さんとは何度か会って話したことがあるんですけど、童顔ながら意外と毒舌なのに驚きましたよ（笑）。

倉持　ウフフ（笑）。

――それで、倉持さんの長い実況生活の中で一番思い入れ深い試合っていうのはどの試合になりますか？

倉持　そうだなぁ……（しばらく考え込み）。みんな思い入れはありますけど、あえて言うならジャンボvsマスカラスの田コロ（田園コロシアム）の生中継の試合（S52・8・25）だね。生中継で雨が降ってたらできない状態だったのが、7時50分ぐらいに雨がピッタリ止んでいいコンディションになって、試合も素晴らしかったからね。それから馬場ちゃんとハーリーのNWA戦かな。

――ハーリーですか（笑）。

倉持　ハーリーなんかも「これこそレスラーだ」っていう表現でしゃべってたと思うんだけど、ホントに強かったし、インテリのくせにプロレスバカになれた選手でしょ？　レスラー仲間に殺されたブロディとの違いは、そこだよね。

――同じインテリでも、レイスとブロディには大きな違いがあったわけですね。

倉持　そう思うよ。そういう意味ではブッチャーなんかも好きなレスラーだよ。すべてエンターテインメントだからね。酒飲みに行ったら大人しい男なんだから（笑）。

――クリスチャンだし、真面目な人ですもんね。ボクも取材したとき、「オマエは神を信じてないのか！」って怒られましたよ（笑）。

倉持　そのブッチャーが一番ひいきにしてたのは山田隆ですよ。山田さんは試合が終わる度に悪い場所に連れて行ってたからね（笑）。

――悪いというか、楽しい場所ですね（笑）。

倉持　そうやってコミュニケーション取って取材しやすい関係を作った方が自分の肥やしにもなるし、アナウンスメントも豊富になるでしょ？　そういう意味では、華やかなリック・フレアーなんかも好きでしたよ。あんまり強くはないけど華もあるし、話題もいっぱいある人だったよね。あとリッキー・スティムボードなんて知ってる？

――もちろんですよ！

倉持　ボクは鶴田時代ですから、鶴田のライバルになるような選手は自分でもノッてしゃべれたなって感じだったね。あと誰がいたかなぁ……。名前がもう全然出てこないや（苦笑）。

――全然思い出せませんか（笑）。

倉持　仕事でやってたもんだから忘れるんですよ。私生活まで入り込んで最後まで仲良くしてたのは鶴田ぐらいかな？　鶴田の嫁さんとの橋渡ししたのもボクですからね。

――あ、そうだったんですか!?

倉持　わざわざ兵庫県の芦屋まで行ったんだから。もうジャンボが惚れちゃってさぁ（笑）。

――プロポーズして、一回断られてたんですよね（笑）。

倉持　それでも「どうしても彼女がいい」って言うんで、「倉持さん、一緒に行ってくれ」ってことで口説きに行ったんですよ。

――ダハハハハ！　代わりに口説いたんですか（笑）。

倉持　ジャンボが話ができないぐらい上がっちゃって、「レスラーっていう職業を倉持さんの方から詳しく説明してあげてくれ」と。「ボクがどういう立場にいて、実家もしっかりした家で、大学も出てるし、将来はちゃんとしたポジションに就くってことを」ってことでね（笑）。実際、ジャンボはレスラーを辞めたら日本テレビのスポーツキャスターっていう路線がそれとなく引かれてたから、そんな道もあるってことを伝えてくれと。

――そんな話があったんですか？

倉持　当時はあったんですよ。でも、ジャンボが言うには「俺が言ったって信用してくれないんだ」って。鶴田家っていうのは資産的にも凄かったんだけど、向こうも芦屋のお嬢様で凄いお家に住んでたからね。

――保子夫人の親戚が日清製粉の社長さんだから、つまり皇族とも繋がる家系なんですよね。

倉持　正田家ともちょっと繋がってたりするからね。それで、最終的には向こうの家族と彼女が「わかりました」って言ってくれたのかな？　まあ、あとは二人の問題だからってことで、その日は鶴田と一緒に日帰りで夜中遅くに帰ってきてウチに泊まったんだよ。

――はぁ～、そんなところで倉持さんが一役買ってたとは知りませんでした（笑）。

【2月11日／三鷹市・倉持邸にて収録】

※誌面の都合上、残念ながら今回はここまで！　次号では、日本テレビと馬場さんとの関係など、さらに突っ込んだ全日本プロレスの真実から、アントニオ猪木に対する意外な評価、ライバルと言われた古舘伊知郎、さらには女子アナとレスラーの交友録まで明らかに！　淡々としながらもミスター高橋ばりの暴走振りを見せる倉持アナインタビュー後編は次号でお届けします!!（※倉持さんが『Jスパコレクション』というホームページ内で連載中のコラム『セビージャのパティオにて』のアドレスは
↓　↓　↓
http://www.jspanish.com/yomimono/patio/patio29.html）

ジャンボの結婚に一役買っていたという仰天エピソードを公開し」た倉持さん。レスラーの中で一番仲が良かったジャンボと一緒に兵庫の芦屋まで出向き、ジャンボの魅力をアピールしたという。写真は若かりし頃の倉持さんと保子さん。

くらもち・たかお■日本テレビのアナウンサーとして33年間マイクを握り、看板の全日本プロレス中継では倉持節でプロレスファンを熱狂させた。54歳から読売新聞金沢総局に出向し、地元のニュースキャスターとして活躍。60歳の定年で日本テレビを卒業し、現在はフラメンコ愛好家の登史夫人とスペインのセビージャ在住。右のアドレス内の倉持さんのコラムは必見！　読めば、アナタもスペインに行きたくなるはず。ちなみに倉持さんがポートレートに登場した前号を見ての第一声は「やっぱり、この雑誌は売れるわ！」だったという。アリガトーッ！

Here Comes "THE PAIN"

"苦痛を与える男(ブロック・レズナー)"が日本のお茶の間にもやってくる

新たなる日本侵攻作戦が始まる…
ますます勢いづくWWEを今月も大特集だ!!

興行的に大成功を収めたWWE日本大会の余韻もひと段落した3月7日、「WWEの番組が4月からフジテレビで放送開始」という情報が発表された。7月には日本大会2連戦も噂されており、WWEの日本進攻がいよいよ本格化の兆した。すでに日本にもWWEの関連商品やゴシップ情報が大量に流れ込んでおり、マニアにはたまらない状況が出来つつある。リング上のストーリーは、Jスカイスポーツやスカパー! やフジテレビなど映像メディアで追ってもらうとして、本誌は活字でしか追えない、本誌でしか読めない選りすぐり情報をお届けします!

Here Comes
"THE PAIN"

4月8日より フジテレビで WWE番組を放送開始!!

昨年12月まではテレビ東京で『SMACK　DOWN』のダイジェスト番組『AFTER BURN』が放送されていたわけだが、4月8日(火)からフジテレビの深夜枠でWWEの番組が放映される。これはアメリカで放送されているダイジェスト番組の映像を編集しないまま流す従来の「テレ東」スタイルではなく、『SMACK　DOWN』の映像を日本独自に編集した番組になる予定だという。また、同じフジテレビで土曜日の夜にはWWEミニ番組の放送も決まっている。ブロック・レズナーやアンダーテイカーといった『SMACK DOWN』所属のスーパースターの勇姿が日本のお茶の間で楽しめるわけだ。そんなわけで、特集の扉は地上波での放送再開を記念して"次代の大物"レズナーにしてみました。"苦痛を与える男"が、地上波放送から敬遠されがちな日本プロレス界にも新たな苦痛を与えるはずだ!

構成／スモーノブ

WWEのお家芸 "舞台裏公開ドキュメント"の日本語版を一部だけ公開!!

脚本の質も落ちてしらけちまったぜ（ストーンコールド）

『レッスルマニア18』翌日にＴＶショーを無断でキャンセルしたストーンコールドに対してＷＷＥ側は、WWE.COMで行われているインタビュー公開番組で電話インタビューを敢行。ストーンコールドはここぞとばかりにフロントに対し痛烈な批判を言い放った。そのリアルな言い回しは「ストーンコールド」というキャラクターが吐く言葉ではなく、本名スティーブ・ウィリアムスの心の叫びそのものだった。「（キャンセルした）真実はクソってことだ」「シナリオをもっと面白く出来るはずだ」「奴等（脚本家）は最低だ」「俺の個性を生かせ」と散々ぶちまけた。その口調は当時の苛立ちをリアルに物語っている。その一週間後、ストーンコールドは再びショーをキャンセル。そしてＤＶで逮捕されてしまう。この番組で言い残したのが復帰前の最後の言葉だった。スーパースターを生かすも殺すも、すべて脚本家のライティング次第なのか？　実にリアルな部分を垣間見た出来事である。（阿部タケシ）

あるとき俺は薬物に手を出した。コカインなんかだ（ジミー・スヌーカ）

10歳からプロレスを始めた"スーパー・フライ"ジミー・スヌーカ。素足とパンプアップされた肉体から繰り出されるその大技で一気にスターダムに駆け上がり、ついにＷＷＷＦ（現ＷＷＥ）のマクマホン・シニアから参戦のオファーが届くまでに至った。１９８３年10月ＭＳＧで行なわれた金網マッチでは金網最上段からのスーパーダイブを敢行し、"スーパー・フライ"を全米に知らしめた。だが、有名になったスヌーカに黒い人物が近づき、コカインに手を出した。身を滅ぼしかけたが、カウンセリングにも頼らず、自力で克服し再びマットに返り咲いたという。そうさせたのは守るべき一族や子供のおかげだと語る。彼と絆の深いピーター・メイビア（ロックの祖父）、ロッキー・ジョンソン（ロックの父親）、ワイルド・サモアンズの存在が非常に大きかったようだ。スヌーカはプロレスを通じて関係が強固になった"無縁の血族"達によって見事蘇り、ＷＷＥの殿堂入りまで果たした。（阿部タケシ）

ターナーは巨大なATM機のようだった（ハリウッド・ハルク・ホーガン）

２００２年にエリック・ビショフがＷＷＥに登場したおかげで、ＷＣＷが再度クローズアップされている。ＷＷＥを崩壊寸前まで追い込んだ団体が、なぜ崩壊したのか？　この作品の中では、当時のＷＣＷのずさんな経営状態を元所属レスラーたちの証言で振り返っている。Ｙ２Ｊは「（お金は）言ったら言うだけくれた」とドンブリ勘定のギャランティ設定を指摘。つまりオーナーだった大富豪テッド・ターナーの財布が、選手のモチベーションも、選手のレスリングの質も、観客動員も低下させたというアメリカ版ＳＷＳのような状態だった様子。さらにビッグショーは「俺がＷＣＷ王者時代だった頃は年収12万ドルだったのに、王者でもない選手が50万ドルを稼いでいた」という衝撃の事実まで暴露。で、トドメを刺すのがホーガンによる冒頭のコメント。お金を出してくれる人を悪く言うな！（破壊王風に）。っていうか、「王者でもないのに50万ドル稼いでた選手」って、誰？（阿部タケシ）

読者プレゼントも大放出!!

It's true!!
It's true!!
（ホントにホントさ!!）

WWEの日本上陸作戦が本格化している今年は、関連書籍＆映像も未曾有のリリース・ラッシュ!!　アメリカ直輸入だから可能な無修正プロレス活字＆映像の面白さは、一度味わったら病みつきになるのは確実!!　試しにいかが？

※読者プレゼントの応募方法についてはP.159を参照のこと!

PRESENT!!
読者プレゼント
1 名様

DVD 『ベスト・オブ・コンフィデンシャル』

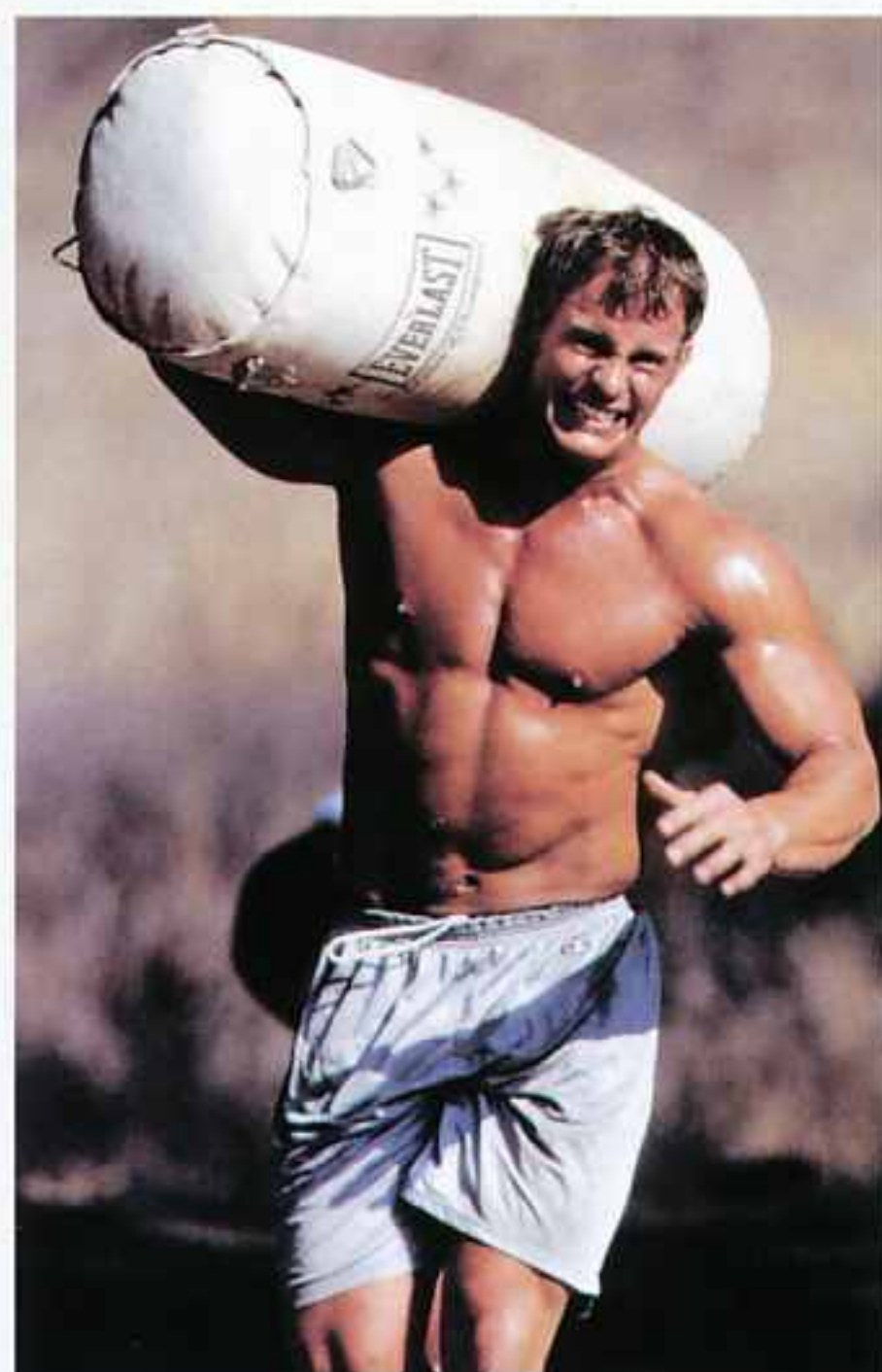
発売：4月11日　提供：ユークス
定価：DVD¥3800／VHS¥5800

Ｊスカイスポーツでも絶賛放送中のＷＷＥスーパースターズの赤裸々な告白満載の衝撃的ドキュメンタリー番組「コンフィデンシャル」の傑作選が待望の日本語版ＤＶＤでリリースされた!!

ストーンコールドが電撃離脱の理由を暴露したり、元ＷＣＷのエリック・ビショフがＷＣＷ対ＷＷＥの企業戦争を振り返ったり（たとえば、ＷＣＷと同じ時間帯に放送していたＷＷＥの生中継番組を「向こうは録画放送」と暴露、「今日の試合ではミック・フォーリーが勝ちます」と放送前にＷＷＥの番組の結果をばらすなど悪意に満ちた映像が最高）、97年に起こったブレット・ハートの『レスリング・ウィズ・シャドウズ』事件の詳細を検証している（偉そうに当時を振り返るビンスがこれまた最高）。人間はいかなる理由で闘うのか、そんな哲学的なテーマすら内包した奇跡のような映像集だ。必見!!

TV 『タフイナフ3』

毎週日曜日放送の30分番組　Ｊスカイスポーツ３で放送中。放送開始時間、再放送などのスケジュールは下記で確認できます。http://www.jskysports.com

『ロウ』毎週月曜日15:00〜17:00 Ｊスカイスポーツ３／『スマックダウン』毎週水曜日16:00〜18:00 Ｊスカイスポーツ１（プロ野球開幕のため、これ以外のＷＷＥ番組の放送開始時間がまちまちになってしまう。上記サイトで要確認だ！）。

一般公募によるレスラー発掘育成番組『タフイナフ３』。教官となるＷＷＥスーパースターの貴重なコーチ＆アドバイスにプロレスの奥義が隠されている！

内幕暴露も日本上陸!!

ショーにセックスの要素を入れるのは、良いことだったと思う（ポール・ヘイマン）

大学で経営学を学び、卒業後は大手不動産会社に就職が決まっていたドーン・マリー。そんな彼女はレスリングを見てから「自分が本当に何をすべきかわかった」と突然目覚め就職を蹴り、インディー団体で3年間レスリングの特訓を受けた。そして、ECWに参戦。「彼女が最初にECWアリーナに登場した日、アリーナが一つになった」と"プロレスバカ"ポール・ヘイマンは唸った。観客がどうすれば喜ぶか判断する能力をすでに持ち、プロレスマニアが集まるECWアリーナに臆することなく、ポテンシャルを発揮したマリー。当初マリーは一晩だけの契約だったが、予想だにしない反響を呼んだのでヘイマンは急遽長期契約を結び直す。「ハードコアには女は不要」を信条としていたヘイマンの気持ちを変えたマリーこそ"女子プロバカ"。今でもマリーは休日を返上し練習を重ねている。男を腹上死させる魔性のキャラの裏側には、意外すぎるほどプロレスを愛する"素顔"があったのだ。（阿部タケシ）

仲間と思っていた連中が強盗を働いた。俺は連中に手を貸した（ブッカーT）

レスリングの世界に足を踏み込むまでは、すさんだ環境で過ごしていたブッカーT。幼くして両親と死別したブッカーは8人兄弟と貧しい環境で過ごす。そして彼は絵に描いたような非行に走った。「見掛け倒しのハンパなワルと言われたくない」という理由で凶悪事件に手を貸す日々。そして付き合っていた仲間と強盗を働き遂に逮捕。鉄格子の中に入り、自分が犯したことから逃げず罪を償い、2年も裁きを受けた。1990年に倉庫会社で働いていたブッカーに、兄のスティービー・レイがレスリングスクールを勧めた。2人はヒューストンのインディ団体でデビューを果たし、WCWでハーレム・ヒートとして活躍。今ではヒューストンで豪邸に住むまでに至っている。WWEのトップにまで成長した人気者のブッカーTだが、実はとんでもない過去を持っていたのだった。2003年1月に日本へ来れなかった理由？ あくまでも家庭の事情です。（阿部タケシ）

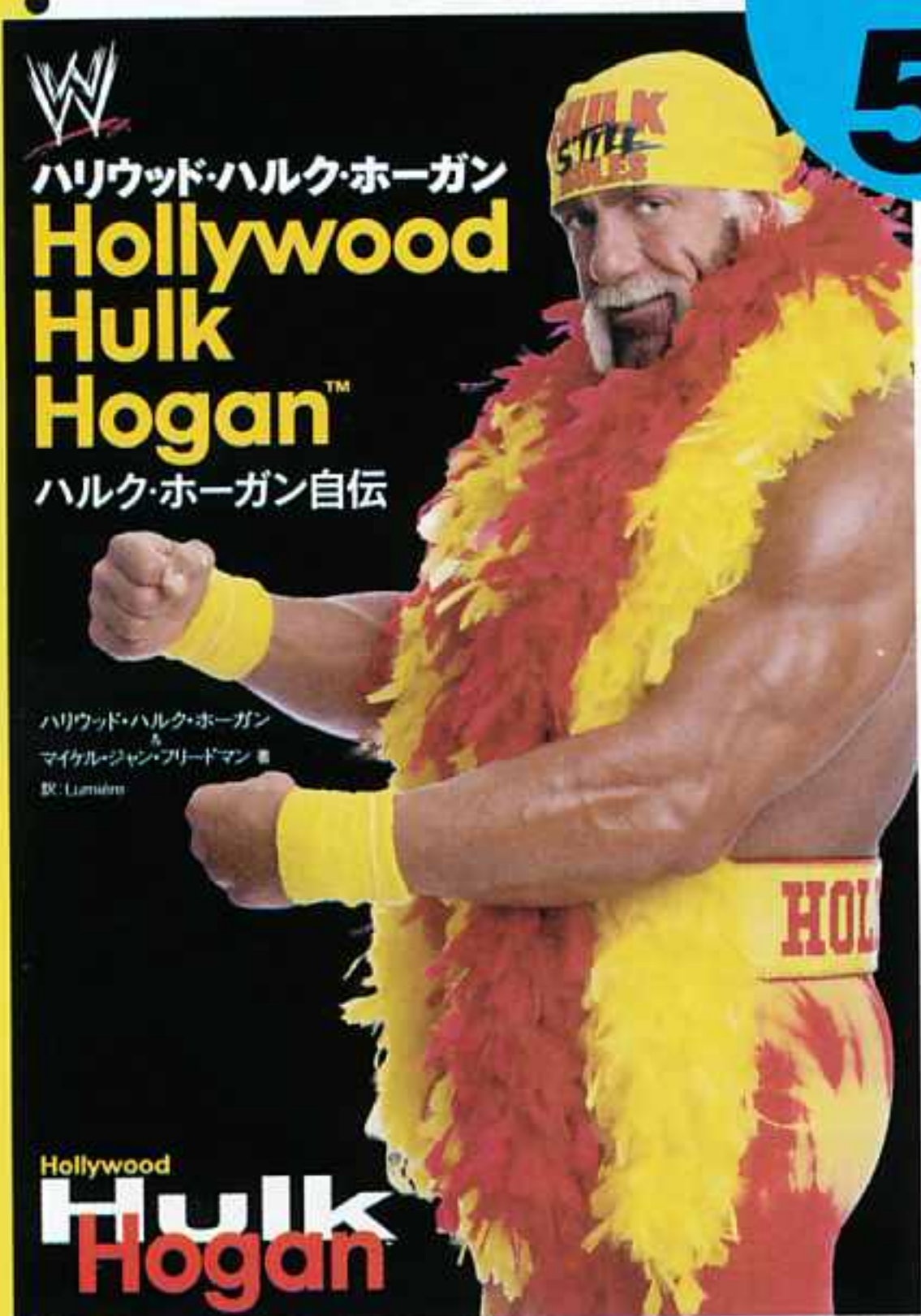
死ぬことよりも、生きることを選んだ（エディ・ゲレロ）

1999年1月1日にはリキッド・エクスタシー（過剰に摂取すると昏睡状態に陥り、アルコールが混ざると呼吸がスローになり死に至る）を服用し車を運転。愛車であったトランザムを大破させる事故を起こしたエディ・ゲレロ。さらに2001年11月には飲酒運転で捕まりフロリダ州タンパの留置場に収容された。重度のアルコール依存症と交通事故を理由にWWEはエディを解雇。その後、新日本プロレスに参戦していたが、その時期に妻と離婚の準備が進められていた。まさに絶望的な人生の危機に直面していたのだ。しかしエディは地獄のような私生活から抜け出し、強い精神力であらゆる依存症を克服し、結果的に家庭も仕事も取り戻した。「大事なものは失ってみて初めてわかる」と語るエディ。映画『ビヨンド・ザ・マット』でのジェイク・ロバーツしかり、天才的にプロレスがうまい選手ほど依存症に陥る傾向があるように思うのは気のせい？（阿部タケシ）

FC会報『Raw magazine』

WWEファン必読の書が、遂に登場した！ この『Raw magazine』は元々アメリカで発売されているWWEオフィシャル雑誌の日本語版だ。スーパースターズのコラムとインタビューが満載で、上記のような衝撃的な告白もあれば、マイケル・コールの意外すぎる前職の話（報道キャスターとして戦禍のボスニアに9ヶ月滞在!）、テリー姐さんのSEX相談など、硬軟織り交ぜた作りがWWEマニアのツボを突くことは間違いない。ひとつ言えるのは、いままでリリースされたWWE関連の活字媒体の中ではトップクラスの面白さということだ。しかしながら一般発売はされていない。どうすれば読めるかって？ そんなの簡単! WWEファンクラブの会員になれば読めるのだ！ WWEファンクラブに関する詳細は
http://www.wwefanclub.ne.jp
またはWWEファンクラブ事務局
TEL.03-5738-5722まで

PRESENT!! 読者プレゼント 5名様

ハリウッド・ハルク・ホーガン
Hollywood Hulk Hogan™
ハルク・ホーガン自伝

単行本

『ハリウッド・ハルク・ホーガン』

発売：3月27日　定価：¥1800
提供：エンターブレイン
いままでスーパースターとして栄光のスポットライトを浴び続けてきた男が、影の部分も含めて語った衝撃の自伝の日本語版がコレだ。今年の『レッスルマニア19』で、ビンス・マクマホンと一騎打ちを行うホーガンだが、そのビンスとの因縁もこと細かに書いている。この自伝がアメリカで発売されて、ホーガンとビンスが揉めたという噂もあるくらいだ。ハルカマニア必読の一冊である！

この歴史的な大勝負をロックが制することは、あらかじめ決まっていた

『紙プロ大賞2002』ベストバウト部門で7位に入賞した、『レッスルマニア18』ホーガンvsロックを語っている箇所からの抜粋だ。WWEの関連書籍では、こういったカミングアウトが、淡々と説明的に用いられている。こういった前提の上に立ち、試合の演出をさらに突っ込んだ部分まで書いているので非常に味わい深い。しかし、いくら舞台裏で葛藤したところで、すべてが思惑通りに進むわけではない。表も裏も見せることでエンターテインメントとしての奥行きに深みを与えているのだ。（スモーノブ）

アナボリック・ステロイドを使い始めたのは、たしか1975年のことだ

「トレーニングをし、ビタミンを摂り、祈りを唱えるように」とハルカマニアに対して繰り返し説教していたホーガンが、じつはビタミンだけじゃなくステロイドも摂っていたことを告白！ ついでに「俺は酒も好きだし、夜に大騒ぎするのも大好き」と正直に告白している。会場でも「ホーガン、今日も打ったのか？」「ホーガンはステロイドでハゲになった」などのボードが掲げられ、人気と身体とホーガン自身のプロレスに対する熱意がじぼんでいくあたりの描写などは、涙なしには読めない。（スモーノブ）

ネタバレ通信 vol.2

老爺（ろうじい）&蛇丸（じゃまーる）の2P警告隊presents

長期欠場が続出!! ヘイマンも更迭!?

老爺 今月はケガ人続出で大変ですよ！ カート・アングルが首の古傷が悪化して長期欠場に突入しますね。

蛇丸 じゃあ、『レッスルマニア19』（以下『WM19』）のブロック・レズナー戦も欠場ですか？

老爺 その試合には出るみたいですけど、その後は当分出ないでしょうね。さらにエッジも負傷して、おそらく1年は欠場すると言われてます。ホーガンも現時点で『WM19』以降の出場が未定なんですよね。噂レベルでは、そのまま引退か？ なんて言われてますけど。

蛇丸 ロック様も5月から、また映画撮影に入っちゃうんですよね？

老爺 それが早まって、『WM19』後の4月から行っちゃうみたいですね。

蛇丸 うわぁ。『SMACK DOWN』は大ピンチじゃないですか。

老爺 それにシナリオに関わっていたポール・ヘイマンも切られたんですよ。

蛇丸 えっ？ クビってことですか？

老爺 いえ、シナリオには関わらなくなるということらしいです。マネージャーとしての出演は続きますけど。エディ・ゲレロをそそのかして、ステファニー・マクマホンに反発するよう仕向けたとかいう話です。ずっとチーフ・ライターとしてシナリオを書いてたんですが、プロレスを愛し過ぎる故に、思い入れのある選手には過剰なシナリオを書いてしまうんですよね。

蛇丸 でも、それがレズナー大ブレイクの一因でもありますよね。もちろん試合も良くなってますけど。

老爺 今後はヒールのトップとしてアングルの穴を埋めるクリス・ベノワも、もともとヘイマンのお気に入りですからね。ヘイマンはレスリングが出来て、しゃべれる人が好きなんですよ。

蛇丸 でも、レズナーもベノワも、しゃべりはイマイチでしょ？（笑）。

老爺 そうなんですけどね（笑）。そのヘイマン絡みで面白い話があるんですよ。2001年にWWE対WCW&ECWっていう抗争がありましたよね？ あの時、ヘイマンはECWの権利を持ってる人に無断で名称を使って揉めたらしいんですよね（笑）。で、このたびWWEが正式に名称と過去の映像を買い上げて、ECWという団体の旗揚げを狙ってるという話です。

蛇丸 またやるんですか？ WWE対ECWの抗争を？

老爺 いまそれをやっても引いちゃいますから（笑）。ECWで独自の番組を作るという噂がありますけど。

蛇丸 それは面白そうですね！

老爺 今後はステファニー・マクマホンが『SMACK DOWN』のチーフ・ライターとして展開していくそうです。

蛇丸 一方、『RAW』ではストーンコールドが復帰しましたね！

老爺 ただ、ストーンコールドが『RAW』に定着するのかどうかっていう部分も気になりますね。そもそも『RAW』のライターと揉めて失踪したっていう経緯があるんで、ひょっとしたら『SMACK DOWN』登場という展開もあるかもしれないですよ。

『SMACK DOWN』地上波放送の内容は？

蛇丸 『WM19』後のWWEはどういう展開になりそうですか？

老爺 WWEの業績自体は横ばい、あるいは少し上がってるんですけど、抜本的な選手の入れ替えがあるんじゃないか、という噂があります。

蛇丸 PPVが改編するっていう公式発表もありましたね。

老爺 いままでは、すべてのPPVが『RAW』と『SMACK DOWN』の共催だったんですけど、6月以降は『サマースラム』『サバイバー・シリーズ』『ロイヤルランブル』『レッスルマニア』の4つだけが共同PPVになって、それ以外は4回ずつ『RAW』PPVと『SMACK DOWN』PPVが開催される、ということです。

蛇丸 リング外の改革が進んでますね。

老爺 『WWEザ・ワールド』というレストランがNYタイムズ・スクウェアにあったんですけど、そこが2月末に閉店しちゃいましたしね。"スマックダウン・サラダ"とか"スティーブ・バイザー"っていうビールとかあって面白かったんですけど（笑）。

蛇丸 明大前の梵婆家みたいだ（笑）。

老爺 その店が今年だけで900万ドルの損失を出したらしいですから。WWE側は、今後全米各地で店を展開したいので、一旦リセットするようです。リンダ・マクマホンは「世界進出にも力を入れていきたい」とコメントしてますからね。

蛇丸 日本にも出店してほしいなぁ。

老爺 水道橋に出来たら、ベッタリした客層ばっかり来そうだなぁ（笑）。

蛇丸 まあ、イメージ的には六本木が一番しっくり来ますけど。海外大会も頻繁にやってますよね。3月の南アフリカ大会も、売り上げが100万ドルで、チケットは3万枚が売り切れたという話しだし。

老爺 日本でもPPVが有料放送になって、フジテレビでは『SMACK DOWN』をベースにした番組を放送するとか言ってるし。

蛇丸 『週プロ愛モード』で「ナビゲーター等は未定」とか書いてましたね。それって、つまり「ナビゲーターを立てるのは決まってるけど、誰になるか決まってない」ってことですか？（笑）。

老爺 「『SMACK DOWN』をベースにした番組」って打ち出して、向こうの雰囲気とは違うものをやっちゃったらマニアはソッポ向いちゃうかもしれないですけどね。

蛇丸 まあ、局側は一見さんを取り込もうという考えなんでしょうけど。『サバイバー』ってアメリカの番組も、日本でリメイクしたじゃないですか？

老爺 あれ、ナビゲーターのネプチューンはハッキリ言って邪魔ですよね（笑）。どんな番組になるか楽しみなんで、期待したいですけど。

PRESENT!! 読者プレゼント 1名様

DVD 『サバイバーシリーズ』

昨年11月の大会ながら、早くも伝説となった「エリミネーション・チェンバー・マッチ」の模様を完全収録した『サバイバー・シリーズ』のDVD/VHSがさっそくリリース！ 5大選手権試合も面白すぎるが、HBKショーン・マイケルズの鮮やかな復活、ビッグ・パパ・パンプ登場や離れ離れになっていたダッドリー・ボーイズの再結成など、見事な祝祭的名場面が続出！ WWEが終わったとは言わせない！

定価：
DVD¥3800
VHS¥5800

発売：
DVD 4月11日
VHS 絶賛発売中
提供：ユークス
プレゼント応募方法 P.159参照

クイズ本『WWEトリビアブック』

2P警告隊も『トリヴィアの泉』出演者のように「へぇ〜」と唸るしかない、超マニアックな難問が満載のWWE公式クイズ本が出た！ 絶賛発売中！

定価：¥1500 提供：エンターブレイン
アメリカで発売された『The Ultimate World Wrestling Entertainment Trivia Book』の日本語版。「Trivia」とは「ささいなこと、つまらないこと」の意。「つまらないこと」もこれだけ集めると面白い！ 応募方法はP159参照。

PRESENT!! 読者プレゼント 5名様

2P警告隊（にぺーじけいこくたい）とは？■WWE『RAW』の用心棒タッグ・3分警告隊（ロージー&ジャマール）にあやかり命名。あらゆる手段でWWE情報を漁る「老爺」（ろうじい）と、プロレス業界の末端に潜伏する「蛇丸」（じゃまーる）のコンビで、『東スポ』名物企画「プロレス情報局」の記者とデスクのやりとりような合体殺法を繰り出すらしい。

レスラーが次々と消える!? 『WM19』後を大予測!!

（WM：レッスルマニア）

まず初めに、ここは「ネタバレ注意」のページであることを宣言します。TV画面からは読めない裏ネタ&ウワサを情報密売人・2P警告隊がぶっ放す! あとWWEで活躍中のZERO-ONE外人情報もここで読めますよ!

ネイサン大暴れ!! 爆弾所持で拘束か!?

蛇丸　ZERO-ONE出身の外人たちが今月も大活躍したみたいですね?

老爺　ネイサン・ジョーンズは猛烈なプッシュを受けてますけど、かなりトンパチなことをやらかしてるみたいですね。会場まで移動する途中、空港で「俺は靴の裏に爆弾を隠し持っているんだ」って冗談を言ったら、係員に半日間も拘束されて『SMACK DOWN』の収録に穴を開けたとか（笑）。

蛇丸　このご時世に、よくそんな物騒なこと言えるよなぁ（笑）。

老爺　その前日もテストとステーシーが大雪で飛行機が飛ばなくて『RAW』の収録に間に合わなかったんですよ。それでエージェントがピリピリしてるときに、こんなことしちゃって（笑）。

蛇丸　そのタイミングの悪さ!（笑）。

老爺　試合では頑張ってるみたいですけどね。ただ、走ってリングに乱入するっていうシーンで、思いっきりコケちゃって、頭をゲートに打ちつけたらしいです（笑）。あまりにもキャラに相応しくないシーンだったから録り直ししたみたいですけど（笑）。

蛇丸　カッコ悪い!（笑）。破壊王イズムをしっかり継承してるなぁ。

老爺　『SMACK DOWN』は録画中継だから録り直しも可能なんですよね。もし『RAW』だったら生中継なんで致命傷ですよ。絶対、バカキャラに路線変更させられてたでしょう（笑）。

蛇丸　思わず素が出ちゃうんでしょうね。で、スパンキーことブライアン・ケンドリックは素どころか素っ裸で、会場内を走り回ってましたけど（笑）。

老爺　下半身にモザイクかかってましたね（笑）。しかも、全裸になる前に着てたのがZERO-ONEロゴ入りの大谷晋二郎Tシャツ!

蛇丸　ZERO-ONEを脱ぎ捨てて、WWEの会場を全裸でダッシュするって意味深ですよね。

（笑）。スパンキーは大谷の大ファンだからあのTシャツを着てたんでしょうけど。なんかナイキのCMのようなシーンでしたね。

老爺　割と硬派な『SMACK DOWN』の中では際立ってますね。でも、正直言うとネイサンもスパンキーも早くZERO-ONEに帰ってきてほしいです!

蛇丸　ZERO-ONEなら入場で転んでも、全裸で会場内をダッシュしても許されそうな雰囲気ですからね（笑）。さらに、もうひとり『SMACK DOWN』で素っ裸になる人が出るとか?

老爺　ディーバのトーリー・ウィルソンが3月27日発売の『PLAY BOY』誌で脱ぐんですよね。「両親が見てビックリして、部屋を出て行ったわ」ってインタビューで言ってます。

蛇丸　「親バレ」→「引退危機」ってAV女優にありがちですけど（笑）。

老爺　『PLAY BOY』で脱いだディーバは2人ともWWEから消えちゃいましたからね、マジでトーリーも心配ですよ。

蛇丸　でも、トーリーの両親って!? 父親のアルは、ドーン・マリーとSEX中に腹上死したはずですけど?

老爺　こないだ「トーリーの本当の父親は生きてる」って『コンフィデンシャル』でやってましたから大丈夫です（笑）。そのトーリーは、エリック・ビショフがプロデュースする『GIRLS GONE WILD』っていうPPV番組に出るみたいです。「いままでにない露出をする」とビショフはコメントしてるんですが、DVD『アンドレスト』も露出度はかなり高かったですからね。あれ以上の露出って可能なんでしょうか?

蛇丸　いざとなったらスパンキーみたいにモザイク処理でOKでしょ（笑）。

【3月某日、都内某所にて収録】

ここだけの話、満載!! 老爺レポート

ジェリコのバンド「Fozzy」にハワード・スターンが宣戦布告

クリス・ジェリコのバンド「Fozzy」がニュージャージーでおこなわれるメタルバンドイベントに参加する。共演はOverkill、Decide、Blazeといったスラッシュメタルの方々。ムーングース・マックウィーンa.k.aクリス・ジェリコは「流行に左右されっぱなしのこのご時世。メタルで馬鹿騒ぎできる空間があるってのはすげぇ。Fozzyが最高だってことを証明してやるぜ! 荒れること間違いなし!」とズレまくりのコメントまで出している。そんなジェリコに対し、ステファニーの性生活を引き出したりで、WWEファンから最高の賛辞を貰いまくっているアメリカのコメディアン、ハワード・スターンが「FOZZY」に宣戦布告! なんでもハワードは「LOSERS」なるバンドを結成しており、レスラー上がりの「FOZZY」の生半可なスタンスがイケ好かない様子。挑戦を受けたクリス・ジェリコも、ハワードの挑戦を「やってやるって」と、"やるって節"を言ったがわからないがとりあえず受諾。それぞれの曲をハワードのラジオ番組で生演奏し、リスナーにジャッジしてもらうとのこと。ハワードのバンドはかなり最低だという噂だが、ぶっちゃけた話、「FOZZY」もジェリコだから聴けるのであって、ジェリコじゃなかったら絶対聴かないって!

テストがインタビューでステーシーとのSEXを告白

アメリカのある雑誌でテストのインタビューが掲載された。その内容によると、去年の『レッスルマニア18』は自分のホームタウン、しかも誕生日というにもかかわらず参戦できなかったことが非常に悔やしかったとコメント。また、2月中旬には会場移動中に大雪に見舞われ、RAWに間に合わなかった失態を反省。テストの横にはステイシーもいたとか。つまり共にRAWを欠席という形になってしまったわけだが、そんな彼氏、ステイシーのことが話題になったら、「ステイシーとのセックスはバックが最高」とニヤつき、「彼女はホント声が大きいんだよ」とまで言って、全く反省の色なし。"テストをますます支持したくない派"急増中の様子。

JRが実況中にマジギレ キングに「もっとしゃべれ!」

ストーンコールドの復帰に一役買ったが、デブラの存在には常にダメ出ししたりと、とんでもないキラー発言を平気で言ってのけるJRが、ジェリー"キング"ローラーに対して、またもキラーな発言を仕掛けたとのこと。オンエア中にもかかわらず「オマエ、もっとしゃべれよ!」とマジ怒り。いつもホントかウソか分からないやりとりが展開される『RAW』の実況ブースだが、今回はただならぬ空気が漂った様子。

WWEを通じての世界平和は果たして可能か!?

『レッスルマニア』とイラクの因果関係

文／イナズマ★K（やっぱり継続）

今後の世界動向を大きく左右しかねないアメリカ・ブッシュ政権によるイラク戦争。ことの発端である12年前の湾岸戦争の時に、なんと当時のWWFでは、アメリカvsイラクという構図が、現実と同時進行で展開していたのだ！　そんなの日本では不謹慎どころの騒ぎじゃないぞ。当初の勧善懲悪的なイメージとは裏腹に、実際の戦闘が始まるにしたがって状況も深刻化。だが急なストーリー変更ができなかったのもWWFの実情だったようだ。物凄いバッシングを受けながらも強行してしまうビンスのパワー。それが許される自由の国アメリカ（&戦争に対する現実感の薄さ）恐るべし。

さて、この時のヒーローは当然ハルク・ホーガン。悪を粉砕するリアル・アメリカンとは、まさに彼にバッチリのハマり役。それに対するイラク・サイドのヒールは、サージェント・スローター。もともと愛国心の塊キャラで人気だった彼が、フセインそっくりキャラ将軍アドナンに洗脳されてイラク・サイドに回ったというのが最初の設定だ。これでスローターは日常生活でもレストランの注文を断られるなど、ファンのヒートを買う、ヒールとしては最高の仕事っぷりだ。

そんな両者が対決した舞台は91年3月24日の『レッスルマニア7』。テロの危険を配慮し、当初の9万人収容会場からグッと小さく1万6千人収容のロサンゼルス・スポーツ・アリーナに変更。会場の入場チェックは厳しく、当時観戦ツアーに同行していたターザン山本は「（日本から持ってった）カルピスソーダの缶も没収されて、だから観てる間に喉が乾いてしょうがなかったよぉ！」と日本版ビデオ解説の中で、とっても個人的な不満を吠えてるぞ。

ということで話はメインに飛ぶ。ハルク・Tシャツを燃やし「オレ様が新しい秩序だ！　バトルに勝ってもお前は敗戦だ。最後に笑うのは私オレだ！」とアピールするスローター。一方のホーガンも黒焦げに日焼けし、ネームプレートぶら下げて臨戦体勢。「子供ファンの前でハルクTシャツを燃やしやがって、絶対許せねぇ！　軍人気取りはもう古い。テクノロジーを知ってるか？　91年型のモデルのホーガンだ。ホーガン神話復活！　湾岸戦争完全決着、アメリカ万歳!!」。ハイテク戦争と言われた実際の戦争の話題を絡めつつ、あれだけ燃やされたことを起こりながらも、いつものように自分でTシャツを引き裂くホーガンだぜ、ブラザー！

そして試合は、必殺キャメルクラッチでホーガンをタップ寸前まで追い込むスローター。さらにイラク国旗をかけてフォール！　しかし、ホーガンはこれをギリギリで返し、イラク国旗を破りハルクアップ！　ビックフットからのギロチンでカウント3！　見事1年ぶりに王座へ返り咲くのでした。

どうですか、こんなことが12年前のWWFマットで繰り広げられていたのです。では今、同じようなことが行なわれる可能性はあるのか？　以前と違い株式も上場し、さらには世界に映像ソフトとして展開しているWWFだけに、そこら辺は非常にデリケート。今でも反米軍団や黒人差別を訴えるキャラが出てきたり、ギリギリの線ではありえなくもないが……。いかにも右寄りなブラッドショーが英国出身のリーガルと組んで、アイアン・シークとマット・ガファリでもブン殴るとか？　ウーン難しい〜。

そんな状況の中、大川興業総裁・大川豊氏が2月にバグダッドに行き、現状を観てきたという日刊スポーツの記事を読んだ。するとそこには「（前略）さらに驚くのは、市民がものすごく『アメリカン』なこと。男たちは深夜放送のNBA（米プロバスケットボール）とWWEプロレスに歓声を上げている」と書かれていたのです。なんと、イラクでもWWE人気は凄かった。やはり面白いものに国境はない！

ということで、WWEが昔の猪木のようにイラクで「平和の祭典」を行ない、エンターテイメントで平和的な解決に貢献したらどんなに素晴しいか。まあ現状はそんなに甘くないんだけどねぇ。そんな思いも込めつつWWEが明日の掛け橋となる日は来るのか!?

『レッスルマニア19』に出場するカートに拍手を！

P68〜69の「ネタバレ通信」にある通り、現在のWWEで"アメリカンヒーロー"を体現するスーパースター、カート・アングルが首の負傷によって長期欠場へ突入する模様だ。2番組制導入以降、『SMACK DOWN』の中心となって盛り上げ続けた主役だけに、欠場は残念。待望の初来日も当分はお預けとなりそうだ。欠場前、最後の勇姿となる『レッスルマニア19』でのブロック・レズナー戦をしっかりまぶたに焼き付けておこう。試合でもスキットでも観客を楽しませるツボを心得た真のメインイベンターの復帰を日本のファンは待ち続けるぜ！

単行本『カート・アングル』

定価：¥3800　提供：白夜書房　絶賛発売中

オリンピック・ヒーロー、カート・アングルが幼少時代からアマレス時代、その後の不遇な時代を経てWWEの頂点に立つまでの"栄光の奇跡"を記した自伝がコレだ。新日本プロレス5月2日の東京ドーム大会に出場する朝青龍の兄ドルゴルスレン・スミヤバザルと96年アトランタ五輪で対戦するシーンの描写もあるぞ！（「モンゴル人」としか書いてないけど）。

PRESENT!! 読者プレゼント 3名様

1991年、湾岸戦争中の『レッスルマニア7』は必読!! 世界とプロレスするWWEの歴史が詰まった玉手箱だ!!

地球最大規模のプロレス祭典『レッスルマニア』の貴重なエピソードと写真が満載のこの写真集で、WWE（当時WWF）の歴史を紐解いてみよう！　上の文章にもあるように1991年『レッスルマニア7』は湾岸戦争と同時期の開催だったので、当時の緊迫した雰囲気が克明に描かれている。著者はリングの内側と外側を俯瞰的に見ているフロント社員なので、ドキュメンタリー作品としても非常に読み応えがある。この他にも1985年から2000年に至るまで、すべての『レッスルマニア』の模様が克明に記されている。絵になる男たちが、強烈なインパクトで目に飛び込んでくるぞ。資料性も非常に高い。日本語解説は本誌にもたびたび登場している阿部タケシ氏。必読!!

写真集『WWEレッスルマニア オフィシャル・インサイダーストーリー』

定価：¥3600　提供：角川書店　絶賛発売中

『レッスルマニア』の第一回目から関わっているWWEの社員ベイシル・V・デヴィート氏が、それぞれの回にまつわるエピソードを細かい部分まで語っている。ビンス・マクマホンの凄腕オーナーっぷりが発揮されたエピソードが満載だ。本誌57号でも紹介したが、『レッスルマニア19』開催を記念して3名様に読者プレゼント!!

PRESENT!! 読者プレゼント 3名様

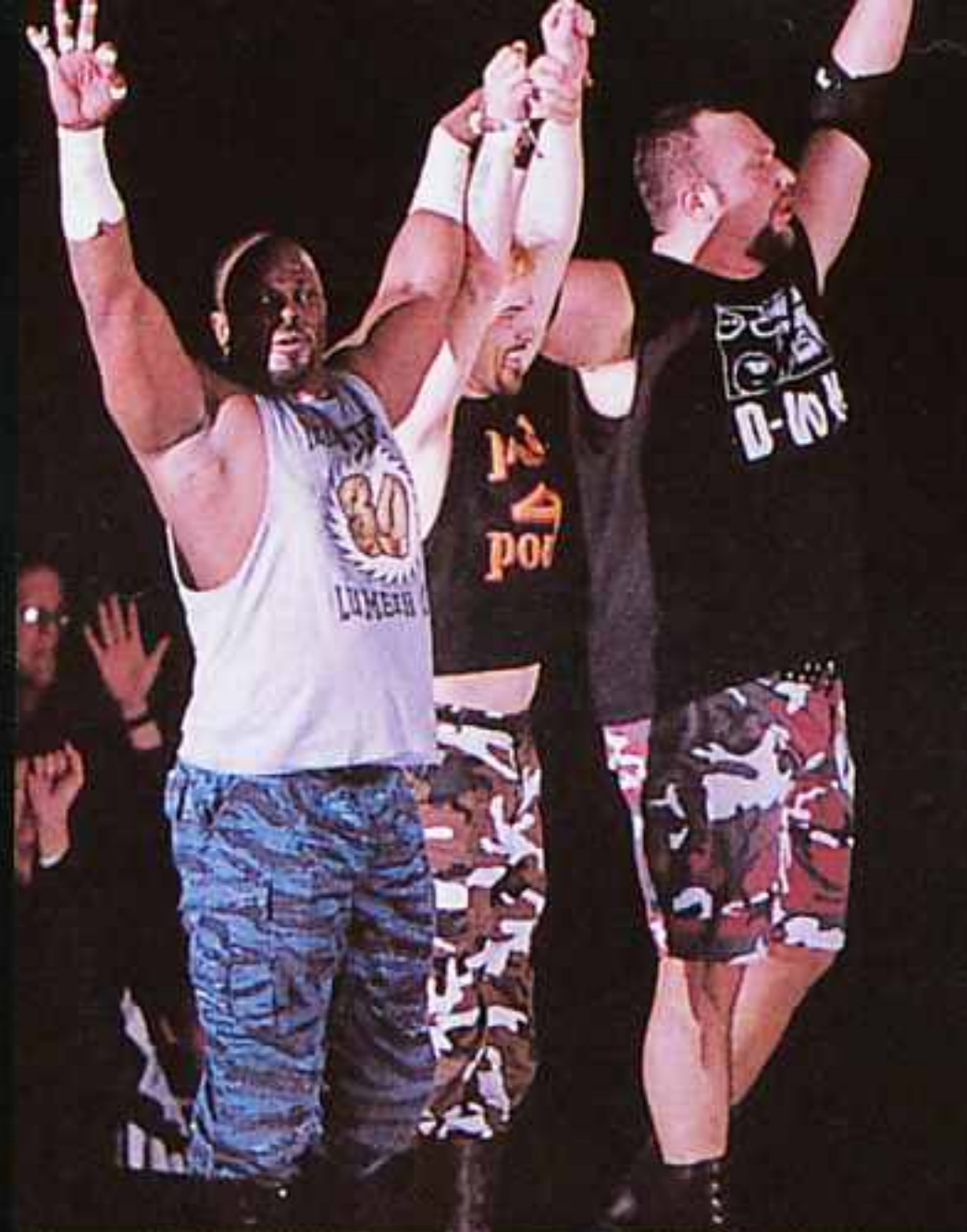
※読者プレゼントの応募方法についてはP.159を参照のこと!

闘龍門校長
ウルティモ・ドラゴン×ターザン山本
立石流家元

恐ろしいほどプロレスがわかる対談
PART2
WWEの正体を明かす!

前号で掲載し大好評（しかし「ターザン不快!」の声も相変わらず）のウルティモ×ターザン『恐ろしいほどプロレスがわかる対談』。方舟に乗ってるあっちの“ドラゴン”とはそりが合わなくても、こっちのドラゴンとは息がピッタリなターザンが今宵も炎上! 2回目となる今回はWWEを徹底解剖します!

構成＆撮影／堀江ガンツ　WWE試合写真／乾晋也

「テーブルじゃー！」でお馴染みのババ・レイ・ダッドリー。その弾けっぷりと表情が素晴らしい。

とにかく今大会を試合で一番盛り上げたのはダッドリーズ。彼らがWWEのトップに立つ日も近い？

元WAR常連のY2Jと元全日本常連RVDの一戦はモロ日本スタイルに。もちろん試合レベルは申し分ないが、賛否両論だった。

日本向けの試合スタイルとカードだったのは、J・エースの意向でしょうね

ターザン　浅井さーん！　いまのプロレスを語る上でボクはWWEというものも避けては通れないと思うんだけど、WCWで活躍した浅井さんの目から見たWWEを今回は聞いてみたいんだよね。ちょっと話は古くなりますけど、1月の日本公演っていうのは浅井さんも行ったんですか？

ドラゴン　ええ、二日目は行きましたよ。

ターザン　二日目は良かったね！

ドラゴン　いや、でもボクは今回、ちょっと残念だなと思ったんですよ。

ターザン　ああ、そう！

ドラゴン　去年やった横浜アリーナのイベントっていうのは、ボクから見ても素晴らしいと思ったんですよ。というのは、お客さんの雰囲気も凄く良かったし、内容もアメリカでやってることをそのまま持ってきてましたよね？　でも、今回はちょっと日本向けだったじゃないですか。

ターザン　ジャパニーズスタイルでしたよ。だって試合がカウント2・9の応酬だったもん。

ドラゴン　だから今回はまず、試合が長過ぎたっていうのがありますよね。それからお客さんも無理に楽しんでる感じがしたんですよ。何でもないのに「ワーワー」って。きっと外タレを見るような感覚で見てる人が多かったと思うんですよね。

ターザン　そうかもしれんねぇ。でも、なんでWWEは今回自分のスタイルを捨てて、日本スタイル試合を最後の三試合でやったの？

ドラゴン　ジョニー・エース（現場統括責任者）の意向じゃないですか？　ジョニー・エースって、長く全日本プロレスで仕事をした「王道プロレス」継承者じゃないですか。きっとそれを今回も見せようとしたんだと思いますよ。だってロブ・ヴァン・ダムvsクリス・ジェリコなんて、モロにそうじゃないですか。

ターザン　そのままだよねぇ？

ドラゴン　これは『週刊ゴング』のコラムでも書いたんですけど、全日本の木原リングアナが、ロブ・ヴァン・ダムがフロッグ・スプラッシュを避けられたとき、「いまのは小橋のムーサルト自爆と同じだ」って言ってましたからね（笑）。だから、あれはあれで面白いんですけど、厳密に言うとWWEのプロレスじゃないんですよ。

ターザン　全然違いますよォ！　日本向けに加工された別物ですよォ！

ドラゴン　「TAJIRI vsトリプルH」なんて向こうでやらないじゃないですか。だからボクからしたら前回の「ジェリコvsロック」みたいに、向こうのメインをそのまま持ってきてほしかったですね。しかも、ジェリコとロックがやったら、普通はロックが勝つじゃないですか。だけどあの時点のチャンピオンはジェリコだから、汚いことをやってジェリコが勝ちましたよね？　あれがボクは凄く良かったと思うんですよ。わざと日本向けにしないで向こうのストーリーをちゃんと続けて、あの時は「さすがだな」って思いましたよね。

ターザン　じゃあ今回は、客層が無理に楽しんでるってことと、試合スタイルがジャパニーズ化したっていう二点が浅井さんにとっては不満なわけ？

ドラゴン　去年が良過ぎたんで、それだけに「それは違うんじゃないか」って思いましたよね。ただ、二日とも超満員にした、あのパワーは凄いですよ。しかもWWEって、まだ隠し玉があるじゃないですか？　カート・アングルも来てない、スティーブ・オースチンも来てない。だから、まだまだこの人気は続くと思うし、日本のプロレス界もウカウカしてたら完全に喰われてますよ（キッパリ）。WWEってレスラーのレベルも非常に高いですからね。

ターザン　メチャクチャ上手いよォ！　日本に来てた時は貧乏臭かったダッドリー・ボーイズとかが、何であんなに上手くなるの？

ドラゴン　なぜでしょうね。ただ、彼らはボクのイチ押しなんですけどね。

ターザン　イチ押し？

ドラゴン　WWEってスターの宝庫ですけど、ロックの後、本当の意味でのスーパースターっていないじゃないですか。ボクは次のスターは、ああいう人たちがなるんじゃないかと思いますよ。

ターザン　へぇ〜！　ロックの次のスターがダッドリーズなんて、凄いこと考えるねぇ！

ドラゴン　オースチンだってリング上でビールを飲んだりとか、完全にECWのイメージで、まさかWWEの大スターになるとは思わなかったじゃないですか。WWF王者って言ったら、ホーガン、ブレッド・ハート、ショーン・マイケルズとか正統派のベビーフェイスだったのに、オースチンは異彩を放ってましたよね。でも、そのオースチンがスターになって、ポリネシアンのロックがスターになって変わったんですよ。だから、ボクは次はダッドリーズみたいな、これまでは絶対スターになれなかったタイプが出てくると思いますね。

ターザン　じゃあ、WWEのスターを誰にするかという基準の変化を評価してるんですね？

ドラゴン　常に時代の空気を読んで、その時に合ったスターを作ってると思いますね。昔のWWF王者って、ビリー・グラハムやサンマルチノの時代から怪力でベビーフェイスっていうのが決まってたじゃないですか。それがブレッド・ハート辺りから、常に一番人気のある人をチャンピオンにするようになりましたよね。それはビジネスとしては凄くいいやり方だと思いますよ。それでいまのチャンピオンは、ブロック・レズナーですけど、レズナーはボクから見るとどうしても“作られたチャンピオン”っていうイメージがあるんですよ。人気が出る前にチャンピオンになったような。だから、彼がロックとかオースティンみたいになれるかって言ったらちょっと難しいと思うんですよね。結局、本当のチャンピオンは観客が作るんですよ。ミック・フォーリーがいい例じゃないですか。あの人がチャンピオンになるなんて誰も思わないですよね？

ターザン　あれはIWAジャパンですよ！　カクタス・ジャックですよォ！

ドラゴン　あんな全然チャンピオンらしくない選手ですけど、いまのレズナーと比べたらあっちのほうが遥かに人気があったわけじゃないですか。だからこれからも奇想天外なレスラーがチャンピオンになると思うんですよ。WWEってそういう器がありますよね。

ターザン　じゃあ、WWEが日本に本部を置いて、本腰入れて日本マーケットで団体を作ったらどうなります？

ドラゴン　興行の日程さえ上手くやっていけば、3ヶ月に1回とか定期的に

まさにJAPANツアー向けのスペシャルマッチ、トリプルH vs TAJIRIのRAW世界戦。試合自体は素晴らしいものだった。

「スマックダウン」のGMながら、恋人トリプルHと共に日本にひょっこりやってきたステフ。巨大なボーナストラックだが複雑な思いも。

できると思いますよ。いま大リーグが日本に来ようとしてますけど、それと同じようなことも可能ですよね。ヘンな話、WWEが日本に来た時に新日本の選手が呼ばれて、前座とかでやるような時代がくるかもしれない。

ターザン　アハハハハ！　パチパチパチ！（拍手）

ドラゴン　可能性はありますよ。大リーグが日本の野球を3Aみたいにしたいっていう構想があるじゃないですか。野球みたいにしっかりした組織じゃないですけど、このままいったら日本のプロレス界は喰われてしまうかもしれませんよね。

ターザン　えらいことですよォ！

ドラゴン　それだけボクは脅威を感じますよ。レスラーも凄いし、バックステージも全然違いますよね。一人一人がプロフェッショナルですから。完全に一つのものを作り上げましたよね。ホント帝国というか王国というかあれは崩れないですよ。

ターザン　それだけビンス・マクマホンというオッサンは凄い人なの？

ドラゴン　ゆっくり話したことがないんで、個人的にはよくわからないですけど、やっぱりこの間お会いした時に思ったのは、アントニオ猪木さんの持つ近寄り難いオーラと同じものをビンスにも感じましたね。

ターザン　ああ、そう！

ドラゴン　レスラーより異様にオーラがある人なんて、あの人ぐらいですよ。一緒に写真撮るだけで緊張しましたから（笑）。横浜アリーナに来た時のロックにもそういうものがありましたね。ジェリコは普通の人ですけど。

ターザン　それは友達だからですよ（笑）。

ドラゴン　いや、ロックは明らかに他のWWEのレスラーとも違いますよ。ロックとホーガン、日本なら猪木さん、馬場さん。この人たちは、10メートルぐらい離れていても近寄りがたいオーラを感じますよね。

ターザン　ボクはステファニーにもそのオーラを感じますよォ！

ドラゴン　ああ、彼女にもありますね。ただ、WWEの一ファンとして言わせてもらえば、今回に限ってはステファニーにはあまり来て欲しくなかったんですよ。だって、あの人は「スマック・ダウン」のGMじゃないですか。ホントは「ロウ」に来ちゃダメなんですよ。

ターザン　そうなん？（←わかってない）

ドラゴン　だから、日本のファンも彼女が出てきたらブーイングして欲しかったんですけどね。ただ確かに異様なオーラを持ってますよね。WWEのバックステージって結構そういう人が多いですよ。トリプルHにしてもそうですし、普通の人間じゃないですよ。ああいう人たちに憧れますよね。

ターザン　日本には、そういった浮世離れして、人間離れした、とんでもないレスラーがいなくなったんだよね。

ドラゴン　でも、ロックやトリプルHにはなれなくても、WWEのスターになれる人はいると思いますよ。このあいだWWEの会場でジョニー・エースとちょっと話をしたんでけど、その時にある日本レスラーの名前が出たんですよ。誰だと思います？

ターザン　う～ん、高山選手？

ドラゴン　そうです。興味あるみたいですよ。やっぱり目の付け所が違いますよね。あとアメリカってデカイ選手が好きですからね。それかボクらみたいなクルーザー級で動くヤツが好まれるんですよ。だから、身長180ぐらいで特別なことができないような中途半端な人って向こうではダメなんですよね。

WWEが本腰を入れたら新日の選手が前座をやるような日が来るかもしれない

ターザン　そう考えるとTAJIRIっていうのは偉いねぇ。

ドラゴン　彼はホントに凄いですよ。

ターザン　奇跡のサクセスストーリーだね。ECW時代の汚いアパートからの成り上がりって凄いですよォ！

ドラゴン　英語がペラペラなわけでもないですし、アメリカナイズされた人間でもなく典型的な日本人ですからね。

ターザン　だって元・大日本プロレスですよ！

ドラゴン　でもやっぱり、彼って凄く性格がいいじゃないですか。だから成功するんですよ。これは日本人が向こうに行ったとき凄く重要なことなんです。ショー・フナキが良い例じゃないですか。正直言って、彼ってWWEにとって商品価値がありますか？　プロとして体もそんなにいいわけじゃない、突飛なことができるわけじゃない。でも人間的に素晴らしいんですよ。だから仕事を回してもらえるんですよ。

ターザン　へ～、なぜあれがWWEから切られないか不思議だったんだよねぇ。

ドラゴン　人間がいいのと、契約の内容はそれほど高くないけれど、仕事をキッチリやるからじゃないですか。TAJIRIにしてもそうなんですけど、彼が潰れかけのECWにいた時、ギャラを払ってもらえてなかったらしいんですよ。そのときECWを裏切ってWCWへ行ったレイヴェンとかペリー・サタンは、WWEに合併された後、ブッカーとしてはいったポールEに干されたでしょ？　でも潰れるまでついていったダッドリー・ボーイズとかTAJIRIはプッシュされたんですよ（笑）。きっとポールEの恩返しですよね。だからTAJIRIはそういう意味で運も良かったんですよ。

ターザン　パチパチパチ！（拍手）

ドラゴン　逆に永田裕志っていうのは、あんなにいいレスラーなのにWCWでは評価が低かったんですよ。それは多分、ボクの勘だと、ブッカーのテリー・テイラーが新日本に行った時にあんまりいい扱いを受けなかったでしょ？　だから新日本のレスラーはあんまり好きじゃないんだと思いますね（笑）。

ターザン　永田選手は新日本の看板がジャマになったんだ！（笑）

ドラゴン　それがボクなんかの場合は、テリーともフィーリングがあったし、あとケビン・サリバンにも良くしてもらったんですよ。だから、ボクが2度もWCW・TVチャンピオンになるチャンスを与えてもらったのって、そういうところもあると思うんですよね。まぁ、それは万国共通、どこでもあることなんでしょうけど（笑）。でも、闘龍門ではそれがないように、ボクはウチの選手とプライベートでは一緒に行動しないんですよ。人間どうしても好き嫌いは出てきますから、評価をリング上だけにするには、そうするしかないんですよね。

ターザン　それは組織の長として大事なことですよォ！　ビジネスはビジネスでシビアに行かないと上手くいきませんよォ！　そういう意味でも石井館長っていうのは、ボクは凄いと思うん

TAJIRIやダッドリーがプッシュされたのはポールEの恩返しですよ

だよね。あれぐらいビジネスに徹した人はいませんよォ！　その石井館長が絶頂の時にああいうことになったわけだけど、その件に関してのコメントを浅井さんからも一言聞かせてもらえますか？

ドラゴン　う〜ん、石井館長って面識ないんでどういう方か知らないんですけど、業界的には非常にマイナスですよね。ただ、あの方ってK-1を短期間でここまで持ってきたじゃないですか。それは本当に凄いと思います。

ターザン　もの凄い人ですよ！

ドラゴン　ウチの社長（岡村隆志）が空手なんで石井館長のことをよく知ってるらしいんですけど、とにかく昔から頭の良い人だったって。空手の選手としての実績がないのに館長になったし、だいぶ昔の話なんですけど、まだ正道会館が全然有名じゃない頃、大阪で大会を開いたときにバニーガールを立たせたらしいんですよ。そんなこと誰も考えないじゃないですか。空手って硬派のイメージがあるでしょ？

ターザン　その辺がスマートなんだよね。

ドラゴン　だからボクは素人考えでイメージダウンだとは思いますけど、それでもK-1はまだちゃんと続いていて、テレビの視聴率も凄いじゃないですか。それは石井館長が絶対崩れないものを作り上げた証拠ですよね。

ターザン　そこまでビッグビジネスにしたことが凄いんですよォ。プロレスはビッグビジネスができないよね。スモールビジネスですよォォ！

ドラゴン　プロレス界も昔で言ったら新間（寿）さんみたいな人がいましたけど、そういう人が今いないじゃないですか。プロレス界にも石井館長みたいな人が出て来て欲しいですよね。

ターザン　待望論だよね！　ああいう人がいたら絶対変わるんだから！　プロレス界も脱税できるぐらい儲かって欲しいよォォ！　でもねぇ、あれだけ築き上げた石井館長の怨念というか、執念は恐ろしいよね。ボクは人間のパワーは怨念だと思うんですよ。そんな奇麗事でできるわけがないもん。

ドラゴン　ボクなんかでも「プロレスは岩にでもしがみついてやる」っていう気持ちなんですよ（笑）。

ターザン　自分にはこれしかないっていう人間が世の中強いんですよ。芸術家はみんなそうですよォ！

ドラゴン　仕事が仕事の感覚じゃないんですよね。マッチメークでも1〜2カ月、時間をかけるんですけど、その間に全然関係ないことをいろいろ吸収して、一気にガッと出すんですよ。今回の『エル・ヌメロ・ウノ』（闘龍門初代王者決定リーグ戦）なんかでも、頭の中で「開幕戦のAブロックは誰にして、Bブロックは誰で、第一戦の札幌は誰と誰を当てる」とか頭に描くんですよ。それでバーっと答えを出してすぐにやらなければダメなんですよ。

ターザン　短期集中で一気にやるんだね。

ドラゴン　だからボクは普通のサラリーマンみたいに9時〜17時とか働けないんですよ。夜中に起きて急に2時から3時まで仕事したりとか、練習でもそうなんですけど、夜中に急に道場に行って朝の4時から6時まで練習したりしますから（笑）。

ターザン　それって昔の佐山（聡）さんじゃない！　人がいないから自由にできるでしょ？

ドラゴン　あんまり見られてるのは好きじゃないんですよね。急に12時間ぐらい寝て、起きたら2、3日寝ないで仕事したりね。普通の人からしたら何やってんだろうなって思いますよね。アイデアを書くのもそこらへんにある紙に書くんですよ。「メモ用紙を貸してください」とか言って。手帳にそんなものがたくさん挟んでるんですよね。

ターザン　紙切れに書いて、挟んでそれが全部集まって一つのものになるわけ？　メモを執るのは偉いなぁ。プロだなぁ！

ドラゴン　一番凄かったのは後楽園の興行で、誰かが怪我をして、事前にボクが考えてた事が全部崩れちゃったんですよ。「これはマズイなぁ」、「マッチメークをどうしよう」ってずっと考えてたんですけど、どうにもならない。それで「もうダメだ寝よう！」って寝たんです。そしたら夢でその日の後楽園での興行が始まったんですよ（笑）。それでお客さんが「ワー！」って喜んでる。夢の中でマッチメイク表が書いてあって、実際にそれをやったんですよ（笑）。

ターザン　夢にマッチメイクが出てきたんだ！　無茶苦茶ヘンな人ですね（笑）。もう人生狂ってますよ！　そのくらいいかないとダメなんだねぇ。

ドラゴン　多分、周りの人は理解出来ないんじゃないですかね。

ターザン　ついていけないですよ！

ドラゴン　そう鬱がかなり激しいんで周りがかなり迷惑してると思いますよ。急に怒ったりしますからね。

ターザン　誰に一番当たり散らすんですか。当たり散らしやすい人っているる？　ボクは『週刊プロレス』の時は市瀬なんですよ！

ドラゴン　特別にそれをやる相手はいませんけど、急に頭にきたりはしますよね。

ターザン　病気ですよ（笑）。

ドラゴン　ずっと黙ってる時は考え込んでるんですよ。今日みたいに昨日から寝てない時は異常にテンション高いですからね。その代わり寝て起きたら喋れないですよね。誰とも会いたくないから二日ぐらい外に出ないですよ。

ターザン　ボクは人と会いたい方なんだけど、競馬の時だけは自分の時間だから、いっさい人を近づけない！　近寄ってきたら刺す！　レクター博士ですよォォ！

ドラゴン　だからプライベートの親友ってあんまりいないですよね（笑）。山本さんもそうじゃないですか？

ターザン　プロレスの世界は特にそうですよ。いたらおかしいですよォ！　やっぱり世の中はヘンな人間が動かすんですよォ！

ドラゴン　ちなみに山本さんっていつから変になったんですか？

ターザン　ボクは生まれた時からですよォ！　生まれた時に「俺が一番だ！」と思って生まれてきたから！　変な人間バンザイですよォ！　浅井さん！　またちょくちょく話しをしよう！

ドラゴン　はい。ゼヒまた今度（ニッコリ）。

ターザン　俺たち変な人間の天下ですよォォォォ！　（立ち上がって）変な人間バンザ〜イ！　バンザ〜イ!!　バンザ〜イ!!

【03年2月13日／静かな音楽が流れる都内某ホテルのティーラウンジにて収録】

初代「闘龍門王者」が遂に決定！

『EL NUMERO UNO2003』

■ 3月
27日(木) 秋田・大館市民体育館 開始:18:30
28日(金) 岩手・北上市和賀多目的催事場 開始:18:30
29日(土) 岩手・一関文化センター体育館 開始18:30
30日(日) 宮城・Zepp Sendai 開始:18:00

■ 4月
05日(土) 愛知・刈谷市産業振興センター あいおいホール 開始18:30
06日(日) 静岡・アクトシティ浜松 開始18:00
12日(土) 香川・善通寺市民体育館 開始18:00
13日(日) 山口・下関海峡メッセ 開始17:00
15日(火) 大阪・IMPホール 開始18:30
19日(土) 埼玉・桂スタジオ 開始18:00
20日(日) 埼玉・本川越ペペホール・アトラス 開始13:00

優勝決定戦
22日(火) 東京・代々木競技場 第2体育館 開始18:30
敗者復活時間差バトルロイヤル
『ドラゴン・スクランブル』＆決勝トーナメント開催！

お問合せ:闘龍門JAPAN TEL:078-333-9797

元『生ゴン』ギャル
坂本奈緒子

『サイボーグ魂』
水野裕子

お花見シーズン直前ですが、一足お先に
女子格闘技満開

一時休業宣言!!
マア☆ティン

六本木『ヴェルファーレ』でリスタート
スマックガール

タレントの水野裕子の総合デビューや、六本木のヴェルファーレに場所を移してリスタートとなるスマックガール、さらにはマア☆ティンの一時休業宣言など、ここにきて、また女子格闘技界が騒がしくなってきている。今回の『紙プロ』では、先月キックの大会でデビューした"元生ゴンギャル"としてもお馴染みの坂本奈緒子ちゃんをクローズアップ！

聞き手／松澤チョロ　撮影／丸山剛史　designed by hisa (Two Three)

蛇の穴で鍛えぬかれたボディを引っさげ、この春、ついにスマック出陣!?
水野裕子の次は、この娘でキマリ!
坂本奈緒子
【エムガレージ】

女子格闘技満開

見てみ、このツラ！　この身体!!　どーですか、お客さん!?

全国に何人いるか定かではないが、『サムライTV！』視聴者なら、ターザンの降板騒動でお馴染み（!?）の『生ゴン』ギャル（現在は卒業）として、この坂本奈緒子ちゃんのことを知っている人も多いだろう。約1年前から、番組内のコーナーでプロデビューに向け『UWFスネークピット・ジャパン』で、宮戸優光&大江慎という〝2人の鬼コーチ〟のもとで過酷な練習を重ね、3月23日に行われたキックボクシングの新大会『RISE』でついにプロデビュー！

自ら〝PB（プロレスバカ）〟と名乗る奈緒子ちゃんは大のプロレス&格闘技ファン。嬉しいことに愛読書は『紙プロ』だという。

「プロレスの雑誌はいろいろ見るけど、中でも『紙プロ』は超好き！　私はノアヲタなんだけど（笑）、ノアが載ってなくても買ってる。今号（NO59）だったら、せきしろさんのキムケンネタが最高！」

ノアヲタで、中でも三沢大好きっ娘の奈緒子ちゃん、取材前日は、3・1の三沢vs小橋の中継があったが、大会当日は仕事の関係で会場へは行けなかったということだが。

「もう超感動した！　感動しすぎて泣いちゃいました。三沢が負けちゃって残念だったけど、観てて最後はどっちが勝ってもいいやって思えるような試合だったし。たぶん、今年はあれを越える試合はない！」

今年のベストバウトは早々と決定した様子。そんな奈緒子ちゃんが適役とも言えるプロレス&格闘技専門チャンネル『サムライTV！』の「生ゴン」ギャルとなり、ついにプロデビューまでしてしまうわけだが、その過程を語ってもらった。

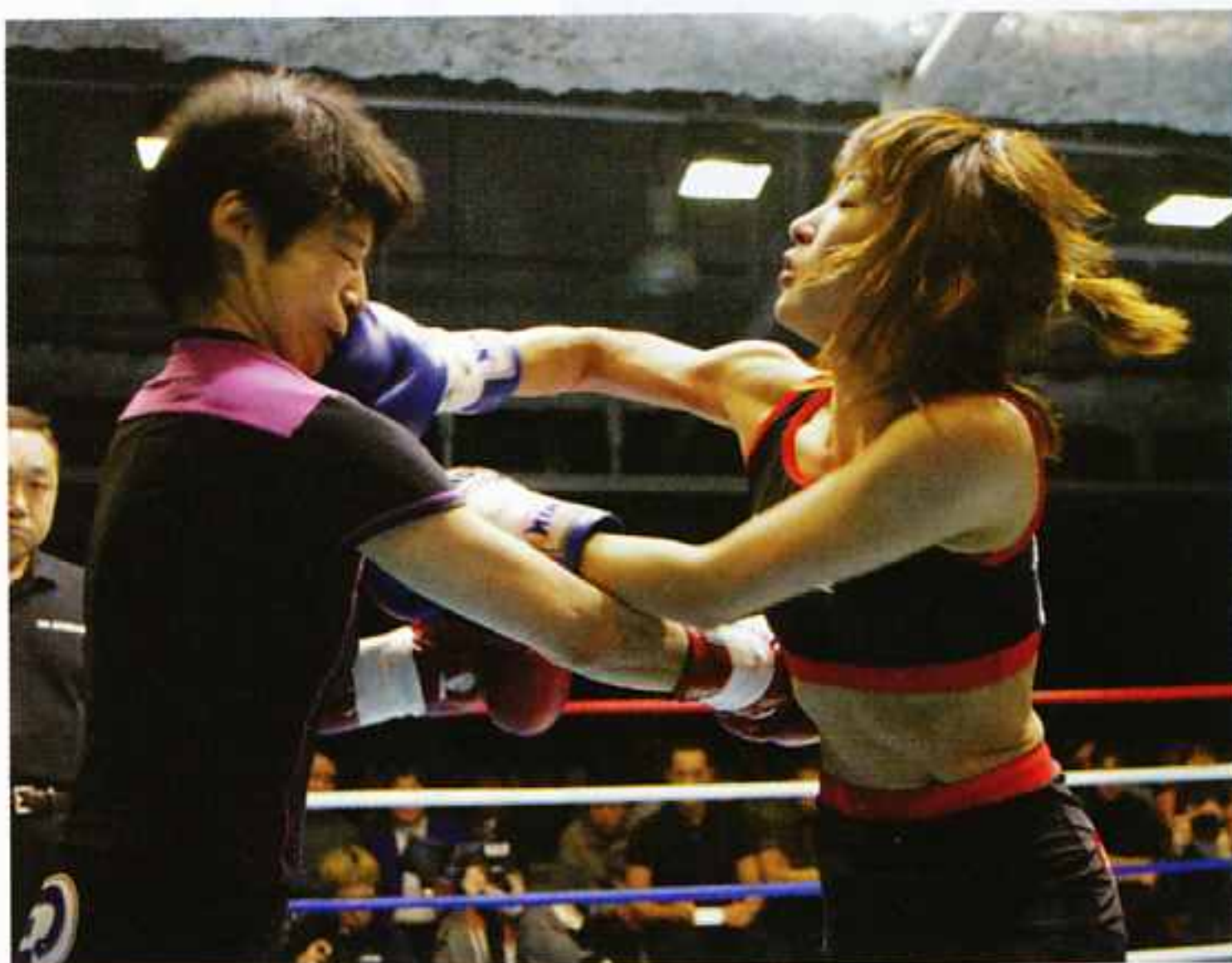
「プロレスとか格闘技に携わるっていけるような仕事をしたいって思っていまの事務所に入ったの。どうしても『サムライTV！』で働きたかった（笑）。……でも『サムライTV！』に出ればプロレスがいっぱい見れると思ってたんだけど、気がついたら全然プロレス観戦なんて行けなくて（笑）」

まあ、得てしてそんなもんだろう。

「最初は『生ゴン』の企画として『プロデビューへの道』みたいな形で始まって、結果としてはお仕事になってるのかもしれないけど、もともとやりたかったから『喜んで』って感じで（笑）。スマックに出たいっていうのは『生ゴン』とか『サムライTV！』で仕事を始めるずっと前から思ってたの」

プロレスバカの奈緒子ちゃんは、女子プロ&女子格闘技も頻繁に観戦し、中でもマァ☆ティンには、かなりの影響を受けたという。

「マァ☆ティンの試合を観る度に凄く感動して。あと、マァ☆ティンの試合を観てると涙が出てくるの。なんか凄い夢中になって一生懸命頑張ってやってるし、マァ☆ティンみたいに周りが何も見えなくなるぐらい夢中になるものが欲しいって、ずっと思ってた」

奈緒子ちゃんと同じようにタレントの格闘技デビューというと、つい先日の『サイボーグ魂』での水野裕子が記憶に新しい。彼女は、たった2ヶ月の練習とはいえデビュー戦では持ち前の運動神経とグラバカ仕込みのグラウンドを披露し観客を魅了した。1年間特訓を続けた奈緒子ちゃんには、それ以上の期待もしたいところだが……。

2月23日、東京・大森ゴールドジム・サウスANNEXで行われた新感覚の打撃格闘技大会『R.I.S.E.』でプロデビューを果たした坂本奈緒子。キック2戦2勝のウルフかおり相手に強烈なパンチで攻め込み、レフェリーストップによるTKO勝

「無理無理！　だって水野さんは身体能力がもの凄く高いっていうのをテレビで見てたから。私はこれまで、のらりくらりとグータラ生活でボリボリっておしり掻きながら『今日も面白いテレビやってないなぁ』みたいな感じで毎日過ごしてた人だから（笑）。運動経験っていうのも小学校から中学までスイミングスクールに行ってたぐらいだし」

とは言って謙遜するものの、キャットファイター時代、奈緒子ちゃんのガチンコでの暴れっぷりを何度か目撃し、しまいには実際闘っているボクから言わせれば、この娘の気の強さは半端ではない。ズバリ言って、ケンカはかなりしてるんじゃない？

「ケンカはすっごいした。ちっちゃい頃からずっと（笑）。男でも女でもカチンときたらドンって人突き飛ばすような感じで（笑）。『なんだ、コノヤロー！』みたいな感じで昔はことあるごとに怒ってた。別にグレてたわけじゃないけど、ホント、口より先に手が出てた。知らない男の人のメガネを叩き壊したり（笑）」

どうよ、この性格！　〝なんでもあり〟向きと言えるだろう。そんなこんなありながら、格闘技を始めることになる奈緒子ちゃん。番組が用意したジムは泣く子も黙る『UWFスネークピット・ジャパン』。数ある道場&ジムの中でも厳しさでは折り紙付きのスネークピットで練習を始めることになる。

「入ったばっかりの頃は、宮戸さんのレスリングのクラスの時間では基礎体力がないってことで、ずっとその時間の間中スクワットをやったりしてた。悪い子みたいに（笑）」

『生ゴン』の月曜キャスターを務め、スネークピットに通い汗を流している浅草キッドの水道橋博士も番組内で「こんなに怒鳴られながら毎日練習している人は見たことない」と語っている。とにかく宮戸&大江先生は、ひとたび「プロデビュー」という言葉を耳にすると指導法も普通の会員とはガラリと変わってしまうらしい。当然、プロデビューを目指すということで始まった奈緒子ちゃ

女子格闘技通信 1

天然格闘少女、実家へ帰る！

久々の試合で引き分けに終わった星野は「完敗です」と一言。星野を指導する若林番頭からは「クラスBらしい試合だったよ（笑）。続けるしかないよ」と言われ「頑張ります。悔しいけど楽しかった」と答えたのだったが……

これまで女子総合をちっちゃい身体で引っ張ってきたマァ☆ティンこと星野育蒔が2・23修斗後楽園大会のオードリー・クラウニング戦後、一時休養することが明らかになった。その試合で星野は身長差のある相手に手こずり、2R判定ドローという結果に。試合後、東京新聞に取り上げられた星野は、記事の中で本名とともに「本物のプロとしてリングに戻ってきたい」とのコメントを残し数日後、実家に帰ってしまったという。いまは「これは引退じゃない。心の弱さを克服して本物のプロになる」とのマァ☆ティンの言葉を信じて復活の日を気長に待とう！

女子格闘技満開

んへの指導は端から見てもかなりの厳しさだったという。当の本人はどう思っていたのだろう？

「他のジムに通ってる女の子たちがどういう練習してるかとか全然わからなかったし、私は、ひたすらスクワットとか腕立てとかそういう練習ばっかりやってた。それに最初の頃は女の子は私1人だけだったし、周りのみんなも、ずっとスクワットやってる私を見て『すぐ辞めるだろ』って思ってたみたい（笑）」

具体的にはどういった練習をしていたのか聞いてみると？

「基礎体力の練習では踏み台昇降とスクワットと足を広げてするストレッチみたいな腕立て。あと腹筋と背筋。クラスの時間が1時間とかあったら、その間中私はずっとやってなきゃいけないの。スクワット1000回とか」

さらっと1000回と言ってのける奈緒子ちゃんだが、現役のプロレスラーでもその数のスクワットをやれない人は多いはず。

「大江さんが言ってたけど、『横井（宏考）クンもスクワットそんなにできないって言ってたぞ』って（笑）」

スクワットだけなら、前田道場出身の〝怪物くん〟もすでに上回っている奈緒子ちゃん。ちなみにスクワット1000回は練習を始めてどれぐらいでできるようになったのか？

「たしか、通い始めて2ヶ月か3ヶ月経ったぐらいに、宮戸さんから『500回やるぞ！』って突然言われて、『無理！』って思ったんだけど、まあ頑張ってやって、もし倒れたら誰かなんとかしてくれるだろうって（笑）。そしたら、そのときに500回できて、『500回終わりました』って言ったら『やめていいなんて誰も言ってねえぞ！　あと200！』って。そのときに一気に700クリアーできたの。それで、そのあと別の仕事でスキューバダイビングをしに海外に行って一週間休んだのね。それを大江さんには言ったんだけど、宮戸さんに言うタイミングを失って言えないまま海外に行っちゃって、戻ってきたら、『バカモン！　今日は罰としてスクワット一杯やらせる』とか言われて、それでやってたら、1000回越えた。そのときは1100いくつできたかな？　……でもね、宮戸さんがいないと絶対できないよ。宮戸さんがいるからできたんだと思う（笑）」

「宮戸がいれば何でもできる！」という感じなのだろう。

「でもね、私と同じように宮戸さんのところに『プロデビューしたい！』って言って入ったら、私と同じで『できません！』とは絶対誰も言えないと思う（笑）。それに私はプロレス好きだから、プロレスラーの自伝とか山本小鉄さんの本とかで、プロレスラーっていうのは練習第一で、スクワットは千回みたいなのをずっと読んでたから我慢できたんだと思う」

さすがはプロレスバカである（いい意味で）。でも話を聞いてる、宮戸＆大江先生の厳しさしか伝わってこないが、実際のところはどうだったんだろう？

「怖い怖いとは言いつつも、帰り際に『今日は頑張ったね』みたいな感じで頭をなでてもらったりすると、凄いそれだけで頑張れる。『明日も頑張ろう！』って（笑）。いまでも怖いけど、2人とも大好きだよ」

毎日のように過酷な練習を続けた奈緒子ちゃん、逃げ出そうと思ったことは？

「（小声で）ある。去年の6月の終わりぐらいに打撃のスパーリングの時間に、ひどい肉離れをして。それが1ヶ月掛かってようやく治ったっていうときに、今度は血尿！（笑）」

け、血尿!?　血尿というと藤原道場での山憲の特訓を思い出すが、もしかして血便も？

「便まではいかなかったけど（笑）、原因不明の血尿が出て、それがなかな

女子格闘技通信 2

『サイボーグ魂』大爆発！

オールスタンディングの観客がリングの周りをぎっしりと囲む中、薬剤師、主婦、バーテンダー、キャラクターデザイナー等、普段は別の顔を持つ10人の選手が大健闘。グラビアアイドルの羽柴まゆみは、無印良品勤務の筒井千尋と試合前から大舌戦を展開、果敢に挑むも腕十字に散った

「女性たちの情熱が、このリングを誕生させました。開催を宣言します！」2月25日、船木誠勝の言葉からスタートした、TBS『サイボーグ魂』番組内企画の女子格闘技大会。大会の放送はすでに終了しているが、女子格闘技の〝号外〟的大会として、大成功を納めた。メインの水野裕子は、菊田早苗がセコンドにつく中、正道会館の高橋ちひろと顔面ありのルールで殴り合いを披露、5分2Rを闘い抜いた。今後、格闘技を続けていくかどうかについては「他にもやりたいことが沢山あるから…」とのことだったが、心の見える闘いぶりには拍手を送りたい!!

か治んなくって、一月半ぐらい練習をお休みしたの。お医者さんからも『運動とかお酒はやめてください』って言われてたし。それでそのお休みの間に、何回もやめようと思った」

しばらく練習を休み、ジムにも行きづらくなったという奈緒子ちゃんだったが、気がつけば再びジムへと足が向かっていた。練習を再開した奈緒子ちゃんは、この時期から基礎体力コースを卒業し、大江先生が指導する打撃コースで本格的に練習に突入する。

「打撃コースで練習を始めたからって、別にキックデビューとか、そういうのを考えてたとかも全然なくって。結局スマックガールに出るのが目標って思ってずっと練習してきたんだけど、『私はいつになったらデビューできるんだろう、イライラ』とかっていうのは一切なかったの。ホント毎日の練習でいっぱいいっぱいだったから。打撃の練習でも毎日ボコボコに殴られて、身体がどっかにすっとんでって、ビョンビョ～ンって跳ね返ってくるようなマンガみたいな感じだった（笑）」

……凄い！　スネークピットと言えば、宮戸＆大江先生の人望と練習環境の良さもあってプロ選手もよく訪れるというが。

「（井上）貴子さんもそうだし、高山（善廣）さんも来てるし。あと菊田（早苗）さん、佐々木（有生）さんなどなど、プロの選手の人とも一緒にスパーリングとかさせてもらってる。そういえば、この間、ジョシュ・バーネットともスパーリングしたよ」

昔から大ファンだったという井上貴子だけではなく、高山、菊田、佐々木、さらにはジョシュまで、一流どころのプロ選手とも普通にスパーリングをしているというからビックリ。さすがスネークピットである。

「打撃コースとかだったら、その日来てる人みんなと大体2回ずつスパーリングするの。だから、高山さんが来てたら高山さんともスパーリングするし。『おっきい！』って思いながら、一生懸命ジャンプしながら『コンチクショー！』みたいな感じで必死にパンチを出してる（笑）。高山さんに限らず、私とやるときは、みんな加減してくれてるんだけど、それでも吹っ飛ぶの。でも一番怖いのは大江さんとやるとき。もう死ぬかもしれないっていつも思う（笑）」

いまは笑って語る奈緒子ちゃんだが、死ぬかもしれないって、一体、大江先生はどんなことをしていたんだろう？

「試合前の2週間ぐらいは、いつも厳しいのがより一層厳しくなって、それで毎日叩きのめされてて、毎日毎日怒られて怒鳴られてって感じだったの。一回、ボディーに凄いミドルを入れられたんだけど、そんときに、私もんどり打ったの（笑）。もういつもの痛さとは比じゃない痛みが襲って来て、両ヒザからガク～ンと落ちて。意識はあるんだけど、すっんごい痛くって、もうあまりの痛みに腹の底から『ヴゥ～～～』って悪魔とかホラー映画みたいな声が止まんなくって。『こんな声、私出したいわけじゃないんです。みんなわかって』っていうぐらいの（笑）」

さすがに、そのときは大江さんも心配してくれたでしょ？

「そのとき大江さんはね、『お前、それダウンだよ！　はい、1、2、3』ってカウント数えだして、3回ぐらい10までいって、『お前、もう3回ダウンしてるぞ！　そんなんじゃダメだ!!』って怒られたの（笑）。そんときが一番怖かった。産まれてからいままで生きてきて、3回交通事故に遭ってるんだけど（笑）、その3回の交通事故に遭ったときの痛みよりも痛かった！」

大江先生のミドルは交通事故3回分以上！　結果的には、こういった地獄の特訓が精神的にも肉体的にも奈緒子ちゃんを成長させたと言えるだろう。それにしても大江先生の鬼っぷりは凄い。それだけの打撃を毎日のように喰らっていたら、そんじょそこらの女の子の打撃なら、たいがいは平気なんじゃない？

「うん、たぶん大丈夫（笑）」

そんなこんなで、約1年間練習三昧の生活を送ってきた奈緒子ちゃんは新感覚の打撃格闘技『RISE』というイベントで、ついにプロデビュー。相手は35歳とベテランながら、すでにプロ戦績2戦2勝と決して侮れない相手である。しかしながら奈緒子ちゃんは、1ラウンドから得意の右ストレートを武器に前へ前へと攻め続け、2ラウンド終了時には、対戦相手はコーナーから立ち上がれず、見事TKO勝利を収めプロデビュー戦を飾ったのだ。試合当日の感想を聞いてみると？

「いままでも、チョロさんと闘ったり

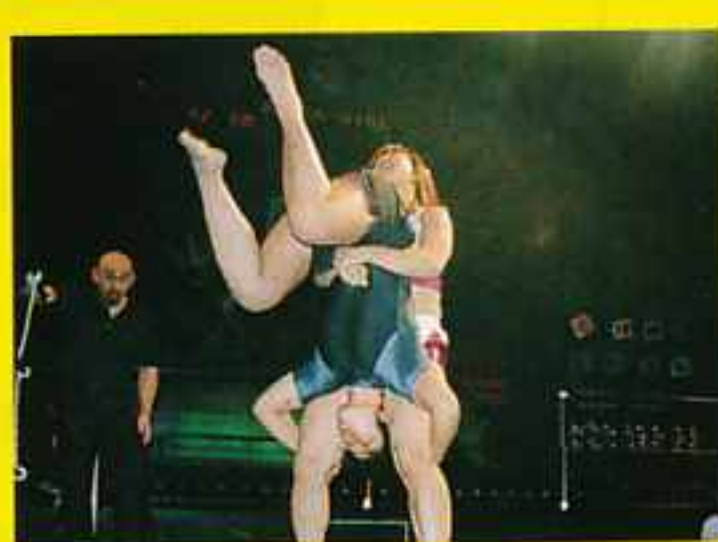
大好きな三沢フィギュアを前にスネークピットでの練習を振り返る奈緒子ちゃん

UWFスネークピットジャパン
大江慎

スネークピットの“鬼”が語る坂本奈緒子評

やっぱりね、彼女は企画で来てるんで、どっかで仕事で来てるっていう感じがあったんですよ。それはちょっとプロのリングをナメてもらっちゃ困るんで、試合前の2週間は凄い厳しいことやらせましたから。まあ最後には観念して（笑）、やんなきゃしょうがないんだなっていうモードになってからは、だいぶ良くなってきましたね。試合に関して言えば、技術的なことはデビュー戦だからできなくて当たり前なんですけど、気持ちの面では非常に良かったんじゃないかと思いますよ。最後の2週間はアイツは精神的にはプロのリングに上がるだけのものは持ってましたね。スマック出場？　いいんじゃないですか、やれば。レベル的にもやれると思うし。総合って言っても総合できてるヤツは、まだスマックの中では少ないですからね。だから、そういった意味では技術的には、そんなに高くないんで、そうなってくると何が問題かっていうと気持ちなんですよ。気持ちの面ではアイツは強いですからね。ウチで練習してきて、もし他に行ったりしても、ウチ以上やるとこないでしょうから（笑）。

女子格闘技通信 3

格闘エンターテインメント本領発揮！

先日は女子キックにも登場した藪下めぐみが、この日はグラップリングルールに挑戦。慧舟會の実力派・真武和恵相手に、なんとパワーボムを披露！　極めには至らなかったものの判定で勝利。実力の深さを観客に見せつけた。メインでは久保田が勝利し大会を締めた

昨年の会場だったディファ有明から、六本木ヴェルファーレに場所を移して開催されたスマックガールには、これまでの観客数をはるかに上回る723人の観客がつめかけた。第1試合で行われた辻結花は、ナナチャンチンとの異色対決のリングへ、『W—1』でのビル・ゴールドバーグさながらに遅刻して六本木駅から登場！（結果はもちろん辻ちゃんの一本勝ち）。メインでは、久保田有希が〝バス・ルッテンからの刺客〟マイラ・コンディに下からの十字で見事な勝利。張りつめた緊張感の中、大会の最後を最高の笑顔で飾ってくれた。

これからも頑張って練習するんで応援して下さい!!

さかもと・なおこ■75年7月21日　東京都出身O型身長：161cm　体重：47　3サイズ：時価（笑）★趣味：プロレス観戦・ドラム演奏・水泳・インターネット・旅行　★特技：格闘技・スキューバダイビング　★「ノアだけはガチ」発言について？「そんなガチかヤオなんて考えることがまずナンセンス！（笑）。3カウントとか5秒以内なら反則ありとかプロレスルールは超メルヘンだからいいの」奈緒子ちゃんが抱いているのはペットの健太郎。ドラマデビューを控えるタレント犬でもある

女子格闘技満開

とか（笑）いろんなところで試合してきて、緊張したりとかはあったけど、こんなに緊張したのは初めて。前の晩に試合のことを考えたら、凄いプレッシャーで寝れなくなって、ほとんど一睡もできないまま会場に向かったの。やっぱり、番組の企画としてジムに入って、約1年、一生懸命練習してきて、携わってきた人っていうのが凄くいっぱいいて、その人たちに恩返しできるのは試合で勝つことしかないって思ったら、すっごい緊張した」

指導してくれた宮戸＆大江両先生、そして所属事務所、デビューまでの道を追いかけてきた『生ゴン』などなど……気がついたらいろんなものを背負っていたのだろう。

「なんか背負ってるような気がしちゃって。ホントは背負ってないんだと思うんだけど（笑）。それに宮戸さんと大江さんに、『これだけ練習してきて、もし試合で負けたら、お前なんか辞めちまえ！』みたいな感じで言われて、もうヤバイヤバイって（笑）。

勝てるって自信？　それはなかった。やっぱり、やってみないとわかんないし、ずっと練習してきて、スタミナが付いたとかっていうのはわかるけど、肉体的にどう変わったとかっていうのは自分ではわかんなかったから。でも精神面は凄い変わったと思う。『絶対倒してやる！』って気持ちになれたし、それに倒さないと怖くて大江さんがいるコーナーに戻れないっていうのもあったけど（笑）」

もしかして、宮戸＆大江両先生がセコンドに付いたら鬼に金棒なんじゃない!?

「どんな相手と闘うよりもセコンドの方が怖いかも（笑）。でも試合のときも、大江さんから『絶対次で倒しにいけよ！』って言われたら『絶対倒してやる！』って思ったし（笑）、とにかく言われたことをやらなきゃいけないっていうのが染み付いちゃって。いい意味で洗脳されてるのかもしれない（笑）」

『紙プロ』的にはキックの大会もいいけど、やっぱりスマックとか総合の試合に出てもらいたいところ。ズバリ、やる気はあるの？

「いまはグラウンドの練習は全然やってないからチョークスリーパーとかSTFぐらいしかできないけど（笑）、スマックは、ずっと目標だったし、もし出れる機会があったら、もっと頑張って練習して出たいと思ってる。通用するかはわかんないけど、渡邊久江さんを見ててスマックのリングで闘うときにいつも『KOで勝ちます！』っていう発言を聞いてて凄いカッコイイなって思うから、やっぱりスマックに出ても打撃で頑張りたい！」

〝蛇の穴〟で鍛え抜かれた心技体はもちろんだが、やっぱりタレントとして、ビジュアル的にも注目を集めることだろう。

「でも私、タレントって言っても……タレントじゃないと思う（笑）。そんじょそこらのプロレスバカの27歳っていう感じ（笑）」

そんじょそこらのプロレスバカの奈緒子ちゃんの今後に大いに期待！　最後に一言!!

「いろいろな試合に出ていけるように頑張って練習するんで、応援してください!!」

【3月10日／六本木『ボディ・プラント』にて収録】

この日の取材は『サイボーグ魂』の女子総合大会にも出場（残念ながら敗戦）した尾田優希ちゃんが働いている六本木の『ボディ・プラント』内の「カフェ・ラ・プランタ」で行いました。【お問い合わせ】TEL 03-5772-2792

まだまだ続く“花満開”女子格闘技スペシャル!
注目の大会はこれだ

スマックでは女サクvs女シウバが実現ッ!! 辻結花vsウィンディ智美決定!!

VS

無敗のミドル級チャンピオン辻結花（写真右）と、女子キックで韓国人ボクサーを秒殺したウィンディ智美（写真左）が激突!!　現在決定済みのカードはこの他、渡邊久江vs大門まい子。昨年4月の対戦では、両者ともにデビュー戦だった渡邊と大門。だが試合は、渡邊のグラウンドでの顔面打撃2回による反則負けという結末に。今回は、その後、この1年で着実に結果を残し大きく成長した両者による、待望の決着戦となる。（全7カードを予定）

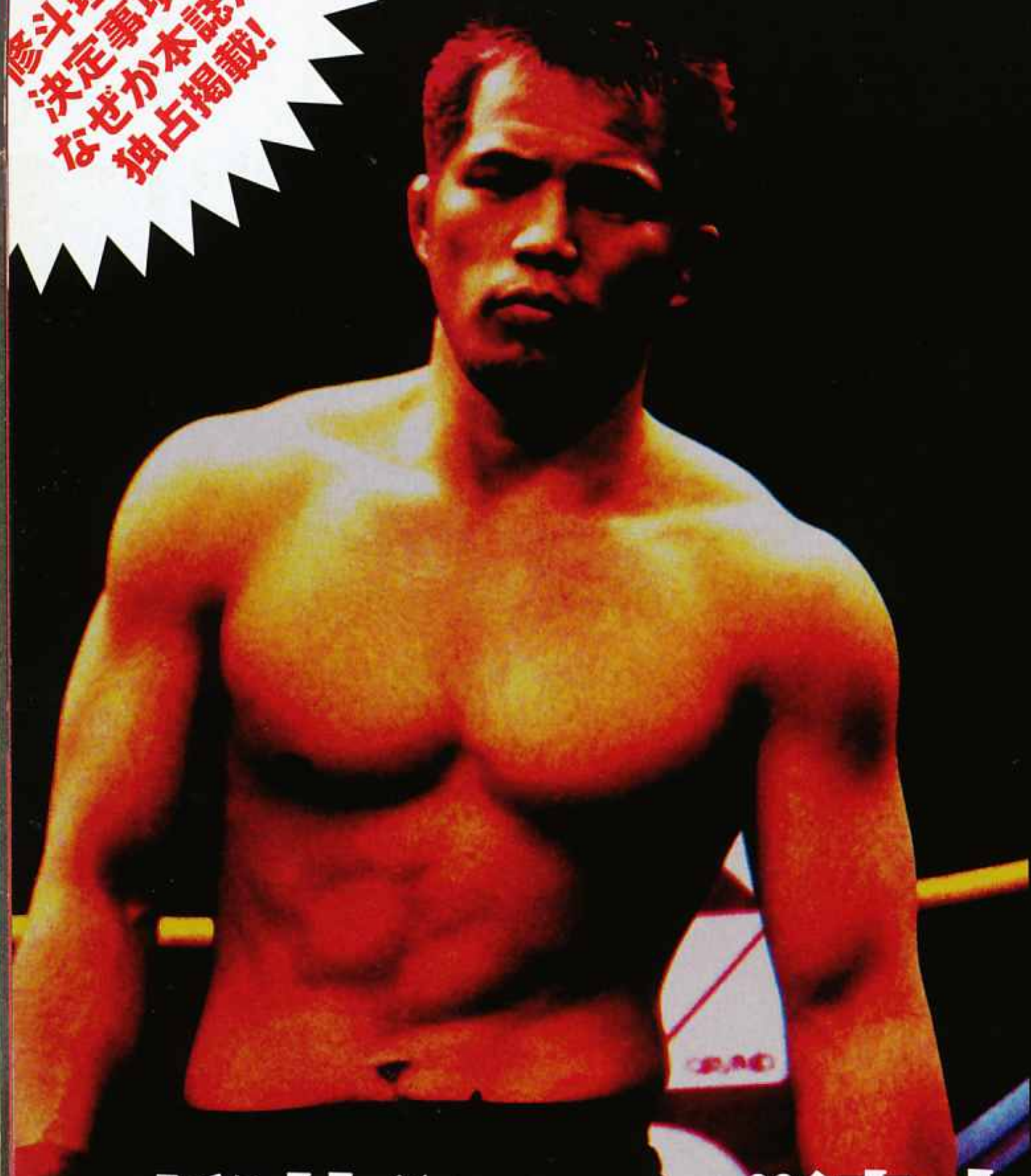
『SMACKGIRL Third Season-I』
4月2日（水）試合開始:19:30
［開催場所］velfarre（東京・六本木）
（営団地下鉄日比谷線・都営地下鉄大江戸線「六本木」駅下車徒歩1分）
［お問い合わせ］スマックガール実行委員会Tel:03-5545-4766

女子総合格闘技大会・ARKADIA 長野に女ボブ・サップが登場!!

VS

『女子総合格闘技ARKDIA（アルカディア）』
3月29日（日）試合開始 18:30
［会場］長野・白馬ウイング21
［主要対戦カード］
石原美和子（写真右）vs 彩丘亜紗子（写真左）
虎島尚子 vs 亜利弥'
辻結花vs池本誠知【エキシビジョン】
秋山秀子vsEika（※秋山秀子さんは禅道会・秋山賢治氏の妻）
金子真理vs松川敬子
照井和瑛vs葛西むつ美
［お問い合わせ］TOY BOX 0265-34-2170

さらに5月には女子新大会『Girls』開催!

修斗理事会決定事項をなぜか本誌が独占掲載!

桜井“マッハ”速人、三島☆ド根性ノ助を動かした『DEEP』影の仕掛け人は“格闘技版・戸塚ヨットスクール”の校長だった!!

『DEEP』代表
佐伯繁

いじめ問題から修斗内部まで語る3・4『DEEP』大成功記念放談

翼トレーニングスクール
原輝尚

聞き手／松澤チョロ　構成／ジャン斎藤

designed by matsu(Two three)

桜井〝マッハ〟速人や三島☆ド根性ノ助、修斗系選手の参戦が注目を集める『DEEP』。その影には、一人の仕掛け人が存在しているという。大盛況で幕を閉じた3・4後楽園大会の翌日、話題の仕掛け人と佐伯代表をキャッチ！フガーッと内幕を語ってもらった!!

――さて今日は、三島選手やマッハ選手の『DEEP』参戦の仕掛け人と噂の原さんに、その辺の裏事情など詳しく聞かせていただければと思ってます！　もちろん、毎回恒例の佐伯さんの苦労話も聞かせていただきたいんですけど（笑）。

佐伯　いやいや、ボクなんかの話はいいからさ、原さんにドンドン話を聞いてよ！いいネタも持ってるし、原さんにはお世話になりっぱなしなんだから。

原　私が仕掛け人の翼トレーニングスクールの原輝尚と申します（笑）。今日はよろしくお願いします！

佐伯　……でも裏事情かぁ。マズイかもなぁ。……まぁ、とりあえず飲み物でも頼みますかぁ？

――あ、今日はお食事はよろしいんですか（笑）。

佐伯　（お腹をさすりながら）さっき喰ったばっかだからね。ボク、コーヒーね。

――そういえば佐伯さん。昨日（3・4『DEEP』）は、後楽園の使用規定時間の10時を軽くオーバーしちゃって延長料金が派生したらしいですね（笑）。

佐伯　（肩を落として）もうたまらんわ、ホント！　後楽園ホールの延長料金はね、30分●万円なんだけど、1時間オーバーしたから●万円も払ったんだよねぇ。

――『DEEP』初の超満員札止めなのに、最後にそんなオチが（笑）。

佐伯　次の『DEEP』（5月5日）も後楽園でやるんだけど、昼にチャパリータASARIの引退興行があるから、会場入りが4時半になるんですよ。そっからリング設営するでしょ？　進行のリハやるでしょ？　そんで7試合ぐらいやるでしょ？　撤収するでしょ？　10時に終わるわけないっちゅうのッ！（逆ギレ）。

――やる前から、延長料金を払うことになるのは決定的ですね（笑）。

佐伯　そうなんだよねぇ。まぁ、ASARIとは話ができるんで、なんとかしますよ。ほら、ASARIの写真集を撮ったのボクだから（胸を張って）。

――ボヤキの次は自慢ですか（笑）。5・5開催というと、直前に新日本もバーリ・トゥードをやるじゃないですか。

佐伯　だったら、ウチはルチャですよ！　逆にそういう仕掛けで勝負しますよ！　フガーッ！（鼻息荒く）。

――とか言いながら、昨日は上井（新日本取締役）さんや成瀬選手も来場してましたし、新日本との絡みとかも考えてるんじゃないですか？

佐伯　（必要以上にムキになって）いやいやいや、ないですよ！

――ムキになるところが逆に怪しいですねぇ（笑）。

佐伯　あんまり突っ込まんといて、もう。今日はボクより、原さんのお話を聞いてくださいよ（隣に促しながら）。

――わかりました（笑）。そろそろ本題に入りたいと思います。まず原さんの肩書きを説明すると、三島選手の選手代理人ということでいいんですよね。

原　そうですね。でも、三島だけじゃなく他の修斗の選手、マッハや須田（匡昇）君も『DEEP』に紹介しています。

まだまだ修斗の選手を『DEEP』に上げますよ！【原】

いやぁいやぁ、ウシシシ！【佐伯】

佐伯繁

佐伯　まぁ、ぶっちゃけると、原さんは『DEEP』のブッカーHだから（笑）。

――ブッカーKならぬブッカーH（笑）。でも修斗担当っていうと、かなり面倒な役回りなんじゃないですか。

佐伯　そうなんだよねぇ（しみじみと）。ハッキリ言って一番面倒だからね。

原　フフフ（笑）。

――実感こもってますねぇ（笑）。そこで原さんの出番になってくるわけですね。

原　まぁ、微力ながらですけど（笑）。

佐伯　（感心して）微力で三島、マッハを連れてくるんだから凄いよねぇ。原さんにはホント助けてもらってますよ。ボクは交渉で駆け引きができないから。選手と話し合いになんないしね。

――佐伯さんは頼まれたら「NO」と言えない人ですからね（笑）。

原　ボクはギャラも抑えますから。興行のことを考えたら、そうしないといけないですからね。

佐伯　ホント有り難いよねぇ（しみじみと）。ボクじゃまったく抑えられんから！（キッパリ）。

――力強いお言葉です（笑）。

原　でも、修斗さんの2～5倍は佐伯社長に支払ってもらってますけど（笑）。社長は選手のことを本当に考えてくれてますからね。

佐伯　いやぁ。ウシシシ（笑）。

原　そういう社長の人柄だからこそ、『DEEP』に安心して紹介できるんですよ。……これからも、ドンドン修斗の選手を上げますよ！（ニヤリ）。

――まだまだ上げますか！

原　はてしないでしょうね（笑）。三島が『DEEP』に上がってから、「どうすれば

「マッハ！」「上山！」と声援がけして途切れず、興奮のあまりモノまで投げ込む観客も現れるほど後楽園は大爆発!! 試合はスタンドでもグラウンドでも、とにかくマッハの力強さが光ったが、3点ポジションからの反則ヒザ蹴りで頬骨を骨折するアクシデントにもめげず、動き続けた上山の健闘も評価したい。

○桜井“マッハ”速人vs上山龍紀●
［3R 判定3-0］

試合後は「会場の色が違うから。修斗のだとこんなに喋らないんだけど」と大はしゃぎのマッハは、自分を支える地元・茨城のブス先生と木口会長（写真）をリングに呼び込んだ。ブス「2年間、マッハは死んでました。オレと酒ばっか飲んで！」。木山「（ビートたけしのマネで）バカヤロー！ まだまだ再生していきたい。また鍛え直して今より強くしたい。ついてこれるぅ？」。マッハ「（たけしのマネで）やるに決ってるだろ！」。

『DEEP』に出れるの？」って、ボクのところに修斗の選手が続々と相談に来てますからね。

——続々と来てますか（笑）。で、原さんのプロフィールで一番興味深いのは、原さんの本来のお仕事をなんですよね。原さんは、「いじめ・家庭内暴力・登校拒否」といった子供をたちを対象に、岐阜で『翼トレーニングスクール』を主宰してるんですよね。

原　はい。このスクールは、不良というか家庭内暴力の子供を預かって、1年間合宿するんですよ。ボクは柔道や空手をちょっとかじっていたんで、格闘技を教えて更正させてから親元に帰すんです。

——同じく原さんが主宰する『翼鍛錬所』とは別組織になるんですか？

原　翼鍛錬所というのはウチの生徒が試合に出る時の屋号みたいなもんですね。まだアマチュアの大会ですけど、いままで家で暴れて親を殴っとった奴が、リングに上がって殴られる痛みを知る。そういうことを経験することによって変わっていくんですよ。

原輝尚

——HPを拝見しましたけど、「家庭内暴力等、家庭内の問題に悩むお子様を預かり、体作りや武道を通して、社会に適応できる礼儀や態度を身に付けさせています。『もう、どうしようもない』『死ぬしかない』とお考えの方、早まらないで下さい。まだ、光はあります」という呼びかけや、原さんのスクールレポートを読んだ限りでは、格闘技版の戸塚ヨットスクールみたいな感じですけど。

原　その通りです！ ハッキリ言って一緒だと思ってくださって結構ですよ。

佐伯　実際、原さんは戸塚（宏）さんとは仲がいいんですよ。

原　戸塚校長のことは、昔から尊敬しとったもんですから、5、6年前にヨットスクールにお邪魔して、いろんな話を伺いましたから。自分はそれを参考にしてスクールをやろうと思ったんですよ。

——スクール以外にも、ストーカーや恐喝問題の対応とか、問題児の施設搬送もしてらっしゃるみたいですけど、仕事として需要はあるもんなんですか？

原　いまは世の中ちょっと乱れてますからボチボチありますね。こないだも、包丁をテーブルに置いてね、お父さんに酒を注がせてる子がおったんですよ。その子は180センチで90キロの身体で柔道やっとるもんだから、お父さんも手が出せなくてね。

佐伯　180センチに90キロかぁ。いい身体してるなぁ〜。

——また、『DEEP』に出したいとか思ってるんじゃないですか？（笑）。

原　頭は幼稚なんですけどね。で、その時はボクは後ろからそいつにソーッと近づいていって、包丁を掴む前に一気に取り押さえたんですよ。そんなのばっかりですから（苦笑）。

佐伯　ひえぇ〜!?

——ホント、命懸けの業務ですね！

原　そうですね。だから、常に身体を鍛えてないとダメなんですよ。

——ちなみに原さん自身は、選手として活動していた経験はあるんですか？

原　パンクラスに上がっている長岡（弘樹）君と闘ったことありますけど、負けちゃいましたね（苦笑）。彼が18歳でボクが39歳の時でね。まあ年寄りの冷や水みたいなもんですよ（笑）。

——そうでしたか（笑）。それと、もう一つ気になってたのは、マッハ選手や矢野（卓見）選手とか、いろんな選手が着てる「翼鍛錬所Tシャツ」なんですけど、あれはかなりインパクトありますよね（P159読プレ参照）。

原　あぁ、ご存知ですか。あれはウチの生徒のユニーホームなんですよ。インパクトありすぎちゃって「右翼のTシャツだ！」とか言われてますけど（笑）。

佐伯　（必死になって）そんなことないそんなことない！

原　いや、格闘技をやってる人って、みんなそっちの系統だと思いますけどね。

——佐山聡さんなんかも思いっきり右寄りですもんね。

原　佐山さんとは、朝日（昇）に「話が合う」って言われましたよ（笑）。佐山さんとは是非お会いしたいですね。

——凄く話が合うと思いますよ（笑）。

原　はい（笑）。ボクも、シツケがなって

なくて生き方の分からない若い連中には腹が立ちますから。タバコなんかを、その辺に投げ捨てる奴がいたら、いまでも掴まえてブン殴りますからね！

――いやぁ、佐山さんとは間違いなくスイングするでしょうね（笑）。

原　三島やマッハにしても、会見や計量に遅刻したらボクはちゃんとしかりますからね。そこら辺をナアナアにしとくと、彼らが上に立った時に困るんですよ。

――佐山さんも礼儀の面で修斗に対して苦言をこぼしてましたね。

原　自分は佐山さんがワープロにルールを打ち込みながら、修斗を立ち上げた頃から応援しとったんです。だから、修斗という競技は好きなんです。でも、修斗の中に知り合いが増えていって、内情を知るにつれ、あまりにも選手の扱いがヒドイんじゃないかって思って。

佐伯　あ〜〜ッ、載せられない内容になってきたなぁ。これってヤバイんじゃないのぉ？　『紙プロ』的に大丈夫？

――修斗は触ってないんでよくわからないです（笑）。

原　でも、本当のことですからね（キッパリ）。

佐伯　まぁ、修斗さんも組織はしっかりしてるから、もうちょっと上手くやればいいとは思うんですよね。

――佐伯さんも言いますね（笑）。

佐伯　いやいや、ボクも人のこと心配してる場合じゃないんだけどぉ（汗）。ただね、原さんがちゃんとした対応してるのに修斗側が固くなるから問題が大きくなっていくんであってね。須田選手がウチに出た時だって、修斗コミッションがOKしてるのに最終的に揉めたじゃん。

マッハは、修斗で報われていないと思いましたね［原］

原　修斗側が『DEEP』と同じギャラで試合を組む」とか須田君に言ってたらしいですけど、だったら最初からその条件を出せばいい話なんですよね。

佐伯　ホントね、カードが決まったあとにいろいろ言われても、間に合うわけないっちゅうの、そんなのッ！（ドンッ）。

――経営者の怒り爆発ですね（笑）。

佐伯　（焦って）いやいやいやいや、怒ってるんじゃないよぉ。ただね、『DEEP』もあとがないからさ……ブツブツ。

――ケースは違いますけど、パンクラスと修斗が揉めに揉めた三島さんのパンクラスゲート出場問題の時も、原さんが修斗側と話し合いをしてたわけですね。

原　あれはコブラ会（三島主宰ジム）からゲートに出る選手がケガで出場できなくなって、代打を探したんですがいなくて……。しょうがないから「三島しかいないから出たら（笑）」って話してたら、本当に出ることになったんです。

――原さんの冗談気味のアドバイスが三島さんを動かしたんですね（笑）。

原　そうなりますかね（笑）。やっぱりコブラ会のメンツもかかっていたし、代打で三島が出るのはアマチュア枠だから問題ないと思いましたし。いま振り返ると、あのトラブルがきっかけになって、自分らはいろいろ動き出しましたよね。

佐伯　動いたねぇ（呑気に）。

原　ただ、誤解してほしくないのは、自分は『DEEP』や選手からお金は貰ってないんですよ。何度も東京出てきたり、打ち合わせとかでかなり経費は掛かってるんですけどね（笑）。

佐伯　そう！　これ書いといて！　原さんはノーギャラだから。ボクもお金がまったくなくて払えんからね！

――佐伯さん、自虐的すぎます（笑）。

原　社長は自分でリスクを背負って選手のことを考えてやってくれてる。だから、自分も微力ながらお手伝いしたいと思ってるんですよね。

佐伯　（目を細めて）いいこと言うねぇ。俺も背負ってるからなぁ、リスクゥ。

原　でも、修斗は選手の後先のことを考えたりしないんで、「現役の選手には将来の修斗のために泣いてもらう」みたいなことを言う人も実際いるんですよ。だったら、ボクは前からマッハに「『DEEP』に出たら」って言ってたんですよ。

――でも、マッハ選手のクラスでも待遇はそんなに良くないものなんですか？

原　ボクから見ると、仕事してるわりには報われてないと思いました。でもね、マッ

修斗やプロ柔術マッチでも活躍している梅村寛のジム「アライブ小牧」でトレーニングに励む原校長!!　元旦早々、神戸に飛んで子供の家庭内暴力に悩む母親を救うなど、命懸けの業務のため、日本の子供の将来のために訓練は怠れないのだ！

嵐の前の静けさ？前半戦は膠着三昧!!

3·4『DEEP』DIGEST

ブラジリアン柔術の実力者が連勝!!

○TAISHO vs 亀田雅史●

［3R判定3-0］

前回の『DEEP』でムエタイ戦士を破ったTAISHOが、三島と同じコブラ会所属の亀田と対戦。柔術家として評価が高いTAISHOだが、スタンドの打ち合いで亀田を圧倒。決定打には欠いたが文句なしの判定で『DEEP』2連勝を飾った。

修斗vsU-FILEの前哨戦はドロー

△竹内コウジvs西内太志郎△

［3R判定ドロー］

シューティング横浜ジムより参戦した竹内（写真・左）とU-FILE西内の一戦は、竹内がパンチ、西内がローキックを主体とした攻めをみせたが、互いに決め手を欠いたままタイムアップ。『DEEP』初参戦同士の対決はドローとなった。

意外な結末に観客、ア然……。

△MAX宮沢vs入江秀忠△

［2R判定ドロー］

出場予定だった藤沼弘秀の負傷より同門の宮沢が急遽エントリー。ヒクソン戦を目指す入江はマウント奪取するなど攻め込むが、左目に爪が入るアクシデントで続行不可能に。2R終了時判定というあっけない幕切れに館内には不穏な空気が漂った。

ブラジリアン・トップチームのメロをグラウンドで子供扱い!!　アグレッシブに攻めるド根性ノ助は、メロのタックルをがぶったあと、そのままひねって回転投げ!!（3回転目で失敗、マウントを取られかけるオマケ付き）。結果はメロを極めきれず判定勝利となったが、強くて凄くて面白ければ問題ねぇんです！

○三島☆ド根性ノ助vsファビオ・メロ●

［3R　判定3-0］

サングラスにねじりハチマキ、口元には白マスクと変質者にしか見えない入場コスチュームで観客を沸かせたド根性ノ助。快勝後も、セコンドの後藤龍治（SB）をシュミット式バックブリーカー→ムーンサルト・プレス→自爆のパフォーマンス！　最後まで観客を楽しませた。4・16U-STYLEで行われる田村戦については「体重増やすために頑張って食いまくります」と喰い倒れなコメント。期待大!!

原輝尚

ハを取り巻く環境もいろいろと変化してきたし、歳も20代後半だから、今回の『DEEP』出場には思うところがあったんじゃないですか。

—マッハ選手のインタビューとかを読むと、修斗に対する発言とか、以前とはかなり変わってきてましたからね。

原　マッハもいろいろありましたから、余計に昨日の勝利は嬉しかったはずですよ。勝った時の喜びようはなかったですよね。リング上であんなにはしゃぐマッハを見たの初めてですよ。試合後も訳のわかんないこと言ってたし（笑）。

佐伯　でも良かったよねぇ（しみじみと）。俺なんか、休憩の時には「メインがダメだったら逃げよう」と思ってたかんね！

—ワハハハ！　たしかに前半戦はちょっとキツかったですからね。

佐伯　逃げれなかったら、もうリング場で土下座するつもりでしたからね！

—それはそれで見たかったです（笑）。

佐伯　（突然）そういえば原さん、あれあれ！　修斗の理事会の話をしないと！

原　そうでしたね。実はですね、修斗の選手がパンクラス以外のリングに上がるのはOKっていうことが、修斗の理事会で正式に決定したらしいんですよ。

—あ、そうなんですか。でもやっぱり、パンクラス以外なんですね（笑）。

佐伯　（得意げに）どこのマスコミにも載ってないでしょ？　載せればスクープだよ、『紙プロ』さん！（顔をグッと近づけて）。

—あ、ありがとうございます。よりによって一番修斗から縁遠いウチに載るとは（笑）。

原　この決定は朝日〝ハンサムガイ〟昇から聞いたんですけどね。

—朝日さんはわかりますけど、なんですか、その〝ハンサムガイ〟って？

原　このミドルネームを付けないと、ママに怒られるらしいんですよ。

—は？　真顔で何を言ってるんですか、原さん（笑）。

原　いやいや、ホントに本人が言っていたんですよ。

—さすが奇人です（笑）。

原　朝日は修斗のオープン化には積極的なんですよ。でも、修斗内部では、「徐々に選手間に浸透していけばいい」という声があるらしいんですよ。でも、修斗は最初から「パンクラスはダメ！」って言ってたんだから、それじゃいままでと一緒じゃないですか？

佐伯　（大きく頷いて）うんうん。一緒一緒。

原　朝日もそうですけど、元選手は開国に積極的なんですけどね。まあとにかくで

淀んだ空気を吹き飛ばした因縁の対抗戦!!

△渋谷修身vs滑川康仁△

［3R判定ドロー］

アグレッシブに攻め込む滑川に対して、隙を突いて足関節を狙う渋谷。パンクラスvsリングスの因縁の対決は、緊張感溢れる攻防で前半戦の淀んだ空気を吹き飛ばす好戦となった。滑川は途中、ヒザに重傷を負ったが、根性で続行！　渋谷も滑川に「対戦した日本人で一番強い」と言わしめる強さをみせた。試合後、両者は笑顔で言葉をかわし握手。ちなみに滑川のセコンドにはTKと金原が付いた。

U-FILE、パピヨン組をガス欠に追い込む!!

△大久保一樹&佐々木恭介vs一宮章一&スペル・パピヨン△

［20分時間切れドロー］

タッグマッチながらVT復帰をはたした浩一郎は、『ビックコミックスピリッツ』で連載中の「格闘太陽伝ガチ」登場キャラ、S・パピヨンに変身!!　佐山仮面を彷彿させるマスク姿で妖しく入場した。一方のU-FILEコンビはスタイナーズパフォーマンスを披露。見てみ、大久保ちゃんの咆哮!!　結果はドローとなったが、10回までと制限されたタッチ回数をもっと少なくすれば、VTタッグマッチは面白くなる！

すね、理事会でそういう決定がなされたみたいですよ。

――パンクラスがダメっていうのは、修斗との過去の経緯があるからわかりますけど。たとえば、三島選手も出場が決まっているU―STYLEへ修斗の選手が参戦するっていうことも問題なくなるんですかね？

原　ボクは旗揚げ戦を見て、U―STYLEは凄く面白かったですけど、修斗的にはプロレスということでダメかもしんないですね。修斗側は「ライセンスの停止はないけど、（U―STYLEに上がったら）オファーを出しにくくなる」って言ってましたから。

――それは選手も二の足を踏みそうですね。

原　実際、UWFを見て修斗を始めた選手も多いですし、出たいと言ってる選手もいるんですけど、それは個人でリスクを背負ってもらわないと。社長だってリスク背負ってやってるわけですからね。

佐伯　（謙遜して）いやぁいやぁ、ボクなんかぁ……。ウシシシ！

原　ボクは心中しますよ、社長と（笑）。

佐伯　お、俺は死なないよぉ！

――ワハハハ。でも、正直、次回のU―STYLEは大変そうですね。上山選手と滑川選手が負傷しちゃって。

佐伯　そうなんだよねぇ。（頭を抱え）あ〜〜〜〜っ、頭痛い!!

――2人ともU―STYLEではキモになる選手ですから、大幅に予定が狂っちゃうんじゃないですか。

佐伯　今日マッチメイクの話するはずだったんだけどねぇ。ホント、疲れた。もう何も考えたくない。大会やるのがやんになってきたよぉ。

――成功した直後にギブアップ宣言ですか（笑）。

佐伯　いやいや、昨日はね、満員御礼だったから嬉しいのは嬉しいんだけど、もうず〜っといろんな心配してたし、やっぱ初めての会場ってリズムが掴めんわ。しかも上山vsマッハなんかやっちゃったから、次はホント大変だよ！　あのインパクトを上回るカードってそうそうないからね。あ〜〜〜っと、どうしよう!?

原　まあ、今回はインパクトがありすぎましたよね（笑）。

――お客さんは勝手なもんで、さらなるインパクトを求めちゃいますからね。

3・4後楽園では「大会がどうなるか心配で心配で胃が痛い」ためにリング上での挨拶を取りやめた佐伯代表。U-STYLE旗揚げ戦の挨拶を緊張のあまりに噛んでしまって田村に怒られたからではない。

家庭内暴力、引きこもり、ストーカー対策、浪費癖など、様々な問題に立ち向かう原校長。毎月10日、20日、30日に更新される校長のとっても熱いスクールレポートは一読の価値ありだ！ URL:http://www.tsubasa-t.com/

佐伯繁×原暉尚

弱腰な大人をナメてる子供をしっかり教育していきます［原］

佐伯　そうだよねぇ（しみじみと）。まあこっちもインパクトがないカードの時も客が入るように、舞台の価値を上げていきたいですよ。

原　ボクも力になりますよ！　『DEEP』を少年たちの夢の舞台にしたいですから。もちろん、夢が持てる子供になるよう教育していきます！　いまの子供って弱腰な大人を知りつくし、ナメてるんです。しかも人権、権利を主張し、義務を果たしてない。そんな子供たち擁護する社会の風潮、マスコミ！　実にアホらしいと思いませんか？　愚か過ぎる！

佐伯　そうだそうだ！

原　いじめも、家庭内暴力も、無気力も、非行も、すべては本人の弱さに責任があるんです。いじめはいつの時代でもあるものです。なくならない！　絶対になくならない！

佐伯　うんうん。

原　実社会でもそうでしょう。会社でも弱い者、仕事の出来ない者がリストラの対象になる。いじめられる。だったら、いじめられた退職させられる。左遷させられる。くなければ強くなればいい。強くすればいい！　クラスで一番ケンカの強い奴は『いじめ』の対象にならないのが、わたしの持論が正しい事の裏付けです！

――いやぁ〜、原さんは熱い！　そのエネルギーでこれからの『DEEP』をお願いします！　すべては原さんの肩にかかってますよ！

原　見といてください！

佐伯　いやいや、ちょっと待ってよぉ。ボクだっていろいろやってるんだよ。ほら、12月のときだってムエタイのチャンピオンが上がっていたんだよぉ。K―1だと世界最高レベルの選手！

――まぁ、そうはそうなんですけど（笑）。

佐伯　全然マスコミは騒がなかったけど、あれってすごいことなんだよ！　フガーッ！

――ワハハハ！　佐伯さんにももちろん、期待してますよ！　今日はありがとうございました！

【03年3月5日／水道橋の某ホテルで収録】

ズバリ言って前半は星ひとつでもやりすぎなくらいの拷問のような低調ぶりだったが、休憩後は一転、五つ星級の大爆発！　もちろんその大半の点数を稼いだのはマッハvs上山戦。修斗vs“U”という佐伯代表ならではのこのカードは、予想以上の熱戦となった。

戦前は修斗の象徴であるマッハに対して、上山にはまだ“U”を背負わせるのはキツいかとも思われたが、全くそんなことはない堂々たる闘いぶり。拳を骨折していたため、スタンドで打ち合えなかったのが残念だが、愚直なまでにタックルを繰り返し、最後の最後まで食らいつく姿は、まさに上山のこれまでの格闘人生をそのままリングに映し出していた。

そして、この一戦の価値を一層高めたのが、上山のセコンド田村潔司の存在。

マッハの4点ポイントの打撃に鬼の形相で抗議する姿は、まるで猪木vs藤原戦での前田日明を見るかのよう。試合の緊張感と熱気を高める見事な助演ぶりだった。

そしてマッハ。プロレスとは一線を画す修斗の選手ということで、大物ながらU系格闘技・プロレスファンからは、どこか遠い存在だったが、この一戦でその強さと魅力に遅ればせながら気づかされたファンも多いと思う。試合後の「上山選手とは一緒に世界を目指したい」というコメントは、マスコミ、ファン、そして修斗上層部が作ってしまっていた「修斗」と「U」の間の壁の遥か上に橋を架けたような清々しさがあった。3月4日はUのファンが、桜井速人という選手の素晴らしさをようやく素直に受け入れることができた記念日となったのだ。

上山のセコンドとして抜群の存在感を示していた田村潔司。田村の目にマッハはどう映ったのか？　そちらも実に興味深い。

熱狂、興奮のマッハvs上山戦 その修斗もUも超えた清々しさ

Gunz Selection

大爆発! 3.4『DEEP』後楽園大会クロスレビュー

Choro Selection

これも『DEEP』の大きな魅力! インディー界の強豪はどう闘った!?

この日の大会を見た誰もが感じたように、後半3試合と、それまでの試合を比べると明らかな温度差があった。

結果的には、それが溜めになり、メインのマッハvs上山戦で会場の盛り上がりは絶頂に達したとも言えるだろう。ただし、盛り上がりには欠けたものの、今回の『DEEP』の前半戦は、なかなか興味深いカードが並んでいた。

なかでも個人的に一番注目していたのは、久々の総合ルール出陣となるスペル・パピヨンこと木村浩一郎だ。

浩一郎の総合ルールと言えば95年のヒクソン戦以来で、実に8年ぶりとなる。とは言え、別キャラの宇宙パワーというインディー界屈指の実力者が現在の総合の世界で、どれほどのものを見せられるのか興味津々だった。

入江は試合途中で左目の不調を訴え、ドクターストップとなり、途中までの判定でドロー。タッグマッチに出場したスペル・パピヨンこと浩一郎も時間切れドロー。

今回は『ビッグコミックスピリッツ』の中のマンガのキャラクターのスペル・パピヨンに変身しての出場だったわけだが、浩一郎は現在所属するDDTつながりで一宮章一とのタッグを結成し、U－FILEの大久保一樹&佐々木恭介と対戦。いくらタッグマッチの経験が豊富と言っても、やはりバーリ・トゥードとプロレスでは同じタッグでも大きく異なる。さすがにスタミナ面では不安を感じさせたものの、若手タッグ相手にリスクを恐れずアグレッシブな攻撃を見せ、続きが見たいと思わせた。今後も『DEEP』ではパピヨンでの登場になるだろうが、次回はシングルマッチを期待！

もう一方のインディー界の大物・入江秀忠。次コケたら終わりだって!!

はとことん厳しい
優光が
E』旗揚げ戦を

オープニングからメインまで最高の雰囲気で盛り上がり、大成功となった2・15『U-STYLE』旗揚げ戦。しかし、現在のマット界にUスタイルを復活させるということに、いまだ賛否両論があることも事実。そこで今回は“Uのご意見番”宮戸優光に“U”と興行を語ってもらった。はたして『U-STYLE』は是か非か？

聞き手／堀江ガンツ　designed by matsu(Two three)

——先日、田村選手がU—STYLEをスタートさせたということで、やはり「U」といえば宮戸さんにお話を聞かなければと思いまして、伺いました！　まず最初に田村さんが「UWF」を旗揚げすると、聞いたときはズバリどう思いました？

宮戸　やっぱりタムちゃんもこだわりがあって始めたことだと思うんだけど、発表したのが髙田さんの引退の直後だったんで、またタムちゃんが誤解を生むんじゃないかなって、まずそのことが頭をよぎりましたよ（笑）。せっかく髙田さんとタムちゃんがいい形で握手したばかりだから、余計にね。

——やっぱり「UWF」を名乗るのって、いろいろ難しいところがありますよね？

宮戸　まぁ、（UWFを）捨てていった人たちもいるし、UWFをやりたいというのはタムちゃんの昔からの思いだから、タムちゃんが引き継ぐんならそれはいいと思うんですよ。ただ、もうちょっと時期をずらした方が良かったんじゃないかな。そうすれば、みんなも協力できたんじゃないかなって思いましたけどね。

——では、肝心の大会内容なんですけど。宮戸さんも会場には行かれたんですよね？

宮戸　会場で見させていただきました。興行としては凄く面白かったと思いますよ。大会進行も試合自体も良かったですし。

——第一試合から、会場ができあがってましたもんね。しかも、メインまでテンションが下がりませんでした。

宮戸　ボクはタムちゃんとずっと付き合いがあるけども、「UWF」と名乗っているからには、ボクも自然と厳しい目で見てたと思うんですよ。それにも関わらす、最後まで席を立たずに見れましたし、「今日は行って良かったな」と思って帰れましたか

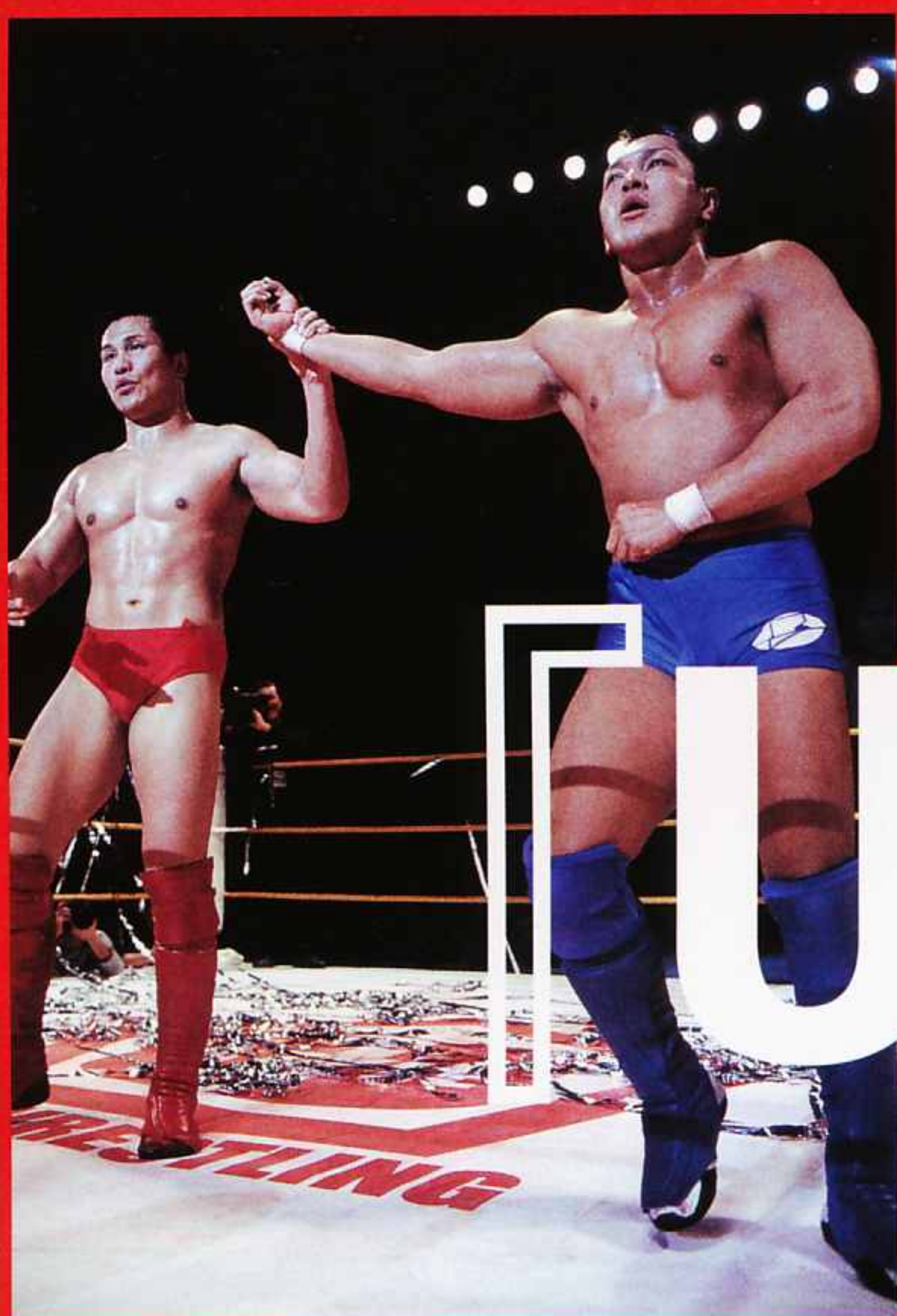
興行と料理にはと

Uインターの御意見番

宮戸

『U-STYL

2.15

斬

スタイルがどうなんて問題じゃない料理も格闘技もお客さんを満足させられるかどうかが大事なんだ!!

ら、興行として80点以上を付けられると思いますけどね。

——80点以上！　聞くところによると、宮戸さんは『PRIDE』なんかでもなかなか高得点は付けないと聞きましたけど。

宮戸　ボクがつける点数っていうのは進行やいろんな要素を含めた興行としての採点だから、『PRIDE』は確かに選手のレベルは高いと思うけど、正直言って、興行としては高得点は付け難いね。ただ、ドームとか大きい会場が多いから、どうしてもそうなってしまう部分もあるんだけど。

——まぁ、進行の悪さには定評があるから、しょうがないですけどね（笑）。

宮戸　だからボクはここ数年で、新日本やNOAHとかいろんな興行を見てきましたけど、80点っていうのは、最近の中では一番点数が高かったですね（キッパリ）。

——ほぉ〜、最高得点ですか！

宮戸　やっぱり興行というのは、お客さんが満足して帰るかどうかが一番大事だから。そういう意味では『U—STYLE』は満足度がありましたよ。ただ、「たまたま良かった」ということもあるからね。料理だって「たまたま美味しい」のができることがあるでしょ？　たまたまじゃプロじゃないんだよ！

——料理店で美味しかったりまずかったりしたら大変ですよね（笑）。

宮戸　そう。プロだったら毎回美味しいものを提供しなきゃならないんだから。そういう意味では、『U—STYLE』も、あの満足度が2、3回と続ければホンモノだと思いますね。

——先ほど宮戸さんは「厳しい目で見に行った」と言ってましたけど、それはやはり知らない若い選手が〝U〟を名乗って変

タムちゃんも上ちゃんもあんなもんじゃない あの試合をUインターでやったらお小言ですよ！

な試合をしてほしくないという気持ちがあったからですか？

宮戸　そうですね。正直言って、顔や名前を知らない選手がほとんどでしたから、こないだの『W―1』じゃないけど、プロレスじゃないものをやってもプロレスとしての評価を受けてしまうことがあるわけですよ。だからそれと同じように、UWFの看板を出して変なことをされたら、過去に我々がやってきたことが台無しにされちゃいますからね。その点で不安だったんだけど……。

――では、田村選手以外の試合もUWFとして見れたということですか？

宮戸　いや、それはちょっと違いますね。これはタムちゃん自身もわかっていることだと思うけど、いまUWF、Uインターがあったらあの日に出場した選手の中で何人デビューできるんだって話ですよ。UWFでデビューするには基礎体力にしても体重にしても、それなりの関門があったわけですけど、今回ももしその関門を設けてたら、そこを越えられる人ってなかなかいなかったと思う。それを考えると、関門をクリアしてない人がUWFのルールでやったからって、それはUWFじゃないでしょ？　草野球の選手が大リーグのルールでやったって、それは大リーグじゃないんだから！

――そりゃそうですよね（笑）。

宮戸　だからUWFだったかどうだったかという観点じゃなくて、『U―STYLE』は興行として良かったということだから。興行が良かったかどうかにシュートもワークも関係ないんだよ！『PRIDE』であろうと、WWEであろうと、お客さんに「来て良かった」「また来たい」「プロレスって凄いな」って言わせたものがいい興行なんだから！

――木戸銭を払って行くわけですからね。

宮戸　そうそう。でも、銭だけじゃないよ。大事な時間や足を使って行くわけだから、お客さんに「今日は良かった」「帰りに一杯飲んで今日の試合について語りたい」ぐらいの思いをさせなきゃダメですよ！　ファンはチケットを買った時点からその日を待ちこがれてるんだから、団体運営側や選手は、そういうファンの思いに応えなきゃプロじゃないよ！　そういう意味で『U―STYLE』の興行は良かったわけで、スタイルやUWFなんてのは関係ないよね。Uインターがいまだに「凄かった！」とか言われるのだって、お客を満足させていたからでしょ？　スタイルだけで支持されてたわけじゃないよ。そして、Uインターで活躍した連中がいまだに頑張ってる。これって理屈じゃないじゃん。

――たしかにそうですね。

宮戸　内容が良くなかったら、お客さんだって来ないしね。だから、このあいだ『U―STYLE』の興行に来たお客さんは、かなりの率できっと次回も来ると思いますよ。さっきボクが80点と言ったけど、8割くらいのお客さんはもう一回来てくれると思いますよ。しかもその8割のお客さんが口込むから、もっと膨らんでいくだろうね。

――次回は田村vs三島が発表されたことで、期待もかなり膨んでると思います。

宮戸　ただ、ファンって前回以上の内容を期待するから、今度の合格点ラインは前回以上ってことですよ。あれだけ良かったら次も絶対に期待されるし、観てないファンは頭を膨らませてますからね。

――その辺は宮戸さんも、Uインターで苦労したんじゃないんですか？　例えばあの高田vs北尾でファンが満点に近いくらい満足しちゃったあとに、次の興行をどうするかって凄く悩んだと思うんですけど。

宮戸　だからUインターなんかは同じモノでは高田vs北尾戦を超えられないから、ベイダーを呼んできたり一億円トーナメントやったりして、違うモノで100点を出そうとしてたんだよね。料理で言えば違うメニューを出していってお客さんを満足させるということですよ。だから、『U―STYLE』も、違うモノと差し替えながらの80点だったらいいと思いますよ。

――『U―STYLE』は興行としては良かったんですけど、試合自体は田村選手と上山選手の試合以外、緊張感が足りないように感じたんですけど、そのあたり宮戸さんはどう思いましたか？

宮戸　どうかなぁ……。逆にボクがもっとやれたんじゃないのかなって思うのが、タムちゃんと上ちゃんだから。

――え⁉　宮戸さんは、あの二人にダメだししますか！

宮戸　だって、あれが田村潔司の最高の状態かといったらそうじゃないでしょ。まだまだ実力を出し切れてないよね。上ちゃんも勝ったけど、Uインターであの試合だったらお小言ですよ（笑）。

『UWFメインテーマ』に乗っての全選手入場式、若手選手によるルール説明など、『U-STYLE』旗揚げ戦は、かつての"U"のフォーマットに乗っ取った興行だった。

——「上山、ちょっと来い!」って(笑)。

宮戸　そこまではわからないけどさ(笑)。試合だけで言えば、『U—FILE』の若い選手なんか良かったと思いますよ。逆に、他の団体に上がったりしていて、試合慣れしている選手が良くなかったんじゃないかな。

——それって、Uスタイルを見切っていた部分もあったんでしょうかね?

宮戸　どうなんだろうねぇ。それはわからないけど、ルールがバーリ・トゥードに比べて楽かと思っていた人がいたのかもしれないね。でも、それは違うから! ルールは違うけど、全力をブチ込むことに関しては一緒だからね。ボクシングとキックボクシングで、キックがないからボクシングの方が楽かといったらそれは違うわけでしょ。どのルールでも全力を出すことには変わりはないんだからさ。

——では、話はちょっとズレますけど、あの大会で村浜選手がロープに飛んだり、他の選手とは毛色の違う試合をして物議を醸しましたけど、宮戸さんは村浜選手を試合については何か感じましたか?

宮戸　いや、ボクは気にはならなかったですけどね。キックの選手がキックを使うように、ロープに飛ぶ選手がロープに飛んでるだけだからね。ただ興行サイドに立って言うならば、ボクがプロデューサーだったら勝手に選手にマイクは持たせないね!

——あ、試合はともかく、村浜選手のマイクはNGですか(笑)。

宮戸　だって試合開始のゴングから終了のゴングまでは選手の役目だけど、それ以外の興行の空気を動かすというのはプロデューサーの役目なんだから、ボクだったら認めないですよ! だからUインターのときは選手が勝手にマイクを持つことは許してなかったですし、リング上では必ずインタビュアーを付けてましたからね。

——は～、Uインターはそこまで徹底してたんですね。

宮戸　昔、後楽園でやったダブルバウトでゲーリー(・オブライト)とトム・バートンが組んだ試合があったんですよ。その試合終了後、リング上でゲーリーのインタビューがあったんだけど、ゲーリーが吠えていたら、横からバートンまで調子に乗ってマイクでわめいたことがあって、そのときもボクはすぐバートンを呼び出して「次やったら、クビだ!」って言いましたからね!

——解雇警告ですか!(笑)。

宮戸　そりゃそうですよ。選手が試合に拘るように、我々も進行に拘ってるんですから! そうしないと、いい興行なんてできないしね。そういう意味でいえば、村浜選手のマイクなんかはボクがプロデューサーだったらやらせませんよ。だってあのマイクを持った瞬間、違う空間になったでしょ?

——ガラリと変わりましたね。

宮戸　そこは村浜選手が望んだことかもしれないけど、はたして『U—STYLE』が望んだことなのかって思いますよね。いいですよ、そこまで関係者が認めて『U—STYLE』でやっていいなら。ただ、それをやり出すとキリがないからね。第一試合からマイクを持ち出す奴もいるだろうし、シラけたことを言う奴もいるだろうし。

——その村浜選手は試合後に「これがUスタイルです。他のみんなは10年前のUWFをリメイクしてるだけでしょ」と言ってるんですけどその点については……。

宮戸　(遮って)彼がUWFどうのこうのっていうのは言えないよ! あれはタムちゃんの一人UWFだから。

――『U―STYLE』は田村潔司の一人UWFですか！

宮戸　だって、UWFを知ってる人ってタムちゃんしかいないでしょ？　スタイルどうのこうのという話とは違うよね。だって（他の選手はUWFを）やってないんだから、わからないじゃん！　経験して知ってるのは彼しかいないんだから。あの中ではタムちゃんしかUWFはわからないし、語れないよ。

――やってないんだから、それは想像でしかない、と。

宮戸　そりゃそうですよ。逆に言えば、いくらタムちゃんがUWFをやっていても新日本や全日本のことをわからないのと一緒ですよ。わからないから、違う団体やスタイルの選手とやるときは怖いんだから。そこにはもちろん怖さだけじゃなく、いろんな面白さもあるんだけどね。だから、他団体とか新しい選手が来たら、どの団体にも一発目にやる選手がいるんですよ。

――いわゆる「ポリスマン」と呼ばれる選手ですよね。

宮戸　最初っからわかってりゃ誰だって出ていきますよ。でもわかんないから、テスト台を何回か踏んだ上でメインイベンターが出てくるわけですよ。そうでしょ？　レスラー同士が他の団体を見たってわからないんだから、やったことない人がわかるわけねえじゃん！　それを簡単に言えるのはあり得ないし、外目で見るのはファンも一緒だし、やるのと見るのじゃ違うから。最近はマスコミも選手もそれをしたり顔で言う人が多すぎるよ！

――「やらなきゃわからない」という話で言えば、今回、田村選手がU―STYLEを始めるに当たって、「プロレスリング」という言葉を使いましたよね？　そのとき僕らが一番心配したのは、いまプロレスという言葉を「シュートの対義語」として使われる風潮がある中で、UWFをやったことがない総合格闘技の選手が、UWFをそういうものだと勘違いしてしまうんじゃないか、ということがあったんですよ。

宮戸　なるほどね。でも、それはUWFというよりも、プロレスってものをわかってないんだよ！　俺が言いたいのは、いまの時代はこれだけスタイルが多様化してるけど、その中で皆さんはどれを指して「プロレスだ」と言ってるかだよ！

――とりあえず、どんなスタイルや団体もやってる側が「プロレス」と名乗ればプロレスの括りになってますね。

宮戸　それじゃ話にならないよね。しかも皆さんは、プロレスラーといえば馬場さんが一番典型的だと思ってるでしょ？　でもね、ルー・テーズは「ジャイアント馬場はプロレスラーじゃない」ってハッキリ言っていたからね！

――馬場さんはプロレスラーじゃない！　そういえば、たしかゴッチさんも似たようなこと言ってましたね。

宮戸　つまり、プロレスはここ50、60年の間に、本当の姿とは違う形がプロレスと呼ばれるようになってしまったんだよ。ボクなんかからすると、皆さんがプロレスだと思ってるものをプロレスじゃないと思ってるかもしれない。『W―1』にしても「これはプロレスじゃない」と思っていたし、『PRIDE』は一つのプロレスの形だと思っている。いまの「総合」と言われるものだって、歴史的に見ればプロレスの一部だったんだから！　ここ重要だよ！　それこそ100年前のプロレスって呼ばれるものはバーリ・トゥードですら反則になる技で勝負するシュートなものだったんだからさ。

――ガス灯時代に遡ればそういうジャンルだった、と。

宮戸　だから、プロレスにシュートもワークもないんだよ！　シュートもプロレスだし、ワークもプロレス。だけど、ワークと八百長は違うからね！　そしてフェイクはプロレスじゃないよ！

――以前、宮戸さんは「ワークの中に闘いないのがフェイク」と言ってましたけど、闘いが見えなかった『W―1』はフェイクになるんですか？

宮戸　あれはフェイクにもなってねぇじゃん（キッパリ）。

――フェイク以下（笑）。ファンにわかりやすく説明していただくと、『W―1』のどの辺がプロレスじゃないんですか？

宮戸　『W―1』はプロのレスリングができない連中がやってるから、お遊びにしか見えないということですよ。しかも、そのお遊びでお金取って見せるんだから信じられない。もっと言うならば、やってる本人たちがあれを「プロレスだ！」って言ってるんだから勘違いも甚だしいよ！

――では当然、0点なわけですね（笑）。

格闘家による“プロレスごっこ”どころか、宮戸には“お遊び”と断罪された『W-1』。いま改めて「プロレス」というものを定義する時期にきているのかもしれない。

宮戸　その延長で言うなら、『PRIDE』の対極にあるのがWWEだなんて思ってる人も多いと思うけど、それは違うね。実はどっちも売っているモノは同じですよ。例えば和食と中華が、料理のスタイルは違えど“おいしさ”っていう意味では同じようにね。対極というのは『W―1』みたいなインチキなお遊びのことを言うんだよ！

――WWEと『PRIDE』が同じ方向で、『W―1』がその対極ですか！

宮戸　だってWWEと『PRIDE』がもし対極だったら、どっちかがドボンしてないとおかしいでしょ？　WWEと『PRIDE』はどちらも“最高の強さのイメージ”を売ろうとしているということで一緒なんですよ。

――ジャンルは違っても目指す方向は一緒だ、と。

宮戸　スタイルやルールが違っても、ファンが求めてるものは一緒なんですよ。自分にできない最高レベルの技術と身体能力、そして最強のイメージを求めているんだから。スタイルや競技なんか見ちゃないよ。だって大相撲がビジネス落ちてるっていうけど、何で落ちるの？　相撲のスタイルなんてずっと変わってねぇじゃん！　スタイルや競技が大事なら、相撲の人気が上ったり下がったりするわけないんだから。『PRIDE』だって桜庭や髙田さんがいたから見れたけど、スタイルと競技だけが残ったら難しいでしょ。

――確かにスタイルが支持されてるんだったら、バーリ・トゥードの興行はみんな東京ドームでやってますよね（笑）。

宮戸　だから『U―STYLE』もタムちゃんの一人UWFと言ったけど、タムちゃんの思いが根底にあるから見れるのであ

『W-1』がプロレス？ 冗談じゃないよ！
あれは"フェイク"以下の"お遊び"だ!!

って、タムちゃんがいなかったら成立しないですよ。

——田村選手がいなかったら、それこそ「UWFごっこ」とか呼ばれてるかもしれないですね。

宮戸 田村潔司がいなかったら、どうなっていたかなんて想像付かないね。ボクもボロクソに文句を言って、それこそ点数どころか見にも行ってないよ。

——そういえば、宮戸さんが『DEEP』（3・4）を見に行かれたって聞いたんですけど、あれはスタイルは『PRIDE』と同じバーリ・トゥードで、プロデューサーはU—STYLEと同じでしたけど、点数を付けるといかがですか？

宮戸 あれは30点!!

——たったの30点ですか！（笑）。

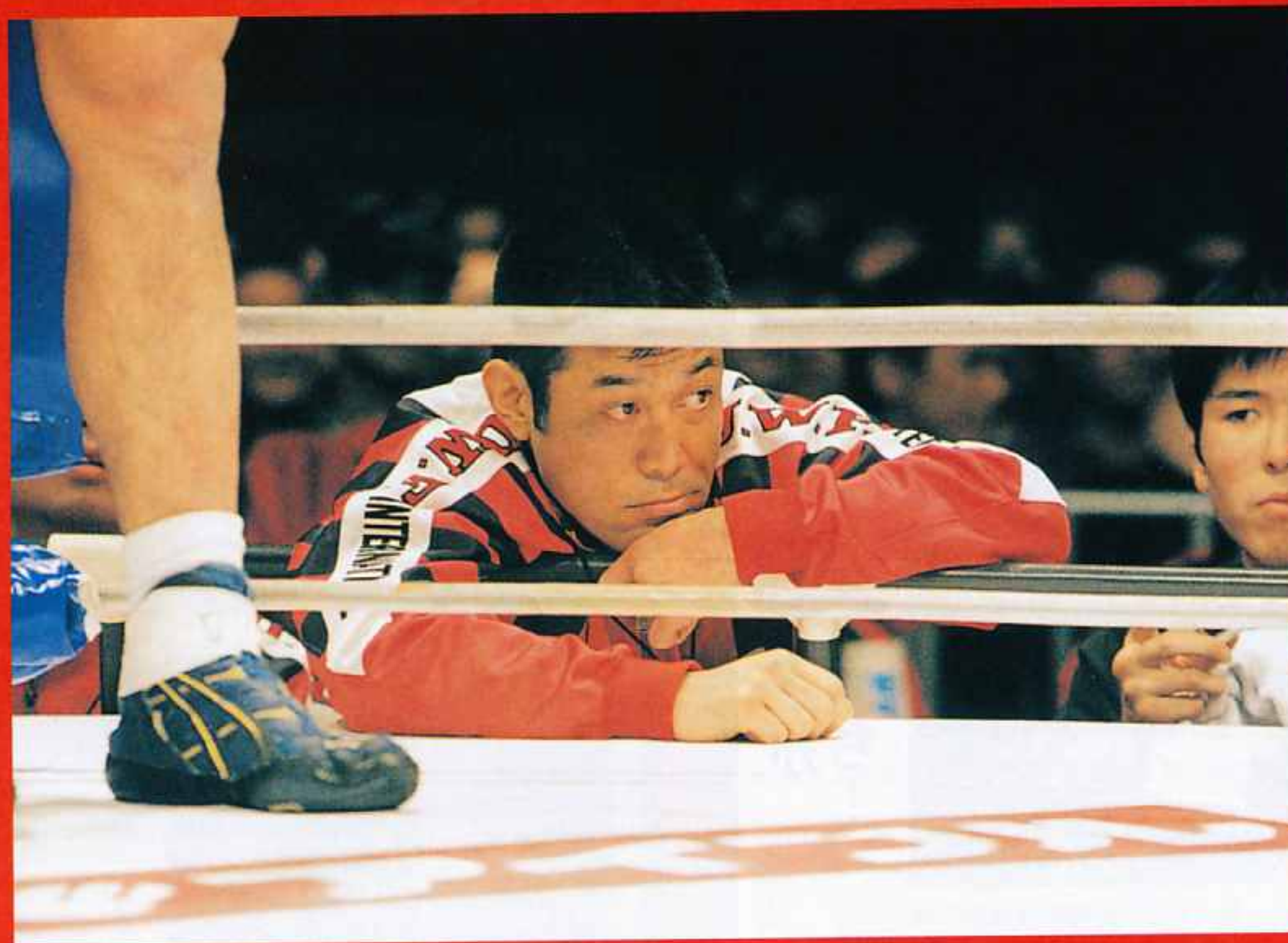
宮戸 いや……37点かな。

——さして変わりないですね（笑）。

宮戸 ラスト2試合（三島vsファビオ、マッハvs上山）は良かったんだけど、減点理由の8割は進行ですね。さっきの（村浜の）マイクじゃないですけど、選手を野放しにしてるのがおかしいんですよ。

——進行については佐伯プロデューサーもかなり反省してましたね。実際、会場の延長料金もたっぷり取られたみたいですし（笑）。

宮戸 だからボクはこないだの新日本の両国にも行きましたけど、これは正直試合は良くなかったけど興行としては悪くなかったですよ。それは進行とかすごくそつがないから、合格点にまで持っていけるんですよね。さすがだと思いましたよ。

——いまって選手が良くても興行がダメだったり、その反対のケースもあったり、プロの選手とプロの興行師がマッチしてないですよね。

宮戸優光が主宰する、スポーツ格闘技ジム『UWFスネークピット・ジャパン』では、新規会員を男女問わず募集中。君もプロレスの源流に触れないか？
東京都杉並区高円寺北2-15-1-2Ｆ（JR高円寺駅から徒歩5〜7分）
Tel：03-3337-1889

宮戸 それは興行に携わる人間が、バックステージや本部席からしか見てないんでしょうね。ボクはUインターのときは自分の試合が終わると、客席の一番後ろから見ていたからね。やっぱりその日の観客の反応や状態を把握しないと。あとボクはファンとして見に行った時代もあるから、そのときの経験がすごく役に立ってるね。自分が見た良い興行を参考に照らし合わせるから。

——いやぁ、いまの話を聞いて、U—STYLEが興行として良かった理由は入場式から、ルール説明。それからリングアナにいたるまで、Uインターを参考にして、そのノウハウを活かしたからだと思いましたね。田村さんなんか、旗揚げ前にUインターのDVDをもう一回見返したって言ってましたから（笑）。

宮戸 たぶん、進行なんかもUWFが好きだった人が携わっていたんでしょうね。その興行にいまのファンが満足したってことは、UWFやUインターがやってきたことは、ファンのことを考えていたってことだよね。

——だから、田村さんが前号の『紙プロ』のインタビューで「Uインターの裏MVPは宮戸さん」と、言っていたわけですね（笑）。

宮戸 ああ、そんなこと言ってるの（笑）。タムちゃんがそう言ってくれるのは嬉しいけど、なんだかんだ言っても選手に頑張ってもらわないといけないですよ。

——ではUWFの関門がない『U—STYLE』には、「プロレスリング」ができる選手が育つと思いますか？

宮戸 育ってほしいよね。ただ、いまは昔みたいに厳しい道のりを通らなくてもデビューできるでしょ。そうなると関門に拘るのは厳しいよね。

——新弟子から育成するシステムはどこの団体も　難しくなってますね。

宮戸 UWFやUインターみたいにできたってのは奇跡的ですよ。だから今は少し関門を低くするのもしょうがないと思いますね。格闘フリーター時代じゃないけどさ、一つにしがみついていなくなった試合ができちゃうからね。髙田さんも言ってましたよ。「ウチを辞めてヨソでデビューした奴がいっぱいいる」って。

——でも、プロレスラー魂はみたいのを感じさせるのは、新弟子を通過しないと出せない気がしますけどね。

宮戸 そうそう、厳しい苦しさを通過しないと出ないんだよね。いまの現状だと、ますます見せづらくなってるよね。その中でタムちゃんには「プロレスリング」がしっかりできる選手を育ててほしいですよ。

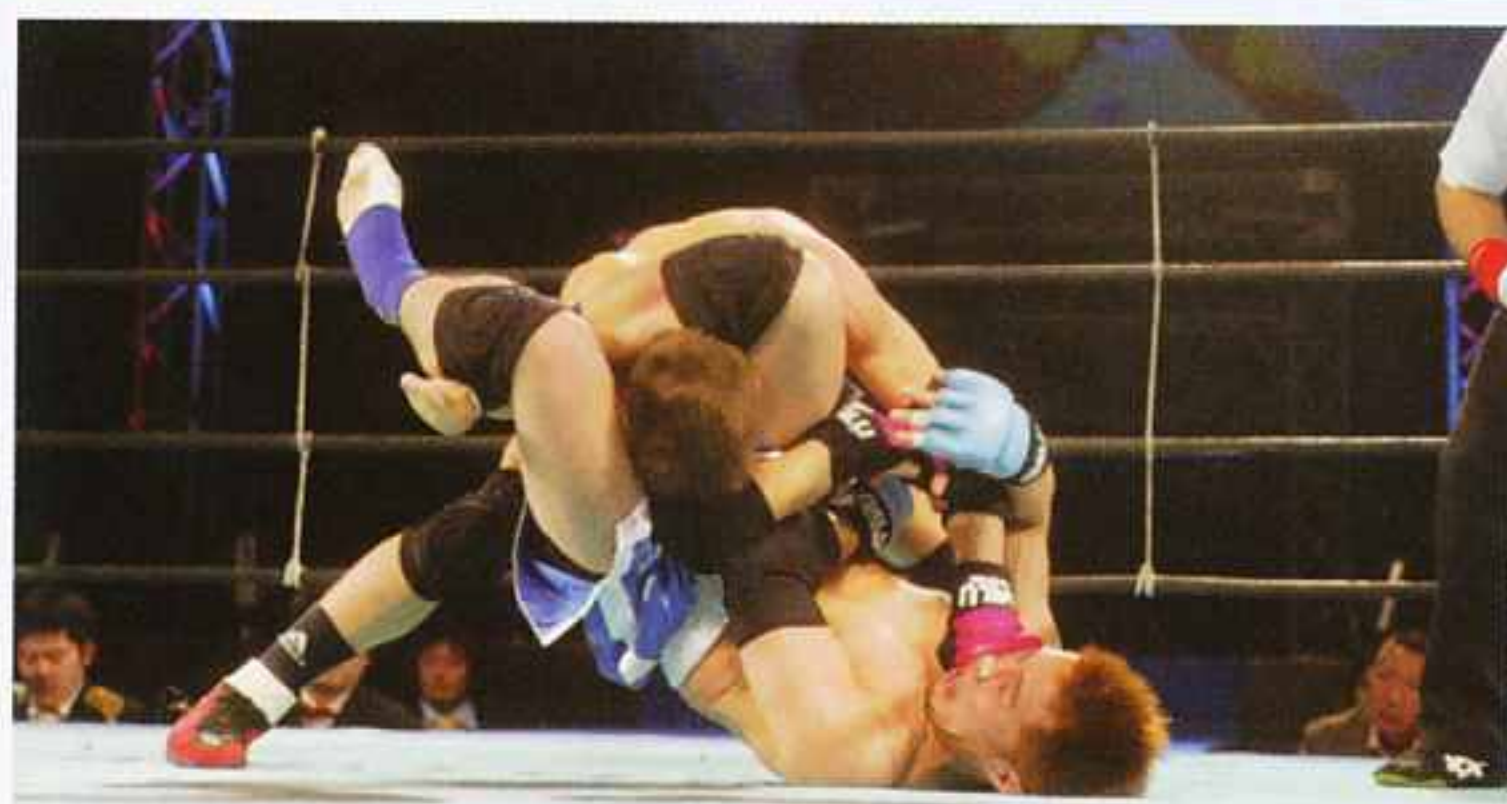
——わかりました！ では、また宮戸版『Uインター本』が出たときにでも伺わせてもらいます！（笑）。

［03年3月6日／高円寺・『UWFスネークピット・ジャパン』にて収録］

『THE BATTLE FIELD ZST』3·9 Zepp Tokyo 897（満員）

前田日明来場！ 郷野、ヘイズマンを破る!! リングス・リトアニア勢も活躍!!

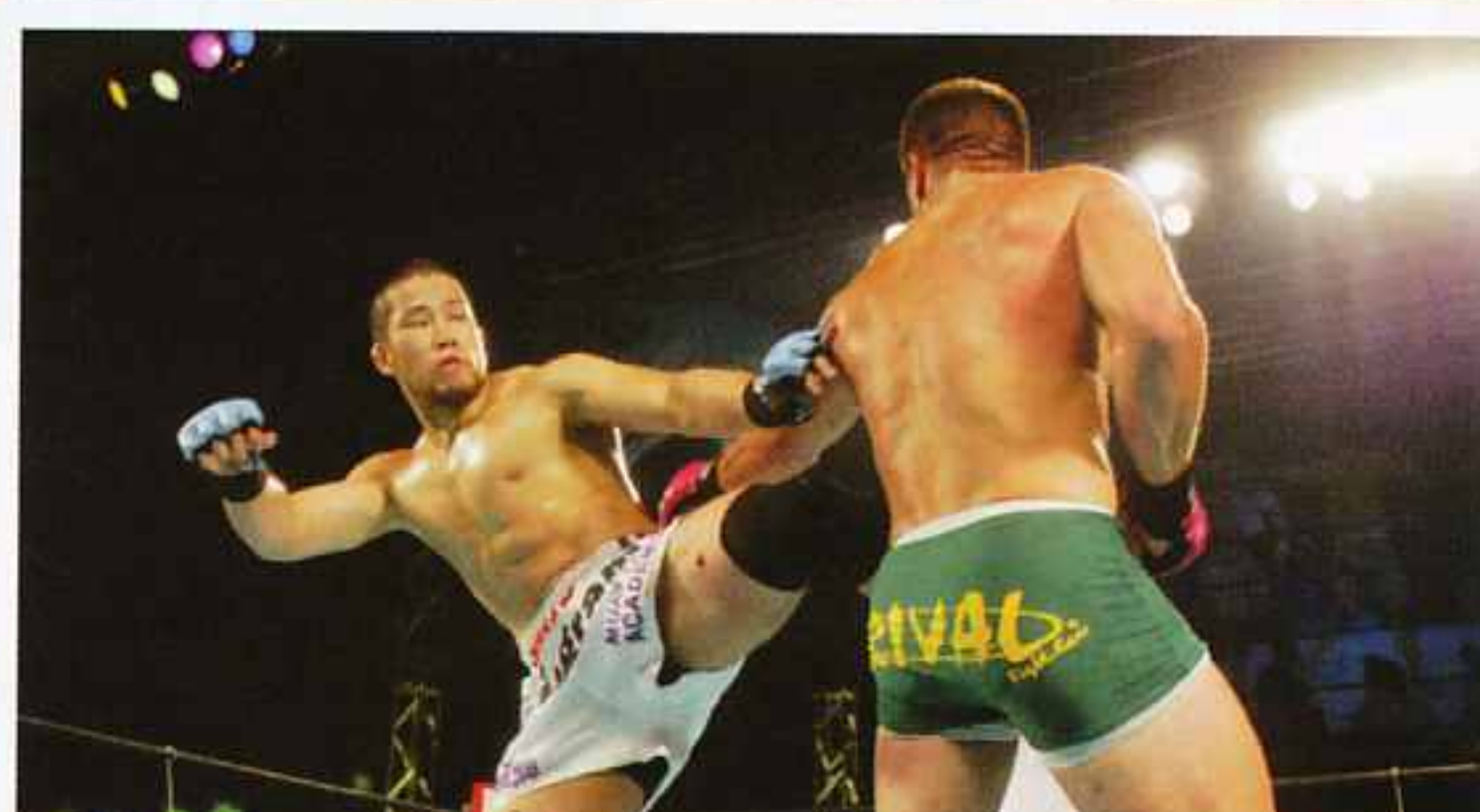
これが『ZST』だ!!

武士道“リトアニア戦士”が切れ味鋭い打撃でKO勝ち！

切れ味鋭い打撃で、シュートボクサーでもある坪井をKOしたレミギウス。寝技が上達すればかなり強くなりそうだ。要チェック！

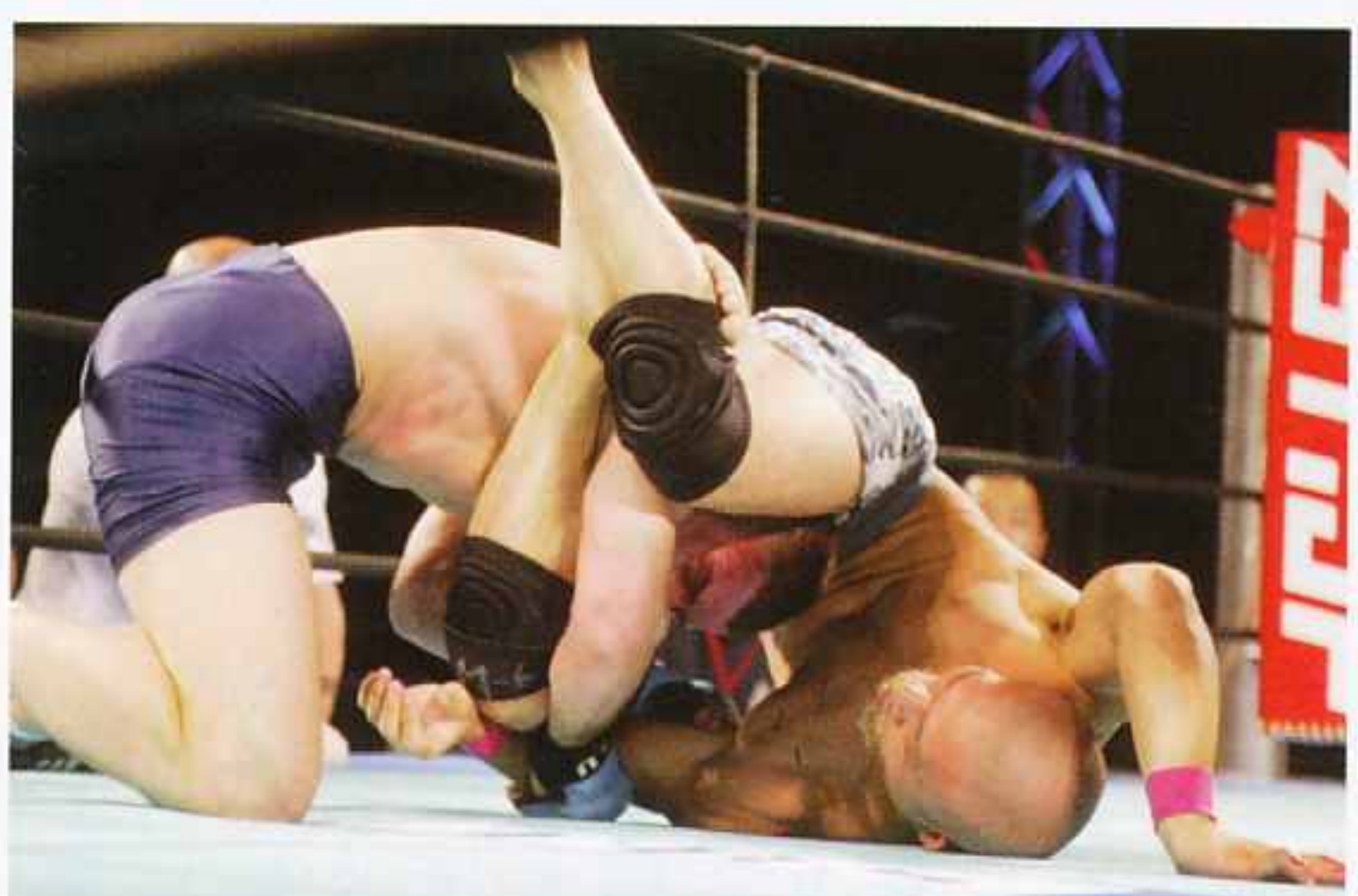
ガッチリ極まった三角絞めを反則の顔面パンチ（減点1）でなんとか逃れると、得意の打撃で攻め立てるレミギウス。こんな鮮やかなハイキックも。

試合結果
●レミギウス・モリカビチュス（リングス・リトアニア）［2R1分37秒、KO］
●坪井淳浩（フリー）

久々登場のヘイズマン、スタミナ切れ郷野が“リングス”を破る！

1R優勢にすすめたヘイズマンは、得意のアームバーで勝負を掛けるが、郷野なんとか凌ぐ。これでヘイズマンのスタミナは大きく消耗した。

2R以降、スタミナ切れが目立つヘイズマンを郷野は打撃で攻め立てるが、決定打を打てず。前田日明の目の前でリングス戦士をKOすることはできなかった。

試合結果
●郷野聡寛（パンクラスGRABAKA）［延長R 判定2−0］
●クリストファー・ヘイズマン（リングス・オーストラリア）

“足関十段”今成、ブラジル修行の成果出せずリトアニアの“小さなミーシャ”に苦戦

ブラジル修行の成果を見せようとしたのか、ご覧のような完璧な三角絞めを極めた今成。しかし、“小さなミーシャ”はこれをパワーで外す。

今宵も今成の足関十段ぶりに期待が集まったが、この日は判定決着に。このカード、4・6リトアニアでのダッグマッチで再戦が組まれている。

試合結果
●今成正和（TEAM ROKEN）［2R 判定3−0］
●エリカ・ペトライティス（リングス・リトアニア）

手負いのエース小谷が“スモール・ランペイジ”に一本勝ち

2週間前に左指を脱臼骨折した小谷だが、エースの責任感で出場。見事にアンクルホールドで一本勝ちして、大会を締めくくった。

UFCで負傷したリッチ・クレメンティの代打として登場した自称“スモール・ランペイジ”。見た目以外は“大ランペイジ”とは似てなかった。残念！

試合結果
●小谷直之（ロデオスタイル）［1R1分35秒、足首固め］
●アントワーヌ・スキナー（チーム・ウルフパック）

久々に公の場に姿を現したリングス総帥前田日明の来場＆ＴＶ解説、郷野聡寛vsクリストファー・ヘイズマン実現の二つで話題を集めた今回の『ＺＳＴ』。結果的にもっともインパクトを残したのも、この二つだったわけだが、『ＺＳＴ』の本当のウリは、リングスから受け継いだＫｏＫルールでも、旧リングス・ネットワーク勢でもなく、〝エース〟小谷直之を始めとする個性豊かな軽中量級日本人たちの、実にプロらしい闘いぶりなんである。

軽中量級の総合格闘技というと、どうしても競技として勝敗にこだわるイメージや、アマチュア臭さが抜けないところがあるが、『ＺＳＴ』出場選手にそれは当てはまらない。特にいまや〝ＺＳＴ四天王〟と呼びたい前出の小谷、〝足関十段〟今成、ヤノタク、所英男の４人は、全員が関節技を得意とし、一本勝ちを信条とするだけでなく、それぞれが個性的な〝プロ〟のファイターばかり。毎回、見事な〝観賞用格闘技〟を披露してくれている４人の闘いぶりは、これからも注目なのだ！

今回からしばらくＺｅｐｐＴｏｋｙｏを会場に使い、より演出面にも力をいれていく『ＺＳＴ』。ビジョンも３点あり、非常に見やすくなっている。小さい会場ながら、こういった努力はプロ興行としてこれから非常に大事になっていくだろう。他団体も見習ってほしい。

なぜか肉体も巨大化し、風貌もさらに凄みをましていた前田総師。会場に来ていた金原、伊藤らが挨拶にいくと、さかんにアドバイスを送っていた。その後は、金原、ヘイズマンらと食事に行ったようだが、この辺りの詳しいことは『紙プロHand』の金ちゃんコラム参照。

〝小さなV・ハン〟とサンボ王者が寝技合戦 所がスタミナと根性で判定勝ち

サンボ世界選手権銀メダリストの松本と所の一戦は、激しい寝技の攻防が繰り広げられる熱戦に。1、2R本戦では松本のサンボテクニックが冴え渡った。

ご覧のような複雑怪奇な関節技を次々と仕掛ける松本。しかし、所はこれらをなんとか耐え抜き、スタミナと根性で大逆転の判定勝ちを奪った。

試合結果

●所英男（チームPOD）
［延長R 判定2−1］
●松本秀彦（日本サンボ連盟）

元・ゴロツキとレスリングエリートがタイマン 小野瀬「日本人に負ける気しない」

元ヤマケンの一番弟子・梁とレスリングエリート小野瀬の一戦は、タックルに行きたい小野瀬と打撃で迎撃した梁の間合いの勝負となった。

両者決めてがないまま、結局タックルで上を取った小野瀬が僅差の判定勝ち。これで小野瀬はＺＳＴ２連勝。ＺＳＴの重量級を引っ張る存在になりつつある。次は強豪外人との試合も見てみたい！

試合結果

●小野瀬哲也（ストライプル）
［2R　判定2−1］
●梁正基（スタンド）

二人の〝ヤノタク〟が奇々怪々な遭遇 見事に噛み合わず痛み分けに終わる

二人で太極拳をやっているような不思議な構えと間合いで向き合うヤノタクとエセ・ヤノタク。変則と変則の動きは見事に噛み合わなかった。

両者が得意とする神秘的な寝技の攻防は、ヴォルク・ハンもビックリのこんな体勢に。一体どっちがどこを極めてるんだ？

試合結果

▲矢野卓見（烏合会）
［延長R　判定0−1］
▲梅木繁之（SKアブソリュート）

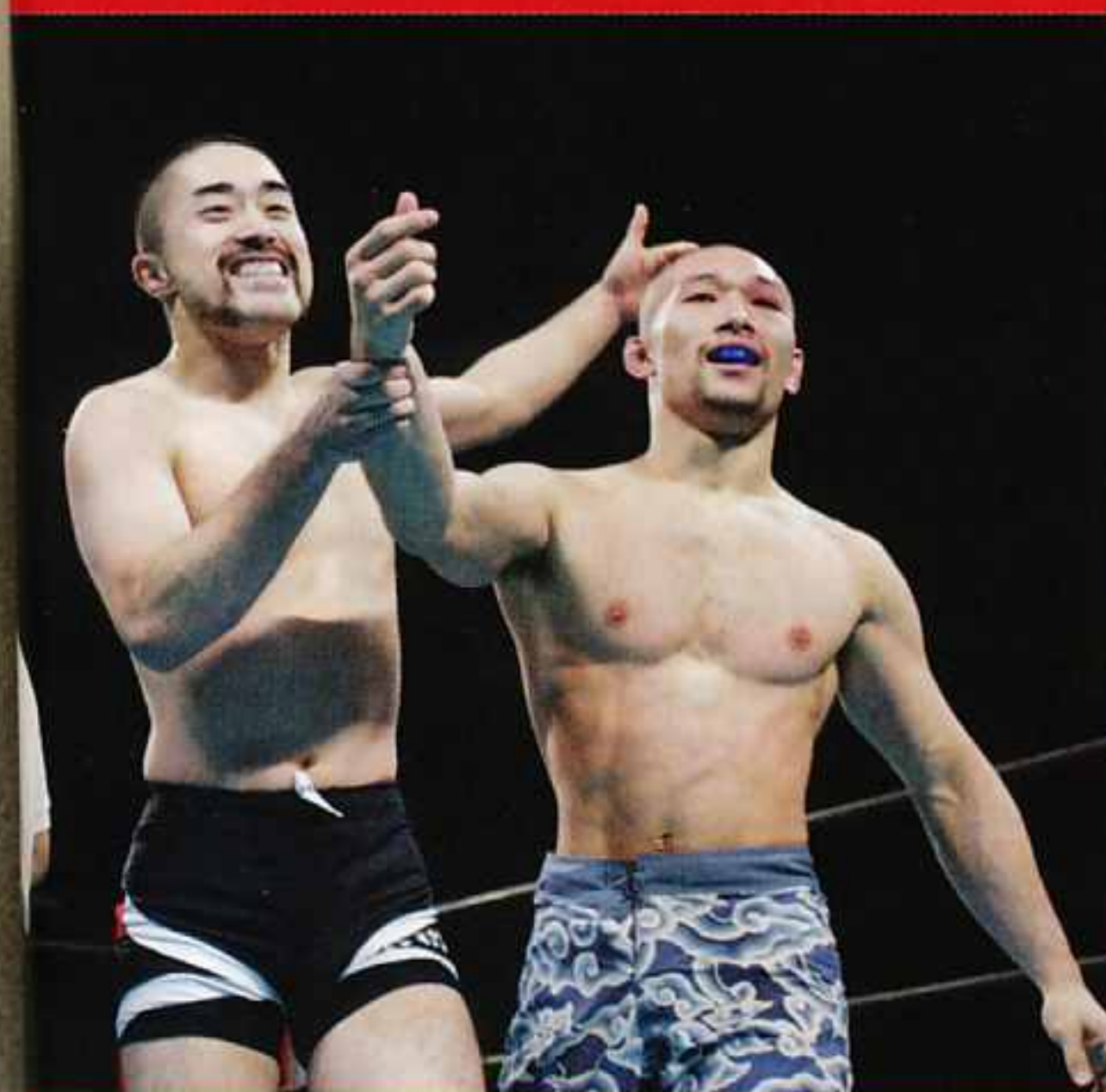
皇帝、リングス凱旋!?

4・5リングス リトアニア大会 ZSTジャパンvsリトアニア 全面対抗戦開催！

エメリヤーエンコ・ヒョードルも出場濃厚!!

小谷（左）はアメリカWEF以来2度目の海外戦。今回は“ZSTのエース”として存在感を示したい。海外戦は初となる所はリトアニアでどんなものを掴んでくるか？

VS

ロシアン・トップチーム
エメリヤーエンコ・ヒョードル

今成＆矢野の“チーム・イリホリ”はタッグチームとして初遠征。この東洋の神秘コンビは、リトアニアでも絶大なるインパクトを与えそうだ。

リングス・リトアニア
エギリウス・ヴァラビーチェス

リングスに2度来日経験があるエギリウス。その当時から、ヒョードルの名前をライバルとして挙げていただけに、待望の一戦だろう。はたしてこれは実現するか？

日本での第2次リングス構想はいまだ具体的な話が伝わって来ないが、いま世界で「リングス」が一番盛んな国・リトアニアでは4月5日にリングス・リトアニア大会を開催することが決定！ なんと日本から“ZST四天王”を招いて、リトアニアvs日本全面対抗戦を行うことになった。

日本からの参加選手は、『ZST』のエース・小谷直之、所英男、矢野卓見、今成正和。矢野＆今成のチーム・イリホリは、すでにタッグマッチで3・9『ZST』に参加したモリカビチュス＆エリカス組と対戦が決定している。

また、その他には、新PRIDEヘビー級王者ヒョードルの参戦が濃厚！ 日本で滑川康仁をKOしたこともあるリングス・リトアニアのエース、エギリウス・ヴァラビーチェスとの対戦が予定されている。はたしてヒョードルはノゲイラ戦からわずか3週間で“リングス”に凱旋するのか？ 次号で詳報をお届けする……かもしれないので、少しだけお楽しみに。

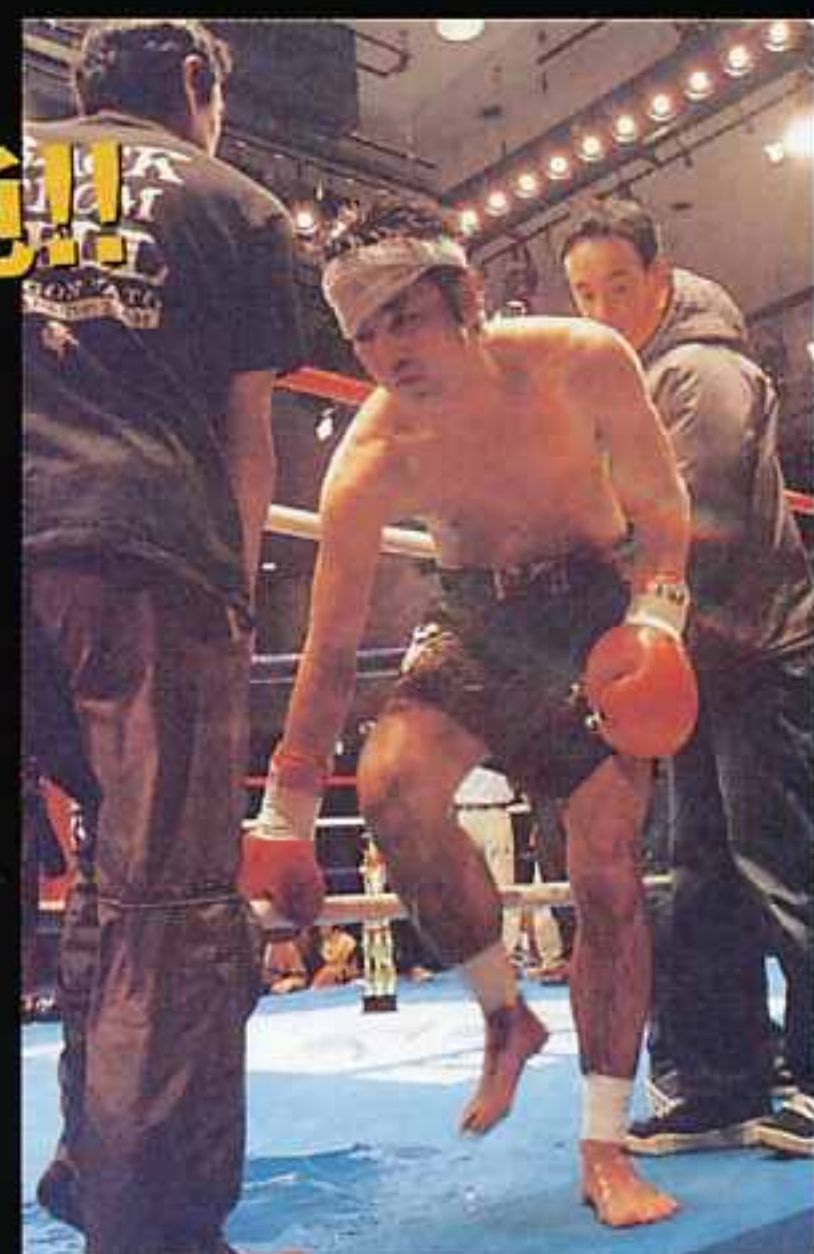
（ガンツ）

全日本ライト級最強決定トーナメント開幕戦
3・8全日本キック 後楽園ホール

準決勝／決勝 5・23（金）後楽園ホール

選手	所属
花戸忍	高橋道場
山本優弥	空修会館
小林聡	藤原ジム
任治彬	韓国
大月晴明	AJスタイルズ
藤牧孝仁	はまっこムエタイジム
金沢久幸	TEAM－1
大宮司進	シルバーウルフ

小林聡、まさかの1回戦KO負け！ キック界混沌!!

“野良犬”小林聡敗れる！ K－1ワールドMAXの向こうを張って、全日本キックが放ったビッグイベント『全日本ライト級最強決定トーナメント』。K－1MAXの方は魔裟斗優勝という順当な結果に終わったが、こちらは1回戦から波乱続出！ 武田と並ぶ大物、小林聡がいきなりKO負け！ さらにベテラン金沢も敗れ、注目のモンゴル人花戸忍も大苦戦。まるで優勝候補のアーツやモーリス・スミスが次々に敗れた第1回K－1GPのようだ！ これは決勝大会も見逃せない！

製作費3億!

昭和プロレスからK-1まで——。
元・『SRS』(フジテレビ スペシャルリングサイド)司会者がすべてを告白!!

田代まさし

熱狂的なプロレス・格闘技ファンで知られ、かつてはテレビ『SRS』の司会も務めたマーシーこと田代まさし。あの「ミニにタコ」事件、のぞき事件で世間を騒がせ『SRS』を降板。マット界から距離を置いて久しいが、スキャンダルがマット界を襲ういまだからこそ、スキャンダル男に話を聞きたい!!

聞き手/吉田豪　構成/ジャン斎藤　撮影/松本崇
designed by matsu(Two three)

格闘技やプロレス好きに悪い人はいないと思ってました

皇帝、リングス凱旋!?

――今日はプロレス・格闘技界が揺れ動いてるいまだからこそ、田代さんの出番じゃないかなと思ってお話を伺いにきました！

田代　そんなことはないでしょ（笑）。

――いや、この前『BUBUKA』で取材させていただいて、やっぱり田代さんにいまだからこそ聞くべき話は多いと痛感しましたよ。田代さんが格闘技方面の仕事から遠ざかってかなり経ちますけど、離れてみて何か思うことってあります？

田代　正月の「志村けんのバカ殿様」にボブ・サップが出てるのを見てたら、罪を後悔したねぇ……。事件を起こしてなかったら、サップに会ってたのにと思ってさ（しんみりと）。

――とりあえずサップをイジれなかった悔しさがあるんですね（笑）。テレビの『SRS』復帰は正直、かなり厳しいんですか？

田代　この前の取材でも話したけど、1回目の復帰のときも厳しかったしね。ほら、俺って気ィ遣いだし、みんなに「大丈夫？」とか言われるのがイヤでわざと陽気にしてたら、プロデューサーが「あいつ、全然反省してないな」って言ってたってあとで聞いたし。

――K―1でもお馴染みのKプロデューサーさんに、そう言われちゃったらしいですね（笑）。

田代　それで、次の撮りのときにすげえ大人しくしてたら、今度はディレクターが「大丈夫ですか？　テレビ出るからには、吹っ切った方がいいと思うんですよ」みたいに言ってくるわけじゃない。「どっちにすればいいんだ！」って思ったもん（笑）。だけど、『SRS』には俺の代わりに浅草キッドが入ったでしょ。浅草キッドでよかったなと思って、それはすごい嬉しかったね。なまじっか変なヤツが出たらイヤだけど、俺は浅草キッドには格闘技の知識では全然敵わないから。

事件を起こしてなかったら、サップに会ってたのにと思って罪を後悔したね

MASASHI TASHIRO

――田代さんにも格闘技の仕事をまたやってほしいですよ。とりあえず『生ゴン』の司会でもいいんですけど（笑）。

田代　だけど俺、もう迷惑かけたくないからK―1の会場にも行かないようにしてるんだよね。いまはテレビで毎週NOAHを見てるぐらいでさ。

――なぜか田代さんはNOAHヲタなんですよね（笑）。今回の館長の事件ついては、どう思われました？

田代　こないだウチの映画に角田（信明）さんに出てもらったんだけど、「K―1、大丈夫ですか？」って聞いたら「いまタイタニック状態ですよ！」って言ってたのがすんごいおかしくてさ。あ、変な意味じゃなくてね（笑）。

――いろんな人がそういう表現をしてますよ（笑）。田代さんは1回目の事件のあとにも館長と会われてるんですよね。

田代　うん。アンディ（・フグ）の葬式のとき、石井館長に謝ったんだよね。そんとき館長は「大丈夫！　俺がまた呼ぶから」って言ってくれてたんですけど、こういう状態だからね。

――館長が、また呼んでもらえるのかどうかもわからないわけだし（笑）。

田代　まぁ、だけど俺にとって館長の件は「まさか！」というより「ついにきたか！」って感じだったから。

――脱税云々の話自体、去年ぐらいから出回ってましたからね。

田代　やっぱ、やることなすこと派手だったからね。いまにそういうことになるんじゃないかとは思ってはいたよね。まあ、俺が人の心配をしてる場合じゃないんだけどさ（笑）。

――ダハハハ！　だけど、事件の先輩としてアドバイスは送れますからね（笑）。

田代　でも、あんだけ館長に世話になったんだからフジ（テレビ）の報道もどうかとは思うんだけどね。

――報道とスポーツでは部署が違うとはいえ、館長の件でかなり初期の段階から取材に動いてたのもフジテレビでしたからね。

田代　TBSや日テレでもK―1を扱うようになったことも影響してるのかなって考えちゃいますよね。

――ボクも正直、そう思っちゃいましたよ。K―1を独占できなくなったことによる報復なんじゃないかって。

田代　もともと、日テレで『K―1ジャパン』が始まったときも揉めてさ。館長は日本人だけだって約束したらしいんだけど。

――結局、どんどんワンマッチで外人選手を使ってましたからね（笑）。

田代　Kさん、かなり怒ってさ。TBSと組んだことにも、かなり怒っていたんだけど。

――Kさんは『W―1』にホーストが出ることも怒っていましたからねえ……。

田代　あ、それには俺も怒ってるよ！

――いや、『W―1』については後で詳しく聞くとして、いまはとりあえず館長の話をお願いします（笑）。

田代　ほら、「動物が好きな人に悪い人はいない」っていう言葉があるじゃないですか。それと同じで「プロレスや格闘技好きには悪い人はいない」と俺なんかは思ってたんですよ。でも、この世界はいろんな裏とかがあるし、こういう事件が起きたりもするし、おまけに自分もそうですからね（苦笑）。

――つまり、スキャンダルの多い世界というか（笑）。

田代　だから自分が思ってた概念に反するんですけど、格闘技やプロレスは心に純真な部分がない人じゃないと受け入れられないというか、愛する気持ちが

製作費3億!

ないとダメというか……。それは、わかってくれる人にはわかってもらえると思うんですけどね。

ーー確かに、たとえば梶原一騎先生にしても社会的には悪だったのかもしれないですけど、格闘技の話をするときは純真だったとか言うじゃないですか。

田代　そうそう。純真なだけにうまく立ち回れないんですよ。これは、自分のことをフォローしてるわけじゃなくてね（笑）。石井館長なんて道場に寄ったときは、スーツ姿のまま「違う違う！　蹴りはこうだよ！」って指導に入りますからね。やっぱり、心は子供なんだなって。

ーー田代さんは『SRS』でサダハルンバ谷川さんとも接点は多かったわけですけど、その谷川さんが2代目プロデューサーに就任するなんて想像できました？

田代　全然想像できなかったですね。でも、彼からは新間寿さんと同じ匂いがしてたんだよ。

ーーあ、過激な仕掛け人の匂いを嗅ぎとってましたか！（笑）。

田代　ボーッとしてるように見えるけど、「なるほど！」っていうカードを組むし、これはもう少し後にした方がいいんじゃないかと思うカードでも「ここからドラマが生まれるんですよ、田代さん！」って、すぐにマッチメイクしますからね。

ーー昔からマッチメイク方面のアドバイザーだった谷川さんのセンスなのか、K−1は旬の対決を引っ張らないですからね。

田代　プロレスは引っ張るけど、K−1は違うなって思いますよ。

ーーで、プロレスの話が出たからそろそろ話を変えますけど、もともと田代さんは熱狂的なプロレスファンだったんですよね。

田代　そうですね。シャネルズ時代から、『ザ・ベストテン』の最後に「さようならぁ！」ってみんなで手を振るんだけど、俺はそのときコシティに似た道具を持って回したりして、プロレスの小ネタをやるのが好きでしたね。通の奴らに「オマエ、やってたろ！」って言われるのが嬉しくて（笑）。

ーーその頃から小ネタ好きだったんですね（笑）。

田代　シャネルズで地方コンサートの行ったときなんかも、本当の目的は東京には売ってないプロレスラーのソフビ人形をさびれたおもちゃ屋で買うことだったしね（笑）。

ーーそれって時期的に、おそらく梶原プロ承認で作られたポピーのスーパー・プロレスラー・シリーズでしょうね。

田代　それそれ。シャネルズでアメリカに行ったときも、WWF（現・WWE）の人形を探しに行って、カミさんに「こんなの集めてどうすんの？　歳いくつなの？」ってスゲェ怒られたから「オマエには男のロマンがわからないのか！」って喧嘩したこともありましたよ。

ーーいまと違ってフィギュアが大人の趣味として評価される前でしたからね。

田代　リーダー（鈴木雅之）もプロレス好きで「ステージではアントニオ猪木を目指す！」ってよく言ってたし、「笑っていいとも！」出たときの友だち紹介は長州力だったし。

ーーああ、そうでしたよね。で、長州さんはまだラビット関根時代の関根勤さんを紹介してたっていう（笑）。あの当時、山口良一さんや斉藤清六さんとか欽ちゃんファミリーとプロレスは密接な関係にありましたからね。

田代　清六さんは会場でよく会った！　あの人、キックにも顔出してたよ（笑）。

ーーいまだに後楽園ホールでよく見かけますからね（笑）。で、当時の田代さんも完全な猪木ファンだったみたいですけど。

田代　そう！　俺、黒人音楽とプロレスってすごい近いと思ってたのね。黒人のエンターテイナーは自分の声の技量で一瞬にして客のハートを掴むんだけど、猪木さんを見たとき「この人はソウルシンガーだ！」って思ったわけ。「リングというステージで客のハートを一瞬にして掴む。この人はジェームス・ブラウンだな！」って。

ーーつまり、J・Bのマントショーみたいな感じだってことですよね（笑）。

田代　あの赤いタオルをバッと取るのがね（笑）。俺たちのやってたソウルミュージックと、猪木さんが演出するプロレスには凄く近いものがあるって気づいたんですよ。それはいかにお客さんを自分の手の平に乗せて、リアルを超越したエンターテインメントなものを目指せるかってことなんですけど。

ーーつまり、ベースに技術があった上でお客への見せ方を理解しているってことですよね。

田代　それは桜庭選手にも感じることですけどね。

ーーちなみに猪木さんとのエピソードって何かありますか？

田代　猪木さんに「コブラツイストを掛けてください！」って言ったら本気でフックしてきて、ギブしてんのに全然離してくれなかったのを覚えてますよ（笑）。

ーーいちいちプロですよねぇ、素人にはキッチリ痛みを教えるという（笑）。

田代　だから当時、よく「プロレスなんてショーでしょ？」って聞かれると「いいんだよ、ショーでも。だけど、それなりに体とか鍛えて毎日やってないと、プロレスはできないんだよ。それって凄いことじゃない？」って説教してましたよ。

ーー実際、80年代半ばぐらいに田代さんが藤波さんと『ライオンのおしゃべりな夜』で共演したときも、「プロレスってよくドラマじゃないかって言われてるけども、ここで負けるんだよっていうのがたとえあったとしても、あれだけのショーはすごい」ってハッキリ言われてたのが印象的だったんですよ。

田代　うん。だって俺はプロレスをすごい好きなわけだから、そういうヤツに言われるぶんにはいいんじゃないかなぁ？

ーー藤波さんも「僕が言いたいことを全部言ってくれた！」と、あっさりカミングアウトしてましたしね（笑）。田代さんが、プロレスはいわゆるショーと気づいたのはいつ頃だったんですか？

田代　子供のころから何となくね。それでも、周りで「八百長だ！」とか言う奴がいたら必ず技を掛けて「ホントに痛いんだぞ！」って伝道してまわっていましたから（笑）。

ーー田代さんも身体でわからせてたんですね（笑）。

田代　だけど、プロレスはショーとわかっていても、（ブルーザー・）ブロディが自分で自分のヒザを切ってたのを見たときはショックでしたねぇ……。

ーーああ、『噂の真相』なんかでも物議を醸した猪木さんと初対決したときの騒動ですね。

田代　ブロディがエプロンに潜って切ってると見たときは「うわ～！　見たくなかったぁ」って思ったもん。

ーー情報としては知っていた、彼女の浮気現場を見たぐらいの

99年3月、『SRS』初代司会だった藤原紀香「番組卒業記念イベント」でのマーシー。このイベントには、桜庭vsエンセン、小路vsコールマン、アンディvs角田などの豪華なエキシビジョンマッチが行われ、浅草キッドも邪道スタイルで登場。紀香の卒業に華を添えた。それにしても、見てみぃ！　マイクロダイエット敢行前の谷川プロデューサーのガファリっぷり！　んあ～～である。

皇帝、リングス凱旋!?

衝撃だったわけですか（笑）。
田代　もう少しわかりやすく説明すると、彼女の家に行ってトイレ借りたらウンコ流してなかったみたいな感じだね（笑）。
——ダハハハ！　してるのはしょうがないけど、せめて見えないようにやってほしいですからね（笑）。
田代　その演出の上手さや鮮やかさに歓声が起こると思うんですよ。実際、目や耳に入ってこない分にはいいわけで、やってることは凄いんですから。
——裏側のすべてをわかった上で尊敬してるわけですね。
田代　やっぱ凄いからね、レスラーは。たとえばさ、川田（利明）さんとウチの子供が同じ小学校だったことで、運動会で一緒に玉転がしやったことがあったんですよ。
——そんな縁があったんですか（笑）。
田代「うわ！　川田だ！」ってビックリしたけど（笑）。それで川田さんと俺が一緒に玉を転がすんだけど、向こうは体を鍛えてるけど俺は不摂生をしてるから全然付いていけないんですよ。
——違法なことをやってたんですか？
田代　当時はまだやってないよ！それで結局、川田さんが一人で玉を抱えてバーッと走って行って、俺はあとから「ハーハー」息を切らしながらゴールしたの。しかも終わったあと川田さんはピンピンしてるのに、俺は「教室で休ませてくれ～ッ！」ってゲロ吐いたのを覚えてますもん（笑）。
——川田さんは運動会でプロレス幻想を守ったわけですね（笑）。
田代　でも、その話をテレビや雑誌でしてたら、あとで三沢さんと会ったときに「川田はまだ結婚してないことになってるんですよ」って言われちゃって（笑）。

プロレスはショーとわかっていても、あのシーンを見たときはショックでしたね

——そんなオチまでついちゃったんですか（笑）。ちなみに三沢さんと川田さんが本当に仲悪いのはご存じですか？
田代　川田さんの全日本への残り方を見ればわかるよね。でも、俺は川田さんも三沢さんもファンだから、どっちも味方したいというか。極真も「大山派」と「松井派」に別れたときは、俺はどっちも応援したいって気持ちがあったし。
——『SRS』では「松井派」のみ扱ってましたけど心情的には中立だった、と。
田代　ある筋から「『大山派』のパーティに来てくれない？」って誘われたこともあったけど、両方にいい顔してるって思われるのもイヤだから断ったことがあったんだよね……。しかも『SRS』はパンクラスともケンカしちゃって。俺、パンクラスが好きだったんだけど、それで行きづらくなっちゃったから。
——それもKさんが揉めたんですよね（笑）。
田代　Kさんには前田（日明）さんも一時かなり怒ってたよね。
——パンクラスとKさんが、リングスにあることないこと言ったってことで揉めた騒動ですね。
田代　それで一度、エレベーターに俺と谷川さんとKさんと（藤原）紀香が乗ってたら、前田さんがたまたま乗ってきたんだよね。
——うわ！　それは奇跡的な空間ですよ！（笑）。
田代　Kさん、すぐ下向いちゃってね。谷川さんが気を遣って「頑張ってくださいねぇ、前田さん」とか言ったら、「頑張ってるよ!!」って怒鳴り返されたんですよ（笑）。
——ダハハハ！　いい話だなぁ（笑）。
田代　あと谷川さんは、前田（日明）さんの悪口を雑誌で書いたらリング上から「オマエ、悪口書いたやろ！」ってずっと指を刺されたらしいですけど、谷川さんは「すごい嬉しかったぁ！」って喜んでましたよね（笑）。
——「ボクだけに怒ってるぅ！すご～い！」とか、よく言ってましたよ（笑）。
田代　俺も言われる分にはいいけど、前田さんが坂田（亘）さんをボコボコに殴った裏ビデオなんか見ると、あれをやられたらイヤだなって思ったなぁ（笑）。前田さんにトイレに連れて行かれてやられた人とかいるんでしょ？
——当時『フルコンタクトKARATE』編集長だった山田（英司）さんですね。山田さんも「掌底をスウェーでかわしたから大丈夫だ」って自慢してましたけど（笑）。
田代　そうなんだ（笑）。そこまで発展するとどうかなって思うけど、極楽とんぼの山本（圭一）と船木（誠勝）さんのギリギリの部分での絡みは良かったですよ。山本が船木さんのスリーパーで落とされて「いま……お花畑にいた」って訳わからないこと言ってね（笑）。
——シャレでやらなきゃいけないはずなのに、あのときは船木さんに怒りが見えましたからね（笑）。
田代　けっこう格闘家やレスラーってシャレがきかないんですよ。『SRS』でも放送してないんですけど、沖縄の空手の先生が、こっちは「素人だ」って言ってんのに俺とか畑野（浩子）ちゃんに本気で技を仕掛けてきたこともあるからね！
——ダハハハ！　田代さんだけならまだしも（笑）。
田代　俺だって冗談じゃないよ（笑）。畑野ちゃんが「痛い！痛い！」って泣いてるのに「大丈夫、大丈夫」とか言ってドンドン技を掛けてくるから、俺も段々マジになってきちゃって、「先生！ホントにもういいですから！」ってキレかかってさ。
——骨法の堀辺先生にも、『スーパージョッキー』でたけしさんに技を掛けたままずっと外さなかったっていう伝説があるんですよね。
田代　それどころか、たけしさんとこの若い人の腕を折ったんですから！　先生の奥さんが「この人たちナメてるから、折っちゃいなさい！」って。
——みんな、幻想を守るために無茶をしてきたわけですねぇ（笑）。
田代　俺もレスラーだと、馬場さんにやられたからね。
——あ、猪木さんだけじゃなくて（笑）。
田代　どっかの局の番組祭りで、俺は他の仕事があって遅く来たんですよ。そしたらみんなヒナ壇に座ってるのに馬場さんだけデッカいイスに座ってて、俺の席に行くには馬場さんに席を立ってもらわないと通れないセットになってたんだよね。それで、ここはカメラもまわってるしシャレが通じるだろうなと思って、「どうも遅くなってすいませんでした～！」って言いながら馬場さんの膝の上に当たり前のように座ったんですよ。
——ボケとしては基本みたいなものですよね（笑）。
田代　そしたら、いきなり馬場さんに頭を「アポーッ！」っておもいっきり叩かれて、あのときはかなり吹っ飛びましたね（笑）。
——ダハハハ！　突っ込みが激しすぎましたか（笑）。
田代　以前、堺正章さんと徳光和夫さんと俺がやってる番組にジャンボ鶴田さんがゲストで来てくれたことがあって、そのときに馬場さんのシューズを元子さんから借りてたんですけど、返却するのが遅かったかなんかでスタッフが頭を丸めさせられた経緯とかも前に聞いてたんだよね。だから、シャレはあまり通じない人なのかなって思ってたんだけど、俺もお笑いだから馬場さんの上に座るしかねぇなと思ったわけ。
——ところが、馬場さんは手加減することなく突き飛ばした、と（笑）。
田代　もうムチウチになるかと思いましたもん！　スタジオは沸いていたけど、「いまのは笑い事じゃねぇぞ！」って心の中で叫んでたから（笑）。あと、鶴田さんからもキツイのもらいましたよ。さっきも言った鶴田さんをゲストに呼んだ番組で、長与千種が鶴田さんに挑戦する企画があったんですよ。
——見ましたよ、その『ザ・サンデー』は！　鶴田さんのダイナミックなロープワークでリングまで動いてたから、それだけで千種さんをビビらせたのに、しっかり千種さんの技も受けて（笑）。
田代　そうそう。そのとき、ま

製作費3億!

MASASHI TASHIRO

ず挑戦してきた千種さんに鶴田さんが「いや〜、女の人はどうですかね？　たとえばボディスラムにしても男の場合は全然違うんですよ」ということで、俺が練習台になったんですよ。それでおもいきりやられて、息ができなくなりましたからね。

――ボディスラムはレスラーがやられても痛いって言いますからねえ（笑）。

田代　それなのに鶴田さんが笑いながら「素人の人はマネをしないでくださいね」って言ってたから、「俺は素人だ！」って叫びたかったんだけど、ホントに痛くて声が出なかったんだよ。

――あのとき、堺正章がリングから転落して腰を強打して痛がってたのは覚えてるんですけど、田代さんのリアクションはてっきりネタだと思ってました（笑）。

田代　違うって！　普段の試合を見てると投げられてもバウンドしてるし、選手も平気な顔してるから大したことないだろって思っていたけど、甘いもんじゃなかったねぇ……（しみじみと）。

――リングにバネが入っていても痛いものは痛い、と。

田代　ロープもあんなに固いものだとは思ってなかったし、やっぱりプロレスラーはすごいよ！　一度、志村（けん）さんと高田（延彦）さんと寺尾の4人で六本木で飲んだときもすごかったもん！

――髙田さんの飲みっぷりは尋常じゃないらしいですからね。

田代　あと、こんな話をしていいのかわからないけど……とんねるずがどっかの店で打ち上げをやってたら、前田さんと髙田さんが「オマエが（石橋）貴明っていうんか！」って絡んできたんだって。それで、いきなり前田さんが自分の頭をビール瓶で「バーンッ！」って割って血をダラダラ流しながら「レスラーをナメんじゃねぇぞ、コラッ！」って怒鳴られた話を貴明から聞きましたよ。

――それ、ムチャクチャいい話じゃないですか！（笑）。おそらく、とんねるずが番組でプロレスを笑いのネタにしてたから、プロレスの凄みをアピールしておいたってことなんでしょうけど。

田代　そうだろうね。プロレスラーの凄みでいえば、古館（伊知郎）さんが山本小鉄さんと飲みに行ったときに大学の柔道部が集団で飲んでて、「おい、小鉄ッ！　オマエ、ホントに強いのかよ！　このイカサマ野郎が！」ってずっと絡んでたらしいんですよ。小鉄さんは最初はガマンしてたらしいんだけど、いい加減腹が立ってきて「私に何か文句があるんですか？　だったらハッキリ言ってください」って1人で立ち向かっていったら、相手が「なんだコラッ！」って掴み掛かってきたんだって。そのとき小鉄さんが相手の首の後ろをちょっと突いたら、それだけで相手が口から泡を吹いて崩れ落ちちゃったらしいんですよ！　どこまでホントかわからないけど、古館さん曰く「プロレスでは使えない裏のツボを小鉄さんはいっぱい知ってる」ってことで。

――古館さんもプロレス幻想の語り部ですからね（笑）。

田代　だから、長州力さんがアマレスから鳴り物入りで新日本に入ったときに「俺を引っくり返してみろ」ってマットに仰向け寝たら、木戸（修）さんか誰かがケツの穴に親指を「ズボッ！」と突いて引っくり返したとか、道場破りが来たときに新間さんが「生死に関わる誓約書」を書かせてからボコボコにしたとか、そういう話を聞くとプロレスがショーだのなんだの言われても侮ってはいけないと思っちゃいますよね。

――プロレスラーは本当はすごいんです、と。

田代　だから、これは悪口じゃないんだけど、俺は『リングの魂』みたいにプロレスラーをジェットコースターに乗せたりしたくないわけ。『SRS』では、会話とかで笑わせたりはしたいけど、そういうのは違うなって思ってたから。バラエティとして見せつつも選手の凄さを見せたかったんだよね。あんまりマニアックになってもいけないし、かといってバラエティに徹するのもしたくないって思いでさ。

――やっぱり、好きだからこそバラエティ扱いすることへの抵抗があったわけですね。

田代　ただ、それも仕事だからね。以前、『驚き桃の木20世紀』で沢村忠さんの特集をやったときに俺がゲストで出たんですよ。沢村さんの大ファンだから喋ることは尽きないんだけど、バラエティーだから茶化さなきゃいけないじゃない。沢村忠さんがランニングするときはボクサーっていう名前の犬を連れてたんですけど、「キックボクサーだからボクサーを連れてるんですね」ってトボけたら、山本晋也監督に「オマエはそんなことを言ってるからダメなんだよ！」って本気で怒られましたよ。

――ダハハハ！　山本監督は沢村さんの大学の先輩だったんですよね（笑）。

田代　そうそう。日大の応援団の団長やってて沢村さんにヤキを入れたことがあるらしいんですよ。

――喧嘩も相当強いって伝説を聞いたことがありますよ。ある番組でも「監督は映画はしばらく撮ってないのに、なんで『監督』と呼ばれてるんですか？」とか南部（虎弾）さんに言われて、本気で喧嘩を売ったみたいですけど（笑）。

田代　監督は強いよ、間違いなく。『トゥナイト』であんなに風俗の店を取材できたのは山本さんのおかげだったって話だし、かなり顔が利く強面の方なんですよね。そういうところをおくびにも出さないところがステキだなって思いましたけど。

――ちなみに、芸能界での最強は誰だと思います？

田代　俺もいろんな芸能人に「誰が一番強いと思う？」って聞いてまわったことがあるんだけど、大抵みんな「力也さん」って言うんだよね。でも、通の奴が言うのは今井雅之なんですよ。

――空手2段、柔道初段、そし

皇帝、リングス凱旋!?

て自衛隊出身なだけあって銃剣道初段らしいですよね(笑)。

田代　しかも趣味が匍匐前進だからね(笑)。あと逸話でしか聞いたことないんだけど、奥田瑛二が松田優作とエレベーターでバッタリ会ったときに、いきなりお互いが相手の首を鷲掴みしながら睨み合って、エレベーターが下に到着したらお互いに手を放して無言で去っていったらしいから「奥田瑛二、恐るべし!」だよ(笑)。

―奥田さんが映画『すてごろZANGE』で梶原一騎役を演じるのも、間違ってはいなかったんですね(笑)。

田代　それと、やしきたかじんさんは相当強いと思うよ。喧嘩をやってるのを見たことがある人がいるけど、7人を相手に全員ボコボコにしたらしいですよ。俺はたかじんさんを「兄貴」って呼んでて、いまも可愛がってもらってるんですよ。

―やっぱり横で見てると、この人は強いっていうのはわかりますか(笑)。

田代　わかるわかる。口ばっかりな奴もすぐわかる。(横浜)銀蝿の翔とかは昔、髪の毛を伸ばして〝レモンパイ〟っていうアイドルバンドをやってたんだよ。それが横浜銀蝿だからね(笑)。『ザ・ベストテン』で黒柳徹子さんが「まあまあ、皆さんは大学にいってらっしゃるんですよね。あなたはどちら?」って聞かれて「中央大学です」って答えてたから、俺たちが後ろで「おいおい、不良が大学行くか?」ってデッカい声で言ったらイヤな顔して振り返ったのを覚えてるね。

―翔さんは進学校の出身だし、嵐さんはそこで生徒会長とかやってたわけですからね(笑)。そういう唾ぜり合いは最高に面白いですよ!

田代　いや、俺もリーダーも全然、相手にしてませんでしたけどね(他にも「シャネルズ」「ラッツ&スター」時代の壮絶な武勇伝が延々と続くが、ページの都合上泣く泣く割愛)。

―え〜、そろそろ話を戻しましょう(笑)。田代さんが『SRS』をやってきて最大の思い出というと?

田代　やっぱりアンディ・フグに尽きるよね。スイスの大会のときにはアンディの自宅にも行ったし、俺が出てる番組にもアンディが本物のフグを持って登場したりで、仲が良かったんだよ(笑)。

―ベタベタの小ネタですね(笑)。

田代　俺は極真時代からアンディを応援してたし、K―1のトーナメントのときも「優勝はアンディ」っていつも言ってたし、死に方も壮絶だったしね……(思い出すように)。だって、日本であんなに心を掴んだ外国の格闘家ってボブ・サップとアンディぐらいしかいないでしょ? デストロイヤーとかも一時期そうだったのかもしれないけど。……あ、そういえばデストロイヤーの素顔を見たんだよ!

―いきなり話が変わりますね(笑)。

MASASHI TASHIRO

田代　チャック・ウィルソンのボディビル・ジムに番組の取材で行ったら、汚いジジイが体を鍛えてるんだよ。そしたらチャックが「田代さん、あの人はデストロイヤーですよ!」って言うんだよね! もうクソジジイ過ぎてガッカリした!

―あの歯並びの悪さとかで、絶対にカッコ良くはないって想像は付きましたけど(笑)。

田代　それにしたって、やっぱ現実と理想のギャップがあるじゃない。同じような話ではNHKの『できるかな』でゴン太くんの中に入ってる人を見たことがあるんだけど、それもやっぱりクソジジイでねえ(笑)。

―ボクも、『ごきげんよう』のライオンくんが被りものを取ったヒゲ面のまま局の廊下を歩いてるのを見たときはショックを受けましたよ(笑)。

田代　あのおじさん、有名だよね(笑)。デストロイヤーも、ジジイになっても体を鍛えてるのはドラマチックなんだけど、この間は六本木を覆面しながら運転してたんだよ。

―それはそれでプロフェッショナルですよね(笑)。

田代　電車の中でも覆面姿に遭遇したことがあるんだけど、だったらジムでも覆面しといてくれよって。

―俺たちの夢を壊さないでくれ、と。

田代　格闘技なんかも、番組やってると夢が壊れるときもあるよね。あんまり口にはできない話なんだけど、ある有名な空手家がダウンタウンの番組に出て瓦割をやってたんだけど、全部は割れなかったんだよね。でも、俺は『SRS』で何回も人がやるのを間近に見てきてコツとかもわかってるから、全部割れたんですよ。

―すごいじゃないですか(笑)。

田代　石井館長がコツを解説してくれたことがあったしね。自然石割りでも何でも、実はやり方があるっていう。

―石の選び方とか、石の浮かせ方とか、タネはあるらしいですよね。瓦割も、おそらく体重の乗せ方とかがポイントなんだと思うんですけど。

田代　そうそう。だから思いの外、簡単に割れちゃって。俺も番組を盛り上げようとして痛いフリはしたんだけどさ(笑)。そ

製作費3億！

したら、その空手家が後から番組のプロデューサーに電話してきて「田代さんが割ったシーンはカットしてもらえますか？」って頼んできたんだって。それで俺のシーンはカット！

——編集にまで口出ししてきましたか（笑）。

田代　これもちょっと名前は言えないんですけど、ある有名な空手家同士の空手マッチをやったときも、その一方の選手のローキックがすごい強いらしくて、相手が怖がっちゃって空手衣の下に痛くないように何かを巻いてたとか聞くと、ちょっとガックリきちゃうもんなぁ。たとえば、これは『紙のプロレス』だから言える話なんだけど……（以下、格闘技のショー的な要素についての生々しい証言をたっぷり話してくれたんだが、もはや『紙プロ』でも掲載困難なミスター高橋すらも超えるほど物騒な内容だったので、泣く泣く割愛）。

——格闘技にも裏はあるんですねえ……。

田代　好きになって突き詰めていくとわかってくることなんですけどね。ちょうど俺が留置所に入ってるとき、ミスター高橋の本が出たんですよ。それでマネージャーに買ってきてもらって読んだんですけど。

——留置所でミスター高橋本ですか！

田代　あそこに入ってたのは安田vsバンナがメインの『猪木祭り』があった頃なんですけど、他の房の収監者や看守から「田代クン、これはどっちが勝つの？」とか聞かれたりして、こんな所でも俺が格闘技好きなのが浸透してるのかなって複雑な心境でしたねえ（しみじみと）。

——留置所でもプロレス・格闘技の伝導役だった、と（笑）。高橋本は読んでみていかがでした？

田代　まぁ、知らなきゃ知らないで構わないことだけど、興味深くは読めましたね。猪木さんの試合はワークだったとか、ジェット・シンに襲わせたとか、他にもどうのこうのと書いてあったけどさぁ……。

——それでも「猪木さんはスゲぇな！」というのだけは伝わってくるから面白かったんですよね（笑）。

田代　そう！（キッパリ）。そして、あの本を読んだ限りでは、この人（ミスター高橋）はどうこう言っても猪木さんのことを愛してるわって思いましたね。その部分では許せるっていうか。

——藤波さんのことが嫌いなのは伝わってきましたけどね（笑）。

田代　それに裏側といっても、実際に身体を切ることだって普通の人には勇気がいることじゃないですか（額をさすりながら）。そこまで身を費やすことには拍手したいし、ブッチャークラスになると、ちょっと叩くぐらいで傷口が切れて血が出るし、気力で自分で血を止められるらしいですからね。

——あの本で高橋さんは「日本のプロレスもWWEみたいになるべきだ」という論調を立ててましたけど、それを現実にしたのが『W—1』だったと思うんですよね。ただ、高橋さんに言わせればそうすれば大成功するはずだったのに、なぜかすっかりバッシングの嵐が吹き荒れちゃったというか。

ミスター高橋の本は、ちょうど拘置所にいるときに読みましたよ

田代　やっぱり外人だから似合うんだと思うよ、ああいうプロレスは。最近、映画を撮ってても思うんだけど、日本人はオーバーなことが似合わないんだよね。

——それはさたやんのことですか（笑）。

田代　いや、さたやんどうのこうのじゃなくて（笑）。彼には、ちゃんと「佐竹雅昭」としてステータスみたいなものがあるからね。

——フォータイムス・チャンピオンのホーストにしても、自分のステータスを食い潰してるだけだってことですか。

田代　ホーストは絶対ダメ！　K—1から離れた部分でやってるから、まだいい部分もあるんだろうけど、チャンピオンのうちにあんなことやったらダメだね。

——K—1王者が、バラエティ番組でバカやってるようなのは許せないんですね（笑）。『W—1』は「みなさんのおかげです」とかバラエティ番組を制作しているディレクターがやってるわけですけど。

田代　あ、『SRS』のスタッフがやってるんじゃないの？

——実はフジのスポーツ部はまったく関わってないんですよ。それもあってKさんが大激怒したんですよね。

田代　あぁ、そんなことになってたんだ。でも、あれは怒るよ。

——バラエティで育ってきた田代さんから見て、『W—1』のバラエティ加減はいかがでした？

田代　そこなんだよ！　俺はホントに格闘技が好きで見てる部分があるから一概には言えないけど、難しいよなぁ……。

——格闘技とバラエティの融合はやっぱり困難ですか。

田代　たとえばドン荒川さんみたいに客を楽しませたりすることは必要だと思うけど、プロレスには守らなければいけない壁が必ずあると思うんだよね。それを越えちゃ絶対ダメですよ。

——『W—1』は越えちゃったってことですか。

田代　越えてるよ（キッパリ）。サップなんかにしても踊りながら出てくるのはいいけれど、優しい音楽で宙に吊られて出てくるのは、ちょっとねぇ……。イエーメン出身のナジーム・ハメドなんてボクサーは、空飛ぶじゅうたんの演出で出てきたことがあるんだけど、そいつはノーガードでパンチを全部避けちゃうし、ホントに強いから許せるし格好いいんですよ。桜庭がふざけても強いから許せるっていうのと同じでね。

——あの演出も、サップの魅力が最大限に発揮できるガチンコだったら活きるわけですよね。サップもプロレスだとまだキツイ部分があるから、結局は試合内容の問題だとは思うんですよ。

田代　それに、「K—1だとそんな殴り方じゃないだろ！」みたいものが見えちゃうわけだから、違いが出ちゃうじゃない。

——藤田（和之）選手にしろ、一回ガチンコをやっちゃうとプロレスが中途半端に見えちゃうから、結局まだ両者をうまく両立できてる人っていないんですよね。唯一、高山さんがいい線までいってるといわれてますけど、そもそも『PRIDE』全敗なわけだし。

田代　しかも、世間の興味の対象がガチンコ勝負に傾いてるでしょ？　俺自身も一時期やっぱり真剣勝負だよなって思っていたこともあったからね。

——でも、ノアだけはいまも見てるんですよね（笑）。

田代　（即座に）見てるね！　やっぱり、プロレスはプロレスで楽しめるから。新間さんがいろんな仕掛けをやってたときもそうだったけど、プロレスはドラマを作っていくところにワクワクさせられるわけだからね。要は見る人の気持ちや思い入れ次第だし、見る人がそれはそれで割り切って見ればいいんじゃないですかね。「さあ、今度はプロレスモード！」みたいな感じで、チェンジしていければいいと思うし。

——WWEとかはいかがですか？　『ビヨンド・ザ・マット』には、かなりショックを受けたみたいですけど。

田代　ちょうど謹慎中に見たんだけど、ジェイク・ロバーツがジャンキーになって娘に会うっていう場面があったでしょ……。あれ見て俺、泣いちゃってさぁ……。

——自分と重なりましたか。

田代　俺も娘いるから参っちゃって。「いまの俺にはキツいなぁ」って思ってさぁ。

——あれもすごい話なんですよね。あの人も「俺の妹が父親にレイプされた」とか、とんでもない家庭の虐待があったらしくて。

田代　ドラマを感じるよねぇ……。ミック・フォーリーと奥さんと子供のエピソードだって、プロレスを超えた部分を見せてたじゃない。

——フォーリーが金網のてっぺんから落ちたりで、ショーだとわかっていても奥さんと子供が「見てられない！」って目を背ける

皇帝、リングス凱旋!?

わけですよね。実際、フォーリーはそれで大怪我しても試合は続くわけだから、プロレス恐るべしなんですよ!

田代　だから試合はワークだとしても、そういうドラマがあるからプロレスは成り立つと思うしね。それでもああだこうだ言う奴は「だったら、お前が落ちてみろよ!」って話だからね。

——とことんまで体を張れば、シュートだろうがワークだろうが関係ないはずですからね。ただ、いまのプロレスで問題なのは体を張ってるはずなのに、その凄みが全然伝わってこないことなんですよ。どうしてもシュートファイトの方が身体を張ってるように見えちゃうわけだし。

田代　昔に比べて大技主体になってるんだけどね。闘龍門が女子プロみたいな技をやるけど、あんなの昔のプロレスでは考えられないですよ。あれはあれで素晴らしいんですけど。

——難易度も高いし、ものすごい完成度ですからね。

田代　闘龍門は一度、見に行ってみたいんだけどね。いま何団体あるんでしたっけ?

——誰も覚えてないですね(笑)。

田代　なんか細かいのがいっぱいあるけど、末路に厳しいものを感じるよね。あの大木金太郎が韓国でどう過ごしてるかというドキュメンタリー見たけど、やっぱり寂しいじゃない。

——剛竜馬なんか、まさにそうですよね。

田代　しかし、"プロレスバカ"という異名もすごいけどさ(笑)。

——プロレスを辞めたらホントにバカをなっちゃったっていう(笑)。剛さんのプロレス復帰プランも挙がってるらしいですけど、田代さんにも何らかの形で映画のみならず格闘技方面でも復活してほしいですよ!

田代　俺が謹慎してるときには「芸能界復帰はもうない。唯一みんなの前に出るためには、体を鍛えてK—1とかに出るしかないのかな」って考えていたこともあるけどね。

——ダハハハ! それは、まだ遅くないですよ(笑)。

田代　いや、相撲の一番前の席に陣取ってテレビに映るとか、『ズームイン!朝』を外でやってるときに無理矢理「北海道にズームインッ!」ってやっちゃうとか、もっと簡単なのもあったんだけど(笑)。

——石井館長とのワンマッチでも組めば、大変な盛り上がりになりますよ!(笑)。

田代　そんなの無理に決まってますよ(笑)。石井館長と松井館長の試合は見てみたいけどね。お互いに意地があるから負けられないしねぇ。こっちの方がすごい試合になるよ!

——エキシビジョンだとしても、相手が一発出せば一発返すみたいな応酬が続きそうですね(笑)。

田代　「あっちの方が一発多い!」みたいにね(笑)。谷川さんとターザン山本とかも見てみたいなぁ。

——それは間違いなくベタベタのプロレスになりますね(笑)。今後、田代さんが『W—1』や闘龍門に絡んでいくことを期待してます!

[03年3月6日 六本木「ボディプラント」にて収録]

MASASHI TASHIRO

【たしろ・まさし】本名・田代政。1956年東京都出身。73年、鈴木雅之らと『シャネルズ』を結成(その後『ラッツ&スター』にグループ名変更)。デビューシングル「ランナウェイ」は110万枚の大ヒットを記録した。マーシーはバラエティ方面の才能を開花し、あらゆる番組で活躍。現在は映画監督業で多忙な日々を送る。

製作費3億!

"マネーの虎"が破壊王主演映画の全貌を語る!!

「今回の主演は、レスラーの中で一番哀愁が漂っている橋本さんしかいないと思う」

ソフト・オン・デマンド社長

高橋がなり【後編】

前回は女子総合格闘技道場を立ち上げた、がなり社長の今後のマット界での野望と、すっかりやる気モードになっている神取戦への意気込みを語ってもらった。後編となる今回は、がなりプロデュースの破壊王・橋本真也主演映画の全貌から、やんちゃ時代の武勇伝まで、たっぷり語ってもらった

聞き手／大坪ケムタ&ささきぃ　撮影／松澤チョロ　designed by matsu(Two three)

今回の橋本さん主演の映画には『少林サッカー』のアクション監督を呼んでるんですよ

――前回は道場と女子総合を中心に話をうかがったんですが、ソフト・オン・デマンド（以下SOD）といえば昨年はZERO―ONEのスポンサーもされてましたよね。今年もスポンサーは継続で？

がなり　いえ、今年はZERO―ONEに関しては橋本さんの映画に全部つぎ込みますから。4月くらいにクランクインの予定なんですけど。

――やっとその話ですね！　ビデオ安売王で発売された『一軒家プロレス』（※中牧昭二、岡野隆史組vsクリプトキーパー、ボブ・バラゲイル組が一軒家をリングに家財道具をブチ壊しながら闘う、早すぎたエニウェアデスマッチビデオ。96年発売）をZERO―ONEでリメイクするという話は聞いてましたが？

がなり　脚本で凄く時間がかかったんですけど、やっとまとまりまして。いまはキャスティングしている最中なんですよ。

――タイトルは決まったんですか？

がなり　『紙のプロレス』さんには悪いんだけど、プロレスっていう名前はやめようと思ってて。〝プロレス〟って入れちゃうと抵抗ある人多いと思うんですよ。だから『一軒家格闘王』とか（笑）、「格闘」っていうように持っていって、もっと幅広くお客さんを掴めるように。

――一軒家格闘王ですか⁉（笑）。

がなり　敵の親玉としてハルク・ホーガンさんに来て頂こうと考えてるんですけど。

――『W―1』でも呼べなかったホーガンをSODで出しますか（笑）。

がなり　ええ、考えてます。ただ1個当初の考えと変わったのが、プロレスに拘らないで橋本さんを助ける側の人間にいろんな格闘家が現れていいんじゃないかなと。例えば相撲取りでKONISHIKIさんが現れるとか、本当は柔道の吉田（秀彦）さんに来て欲しいんだけど、小川（直也）さんに頼むからいいよなみたいな（笑）。あとケイン・コスギとかタレントさんも少し入れないと、あまりにも演技部分がまずいんじゃないかとか考えてて。脚本の方も第一稿がとりあえずあがりまして、まだ直しは当然あるんですが、とりあえず方向が決まって、いま動き回っているところですね。

――映画用に家を一軒建てるという話を聞いていたんですけど、そちらも進んでるんですか？

がなり　一軒家は逗子とか海岸沿いに建てたいと思っているんですけど、ワイヤーアクションとかそういうのも使いますんで、それとは別に撮影所を借りて、そこに一部屋ずつ作ってアクションシーンは全部そこでやれるように。

――破壊王が宙吊りになるわけですね（笑）。

がなり　漫画みたいにガーッと投げると百何十キロの大の人間がダーッと飛んで、柱にバンと当たるとポキーンと折れるみたいな（笑）。そういうのを一個一個、丁寧に作ろうと思ってます。

――『少林サッカー』みたいな感じで？

がなり　いや、だから『少林サッカー』のワイヤーアクションをやってるアクション監督を呼んでるんですよ。

――あの『少林サッカー』の演出を、そのままZERO―ONE選手で！

がなり　そうなんですけど、（顔をしかめて）ただここで困っているのが、橋本さんを立てるとあっちが嫌だっていうのがいっぱいあるんですよ。つまんないね、仲間内で。

――プロレス界はいろいろと、しがらみがありますからねぇ。それでキャスティングが難航してると？

がなり　そうなんですよ。結構難しいですねぇ（しみじみと）。大物のIさんなんかもダメだって言うしね（苦笑）。

――もしかして、目立ちたがり屋のIさんですか？　その人なら橋本さんともいろいろとありますからね（笑）。

がなり　そういうのもあって、レスラーからちょっと方向を変えていこうっていうんで、いろんなタレントさんを使って役柄を作ってしまった方がいいかなって考えてるんですよ。その辺がちょっと変わってきているけど、橋本さんが主役っていうのは変わってないです。

――でも当初聞いた時より話のスケールがかなり大きくなってますね。

がなり　だって、多分3億くらいはかかりますよ（笑）。

こちらが『一軒家プロレス』と同時期に発売の『大銭湯プロレス』。この作品はテリー伊藤が企画、がなりはプロデューサーを務めている。監督は破壊王主演映画の監督も務める久保マメゾウ。ターザン後藤が銭湯の中で中牧やヘッドハンターズ相手に大暴れ！

――オォ、製作費3億！　目標は年内公開って感じですか？

がなり　多分ね、来年になっちゃうと思います。ぶっちゃけ、まだ決めてないんですよ。普通は映画を作る段階でお金を出してくれるところとかに事情とかを話しに行くんですけど、今回のは俺の独断で自主映画みたいなもんで（笑）。

――でも製作費3億って、スケールのデカい自主映画ですね（笑）。

がなり　作ってから売りにいけばいいんだからってことで。映画界に普通に殴り込んで行っても勝てっこないですよ、こっちは素人なんだから。素人は素人らしく作って、それがもしかしてバカあたりしちゃったら面白いよねっていう感じで（笑）。

――あくまでも自主映画感覚で？

がなり　そうですね。要は話つけちゃえば、製作費も4億5億っていうふうに出来るかもしれないけど、それでいろんなこと言われるよりは、俺は3億は用意できるから、それでなんとか作ろうよって。欲をかいたらキリがないから。

――自分の好きにやれる方を取ると。

がなり　プロ化していくよりは、俺たちがいいと思うものを作っていく。それで出来上がるものが『全裸』になるか、『空中ファック』になるかはわかりませんけど（笑）。（注・『全裸スポーツ』はSODの知名度を一気に上げた初期の代表作。『地上20m空中ファック』は『全裸スポーツ』で得た資金で作った超大作。しかし史上最低売上記録でSODを経営危機に陥らせた）大当たりか大失敗かどっちになるかわかん

ないよ、と。だけども、とりあえず変なのは出来るはずだから、意見を聞かないで作ろうって。

――スポンサー兼製作ですから、やり放題ですよ（笑）。

がなり　でも面白いのがね、クランクインしてからテレビCM作ろうって考えてて。「撮影快調」とかね（笑）。多分これまでクランクインの「撮影快調」っていうCM打ってるところって、まだないと思う。

――アハハハ。確かに聞いたことないですね（笑）。

がなり　で、話題作っていって「東宝とかが買いに来たらいいよね」とか話してるんですけど（笑）。

――「配給先募集！　来年の正月映画にいかがですか」っていうCMを打ったら画期的ですね（笑）。

がなり　それをやっちゃおうかなと思ってて（笑）。とにかく真っ当に行ったら勝てないですもん。映画はそんなに甘くないですよ。ただ僕は、やるからには全部を失うつもりでやりますんで。

――それは凄い意気込みですね（笑）。

がなり　これは7年間の僕の集大成なんです。コツコツとAVやってきた僕がこれでもしも成功すれば、AVの連中たちもまた地位が上がるんですよ。少なくとも監督はマメゾウ（AV監督。元祖『一軒家プロレス』監督）なわけですから（笑）。

――現役AV監督が映画監督として名が出るわけですからね。

がなり　彼が成功すれば、AV監督の地位が上がるし希望も沸く。そういうのが必要なんですよ。僕は申し訳ないですけど、プロレスとAVって凄く似てる部分があるって感じてて、同じ道理でプロレス界も少しは変えられるかもしれないなって。

――マネーの力で変えて下さい！（笑）。以前、橋本さんにはお会いしてると思うんですけど、印象はどういう感じでした？

がなり　ZERO－ONEのスポンサーとしてご挨拶したぐらいですけど。まあ素直なこと言うと、ちょっと小さいなと思った。あと10センチ身長ほしいよね。

なにげに破壊王は映画やVシネマには、ちょくちょく出演しているが、本格的な主演というのは、がなりプロデュース作品が初めて。上の写真は3月1日に行われた任侠映画『首領への道』の初日舞台挨拶でのもの。原作＆製作総指揮の村上和彦、清水健太郎、白竜、中野英雄、応援ゲストのムルアカ等、そうそうたるメンバーと共に登場した破壊王は、「ボクは『首領への道』のビデオを見て衝撃を受けまして、どうしても出たいと思って『なんとかしろ！』とマネージャーに頼みまして、ここにいる次第です！（笑）」と挨拶。

――あと10センチですか（笑）。でも映画の主演ということで、これから頻繁にお会いすることになりますよね。

がなり　初めて会った時から映画に出てもらおうと思ってたんだけど、なかなか話が進まないんですよ（笑）。

――というと？

がなり　普通の天気の話みたいな会話すら生まれなかったんですよ（苦笑）。共通のネタもないから俺も何言ったらいいかわかんないし。ヘタなこと言って、どこまでシャレが通じるかもわかんないんで、様子見てる間に「そういうことで」って帰られちゃったんですけど。

――橋本さんはシャレとかも通じる人だと思うんですけどね（笑）。

がなり　でも逆にその辺が「格闘家っぽくていいな」、「不器用そうでいいな」って感じたんですよ。初対面で「SODさん見てますよ、いつもお世話になってます」なんて言われたらねぇ（笑）。

――たくさんいそうですけど、確かに、そんな格闘家は嫌ですよね（笑）。

がなり　映画の最初のシーンっていうのが、橋本さんが自分でポリシーやビジョンも持って新しい団体を作るんですけど、段々金に囚われてダメになってくるっていうシーンなんですよ。それまでエセプロレスを否定してたはずなのに、「客が喜べばいいんだよ」って●●●プロレスみたいになるんですよ（笑）。

――●●●プロレスですか（笑）。

がなり　それも失敗して反省して変わっていくんですけど、そういうストーリーを許してくれるかなと。「これでOKですかね?」って話聞きに行ったんですよ。

――脚本の確認ですね。

がなり　そしたら車が混んでて、事務所に付くのが10分くらい遅れたんですよ。そして、付いたら、今度は橋本さんの方が事務所を出てガソリンスタンドに車を取りに行かれたってことで、マネージャーさんが非常に恐縮してってね。で、僕らも待たしたんですけど、こっちも10分待たされたんですよ。これは意地だなって思って。あれ好きでしたよねぇ～。

――男の意地ですか（笑）。

がなり　そうそう。「お前、10分待たせやがったな、俺も待たせてやるぞ」って、あれはそうとしか思えないんですよ。僕の勝手な想像かもしれないですけど、間違いないと思いますね。俺たちに先に座らせて「どうも」って入ってきたいっていうね。「わかってるなぁ～」みたいな（笑）。そういう意地の張り方は凄くいいですよね。だから今回の作品っていうのは彼しかいないと思うんですよ。いろんな人に「嫌だ」って言われても仕方ない。言われるんですよ、「橋本さんの方を切った方がいい」って。だけど俺は橋本さんがいなかったら、この作品はやめようって思ってますから。

――今回の作品にハマるのは橋本さんしかいないと。

がなり　そうなんです。橋本さんはね、レスラーの中で一番哀愁が漂ってるんですよ。ストーリーも頭のところで、メジャー団体のエースなんだけど負けちゃって体よくリストラされるっていう役どころで。その相手役として小川さんを考えてるんですけど（笑）。

――アハハハハ。現実とシンクロするわけですね（笑）。

がなり　そこから団体を作って金が儲かり初めて、「よく頑張った」ってなっていくんですよ。

――究極のセルフパロディですね（笑）。

がなり　さすがに、この台本は受けてくれないかなと思ったら、「最後はどうなるんですか」って聞かれたんで、教えたら「よし、わかった！」って（笑）。

――さすが破壊王ですね（笑）。完成を楽しみにしてます！　そういえば破壊王も柔道出身ですけど、がなりさんも柔道やられてたんですよね。

がなり　中学・高校と6年間やってまして、結構強かったんですよ。大会は最高が横浜市大会3位。でもプレッシャーに弱いんだ（笑）。一回負けると終わりっていう試合がダメだったんですよねぇ。

――いまと違って、当時は意外と精神的に弱かったんですね。

がなり　あともう1個あるのが、当時、柔道の強い高校とやると、相手がいかにも女にモテませんっていう感じのデブで耳が潰れてるわけ。俺、コイツらに勝ったらいけないよなっていうのはありましたね（笑）。

――勝ったら悪い気になっちゃう（笑）。

がなり　そうそう（笑）。ヘラヘラやってる俺が勝ったらいけないなって。大抵あの辺のヤツらにやられてましたね。

――喧嘩とかも結構やってたんですか？

がなり　（身を乗り出して）小学校1年の頃からずっと喧嘩してましたね。こう見えてエライ強かったんですよ。小学校代表で隣の小学校に闘いに行くみたいな。

――代表ってのが凄いですね（笑）。

がなり　不良をやっつけるのが大好きでね。中学の時なんて自分で強いと思いましたもん。ドラマとかだったら、どう見ても救いようがないような悪役がいるわけですよ（笑）。タバコを陰で吸って弱い奴をイジメるようなタイプ。

――わかりやすいですね（笑）。

がなり　あれをやっつけると、俺はどう見たって大岡越前だよなぁっていう感じのね（笑）。そういうのにイジメられてるヤツを見つけると助けにいってボコボコってやってましたねぇ（嬉しそうに）。

――まさしく正義の味方ですねぇ（笑）。

がなり　で、女の子は「キャーッ」ってなるわけですよ！（ニコニコ）。

――アハハハハ。ちょっと出来すぎな気もしますが（笑）。

がなり　いや～、本当に不良たちのおかげでイイ思いできたよなっていう（笑）。とりあえず喧嘩で負けて帰ると怒られるような親父だったもんで。気がついたら、相当強くなってましたね。

――そういう環境だったんですね（笑）。基本的にスポーツが好きなんですか？

がなり　スポーツっていうより格闘が好きなんです。相手のいないスポーツはダメ。だからゴルフはからっきしヘタっていう。自分と闘わなければいけない敵が前にいると凄く力が湧くんですよ。とにかく闘うのが大好きなんで、事業やってんのも、みんなが本気で金の奪い合いするからですし。「こんな面白いゲームないよな」って。

――事業もある意味、闘いですからね。

がなり　別にお金がどうのじゃなくて、みんな本気で奪い合いしてるから、俺も奪ってやろうっていう（笑）。それで奪ったもんは持っていてもつまんないから使おうっていうんで、道場やったりとかで使ってるんであって。奪い合いが面白いんですよ。

イジメられてるヤツを見つけると助けにいってボコボコってやってました

――小学校の頃の喧嘩も奪い合いが好きっていうことでやってたんですかね？

がなり　やっぱり小学校のときの喧嘩っていうのは、重要なステータスなんで。その頃、僕が一番重要だと思ったのが、喧嘩が強くないと自分の正義を貫けない。力は全て腕力なんですよ。中学まではそうだったんですよ。で、僕は自分の正義を貫けた。それがあるもので「将来大人になったら金っていう力を持ちたい」ってこだわりがあったんですよ。（高橋洋子を指さして）たとえれば彼女がイジメられっコなんですよ、資本主義の世の中における。それで格闘界の現状を聞いてみると可哀相じゃないか、これは助けなきゃということで我々は助けてるんですよ。

――金の力で（笑）。

がなり　そうなんです。「いいよ、出すよ」って言うと「まあ素敵！」って（笑）。

――不良に勝ったかのように（笑）

がなり　それにお金って自分のために使うとカッコ悪いって言われるんですよね。

――そういうのもあってプロレスや総合の方に投資してると？

がなり　まあプロレスの場合は希望ではなくて縁ですよね、もう。わかんないけど、プロレスと縁がありすぎるから。俺なんにも指示してないのにプロレスラーとか格闘家を連れて来るんですよ（笑）。

――社員の方とかもプロレスとか格闘技好きが多いみたいですからね。

がなり　そうなんですよ。それで実際会うと不器用な人間ばっかりでしょ。俺は会って嫌いだなと思うとサーッと逃げるんですけど嫌いじゃないんですよ。隙あらばコイツらにメシをご馳走したいなっていう（笑）。

――選手にとってはありがたい存在でしょうね（笑）。

がなり　ヤツらは真面目に人生の説教聞きますし、大メシ食らいですし（笑）、こっちが騙すことはあっても、騙されることはないですよ。そんな部分が凄い面白いんですよね。それで、会ってみると女子の方が純粋ですね、男子よりも。男子の方が商売ッ気ある人が結構いらっしゃいますから（笑）。

――それはそうでしょうね（笑）。

がなり　前回も言いましたけど、ビデオでしか出さない大会とかって、どうなんですかね？

――客入れはなしで、ビデオ用に大会を行うってことですか？

がなり　そうそう。例えばAVが一万本売れたっていうのは、いまは「ああ売れた」程度ですからね。

――前回も言ってましたけど、それだけで武道館クラスの会場は埋まりますからね。

がなり　そりゃ儲かるよなって（笑）。

――アハハハハ。でも確かにプロレスの興

行で考えれば、SODではビッグマッチ級の大会を連発してるってことですからね。
がなり そうなんですよ。そう考えると「ビデオでしか見れません」っていうガチンコファイトがあると、経費だとか演出を考えても、武道館でやるよりはるかにレベルが高いものが出来るかもしれないですよねぇ。

——SODグループの『忠実堂』が出したキャットファイトAV『女闘神マンティコア』の映像環境は非常に良かったですからね。客は全て女性、スタッフもほとんど女性、カメラも4台くらい使って。あれをプロ興行というか、ビデオの作品として作り込めば、かなりいけると思うんですが。

少年時代の武勇伝を得意げに語ってくれた、がなり社長だが、『レディゴン』の企画で堀田祐美子率いる女子プロレス軍団とガチンコマッチ（？）を行い、1勝4敗という結果に終わった。目標として掲げている神取とのガチンコマッチはホントに大丈夫？

がなり でも、あれよりもウチの『ガチンコ・キャットファイト』の方が面白いですよ。ハッキリ言って、その辺のプロよりも全然面白い！（断言）。何が面白いって、やっぱり怪我しますもん（笑）。
——怪我人続出でしたからね（笑）。
がなり 手加減がないから。もちろんプロの方が面白くないといけないんですよ。だけど、いま毎日どこかでやってるようなプロレスに比べたら、明日なき闘いの方が俺みたいな人間には面白いんですよ。そういう人間の方がプロレスファンより明らかに多いわけだし、可能性はあると思うんですね。
——可能性はあるでしょうね。
がなり だってビンタの撮影させただけで、アゴが外れて病院行っちゃうんですよ（笑）。
——一応AVなのに（笑）。
がなり 凄くケガ人が多かったもんですから、次回からは出演決定した時点でここ（道場）に通わせて、ケガのないように受身とか覚えさせようと思ってるんですよ。
——最低限の技術は身に付けさせようと。
がなり そうそう。でも技は覚えさせない。ヘタに技を覚えると巧いヤツはすぐにスリーパーとか極めちゃうんで（笑）。
——そういうのばっかりじゃAVになんないですからね（笑）。
がなり その辺のところをね、客が喜ぶんだったら何でもするっていう。「こうあるべきなんだよ」みたいな、道を作っちゃいたいな、プロレス道みたいなこといけないと思うんですよね。逆に節操のなさがいいと。ただ、そこのベース

絶対に女子総合の興行はテレビ放映付けて、テレビ局のヤツに頭下げさせてやりますよ！

にあるものっていうのは、ウチのAVで言うならば「俺は物凄い真剣だ」っていう自負がありましたし。だけど客が望んでることに応えていくうちに、一生懸命頑張ってるのが真剣に見えなくなったりっていうのがあるんですけど（笑）。同じようにプロレスに関しても、その根っ子の部分で「私はこの世界で生きていくんだ」って言う姿勢が見えれば客は見捨てないと思うんですけどね。

――それはプロレスに限らず、どんなスポーツも同じですよね。

がなり　で、そういう大会をやると、スターはいくらでも生まれますよ。だけど結局スターが生まれないと若手が入ってこないじゃないですか。

――それがマット界の問題点でもありますからね。

がなり　ですよね。あと、俺はAVの世界を上げるために監督もスターにするんだっていうのが目的なんですよ。それと、もちろんAV女優もスターにするっていう、このふたつを成し遂げたいなと思ってるんですよね。

――絶対的スターが出てくれれば変わりますよね。マット界で言えば桜庭だったり、AVで言えば飯島愛だったり。どんな世界でもそうだと思うんですけど、世間に届く人がひとりでもいれば違いますからね。

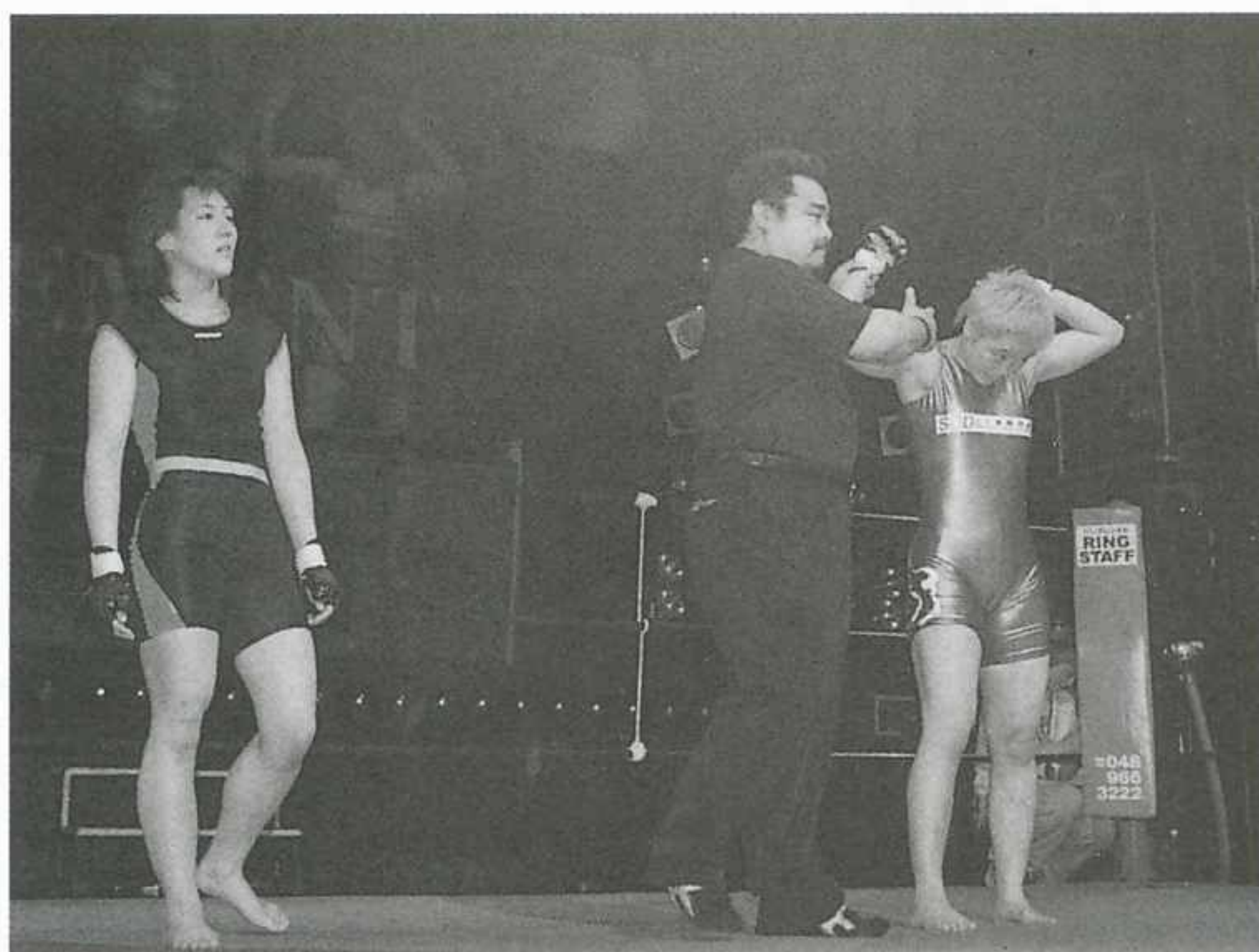
がなり　そうなんですよ。それをね、女子の格闘技でなんとか作り上げようと。映像的な部分で言うと、スターになるために必要な、いまで言うとボブ・サップ的な映像は自分が教えますから。

――サップはその辺はホントにうまいですからね。

がなり　でも完全に彼なんかは頭が良すぎますよ。あれはセンスでしょうけど。

――高橋洋子選手とかも、がなりさんの手腕でスターにしてみせると？（笑）。

がなり　もしも彼女が強くなったときには俺がキャラクターつけて、「変わった」って言わせる自信ありますよ。

――たとえば、どういったアイディアがありますかね？

『SOD女子格闘技道場』に新しい選手が仲間入り！　以前から、薮下＆高橋と一緒に練習していた"天然格闘魂"玉井敬子が3・3六本木ヴェルファーレで行われたスマックガールでの試合から所属選手となった

がなり　とりあえず総金歯にするとかね（笑）。不器用なんだから、何か質問されたら金歯を見せながら「ゲゲゲゲ」って笑えとか言ってね（笑）。

――笑い声だけ練習しとけと（笑）。

がなり　そうそう（笑）。でも、よく僕は言うんですけど、演出っていうのは結局ごまかしなんですよ。いいものが出来れば、そのまんま放送すればいいんであって。それをごまかすために編集するんであってね。そんなもん必要ないのが一番なんだし、本物の部分が良い物じゃないと絶対にごまかしきれませんから。

――そういうのは、いずれボロが出ますからね。とりあえず強さは本物じゃないといけないと？

がなり　そう。だからサップとかは何したっていいんですよ。強くないヤツが強そうに見せるとか、そんなことは軽く見られるだけであってね。

――サップも、あれだけの実力があるからこそ演出とか自己プロデュースが活きてくるわけですよね。

がなり　そうなんですよ。そのためには道場から始めて地道にやっていって本物を作っていく作業も必要かなと。でもね、絶対に女子総合の興行はテレビ放映付けて、テレビ局に頭下げさせてやりますよ。「中継させてください」って（笑）。

――SODプレゼンツの女子格闘技興行として（笑）。

がなり　で、視聴率が取れると思えば、脱税したって「それは関係ないから」ってなるんですよ（笑）。テレビ局の連中って節操ないですから、関係ないですもん。なんだかんだ理由をつけて、視聴率が5％だとすぐ打ち切るくせに（吐き捨てるように）。

――いやー、AVってだけで、そこまで苦労するもんなんですねぇ……。

がなり　だからボクはね、実はボクシングの角海老ジムを見て、あれを真似しようと思ったんですよ（笑）。

――確かに都内なら誰でも知ってるソープランドの名前ですからね（笑）。

がなり　あちらがボクシングならウチは女子総合でと。やっぱり、ウチらAVの世界は女の子で食べさせてもらってる女の子ありきで成り立つ業界じゃないですか。だから女の子が喜ぶことをしていくっていうのが本業以外の戦略の基本なんですよ。

――それは素晴らしい戦略ですね。

がなり　女の子で儲けた分は女の子に還元しようと。それにね、今度ウチでは24時間営業の保育園とかも考えてますから。風俗の人優先で（笑）。

――SOD保育園ですか⁉（笑）。

がなり　それをね、新大久保あたりで考えてるんですけど（笑）。

【1月12日／SOD女子格闘技道場にて収録】

2/15→3/19

ポーゴ、サスケという日本を代表するペイント&覆面レスラーが相次いで選挙へ出馬することになりそうだ。当『紙の新聞』でも、来月の選挙の模様は追いかけますよぉぉぉ！　一方、他団体を圧倒する情報戦を仕掛けていたＷＪだが、旗揚げ戦後は記者会見が激減！　天龍と長州の相次ぐ戦線離脱で苦戦しているようだが、こういう時こそ、目ン玉の飛び出るような記者会見を福田社長に一発決めて頂きたいものだ。『紙の新聞』は応援してます！

編集長／スモーノブ

2/20

【新日本プロレス】

アントン総帥、還暦！ 超豪華船上パーティーを開催!!

生きてますかーっ!? え〜、生きていれば還暦も迎えられる……というわけで、60回目の誕生日を迎えたアントン総帥を祝う船上パーティーが20日に行われた。出席者は新横綱・朝青龍、ドクター中松氏、元スポーツ平和党・江本孟紀氏、力道山未亡人・百田敬子さん、UFO・川村社長、高山善廣ら約350名。還暦といえば赤いチャンチャンコを贈るのが相場だが、世界一元気な60歳にチャンチャンコは似合わない。というわけでアントン総帥には、坂口CEOから赤いウェスタン・ハットとベストが贈られた。総帥は「今後は珊瑚の養殖やバイオの分野で勝負をかけてみたい」と恒例の壮大な夢を語った。元気があれば何でも出来るっ！

2/19

【ロッテ・マリーンズ】

ドラゴン参加の翌日、主砲ローズが退団！

ドラゴンがキャンプに参加した翌日、ロッテを不運が襲った。主砲と期待されたローズ選手が、入団1ヶ月足らずで退団してしまったのだ。藤波と不運、という組み合わせ。思い出されるのは、約2年前に吉田豪が「開運」と書いてある「藤波しゃもじ」をネット・オークションで競り落とした直後に原因不明の発熱に見舞われ、それを持たされた社員（当時）が失踪したりと、ロクでもないことばかり起きた事件。次々と不運に襲われるため、「ドラゴンの呪いだ」と恐れられていた。ひょっとしたら今回のローズ退団は、ドラゴンのキャンプ参加によってロッテが不運を招いてしまったのが原因か!?　怖い！

2/18

【ロッテ・マリーンズ】

ドラゴン&棚橋がロッテのキャンプに合流したぞ!!

突如、肉体改造に目覚めたかと思えば、引退する木村健悟の対戦要求をむげに却下してみたりと、社長業務は坂口CEOに押しつけてひたすら本格復帰へ向けてトレーニングに明け暮れるドラゴンがプロ野球「ロッテ・マリーンズ」の鹿児島キャンプに合流した。ちなみに、この日、東京地裁では原仁美容疑者の初公判が行われてたが、"飛龍伝承"を目指す棚橋はドラゴンと共に鹿児島入り。練習後、ドラゴンは「今回の復帰は単なるスポット用じゃない。新日本プロレスの出場枠を奪い取るような決意を持っての、起爆剤となるような本格的なもの」と記者陣に熱く語った。この時点では、藤波のキャンプ参加が「ドラゴンの呪い」の起爆剤となるとは、まだ誰も知らずにいた……。

2/18

【WWS】

ミスター・ポーゴ、伊勢崎を暗黒街にするため選挙出馬!!

「伊勢崎を暗黒街にする!!」「落選したら自殺する!!」等、2月19日付『東京スポーツ』紙に物騒な活字が躍った。これは、伊勢崎を暗黒街とすべく武器を片手に市長を襲撃したこともあるミスター・ポーゴ様のお言葉だ。親が群馬県の県議会議員だった名家出身のポーゴ様、最近は地元で大会を行う機会が圧倒的に多い。着実に支持者（信者？）を増やしたポーゴ様は「俺様が伊勢崎を乗っ取る！」と、17日深夜のポーゴ党決起集会で吠えまくった模様。念のために「伊勢崎にカジノを建設」という公約を掲げて出馬するものの、ポーゴ様の皮算用によればブッチギリのトップ当選は確実だという。一体、伊勢崎はどうなってしまうのか!?

【ZERO-ONE】

小川が小田原大会で破壊王にエール！

暴走王・小川直也が、破壊王にゲキを入れに小田原へ登場!!　メイン後、小田原のファンに挨拶する橋本真也の前に暴走王が乱入。「橋本に2つ言いにきました。ひとつは、三冠戦。頑張れよ!!　もうひとつは、OH砲は世界を相手に闘っている。全日本に時間をかけてる場合じゃない!!　そのことを忘れず!!　以上!!」と暴言三昧の暴走王にしては珍しくエール。破壊王はこれを受け止めて「三冠をZERO-ONEに持って帰るゾ!!」と絶叫。2月23日、全日本プロレスでのムタ戦必勝を宣言した。最後は小川の「オー、エイチッ、ホーッ！」で締めくくった。この後、OH砲は都内で行われていた猪木還暦パーティーの二次会に出席、素敵な3ショットが翌日の『東スポ』裏一面を飾った。

【WJプロレス】

やっぱ馳健は最高！ 合同練習で息ピッタリ

馳健コンビが3・1WJ旗揚げ戦に向けて、新日時代以来の合同練習を行った。議員会館内のトレーニング・ジムで、筋トレやスパーリングなどを行った。「いつかは、こういう時が来ると思ってた」と両者が語るように、久々の再会でもわだかまりは一切なし！　練習後の会見では、馳の下ネタに健介が頬を赤らめて照れまくる、といった素敵な一幕も。やたらゴキゲンな馳先生が「中国で馳健vs長州&天龍の試合をしたい!」とブチ上げれば、「いいねぇ、バッチバチやろうか」と子供のように目を輝かせる健介。久々に、馳の手のひらの上でコロコロと転がっている健介を見ると、なぜか幸せな気分になってくるから不思議だ！

3/2

【掣圏道】

「プロレスに復帰します」佐山がトークショーで注目の爆弾発言！

渋谷HMVで4代目タイガーマスクや浅草キッドと共にアニメ『タイガーマスク』DVD発売記念トークショーに出演した初代タイガーマスク。"日本LOVE"な発言は口にしなかったが、「20キロ減量して、全盛期の動きをお見せします」とプロレス復帰を宣言！　「最終的には4代目と闘いたい」と愛弟子との一戦をアピールした。この復帰が、佐山館長がブチ上げている"思想のタイガーマスク"ことウインズ・オブ・ゴッドとなるのかは不明だが、佐山館長は「10回に分けて山篭りする。練習を含めて真剣にやる」とやる気満々。甘いモノをどこまで控えられるかがカギとなるだろう。

3/1

【プロレスリングNOAH】

GHC新王者・小橋をZERO-ONE外人勢が祝福!!

ZERO-ONE★U$Aのトム・ハワードとスティーブ・コリノとプレデターの3名が、ノア武道館大会で、GHC王者となった小橋とリング上で握手を交わした。3/12には、この行動に関するコメントが発表され、コリノ&ハワードともに「ノア参戦」を熱望した。これを受けてノア側は4/10大阪大会～4/13有明大会にハワードとコリノの参戦を発表。4/11では三沢&菊地とも激突するなど、どれも興味深いカードばかり。「一度だけじゃなく、今後はジュニア選手の参戦もありえる」と三沢社長はコメントしているのは注目。頑張れ、ZERO-ONE★U$A!!

2/28

【新日本プロレス】

5/1新日本がドームで猪木ファン感謝デー開催！

5/2新日本ドーム大会『ULTIMATE CRASH』で町田龍太と謙吾の一戦が発表されたこの日、5/1東京ドーム大会の開催も発表された。アントン総帥のプランでは「すね相撲トーナメント」「パチスロ大会」が開催される模様だが、ドーム大会からあぶれてしまった選手が試合もする模様。さらに「新日OB」によるバトルロイヤルも行われるという。チケットも格安の2000円で、翌5/2大会のプレミアム・シートかアリーナのチケットを持っている人は無料だというから、太っ腹。延び延びとなっている「永久電気」のお披露目には格好の舞台だが、果たしてその時までに完成しているのか!?

2/23

【全日本プロレス】

破壊王、三冠奪取！「アポッ！」と記念撮影!!

伝統と格式を重んじる三冠王座に、異色の王者が誕生した。古い価値観を"破壊"して、見たこともないような光景を"創造"する、新チャンピオンが"誕生"した！　破壊王がグレート・ムタを破り、リング上での第一声が「馬場さ～ん、ありがとうございましたッ!!」。控室での記念撮影では「アポッ!」。この後、口から出てきた言葉が「全日本を根絶やしにする!!」。さらに翌日にはニッポン放送のラジオ番組に出演後にも会見を開き「全日本を吸収合併する。武藤と一緒になればプロレス界で発言力が強くなるから」と、壮大な皮算用を展開した。破壊王の言葉が、いちいち素敵な2日間でした。

3/4

【WJプロレス】

越中が大仁田、馳、大森に次々と噛み付いた!!

男・越中が大仁田厚、大森隆男、さらには越中vs大仁田戦を批判した馳浩にまで噛み付いた。まず大仁田に「ありったけの爆弾かき集めて来いって言ったのに、チンケな爆弾用意してきやがって！ あんなの死に場所探してる亡霊だって！」と息巻いた。亡霊はすでに死んでると思うんだが、そんなの関係ないって！「馳？　調子に乗るんじゃねえよ。お前、スポット参戦しかできない野郎だろ。議員やって、たまにレスラーやって。リングはそんな甘くないよって！　それと大森！ ハジけもしねえし、華もねえし、いろんな団体渡り歩いてきたんだったら根性見せろって！」"やるって節"健在！

3/2

【成田空港】

アントン総帥が断言！「町田龍太に寝技でかなう日本人いない」

この日、パラオに向けて飛び立っていったアントニオ猪木は、町田龍太vs謙吾が少々ご不満だった様子。「対戦相手については知らねえんでね」と言葉少なかったが、町田龍太については「龍太は寝技で日本にかなう奴はいないんじゃないか?」「半年後には敵がいなくなっちゃう」と、その実力を語っている。すでに寝技最強!?　アブダビ・コンバットで「寝技世界一」に輝いたのはパンクラスGRABAKAの菊田早苗だが、謙吾戦の結果次第では対戦も楽しみ。しかし、町田龍太はそんなに強かったのか!?　神秘のベールに包まれた"闘魂遺伝子を持つ最後の男"の実力は5/2で明らかになるはずだ!!

3/1

【ZERO-ONE】

破壊王が鈴木宗男の元秘書ムルアカ氏と急接近!!

仁侠映画『首領（ドン）への道』公開初日の舞台挨拶で破壊王とムルアカ氏が顔を合わせた。「ボクは『首領の道』のビデオを見て衝撃を受けまして、どうしても出たいから『なんとかしろ!』とマネージャーに頼みまして、それでここにいる次第でございます（笑）」とゴリ押し出演であることを告白。応援団として駆けつけた鈴木宗男・元衆議院議員の元秘書、ムルアカ氏と接近遭遇を果たした。俳優・中野英雄から「今度、橋本さんと対戦するみたいですよ」と振られ「安くしてもらってお願いしようかな（笑）」と破壊王が切り返すと場内からは歓声が起こった。破壊王vs暗黒大巨人、見た過ぎる!!

2/25

【全日本プロレス】

嵐、武藤社長三冠挑戦直訴！

「全日本のナンバー2」としてブレイクした嵐が「俺しかいないだろう」と武藤社長に三冠挑戦を直訴した。前日、三冠流出を受けて緊急役員会議が開かれ、ベルト奪回の挑戦者選びで調整が行われた。しかし、結論が出ないまま。翌日に嵐が会社まで直訴に訪れた。その心意気に武藤社長が、次期挑戦者を嵐に決定！　嵐は「新日本出身の武藤や小島には任せておけない」と、相変わらず旧全日本派とLEGLOCK派の溝を露呈したかと思えば、「天国の馬場さんが今しか頑張る時はない、と言っている気がする」と天国から馬場さんのメッセージをキャッチした模様。そこまで言われたら武藤も「嵐を次期挑戦者に、ということで推します。あとは、橋本が受けるかどうか」と条件付きで了承した。

2/28

【WJプロレス】

長州がマグマ発言!!

練習生2名とタイガー服部レフェリーの入団発表が行われたこの日、長州力も会見に同席した。翌日に控える旗揚げ戦に備え、「今日は早く帰って、風呂にでも入りますよ」と万全の態勢で臨むことを語った。

3/1

【WJプロレス】

越中の尻、不発!

WJの旗揚げ戦で実現した越中vs大仁田の電流爆破デスマッチで、珍事件が起きた。ヒップアタックをかわされた越中は爆弾に突っ込んだが、なぜか不発! 場内からは「え～っ!?」と失笑が起こった。試合は大仁田が反則負け。

3/1

【WJプロレス】

健介の二男誕生

WJ旗揚げのまさに当日の未明、「ケンちゃん」こと佐々木健介と、「チャコちゃん」こと北斗晶の間に待望の二男が誕生していた。名前は「誠之介」ちゃん。健介は「さいっこ～!!」と笑顔で喜びを表現したが、そんな健介こそ最高だ!

3/4

【新日本プロレス】

永田が会社批判!!

「なぜシリーズ最終戦を締めるのがIWGPじゃなくてNWFなんだ!?」と会社に噛み付いた。選手会長という要職にある永田がフロントに対して公然と反旗を翻したのは初めてのこと。タイトル乱立状態の現状に苦言を呈した。

3/6

【新日本プロレス】

小型犬小屋が登場!

制作費50万円でクレイジー・ドッグス小原が作らせた大型の犬小屋を3回りほど小さくした犬小屋が後楽園大会でデビュー。持ってきたのは、またしても小原。総裁に向かって「お前はこのサイズで十分」と挑発した。ハウスッ!!

3/7

【フリー】

大向が野望を語る!

「T2000に入りたい」と先日、アルシオンを退団したフリーの大向美智子が突然ブチ上げた。「最初はマネージャーでも構わない。ジョーニー・ローラーとやりたい」と女子プロレスの枠にとどまらない活動をブチ上げた。

3/15

【みちのくプロレス】

サスケ、選挙出馬へ!

ポーゴに続き、サスケまで選挙に出馬するという報道が急浮上。この日の盛岡大会後、「(出馬は)物理的に不可能です! しかし不可能を可能にするのが私です!」とまるで選挙の街頭演説のような記者会見を行った。マジ!?

2/15

【全日本プロレス】

天龍が「53歳」公開

全日本プロレスの佐賀大会で、衝撃の新技を公開した。その名も「53歳」だ。形的にはジャック・ハマーに近い。試合のたびに決まり手「53歳」とマークされるが、これも年齢の話を嫌がる長州に対する心理戦の一環に違いない。

2/21

【ZERO-ONE】

坂田vs小笠原、決着

激烈な因縁関係が遂に決着! この日、後楽園ホールで行われたシングルマッチで、坂田が逆片エビ固めで勝利! 試合後、坂田は「こんな生きのいいジイサンがいるんだから大丈夫」と対抗戦出撃する小笠原に太鼓判を押した。

2/22

【WJプロレス】

サイパンから帰国

恒例のサイパン合宿から、真っ黒に日焼けして帰ってきた長州力。「コンディションはいい」と調整には満足した模様。「あとはやるだけ」と出撃体制は整った! 15日からのシリーズ前もサイパン行けばよかったのに。

2/22

【ボクシング】

タイソン、激勝!!

元祖・お騒がせ男のタイソンは、相変わらずスキャンダラス! なんと直前になって試合をキャンセル。再び試合に出るとなったら、今度は顔にタトゥーが!! 試合は1R49秒でKO勝利! 次はレノックス・ルイスとの再戦だ!!

2/23

【全日本プロレス】

嵐、ブレイク!

試合前はギャグとしか思えなかった「全日本のナンバー2」という嵐の格付けも、武道館に集まったファンの大歓声を聞く限り、すっかり認知された模様。ZERO-ONEとの4対4マッチでは体格差で大活躍だった。

2/27

【ZERO-ONE】

嵐、ZERO-ONEへ

三冠挑戦が決定した嵐は、スーツ姿でZERO-ONEの会場に乱入! 「全日本! よく一人で来たな。お前のところのベルト、奪い返してみろ!」と破壊王が挑発するも、嵐は乱闘することもなく「俺が取り返す」と鼻息荒く語った。

2/27

【ZERO-ONE】

崔リョウジ長期欠場へ

ZERO-ONEのトンパチ・崔リョウジの長期欠場が発表された。原因は「拡張型心筋症」。「橋本さんが『1年待つ』と言ってくれた。プロレスを辞めるつもりはないので早く治したい」と本人は前向きだ。頑張れ、バトル崔ボーグ!

3/11

【WEW】

WEWに橋本登場!! 金村は涙の訴え「死なさへんよ!!」

WEWの後楽園大会、スーツで登場した橋本は、ガンで闘病中の冬木弘道とリング上でガッチリ握手! 脂汗をかきながら立っているのも辛そうな冬木だったが、5/5川崎球場大会での一騎打ちの約束を取り付けることに成功した。冬木の情熱に「やりましょう! その前に内なる闘いに勝ってください」と対戦受諾。「プロレスはいろんな見方があるけど、人生ドラマを見せられるのがプロレス。冬木さんのドラマに俺も出演させてもらいます」とコメントを残した。メイン後に控室では金村キンタローが「冬木さんが死ぬような雰囲気になってるけど、絶対に死なさへんよ」と涙ながらに訴えた。

3/8

【全日本プロレス】

デンジャラスKのトークショー開催!!

3/8～3/21の間、東京・シネマ下北沢で"映画館で新生・全日本の試合映像を上映する"というコンセプトの『全日本プロレス劇場』が行われた。初日の舞台挨拶には4/12日本武道館大会で復帰する川田が登場。集まったファンに復帰報告をするとともに、試合への意気込みも語った。さらに欠場中に自伝を書いていたことなども語ったが、「他のレスラーの自伝と違うところ? ちゃんと本人が書いたってところかな」とデンジャラスKっぷりも発揮。しかし、書いたものを読んでみると「小学生の作文みたいだった」と衝撃告白。そんな自伝は3/28に発売となる。読みたい!! その他にはZERO-ONEとの対抗戦、元全日本の長井、チャンコ鍋への想いなどを熱く語った。

3/19

【WJプロレス】

天龍、頭に異常発生! 長州、全身に倦怠感!

6連戦とどころか70連戦までやりそうな勢いだった長州vs天龍の一騎打ち。3/15後楽園大会では天龍がイスまで使って長州に激勝、3/16宮城大会でも天龍が勝って、長州の1勝2敗で迎えた4戦目の3/18群馬大会当日。天龍が病院で診察を受けたところ、頭部に異常が発見されたため、ドクターストップ。すると長州も翌日から「全身の倦怠感」という部活を休む中学生みたいな理由で欠場。ただ、WJ永島専務によれば「もう、全身ボロボロ。アゴの骨にヒビが入っている疑いもある。本人は出なきゃいけない、と言っていたのですが、とても出場させられない」という状態らしい。長州は出ようとしたらしいが、会社として「やらせられない」と判断、ストップをかけたそうだ。「全身の倦怠感」、欠場理由としては史上初か?

3/9

【新日本プロレス】

エンセン井上が、再び星野総裁をボコボコに!!

2/16新日本・両国大会でリングに上がったエンセン井上が、この日の名古屋大会では試合に初登場。小原&後藤&ヒロといったクレイジー・ドッグスの面々とともにリングに登場したエンセンは、村上和成相手に大暴走! マウントパンチの嵐で、試合はノーコンテストに。入ってきた星野総裁も、マウントパンチ&スリーパーで失神させてしまった! 担架で運ばれて病院直行となった星野総裁だが、3/11にはコルセットを巻いて新日本の事務所で記者会見を行った。席上、全員のフィギュアをバラバラに解体して「3/23尼崎大会では俺が飛んで、エンセンを潰す。小原も犬小屋に入れる」と宣言!

半額 紙のプロレス 本誌 Back Number

第8号 1994年1月号
特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス&天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

¥700 ⇒ ¥350

第16号 1995年6月号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊 ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

¥780 ⇒ ¥390

2000年4月
情念〜夢一途なり〜石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。

¥2100（送料込み）

第13号 1995年3月号
特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄&上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー「平成ファミコン・プロレス」馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

¥780 ⇒ ¥390

第17号 1995年7月号
特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木&永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野 バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

¥780 ⇒ ¥390

総238ページ

みんなで遊べる付録付き!!
さくぼん

サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！ とばかりに付いています！

01年4月 ¥1500（送料込み）

第14号 1995年4月号
特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

¥780 ⇒ ¥390

第19号 1995年9月号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ&高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

¥780 ⇒ ¥390

完売間近

パンクラス公式読本[矛]

97年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！ 鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！

¥1260 ⇒ ¥630

第15号 1995年5月号
特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！ K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

¥780 ⇒ ¥390

インタビューという名の鉄拳史
紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

¥2000（税金・送料込み）

完売間近

パンクラス公式読本[盾]

97年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！ 船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！

¥1260 ⇒ ¥630

No.51

02年6月 ¥880

ZERO-ONEに願いを！ 7・7決戦迫る！

●両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
●『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
●天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
●“男の中の男“が本誌初登場！ 謙吾
小川直也／プレデター／田村潔司／鈴木健／小笠原和彦／ZERO-ONE中村部長／I編集長

No.52

02年7月 ¥880

見えない鎖を引きちぎれ！ 行けーッ、小川アァァッ！

●全身プロレスラー・髙山善廣
●「トゥーッ！」の素顔を暴露！ Mr.フレッド
●USAの渡世人 ドン・フライ
●田村潔司「美濃輪戦を決めた3つの理由」
小川直也／橋本真也／武藤敬司／ロシアン・トップチーム／ブラジリアン・トップチーム

No.53

02年8月 ¥880

灼熱の格闘技ダイナマイト！ 世紀のビックイベント『Dynamite!』を直前大解剖!!

●夢の対談が実現！
髙山善廣×美濃輪育久
●独占肉弾スクープ！
マット・ガファリ
●爆裂!! 川村龍夫UFO社長語録
桜庭和志／小川直也／武藤敬司／高阪剛／クレージーMAX／サムソン・クツワダ／一宮章一／トム・ハワード／スティーブ・コリノ

No.54

02年9月 ¥880

ノゲイラ表紙初奪取！ 不平等の時代を克服した者こそ英雄になれる!!

●“ミスジャッジ”に猛抗議！
ホイス&エリオグレイシー
●“青い目のケンシロウ”
ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談！
武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●OHビーム発射！ 橋本真也×小笠原和彦
ゴールドバーグ／ボブ・サップ／マリオ・スペーヒー／田村潔司／坂田亘／小原道由／猪木快守

No.55

02年10月 ¥880

高田が“最後”に選んだのは田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!

●「真剣勝負」発言から7年…
…運命の男が独白!! 田村潔司
●最後の実力者が遂に『PRIDE』参戦！ 金原
●メガトン級の強さと面白さ!!
ボブ・サップ
●初冬のドームにサクラは咲くか!? 桜庭和志
橋本真也／大谷晋二郎／ノゲイラ&スペーヒー／A・コピィロフ／サスケ&TAKA／佐山聡

No.56

02年11月 ¥840

愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!

●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け！ 髙田延彦
●蘇れ！Uインター伝説!!
安生洋二&金原&髙山善廣
●髙田×田村、観る側の覚悟!!
浅草キッド
●『紙プロ』に風がふくぜぇ〜！
鈴木みのる
ニック・ボックウインクル／大谷晋二郎／N・ジョーンズ／TAKAみちのく×カズ・ハヤシ／鈴木健

No.57

02年12月 ¥840

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!

●サップと地峡規模のタイマン勝負!! 髙山善廣
●新たなる“U”が始動!!
田村潔司
●悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
●“北尾戦・セメントマッチの真実” ジョン・テンタ
ハシフ・カーン／武藤敬司&関係者X／ターザン山本×鈴木健／マチダリョウト／佐伯『DEEP』代表

No.58

03年1月 ¥880

新春特大号!! 「明日、また生きるぞ！」な対談の大連発！

●夢幻のファンタジー対談実現!! 武藤敬司×船木誠勝
●Uスタイルって何なのさ？
田村潔司×高阪剛
●Uインター取締役トリオが再集結!! 宮戸×安生×鈴木健
●カルガリー発トンパチ師弟！
ハシフ・カーン×ミスター・ヒト
TAJIRI／CIMA／ヴォルク・アターエフ／三島☆ド根性ノ助／語録で振り返るマット世界2002

No.59

03年2月 ¥880

吹けよ風！ 呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!

●いまこそ、この男の出番！
小川直也
●その強さを徹底検証!!
E・ヒョードル
●“プロレスの先生”大いに語る!! 馳浩
●『W－1』とは何か？ キーマンがすべてを語った！
田村潔司／U・ドラゴン×ターザン／中村和裕／上山龍紀／D/ローデス／WJマグマ語録

通販申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

【郵便振替】
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
【現金書留】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●送　料
1冊＝310円、2冊＝380円
3冊〜4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

※代引きを開始しました。詳しくはP160を参照してください。

紙のプロレス 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■ワールドスポーツプラザKINGS
・池袋 ・渋谷WEST ・新宿 ・名古屋 ・大阪 ・札幌 ・福岡
■グレートアントニオ
■東京イサミ

紙のプロレス RADICAL Back Number

極真とは何か?

◆見てみ、この猛者どもたち!!
松井章圭/磯部清次/N・ペタス/大山茂/大沢昇/ウイリー/フィリオ/村上竜司/中村誠/廬山初雄/佐藤勝昭/黒澤浩樹/竹山晴友/谷川貞治/山田英司/夢枕獏

完売間近! しかも半額だって!!
極真魂溢れる16人の男を直撃!! 「極真とは何か?」

¥1530 ⇒ ¥800

No.5 97年8月 ¥680
高田延彦、樹海へ…… 初めてのヒクソン戦直前大特集!
●ドン荒川vs藤原喜明 "昭和新日対談" ●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』 ●世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
長与千種&ライオネス飛鳥/ビクター・クルーガー

No.15 99年2月 ¥780
目を覚ましてください!! 小川vs橋本 "1・4事変" 勃発!
●A級戦犯か、それとも真の革命児か!? 佐山聡 ●前田日明inUSA カレリン戦前のシアトル特訓! 浅草キッドの熱烈応援文 ●S多重アリバイ・佐野なおき/Mr.K
A・カレリン/高阪剛/馬場さん追悼/語ろうマサ・サイトー/A・浜口親娘/北原光騎

No.16 99年3月 ¥780
格闘ノストラダムス'99 エンセン井上のプロレス雑誌表紙奪取記念号
●環境問題を『紙プロ』で語る!?ーアントニオ猪木 ●語ろうジャンボ鶴田 ●相撲多重アリバイ・石川孝志
前田日明/高阪剛/坂田亘/M・コールマン/石川雄規/村上一成

No.24 00年2月 ¥840 完売間近
頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE.GP』特集
●田村潔司がグレイシー討伐を公約! ●船木vsヒクソン座談会 ●WWF大検証! 猪木・鶴田・前田・高田らが船を語る! ●サスケ×矢追純一UFO超私極宇宙対談!
桜庭和志/堀辺正史/守山竜介/太刀光/嵐/中西百恵

No.29 00年7月 ¥840
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア解禁! 方舟の舵を取るのは誰だ!? 秋山準初登場!
●今度はホイス戦! 桜庭和志 ●プロレススーパースター列伝・仲野信市 ●本誌独占ジャンボ鶴田夫人真実を語る!!
三沢光晴/ノア勢フルメンバー/村上一成/ボビー・ホフマン/TKおかん/里村明衣子

No.31 00年9月 ¥840 完売間近
真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!! 歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
●桜庭和志×高阪剛のトークバトル中継!レフェリーは浅草キッドだ!! ●川田利明語録 ●プロレスという物語について・ダン・スバーン
小川直也/高山善廣/谷津嘉章/堀辺正史/永源遥/ユセフ・トルコ/島田裕二/田村潔司

No.32 00年10月 ¥840
本誌は "新プロレス" を独占します!! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
●田村潔司に快勝!ーA・ホドリゴ・ノゲイラ ●打倒プロレス同盟結成!? 青柳政司×小路晃 ●藤波辰爾語録 ●プロレススーパースター列伝
前田日明/桜庭和志/山本喧一/金原弘光×滑川康仁/本田多聞

No.34 01年1月 ¥840
プロレスは「闘い」を忘れた時に老いてゆく!! 「猪木祭り」「長州vs橋本戦」を斬りまくり!
●UFCミドル級王者ティト・オーティズ ●プロレススーパースター列伝・ミスターヒト ●修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
小川直也/高田延彦/桜庭和志/薮下めぐみ/ボブチャンチン&オバチャンチン/田中正志/紙プロ大賞2000

No.35 01年2月 ¥840
ジャングルを守るだけじゃなくジャングルをつくれ!! 「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
●ZERO-ONE始動! 橋本真也×アレクサンダー大塚 ●プロレス界統一コミッショナー(就任予定)馳浩が爆弾発言!! ●プロレススーパースター列伝・ジョー樋口
坂田亘/成瀬昌由/滑川康仁 大仁田厚/小路晃/杉浦貴/堀辺正史/田中正志

No.36 01年3月 ¥840 完売間近
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!! 面白くなきを面白く! 純プロレス復興記念号
●ノアから独立『PRIDE』参戦!高山善廣を確認せよ!! ●桜庭和志初のシウバ戦ド直前!! ●KOKをしゃぶりつくせ! 5大企画で大総括!!
金原弘光/ノゲイラ/ヴァルク・ハン/レナート・ババル/TK/田村潔司 三沢光晴/橋本真也/前田日明/大山峻護/W☆ING/ザンディグ/ジプシー×ハリー・レイス/鍋野ゆき江

No.37 01年4月 ¥840 完売間近
長州!! 本性出せんのかオラッ!! 小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る! ●アブダビコンバット2001ー大探検記! 菊田早苗/田村潔司/ヘンゾ・グレイシー/シェイク・タルヌーン王子
小川直也/橋本真也/桜庭和志/成瀬昌由×山本憲尚/村上一成/小路晃/堀辺正史/石川雄規

No.38 01年5月 ¥840 完売間近
高田の "忘れ物" は小川!! ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」 5・5小川と長州はどちらが孤独だったのか!?
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子エメリヤーエンコ・ヒョードル ●プロレススーパースター列伝・阿修羅原 ●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー
高田延彦/グンダレンコ・スベトラーナ/力皇猛/杉浦貴/丸藤正道/谷津嘉章/ジミー鈴木/高山善廣

No.39 01年6月 ¥840
どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!? すべての "騒動" に前田日明総帥が答えた!
●選手離脱後の前田道場新エース・金原弘光/滑川康仁 ●怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会 ●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
秋山準/山本憲尚/小川直也/成瀬昌由/田上明/石川×臼田×島田/DEEPとは何か

No.40 01年7月 ¥880
開戦間近! 猪木軍vs K-1に見たいものは "地上最強のプロレス"
●蘇れ! Uインター&キングダム伝説!高山善廣×金原弘光[前編] ●本当か? 本当なのか!? この叫びを聞け! 大谷晋二郎 ●プロレススーパースター列伝・グラン浜田
小川直也/三沢光晴/橋本真也/サスケ/鄭野聡寛/坂田亘/上山龍紀

No.41 01年8月 ¥880
Can you カミングアウト? "最後の黒船" WWF襲来! どうする「日本のプロレス」!!
●リングス10周年大会! ハンがリングスを振り返る ●真樹日佐夫×三池崇史巨頭対談が実現! ●W☆INGの真実・茨城清志
小川直也/高山善廣×金原弘光/WWF座談会/辻よしなり/秋山準語録

No.42 01年9月 ¥880 完売間近
猪木なら何をやっても許されるのか!? アントン総帥の言葉はマット界にとって "福音書" か? "テロ行為" か!?
●失われた "新日本" がここにある!ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談 ●大反響! "ヒャッホー" 辻よしなり ●蘇れ! UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
高田延彦/谷津章嘉/カトクンリー/マァ☆ティン/WWF上陸直前特集

No.43 01年10月 ¥880
サクと『PRIDE』のケツに火がついた!! 10・8猪木と小川が「純プロレス」と「純K-1」にリンクを張った!
●ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー ●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談 ●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
小川直也/桜庭和志/谷津×グッドリッジ/中野巽耀/須藤元気

No.44 01年11月 ¥880
ノーモアBADアングル!! サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
●プロレススーパースター列伝・グレート小鹿 ●その修羅場の数々! シーザー武志 ●怪物伝承! 高山善廣&杉浦貴
ハンス・ナイマン&ディック・フライ/田村潔司/闘龍門大特集/E・ヴァラビーチェス

No.45 01年12月 ¥880
「K-1vs猪木軍」は命懸けのエンターテインメントだ!! 『紙プロ』旗揚げ10周年&RADICAL創刊5周年記念号
●『ケーフェイ』以来の爆弾本投下!ミスター高橋本特集! ミスター高橋独占インタビュー/前田日明、ミスター・ヒト、佐山聡が「悪魔の書」を語る! ●ジェラルド・ゴルドー人生相談 ●葛西純/ウルティモ・ドラゴン/望月成晃/A大塚/金原弘光/矢野×須藤/グレート小鹿/語録で振り返るマット界2001

No.46 02年1月 ¥880 完売間近
PRIDE.LOVEをぶち壊す男!! 時は来た! 田村潔司、『PRIDE』へいざ討ち入り!!
●さらばリングス! 金原弘光/浅草キッドの「おつかれさんでした!」 ● "ならず者" がDEEPで快勝!ーエル・カネック ●プロレススーパースター列伝・キラー・カン ●金メダルを落とした男・小林孝至

No.47 02年2月 ¥880
WWF日本侵攻5秒前! 激動の新日本、怒りの急展開を読む!!
● "天才" 武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場! ●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る! ●第一次リングス閉幕特集 ●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛
大谷晋二郎/小笠原和彦/葛西純/K-1中量級/サスケ/ミスフィッツ

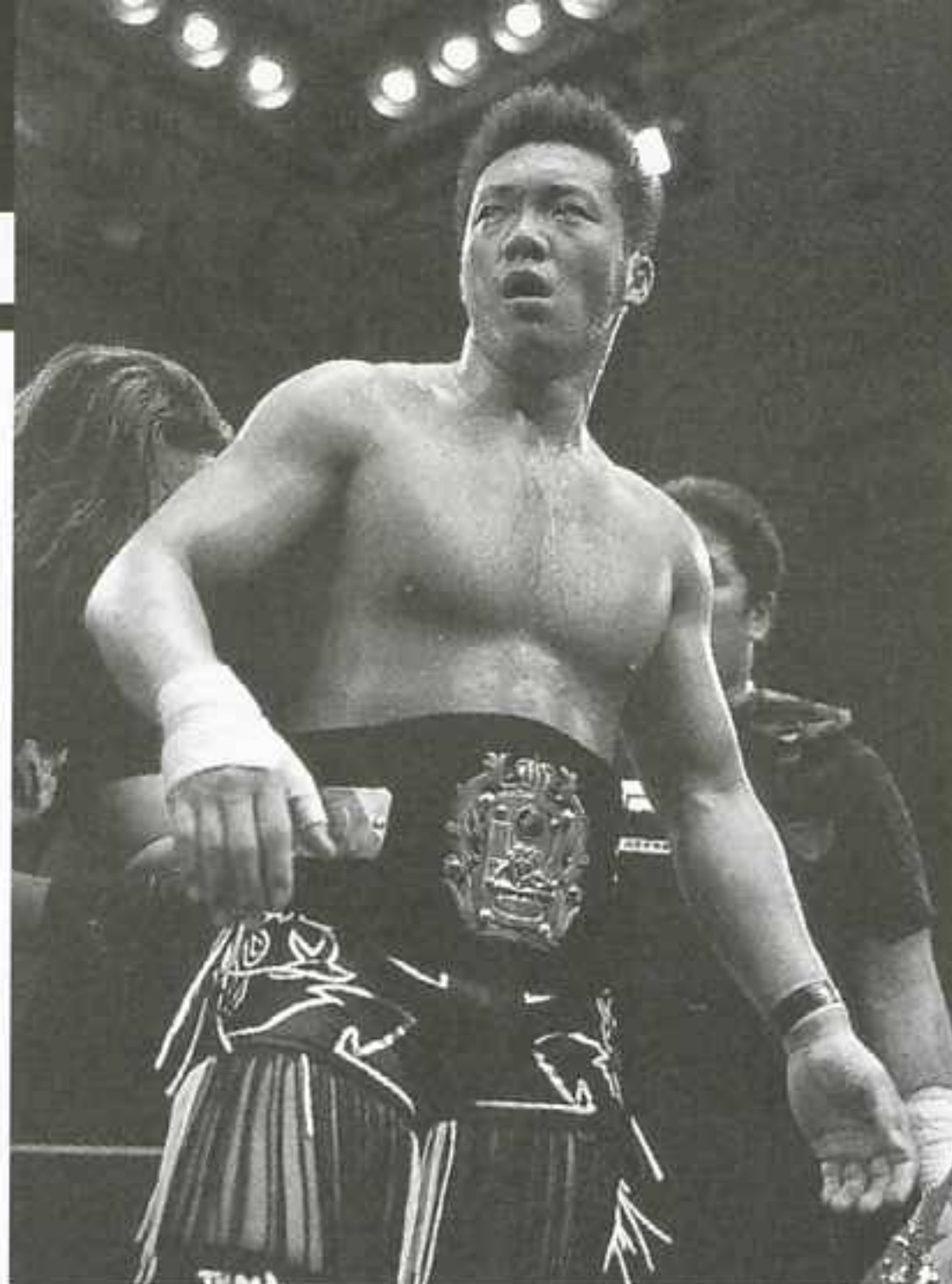
No.48 02年3月 ¥880
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談実現! 小川直也vsノゲイラ ●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光 ●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
小川直也/武藤敬司/ミスター・ポーゴ/ウォーリー山口/ジョシー・デンプシー

No.49 02年4月 ¥880
この夏に究極の格闘技大戦争勃発!? マット界灼熱の噂!
●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田 ●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!? ●凄! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行! 破壊王も火のヤリ特訓だ!
レッスルマニア座談会/CIMAvsドス・カラスJr./ウォーリー山口/小畑千代

No.50 02年5月 ¥880
早く試合がしたい!! サクが笑えば、世界が笑う!!
●「地方初世界」開始! 小川直也&橋本真也 ●充電完了! 桜庭和志が久々の登場! ●パンクラス取材解禁! "尾崎の野郎" も初登場! ●I編集長が新日本に三くだり半!
菊田早苗/大仁田厚/小島聡&NIGO/アレクサンダー大塚/リングスロシア軍団の軌跡

大会★GUIDE

>>>闘龍門ベルト新設!!
最強決定リーグ戦を制すのは誰か!!

元T2Pの選手も加わり、18選手が参加して今年も行われる闘龍門最強決定リーグ戦『EL NUMERO UNO 2003』。A、B、Cの3ブロックに分かれて総当りリーグ戦を行い、各ブロックの得点上位者2名が決勝トーナメントに進出する他、4月22日の東京・代々木大会で予選敗退した12選手によって行われる敗者復活・時間差バトルロイヤル「ドラゴン・スクランブル」の勝ち残り2名も決勝トーナメントへ進出できる。優勝者は新設されるＵＤＧ王座(ULTIMO DRAGON GYM CHAMPIONSHIP)の初代チャンピオンとなる。ウルティモ校長の独断による各ブロックの選手の振り分けは以下の通り。

Aブロック	Bブロック	Cブロック
マグナムTOKYO、ミラノコレクションA.T.、ドン・フジイ、新井健一郎、堀口元気、セカンド土井	望月成晃、ＳＵＷＡ、横須賀亨、TARU、K-ness.、コンドッティ修司	CIMA、ドラゴン・キッド、斉藤了、YOSSINO、アンソニー・W・森、“brother”YASSINI

なお、決勝戦となる4月22日の大会はスカパー!のPPV(ペイ・パー・ビュー)独占生中継が決定した。毎年、優勝者がその年のキーパーソンとなる大注目の最強決定リーグ戦。今年の“EL NUMERO UNO（ナンバーワンの意)”、そして初代ＵＤＧ王者になるのは誰か!?

>>>バトラーツ7周年!!
地元越谷で記念大会開催!!

1996年４月13日、石川雄規の故郷・小田原で旗揚げしたバトラーツ。７周年を迎えるこの４月13日、地元・越谷での旗揚げ７周年記念大会が決定した。チケットは絶賛発売中、８月８日『LEGEND』に登場したブルトーザー・ジョージこと、ジョージ・キングも参戦するぞ!! 臼田勝美の復帰戦も見逃すな!!

Happy Birthday to BATTLARTS 7th Anniversary
旗揚げ7周年記念大会

4月13日（日）試合開始 17:00
◇会場：越谷　桂スタジオ
◇チケット料金：SRS席 5000円／自由席 3500円
◇問：バトラーツ　048-963-0005
【決定対戦カード】
石川雄規&倉島信行 VS TAKAみちのく&ジョージ・キング
越後隆 VS サンボ大石

▼キムケン、引退カウントダウン!

4月18日は後楽園に駆けつけろ!!

もう稲妻レッグラリアートは見られない！　我らが木村健悟の引退試合が、とうとう行われてしまう。このページの〆切時点では対戦相手は発表されていないが……キムケンの望む相手はただ一人。ドラゴン、どうする!?

『STRONG ENERGY 2003』開幕戦
◇日時：4月18日（金）試合開始 18:30
◇会場：東京・後楽園ホール
◇問：新日本プロレス（株）TEL:03-5468-3111（土・日・祝日休み）

▼ｒ（アール）

『ｒ 第9回大会　r1周年記念大会』
◇日時：4月6日（日）　試合開始 16:00
◇会場：芝浦cube326（東京都港区海岸3-2-6）
◇チケット料金：前売4000円／当日4500円 ※入場時に1ドリンクオーダー制
◇参加予定選手：MAX宮沢、内藤恒仁、NAOKI、高田マコト、矢口壹琅、ケン片谷　他
◇問：ｒ実行委員会 TEL:03-5365-2622
ｒオフィシャルサイト http://www.evm-jp.com/r.htm

▼キングダム・エルガイツ

『キングダムエルガイツ東京大会　プロローグ（復活への序章）』
◇日時：4月13日（日）　試合開始 18:00
◇会場：東京・エキサイトスペースZ-zone
（京王線・小田急線永山駅徒歩5分、土足可、飲食はアルコールも可）
チケット料金：スーパーZ7000円　指定席5000円　自由席3000円
※エース入江秀忠は、3月4日DEEP後楽園大会終了後治療を受けたところ、左目角膜を損傷しているとの診断を受けたため、大事をとって今大会は欠場となった。
◇問：キングダムエルガイツ TEL042-376-1639

Ｔシャツ★GUIDE

>>>中川画伯イラストのTシャツ２種類発売!

桜庭和志Tシャツ
☆サイズ　XL・L・M・S
☆カラー　ホワイト or ネイビー
☆3800円
★問：高田道場
TEL03-5749-5030
★HPアドレス
http://www.takada-dojo.com
『PRIDE.25』より発売中!

ボブ・サップTシャツ
☆サイズ　XL・L・M・S
☆カラー　ホワイト
☆4000円
★問：グレート・アントニオ
TEL03-3295-4450
★HPアドレス
http://www.great-antonio.jp
3月30日より発売!

本誌読者ページ＆「ほんとにジョーク」でもおなじみの、中川雅博画伯のイラストがＴシャツになったぞ！　桜庭和志バージョンは高田道場から、ボブ・サップＴシャツはグレート・アントニオから、それぞれ発売中ダーッ！

情報ページ担当のささきぃです。地方の皆様にもあちこち出かけて欲しいという思いから、いろんな場所の情報を集めてみました。寒かったり暖かかったり落ち着かない気候が続いていますが、私の食欲は過剰なところで落ち着いています。やべぇ。ではでは、よろしく。

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■BCGに柔術クラス開設！
自称カリスマレフェリー・島田裕二氏の多目的格闘技ジム「BCG」では、4月から毎週金曜日19:00〜と20:15の2クラス、柔術クラスを開設する。その名も「麻布柔術アカデミー」。講師は、なんと日本屈指の寝技師・高瀬大樹だ!! 現在、新社会人応援キャンペーン中につき、入荷月の月会費が100%オフ!! これはもう入会するしかない!!
また、BCGではアマチュアマッチ『ど真ん中』を4月20日（日）に開催する。ぜひ参加してみよう。
★問:BCG TEL:03-3560-7911

■WOWOWでUFCをチェック!!
4月1日、『UFC41』の再放送が決定した。名勝負となった宇野薫vsBJペン、ヘビー級タイトルマッチのティム・シルビアvsリコ・ロドリゲス他、熱戦をもう一度見届けよう！ また、4月26日にはランディー・クートゥアー参戦！の『UFC42』も放送される。こちらも見逃すな！
★『UFC41』再放送
4月1日（火）深夜1:30〜3:00
★『UFC42』
4月26日（土）11:00〜2:00
★問:WOWOWカスタマーセンター
TEL 0120-480801
（受付時間10:00〜24:00）

■柳澤龍志も登場!! 映画「イエロードラゴン」
人間の身体能力を驚異的に高めるが、強烈な毒性を持つ“悪魔の劇薬”イエロードラゴン。この薬を巡り、中国の大地に危険な闘いがボッ発!! ワイヤーワークとCGを駆使したアクション映画『黄龍イエロードラゴン』が、4月5日（土）より、銀座シネパトスにて公開。この映画には現魔界倶楽部の柳澤龍志が登場、ビッシビシと気合いの入った立ち回りを見せている。4月5日は主演の倉田保昭、宮本真希らによる舞台挨拶も行われる予定だ。
★問:銀座シネパトス
TEL03-3561-4660

■『炭火串焼き 石川屋』営業時間変更のお知らせ
炭火串焼き&地酒・ワインで、プロレスファンのみならず地元のお客さんで連日盛況の『炭火串焼き 石川屋』が、3月16日より、日曜・祝日も営業を開始している。越谷・桂スタジオでプロレスを見た際には、東武線に乗って2駅の『石川屋』で、試合の余韻を味わおう。また、3月19日より毎週水曜日が定休日となっている。石川雄規自らが仕込んでいる「情念煮込み」を食べて、プロレスを語れ！
★炭火串焼き 石川屋
埼玉県越谷市赤山町6-13-43
バトラーツジム【B-CLUB】2F
★東武伊勢崎線越谷駅から徒歩30秒（北千住から準急で4つ目の停車駅。約20分）
★営業時間:17:00〜24:00
（ラストオーダー23:30）
★問:石川屋 TEL:048-967-0948

■電撃ネットワークが噂の“新宿クレイジーナイト”開催！
新宿プロレス主催の『新宿クレイジーナイト』が第3回目を迎えた。出演は電撃ネットワークの他、エスパー伊東、鉄拳、レイパー佐藤ほか。今回はなんとチョコボール向井のSM講座まで行われてしまう！ 昼間はお花見、夜は新宿クラブハイツでクレイジーナイトで決まり!!
★日時:3月30日（日）18:00スタート
★場所:歌舞伎町クラブハイツ
（新宿区歌舞伎町1-19-2 新宿東宝会館8F）
★料金:4500円
★問:ロックウエスト
TEL:03-5459-9199（イベント専用）
★ロックウエストHP
http://www.rockwest.to

■高山&大向、NHKに出演！
3月7日、衝撃の“TEAM2000”入り志願表明会見を行った大向美智子が、高山善廣とタッグを組んでNHKの人気番組「新・クイズ日本人の質問」に登場する。放送は3月30日（日）19:20〜20:00、はたして高山&大向組は“豪華賞品”似顔絵入りブロックパズルを手にすることができているのか!? 要チェック!!

■ターザン山本・一揆塾特別講座
こんな時にターザンイベント！ “噂の真相”を知りたい人は行くしかない!! K−1直前見所講座、長州WJ総括、3月興行戦争についても語ってくれるらしいぞ。一揆塾入りを考えている人はもちろん行くべしだ！
★日時:3月29日（土）19:30〜21:00
★料金:3000円
★場所:格闘技プロレス図書館
闘道館
（JR水道橋西口を出て左手に進み、マクドナルドを左折、まっすぐ150mほど直進し突当り、居酒屋どんたくがあるビルの5F）
★問:闘道館 TEL03-3512-2080
★闘道館HP http://toudoukan.infoseek.livedoor.com

■ターザン&吉田豪のトークライブ！
“格闘技トーク最強タッグ”（格闘ごまもっとう）こと、ターザン山本&吉田豪のトークライブ、『生ゴン』降板事件の直後である今回はターザンの炎上ぶりに大注目!! もちろんスペシャルゲストにも注目!! 通常より混雑が予想されるので、早めに行くことをオススメする。
『ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭vol.8!!』
★日時:4月8日（火）
18:30開場 19:30開始
★場所:ロフトプラスワン
（JR新宿駅東口下車、徒歩5分）
チャージ料金:1500円（飲食別）
★問:ロフトプラスワン
TEL:03-3205-6864

■吉田豪イベントその2!!
ターザンとのイベントの4日後、吉田豪はこちらにも登場する！ リリー・フランキー氏の大繁盛スナック“リリー”の春のスペシャル大開店!! リリー氏の破壊的なまでに面白い最強超絶フリートークを思う存分楽しめるのはここだけっ!! リリーファン絶対必見!! オールナイト!!
『スナック・リリーEXTRA10・春の大開店!!』
★日時:4月12日（土）
18:30開場 19:30開始
★場所:ロフトプラスワン
（JR新宿駅東口下車、徒歩5分）
★出演:リリー・フランキー、他リリー兄貴の愉快な仲間達
★チャージ料金:800円(飲食別)
★問:ロフトプラスワン
TEL:03-3205-6864
また、ターザン山本がクラブ（アクセントが平坦なほう）に登場、一部で大好評だった格闘技イベントが、月イチで定例化する模様。今のところ次回日程は未定、スケジュールは三宿WEBのHPにアップされるので、そちらをチェック！
★HPアドレス:http://www.m-web.tv/

■今月のジニアス情報
“悲しき天才”セッド・ジニアス率いるUNWプロレスリングが、ディファ有明で大会を行う。今度の今度こそ、本物の大物登場邪!! ショアッ!?
★大会名:『最後で最初の闘い』
★日時:4月27日（日）
試合開始 18:00
★場所:東京・ディファ有明
★問:悲しき天才サービス
TEL: 03-5709-1356

音楽★GUIDE

>>>ボブ・サップのファーストCD『SAPP TIME』発売中!!

ロッテのアイス・モナ王のＣＭソングにもなっている、ボブ・サップのＣＤ「SAPP Time!」がただいま絶賛発売中！ 初回限定盤にはボブ・サップの実物大手型ピンナップ（サインつき）＆サップとツーショットで写真が撮れる権利など、スペシャルプレゼントが当たる応募ハガキが付いているぞ！ サップのラップでゴーゴゴー!!
「SAPP Time！」1050円（税込）
◇問:（株）フォーライフ ミュージックエンタテイメント
TEL03-5466-4111

セミナー★GUIDE

>>>金原弘光の技術を盗んでしまえ!! 金ちゃんセミナー開催!!
Ｕインターのボヤキング・金原弘光が、PUREBLED京都で格闘技セミナーを行う。桜庭和志・高山善廣・“最強”和田良覚らとスパーリングを繰り広げてきた金ちゃんの技術は定評が高い。その技術を教えてもらうまたとないチャンスだ！

◇日時:4月5日（土）19:00スタート
◇場所:PUREBLED京都
（京都市中京区六角通柳馬場東入り大黒町72-1 アリストビル6階）
◇料金:4000円（当日は500円増し）
◇問:PUREBLED京都 TEL:075-254-7777

金原弘光公式ＨＰでは、他では手に入らない金原弘光Ｔシャツの販売（旧バージョンは残りわずか！）の他、プロフィール、定期的に金ちゃんが書き込みするＢＢＳなどがある。ぜひのぞいてみよう。
★金原弘光公式ＨＰ http://www.hiromitsu-kanehara.com/

転職★GUIDE

>>>パンクラスより フロントスタッフ募集のお知らせ
【仕事内容】経理・総務
【採用人員】若干名
【勤務地】東京都港区南麻布4-2-25（最寄りは地下鉄日比谷線「広尾」駅）
【勤務時間】11:00〜20:00
【休日】土曜日、日曜日、祝祭日（興行、イベント等により出勤の場合あり）
【時給・給与】当社規定による
【待遇】社会保険等完備、交通費支給
【条件】①18歳以上の方 ②即勤務可能な方 ③エクセル、ワードを使える方優遇 ④TKCシステム経験者優遇
【応募方法】履歴書（顔写真貼付）と職務経歴書（書式自由）を下記宛先へ郵送してください。書類選考合格の方には詳細を通知します。
【送付先】〒106-0047東京都港区南麻布4-2-25
（株）ワールドパンクラスクリエイト「フロントスタッフ募集」係
◇問:ワールドパンクラスクリエイト TEL:03-5792-0815（受付時間 11:00〜20:00）

>>>DEEP事務局より正社員募集のお知らせ!!
【職種】DEEP専属デザイナー
【資格】MacのIllsutrator、Photoshop、Quarkが使える方
【応募内容】DEEPの各大会パンフレット、ポスター、フライヤー等の作成、DEEP運営の手伝い、他
【条件】名古屋にお住まいの方、もしくは名古屋在住可能な方
【勤務時間】10時〜19時/週休2日制（特に大会前は不規則です）
※他、給与等は要相談。履歴書郵送後、面接いたします。担当／服部
◇問:DEEP事務局 TEL.052-339-0303

小路晃選手、『紙プロ』愛読ありがとう!! な読者ページ

紙プロ元気大学

食ってますかーッ!!（突然）最近、毎日夕食を２回取っていることに気が付いた、読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。どうしたんでしょう、最近の私。普通の夕食の量を２回食べているんですよ。食べて太らないかって？　そりゃ太るよ。やばいよマジで。『PRIDE.25』の最中など、６つもおにぎりを食べてしまいました。その他はいたって元気な担当がお送りします。はじまりはじまり。

（東京都・いしどやじゅん）
➊ビンス＆ホーガンですね。ＷＷＥにうとい私にもわかりました。本気で仲が悪い２人が睨み合ってる迫力が出ていい感じです。

校内巡回

【『紙プロ』59号・面白かった記事】

◎月刊Ｙ２談◎
★すごく共感できるところがたくさんあったし、勉強になったから。
（東京都・ディーバ・23歳・会社員）
➊この他「このコーナーを読めば、一発で事情通になれた気分（大阪府・千本一博）」などの意見が届いた、山口日昇＆吉田豪の「Ｙ２談」が１位でした。読み方が早速変更になりましたのでご注意ください。以下、アンケート順位とは関係なく、順不同で感想を紹介いたします。

◎ＷＪマグマ語録◎
★ヴァーッとクァーッと、ど真ん中で面白い。
（福岡県・杉水信介・25歳・会社員）
➊他にも「福田社長が面白いから（北海道・匿名希望）」など、多数の爆笑報告が届きました。ビバ、ＷＪ！

◎丸井乙生インタビュー◎
★天龍の話や、ＺＥＲＯ-ＯＮＥワールドの話も面白かった。
（秋田県・平川豊・19歳）
➊いつもステキな丸井さんは、じつは結構力持ちです。ＺＥＲＯ-ＯＮＥ札幌大会の時、丸井さんの持ち歩いているカバンを持たせてもらったんですが、本気で肩が外れるかと思いました。それを持ってスタスタ歩く丸井さん。カバンの重さには自信があった私ですが、自分はまだまだだと思いました。

◎マット・ガファリ＆トム・ハワードインタビュー◎
★ガファリのお腹を見ていると、幸せな気分になるから。
（岩手県・内田一郎・30歳・会社員）
➊基本的には同意見なんですが、腹毛にはちょっと微妙な気持ちになりました。わがままでしょうか。

◎頂上対決とはこういうことだ!!◎
★なんか、ミルコの顔がよかった。
（鹿児島県・節政徹也・14歳・学生）
➊なんか「ヴァーッ」って言う顔でしたね。さあ、あなたはもう前号Ｐ12を見て確認せずにはいられない。

【『紙プロ』59号・つまらなかった記事】

◎高橋がなりインタビュー◎
★ただ単に金持ちが嫌い。完全に一方的なひがみ（笑）。
（大阪府・山内義久・34歳・自営業）
➊不況の中、自営業も大変ですね。でも、金持ちを嫌っていると金持ちにはなれないのではないでしょうか。生意気言いました。頑張って『紙プロ』を毎号買えるだけの売り上げはキープしてください。

➊ターザン山本氏について熱い意見が続々届いております。ターザン山本嫌いな方からの意見は前号掲載したので、ターザン山本肯定派の意見を選んでみました。

★なんで突然、『生ゴン』からターザンさんは消えたの？　糖尿で入院!?　かと本当に心配していたのですよ。それが降板なんて本当にくやしい。確かに細木数子によれば金星人のターザンは今年から大殺界なんだけれど、ターザンさんを人柱にするＮＯＡＨが憎い!!　月曜日の夜、ターザンさんの愛を胸いっぱい吸って一週間を乗り切ってきた私にとっては本当につらい……（リピート３回観てる）。３・16ＷＪ仙台大会で会えるといいな〜、会いたいな〜、会いたいよ〜!!
（宮城県・高島良・42歳・公務員）
➊42歳公務員の方からのものすごいラブメッセージ。ターザンの愛で乗り切る一週間……。仙台大会では会えましたか？

★食べ物に好みがあるように、ターザン山本が好きで何が悪い。
（愛知県・渡辺弘幸・34歳・会社員）
➊いや、いいと思いますよ。ただ、いくら好きだって言っても、目の前でゲテ物を食われていたらイヤだけど。

★自分的にはターザン山本氏大好きです。たしかに気持ち悪いかもしれないけど、ターザン氏自体がエンターテイメントだと思えばいいと思います。これからも頑張って下さい。
（東京都・宮野祐司・27歳・会社員）
➊「たしかに気持ち悪いかもしれないけど……」って一文はちょっとアレかもしれないけど、大人な意見だと思います。これからも暖かい目でよろしく。

★ターザンのいじり話がおもしろい。ターザン嫌いな人が多いみたいですけど、私は好きです。好きっていうか、ターザンは否定されていじられて成立するっていうか、つっこみどころが多すぎて飽きない。いつまでもみんなにキモがられ、きらわれ、いじられ、暴走まっしぐらのキュートなターザン山本という男を見ていたい。
（東京都・青嶋奈美子・21歳・大学生）
➊何ィィ！　キミはいくつだ!?　21歳!!　21歳でその感性は素晴らしいよォォ!!（ターザン氏風）……いろんな意見の人がいないと面白くないので、嫌いな人は今後もずっと嫌いでいいと思いますよ。どっちが正しいわけでもないし。面白い人だとは思うけど。

【『紙プロ』58号・面白かった記事】

◎辻結花インタビュー◎
★つじっちかわいい。若い子かと思ったらオレの１コ下かよ。ふーん。オレもがんばろうかなー。
（東京都・田村友範・29歳・公務員）
➊そうだ、がんばれ。辻ちゃんは写真より本物のほうがかわいいよ。

◎語録で振り返るマット界２００２◎
★今の新日にも、面白い所があるということが分かったから。
（広島県・藤村正・16歳・学生）
➊そりゃ良かった。

【その他のおたより】

★山口様の前に鬼畜とつきますが、文章を書く人に鬼畜系という人がいます。意味を教えて下さい。前科があるとか獣姦経験があるとかですか？
（埼玉県・飯野仁史・32歳・農業見習）
➊一般的には「鬼畜」っていう言葉の意味そのままの感性を売り（？）にして文章を書いたりしている人を「鬼畜系」って言うんではないかと思います。山口については、酔っ払って帰宅し、飼っていた子犬に吠えられたのに腹を立て壁に叩きつけて殺害したり、嫁のアバラをパンチで叩き折ったり、まったく罪のない新聞配達の少年に襲いかかったり、道路の真ん中に踊り出て「俺の前に立ちはだかるな！」と路線バスに向かって絶叫したり、月に一度は突如「失踪」して編集部と取引相手の会社の担当者をカオスに叩き落としたりしている（現在も）のでその名前がつきました。小池栄子さんが「こういう人とはゼッッタイ会いたくない」と言うのも、自然なことだと思います。

今月の 紙プロ元気大学調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位 高山善廣
2位 小川直也
3位 橋本真也
4位 蝶野正洋
5位 ケンドー・カシン

ノーフィアー、3・2ZERO-ONE両国大会でも大暴れ!!　のNWF王者・高山善廣が見事ナンバーワン。続いて小川直也、破壊王のOH砲の後、黒の総帥がいきなりランクイン。びっくり。5位もカシンと、プロレスラー勢が圧勝でした。来月はこれがどう入れ替わるかが楽しみです。ちなみに『紙プロHand』iモードでは1位田村潔司、2位が金原弘光、3位がなんと滑川康仁。4位以降が橋本真也、桜庭和志と続いておりました（組織票対策思案中）。嫌いな選手はディフェンディングチャンピオンのあの人をその師匠が抜きました。さすがです。　（2/13〜3/16到着分調べ）

紙プロ59号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト５

1位 月刊Ｙ２談
2位 マット・ガファリ&トム・ハワードインタビュー
3位 ダスティー・ローデスインタビュー
4位 紙の新聞
5位 ＷＪマグマ語録

正規メンバー（?）に戻った途端ランキング1位となった月刊Y2談。続いて、ゼロ族大注目のマット・ガファリ&トム・ハワードインタビュー、オールドファン感涙のダスティー・ローデスインタビューがランクイン。「ドラゴンネタが多かった」という理由で紙の新聞が4位に。ど真ん中マグマ大爆発のWJ語録が5位、6位以降は馳先生インタビュー、ノゲイラ×ヒョードル激突記事と続きました。

（東京都・いしどやじゅん）
➊3・2両国大会メイン（ですよね？）。終わった後の乱闘だけじゃなく、試合も良かったですよ。私が募集したとおりのイラストをくれたいしどやさんに感謝。

中川画伯 イラスト贈呈!!

久々のこのコーナー、ゲストは……ロウ・キーだ!! 中川画伯の選ぶ2002年『紙プロ』大賞・ファンタジー・ファイト賞に選ばれたロウ・キー選手の表彰式が、ひっそりと3・2両国大会で行われました。イラストを見てロウ・キーもいたく喜んでいたそうです。ロウ・キーって耳がとがっているのよね。そうなのよ。次の登場はいったい誰か!?

衣料部・Tシャツ 自慢コーナー

(静岡県・目ガ覚メタロウ)「総裁がお出まし。中川画伯特製『魔界倶楽部トレーナー』、星野総裁にも見ていただきました。トレーナーを見た総裁、『おぉー! ビッシビシ頼むよ(字幕付き)』とニコリ。これからも熱いダイブを期待しとります」➡うわー。前号、「さすがにムリだろ」と思いながらも登場を期待していた私ですが、ホントに総裁だ。Tシャツ自慢というか、私のPHOTO自慢? というか、ここ数号の「ほんとにジョーク」で採用された皆さん、特製Tシャツを着用した写真の送付をビッシビシ頼むよ。自慢でいいから。

ほんとにジョーク?

(埼玉県・立川談スパーン)「はなから『紙プロ元気大学』編入希望のハガキです。ササ・キーさんには悪いけど『紙プロ元気大学』には『ほんとにジョーク』の『スモーキー・マウンテン・レスリング』になってもらいます」➡あれ? 私ってば「キー倶楽部」入部可能? (何人のゼロ族が解るネタなのか) 2回目の掲載となった立川談スパーンさんです。誰が何と言おうと本人がそう言っているのだから、そうなんです。よし、よくわかんないけど、受けてたったぞ(何をだ)。

(埼玉県・中川雅博)「今号の紙プロ元気大学には青木雄大氏が載っていないので物足りなく感じました」➡だそうです。画伯から画伯へエール。お忙しいとは思いますがよろしくね。そしてムリはなさらぬように。前田CEOってすごく足が細く見えますよね。高貴なヒゲも復活の模様。

(青森県・青木雄大)「応援ありがとうございます…が、今回もイラスト、お休みさせていただきます。何せわたくし、今、まるで東海テレビ制作の昼ドラのような暴風雨な日々を過ごしており、絵を描く余裕が全くないんです(ガックリ)」➡というわけで今回もお休みの青木雄大画伯。さみしいので数号前に投稿してもらったイラストを掲載ーっ(これがボツになる『紙プロ元気大学』の厳しさよ)。ネタがワールドカップなのは申し訳ない。2月のディファカップ以来、私の中で高岩選手評価がウナギのぼりなので選んでみました。札幌のハードコアマッチも素晴らしかった、って、ほめておいてこのイラスト。愛は複雑。

(山梨県・貝戸夏也)「『紙プロ』58号、31ページの串焼き『市屋苑』のメニューに書いてある『たこセロリ』が、どんな料理か気になって夜も眠れません」➡もう会えないのかな、ハシフ・カーン。たこセロリについては、眠れないくらいなら、お店に行ってはどうでしょう。迷わず行けよ、行けばわかるさ。

(岩手県・こみきらほがな)「山口日昇編集長の名前はは何と読むんですか?」➡あら、かっこいい。そうか、聞かれないだけで、これが読めない人も多いんだろうなぁ。どうやら"すすきの"って読むらしいです。ほんとうです。あと、みどりがめさんだということは仕事柄各誌の読者ページも目を通すので気付きました。またよろしくです。

今月のタレコミ部

(静岡県・森上路太郎)「我らがみのる、俳句界にデビュー!? しかも"まだまだラストダンスは踊らない"と、現役続行宣言!」➡ズバリ言って非常にくだらねぇのですが、面白かったです。鈴木選手も多芸な人ですね。しかし、この「まだまだまだラストダンスは踊らない」って、そんなんでいいのか川柳って? いいのか。そうか。細かくて読めないだろうけど、この、鈴木みのる氏率いる俳句チームは、他の俳句・川柳もかなり面白いんですよ。金原光江さんが創った「今ここで泣いたら只の犬になる」って句はどういう状況で創った句なのか? (クレイジードッグス?? SM関係の終末?)「漏れるのを承知の秘密キナ臭い」ってのも味わい深いですね。

(埼玉県・宮田浩司)➡宮田さん久しぶりですね。猛牛オックス・ベーカー。またずいぶんと意外な人選。良いですがどうして? ラッシャー木村の映像でも見ましたか?

(住所不明・シンペイ)➡ノーフィアー高山善廣、ステンシルか版画でしょうか? 顔の特徴がよく出ています。裏面には名前もなくペンネームのみの記載。職人肌なのかもしれませんが、少しさみしい。

(愛媛県・鈴木ユージ)➡ヒザを抱える田村潔司。前号インタビューは各地で波紋を呼んだんですが、気にならない人は「ただの雑談じゃないか」とか思うらしいです。受け取りようによって全く違う反応がきました。

(静岡県・目ガ覚メタロウ)「菓子パン業界のド真ん中を突っ走るパン屋さんを発見致しました。クァーッ!」➡くだらないですが、牧歌的な風景の中にそびえ立つど真ん中な看板。目の玉が飛び出るような菓子パンを披露してくれる、のかもしれない。静岡だけ活動が活発なタレコミ部。他の県からの投稿もお待ちしています。

犬和魂

(愛知県・たっつぁん)「前回はありがとうございました。今回もささきぃさんに強奪されませんように……」➡そうは問屋が卸さずでした。ふふ。修斗くんは元気みたいですよ。リングに登場する日を待ちたいと思います。暴走して、ドラゴンに噛み付く修斗くん。大流血ドラゴン……どうなる新日本!

おハガキ・お便り・メール大募集!!

なんだか新日本のことばかり考えているワタクシです。星野総裁といい犬軍団といい、西村修といい(この人は相変わらずだけど)一体どうしたんでしょうか新日本。今、イイ感じで私の中の新日本評価が高まっています。まぁ、去年の10・16東京ドームの前もそうやって気持ちを高めていったあげく、裏切られたんですけどね。信用残高相当低いです。『紙プロ元気大学』では、アルティメットがクラッシュするような、元気あふれるお便りを大募集しています。イラスト、写真、タレコミ、過食を止める方法、いくら食べても太らない方法なども募集中です。その他、すべての宛先は、メールは radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702 (株)ダブルクロス
紙のプロレスRADICAL編集部 紙プロ元気大学「モンゴリアンチョップ」係まで。

(本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに! プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと)

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第21回

なっんでだろ～う

なんでだろ～う

谷津嘉章 W✓

石井智宏 W✓

ヤツandトモ

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡 **目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、いつもハガキをたくさんアリガトーッ!! 「初代&4代目タイガー」Tシャツ（M）、お楽しみに!!
★「ヒョードル～!! ヒョードル～!!」と応援し過ぎてノドがガラガラです。でも心はウキウキです。最強ッ!!
★自分が絵を描いた桜庭和志選手のTシャツが発売中です!! みんな買って http://www.takada-dojo.com
★自分が絵を描いたボブ・サップ選手のTシャツが発売中です!! みんな買って♥ http://www.great-antonio.jp
★"ジニアス"と言えば武藤敬司でも、もちろん渡辺幸正でも無くてラニー・ポッフォだ! というミスター・パーフェクト派な中川画伯のコーナー、『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!! 抽選で5名様に「中川雅博手づくりステッカー」、採用された方にはTシャツをプレゼント!!

➡前号のTシャツ タイガー・ジェット・シン

応募方法

応募方法プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S・M・L・XL）をハガキに書いて下さい。
〈例〉ミスター・パーフェクトのXL

コラム担当チョロの職権乱用＆熱烈応援ページ

BEST OF THE スーパーコラム™

3・16『PRIDE.25』A・スティーブリング戦で久々の勝利＆マイク！

ボクの『PRIDE』、みんなの『PRIDE』、『PRIDE』が業界の“ド真ん中”なんじゃあ～!!

一足お先に、2003年の“ド真ん中”大賞は 小路晃に決定!!

ヤヒヤさせつつも、久々の勝利＆マイクを手にした小路。試合後の喜びっぷりを見てたら思わず涙が。マイクの内容を本人に聞くと「お昼に『紙プロ』を読んでてWJネタをやろうかなぁって」とのこと。さらに、「『紙プロ』大賞でチョロさんに『今年はやるしかないで賞』をもらったんで、期待に応えようと思って」と満面の笑みを浮かべた小路。やっぱりアンタも男だよ！　というわけで、一足お先に今年度の『紙プロ』大賞、“ド真ん中”大賞は小路晃に決定！　●●●でも期待してるんじゃあ！

絵本「ムンバ星人いただきます」（マガジンハウス）4月17日発売ムンバー

いやまあドキドキして心臓に悪かったなあ、マッハ対上山戦。楽しみでわくわくしてんだけど、いざ始まると心臓バクバク。いくらマッハが優勢にいても、いつひっくりかえるかわからん危うさを感じるので、冷静に見てられなかった。試合終了して、やっと楽になれた。こんなしんどい思いしたのいつ以来だろうか。

とにかくホッとして家に帰り、この日もうひとつの楽しみであった『サイボーグ魂』の女子総合大会を見るためテレビをつけると、開会宣言した船木のヒゲ面がどアップ。そのビジュアルになんかびっくりして見入ってしまった。武藤との対談で、この前『紙プロ』登場したときも、なんか達観した顔になっていて興味深かったのだが、船木はどこへ向かっていくのだろうか……少し気になる。

びっくりといえば、こないだ大手CDショップに行くと（目的は「天才てれびくんワイド ミュージックてれびくんDVD」を探すため）、突如「ウキャキャキャー！」「アグッ、ウヒャ」「ンク、ウヒャヒャアー！」と普段あまり聞こえてくるはずのない不思議な叫び声（ボリューム大）が聞こえてくる。忙しくて遂に私も幻聴が聞こえるようになったのかと2秒間思ったが、まわりの人もその叫び声が聞こえてるようでキョトンとしている。それでこれは夢でもファンタジーでもない、リアルだ、現実なんだと判断。私を含めた客みんな、目当ての品を探すのをいったん止めて、その奇声の元を探す。奇声の主は、視聴のヘッドホンをしていた。「なに聞いてるんだろう？ きみまろ？ 椎名林檎？」とか思いつつ、奇声主の間合いに入らず自分の間合いを取りながら（気分は須藤元気）、近づいてチェックすると松本人志のDVDであった。とても面白いのか、彼は遠慮なくボリューム大の奇声を出して喜んでいる。しかしここは後楽園ホールでもなんでもない、CDショップだ。なのになぜそんな行動をできるのか？ もしかしてこの様子を隠しカメラで撮っているネタなのか？ と頭の中は？マークだらけ。ただ単にヘッドホンしてるから自分の声のボリュームに気づいてないだけなのかなと、好意的な解釈ですまそうと思ったが、彼はのけぞったりジャンプしたりして喜んでいるので違うらしい。まあ、よっぽどそのDVDは面白いんだろうと、無理やりこの不思議な問題を自分なりにフィニッシュにし、その場を去りました。

そんで不思議といえば不思議王子のアブダビ王子。去年はなかったが、今年また大会開催でうれしい。ありがとう、王子！ しかし、ブラジル予選でデラヒーバが一回戦負けしてるのに驚いた（あれほど名前あるのに推薦で本戦出場じゃないの？）。3月の日本予選は、一週間前に全日本コンバットもあるから、選手はどうなるんだろう？ 予選関係無しでとにかく足関十段・今成選手には本戦に出てほしいな。いままで推薦の基準とか誰が決めるのかよくわ

アグッ

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の 業☆勝ちます

『プロレスよ苦しめ そして 生きよ』の巻

「鍛え上げられた肉体と肉体がぶつかり合うのって素晴らしいと思わない？」とかいったような●トロング金剛チックな趣味でも持っていなければ、特に興味を持てるものでなくなってしまった現在の純プロレス。一体いつからプロレスはつまらなくなってしまったのだろうか？ 総合格闘技に圧倒的な強さと怖さの象徴の座を明け渡したことにプロレス失速の大きな理由があることは誰もが承知だろうが、それだけじゃない気がしてならない。何故だ。何故なんだろう。そんなことをキンタマをいじりながら考えていたが一向に答が出ない。高野兄弟がどちらも●●●●●●して逃亡中だから？ 高野兄弟不在のPWCの新エースが維新力という、どっちにしてもアレな人選が微妙すぎるから？ プライベートでの事情によりザ・コブラとしてZERO-ONEに参戦したのに、今年の『週プロ』の選手名鑑でコブラのマスクをかぶっている写真の上に思い切り〝ジョージ高野〟と書かれ「コブラのマスクをかぶってもジョージ高野」と意味ありげな注釈を付けられてしまったから？ ……やはり自分のキンタマをセルフもみもみしながら考えたようでは気が散ってロクな答が浮かばない。しかもキンタマを弄る時にジョージの長い睫毛の半開きの目を思い浮かべるのもどうかと思う。しかもそんなこと（キンタマ＋ザ・コブラ＝？）をコラムに書いて●トロング金剛が読んで下手に共感を持たれたりしたらと思うと生きた心地がしない。素っ裸の金剛が俺ん家のアパートのドアを豪快に蹴破って侵入し、やにわにパーテレ・ポジションを取り出し「君はなかなかカワイイ顔をしているね！」なんてニッコリ微笑まれてしまうとも限らない。

ここはひとつキンタマとジョージと金剛のことは一旦忘れて、プロレスが華やかなりし頃の文献を紐解き現在形と徹底比較する必要があるようだ。そんな時に便利なのが『週刊プロレス』！ 毎年選手名鑑が載ってる新年号だけは恥を忍んで購入した甲斐があったというものだ。年に一度とはいえ21世紀にもなって『週プロ』を買うという行為そのものが自分が日陰者であるということを強烈に思い知らせてくれ、『週刊プロレス』を『週プロ』と省略して読んでしまう属性がそれに対しての愛着を嫌が応にも増幅してくれる……プロレスという十字架は背中にベッタリ張り付いてそう簡単に取れるわけではなく、ワープロといえば『NEC』の「文豪ミニ」とか『シャープ』の「書院」ではなく赤いジャージ姿のブラックキャットを思い浮かべて

からないが、とにかく今成選手をお願いします！　ブッカーKに王子さま！　ただ、すでに今成選手は2月にブラジル修行に行ってしまったので、もうその強さがブラジルで知れ渡ってしまっているのかもしれないのがちと残念なんですけどね。いきなり今度の本戦でブラジル上陸した方が、ノーマークだし、センセーショナルに大活躍するのではないかと思ってた。なにも知らずに今成選手に近づいたら、誰もがかなりの高確率で足関食らうのではないかと、幻想ふくらみすぎて僕の脳みそパンパンすよ。アブダビ王子が満面の笑みで、足関十段に拍手する図は、もう私の頭の中ではできあがってます。『グレート・アントニオ』は、ヤノタク人形に続いて今成人形をただちに作り発売すべきです。

とにかくアブダビは楽しみ。つまらない試合もたくさんあるが、ここで何度も書いてる前回の高阪戦でのジアン・マチャドなんて芸術ですよ。あれこそ格闘芸術。真剣勝負であぁなったから最高なんです。

その前に『PRIDE』があるが、ニュートンvs長シウバ、ノゲイラvsヒョードルなど好カード多しでニンマリ。なかでも目玉なのが桜庭vsニーノ！　この二人が闘うのなら打撃なしで見たいのが本音ですが、それでもこの日一番注目カードです。きっと、アブダビ王子もカレンダーの16日に○印つけてサクラバvsニーノと書きこんだでしょう。

●はなくま・ゆうさく
『週プロ』での高田インタビュー、ほとんど思いが同じでよかったなぁ。時代は変った。

外国人オタク大会
では次の問題
「チーム イリホリ」名前の由来は？
ピンポーン
この2人即答だー!!
王子
ジョシュ

しまう人間にとっての年に一度の禊ぎである。

単純に今年と94年の選手名鑑の表紙を比べてみてもやはりその差は歴然。タイガーマスクの中身の人とグラサン着用のラーメンマンが「プロレスの火はオレたちが消さない！」などといった弱火なコピーとともに乗っかるお手軽な表紙の今年号に比べ、94年号は扉からしていきなり殺気ムンムン。はちまき姿のぬまっちが半笑いで佇む真横にポーゴ（まだ介添人にケツを押し上げてもらわなくてもリングイン出来た頃の）、サーベル・タイガー時代の絶好調に狂った松永光弘、そして人工透析をしながらプロレスをやり続けた死ぬ直前のミスター珍！　表紙に起こった奇跡からして94年に軍配だ。

思えば10年前、ターザン山本体制の『週プロ』は本当に狂っていた。工藤めぐみのニコパチ写真の上に『FMWは聖家族……だから、くどめ大好き♥』などといったどう考えてもキ●ガイの仕業としか思えない素晴らしい表紙の雑誌を、なんの疑いもなく40万人に買わせていたのだから恐るべしである。

狂った時代の勢いに間違った拍車をかけてとんでもない誤解が毎週起きていた頃の選手名鑑を見て、もう簡単にその答が出てしまった。それは、選手の髪型が凄まじく面白いということ。北斗晶加入前の健介・ウォリアーを筆頭に、ミスター雁之助もホーデス・ミンも「角刈りなのに後ろ髪だけちょっとロング」という伝統的プロレスラーヘアスタイルを遵守しているのだ。かつて力道山が「プロレスラーは超人じゃなきゃいけねぇんだよ！」と若き日のアントンを一喝したように、素人がどうガンバッテも真似できない（というかしたくない）変な髪型のオンパレードで、プロレスラーが超人であることを佇まいの段階から示してしまっているのである。今やったら当然罰ゲーム以外の何者でもない健介・イン・ザ・ナインティーズ・カットが現在のプロレスに圧倒的に欠けているものであるのは間違いない。その証拠に昭和のプロレスラーは髪型だけでもハンパない気概を感じさせてくれる。鶴見五郎がその筆頭（あれはただの天然パーマという指摘はこの際無視）。海外凱旋帰国後の吉江豊がトリマーの品評会に出場するプードルみたいな斬新なヘア・スタイルで現れたときには「この業界、オレがど真ん中を行く！」という気概を最も感じさせてくれたが、今では金髪の藤木直人といった趣の普通なヘアになってしまっている。非常に惜しかった。

しかしプロレスラー以上にスゴイのが編集者である良い方の鈴木健（どうみても宣教師）や宍倉次長のヘア＆佇まい！　特に次長のネクタイがどう見ても「面倒臭くなって玉結びにした」としか思えない超人的な締め方をしていて殺気出しすぎ。93年の次長の総括ページが「プロレス・ファンって、つくづく明るくなったなと思う」「いまやプロレス・ファンが暗いなんて誰も言わなくなった（そうでもないか？）」「私は暗くて結構、と思っている」などと総括と称してただの自己分析を繰り返していて、佇まい以上に文章の内容が切羽詰まった迫力に満ちているのだからして、凡人が書いたレポートばかりの現在の『週プロ』がこれに勝てるはずはないのである。結局現在のプロレスに最も欠けているのは、「『週刊プロレス』の編集者のナチュラルな狂気」に違いないのであり、プロレス復興のためには宍倉永久欠番次長を編集長に据えた『週プロ』新体制か、もしくはターザンに面白半分でもう一度『週プロ』編集長をやらせてみるといったキチガイウルトラCしかないと思っている。オレは本気だ！

●おさて・ぽるしぇ
4月2日、DVD『ロマンポルシェ。の独占！　オトコの60分』発売！　見知らぬ軟弱男どもに難クセをつけ、原宿でコギャルをぶん殴る特殊映像満載！　買え!!　4月10日には新宿ロフトで発売記念ライブ！　対バンはU・G MANとギターウルフ!!

ザ・検証

暴言魔として『東スポ』の一面を飾った男から、『紙プロ』編集部チョロ宛に手紙が届いた。全く記憶にはないのだが、なんでも以前一度会って話をしているらしいのだ。内容はというと、今号にも載っている、ある選手に手紙を渡して欲しいというもの。●●●●さん、一応、本人に手紙は渡しておきましたので報告まで。

今月の検証 ■■ by 椎名基樹

今年もいい試合がいっぱい。日本人に生まれてよかった！

前号、前々号での『紙プロ』大賞で、僭越ながら俺も賞を選ばせていただいた。年末の恒例として、とても楽しい作業であり、また、マニアックでナーバスな（もちろん自分もそうだが）プロレス・格闘技ファンに対して、センスの悪さを見せられぬ気持ちで、油断できぬ作業でもある。

また、何かを選ぶという作業は、必ず「ああすれば良かった、こうすれば良かった」と後悔が伴うもので、2002年度の選考でも、個人的な賞のユーモア部門として考えていた和田良覚選手を入れるのを、ど忘れしてしまったことが今でも悔やまれる。

その2002年度の最後のコメントで、俺は「思えば豊作な年だった」と書いたのであるが、今年、2003年度もすでに「いい試合だぁ～！」と叫びたくなる、好ファイトが続出している。年末になると、すっかり忘れてしまったり、それが一体今年のことだったのか、わからなくなったりするので、ここで書いておこうかと思う。

まずは2回目の『W-1』のハシフ対ジョー・サン。いやあ、面白かった。あのジョー・サンの入場！ 一体、何がやりたいんだか、まったくわからなかった。でも、マイクを最初から持つのは実はすごく新しくないか？ テレビでの観戦だったけど、リングインするまで、ずっと大爆笑だった。会場は水をうったように静かだったけど。

試合の方も最高だった。俺は言わずと知れた、VT大好き人間であるが、プロレスの試合でガチがチラチラと見える方が刺激的だったりする。よくいう「色気のある試合」とか「色気のある選手」というのは、そういうことを指すと思っている（もちろん、ジョー・サンのTバックのことを言ってんじゃないよ）。

あの試合の、ハシフが場外でペットボトルを投げつけるところとか、最後のボストンクラブとか、そして、最後のハシフの「ナメんな、全日本！ 武藤敬司!!」というマイクアピールとか、正に色気を見た。さらに、武藤もあの試合を高く評価しているというんだから、酷い話というか、レベルが高い。久々にプロレスの「さらけ出す快感」みたいなものを味わわせてもらった（もちろん、ジョー・サンのケツをことではない）。

次に燃えさせてもらったのは、UFCのライト級タイトルマッチ、宇野薫vsBJペン。興奮して3Rなんか、ずっとテレビに向かって叫び通しだった。やっぱ、日本人初の王者誕生という歴史的快挙に、テレビ観戦ながら立ち会いたいもんね。に、してもBJペンって選手、ちゃんと見たのは初めてだったんだけど、ありゃ天才だね。よく寝技は努力の領域で、打撃は天才の領域ってなことをいうけど、総合のテイクダウンも天性のものが見える部分だと思う。BJペンのテイクダウンも天才的で、特に前半有利でこのまま宇野が勝ってしまうんではないかと思っていた矢先、一発で形勢逆転してしまった足払いは圧巻だった。すごい、運動神経。アブダビで見た、ヒカルド・アローナを思い出した。

に、しても宇野薫選手みたいに、あんな可愛い顔した普通の人が、アメリカくんだりまで行って金網の中で闘うことになるなんて、その数奇な運命を思わざるを得ない。根本はプロレスファンに見えるもんね。だからこそ、普通に見えるけど、きっと変わった人なんだろうなあと想像する。試合はドローで、日本人初の戴冠は次にお預けとなったわけだが、次こそ天才を倒して、その数奇な運命を折り紙付きにして欲しい。

もう一人、その天才ぶりに驚いてしまったのが、K-1MAXでの須藤元気。魔裟斗戦でのあの闘いぶり！ 向かい合っただけで、そのキャラ、ファイティングポーズと、バーチャファイターを見ているようだった。に、しても須藤元気の存在はカッコ良すぎで、もう俺妬ましいよ！ 俺と人生代われコノヤロー！

しかし、あんな個性的なファイターが日本から誕生したことを誇りに思います。これからもビッシビシ活躍して欲しい。

そして、最後はなんと言っても、『DEEP』後楽園大会の桜井速人vs上山龍紀。ヤセマッチョ・ドラゴンこと上山選手は、冒頭で書いた『紙プロ』大賞で、俺が個人的なMVPに選んだ選手。桜井選手は一昨年に俺がベストバウトに選んだ選手。どっちも大好きなので、困ってしまった（が、いざゴングが鳴ったら、明らかなマッハ派）。

去年の年末のNKホール大会でのマッハの試合ぶりに、俺も「マッハは終わった」とまでは思わないまでも、大きなショックを受けた一人だったので、この試合もどっちが勝つか予想ができなかった。が、フタを空けてみればマッハの圧勝で驚いた。しかし、この日のマッハが、修斗のリングでは見られない、いきいきした姿に見えたのは俺だけではないだろ。

何でも修斗は他団体に選手が上がることをオープン化していくとかなんとか耳にした。選手のために闘いがいのある舞台を用意してあげることは、団体の大切な役目だと思うので、とてもいいことだと思う。「プロレスとは興行である」という猪木の定義からすると、アマチュア競技として底辺を広げていく理念を持った修斗だけがプロレスではないと言えるかもしれない。その理念は立派だし、修斗は夢を燃やして走る機関車のようなものだと思っているので、頑張ってもらいたい。しかし、アマチュア競技の確立が、闘いがリアル・ファイトであることを支え、プロの華々しい舞台が、アマチュアを目指す者のやる気を支える相互関係が大切であるハズだ。両方が成り立たないとただのマニアックな世界になってしまうだろうから、苦しいだろうが頑張ってもらいたい。

そして、マッハが試合後、木口先生と共に披露した、「ビートたけしのモノマネ」であるが、同じく「たけしのマノマネ」をこよなく愛する者として、よりいっそうシンパシーをおぼえたぞ、コノヤロー！

3・4DEEPでの上山戦。勝利が告げられるとマッハは喜びのあまり塩崎レフェリーを抱え上げた

今月の検証■■ by せき詩郎

ど真ん中とは何か?

大きな川。そこに架かる橋。橋の横には『このはし渡るべらず』と書かれた立て札がある。『橋を渡らずに、どうやって向こう岸に行けばいいのだろう』と誰もが考え込むに違いない。泳ぐか? いやそれはあまりにも危険だ。別の橋を探すか? それは面倒すぎる。ならば諦めるか、それとも誰かに八つ当たりするか。様々な方法を頭の中で思い巡らせることだろう。

だがトンチで有名な一休さんは違った。"はし"という言葉を"橋"ではなく"端"という漢字を当て、"端を渡るな→真ん中を渡れば良い"と堂々と真ん中を歩いたのでる! 一休さんは橋のど真ん中を歩いた。

春の風物詩、カルガモ親子の引っ越し。ニュース等でも取り上げられているのでご存知の方も多いだろう。特に皇居のカルガモが有名だ。彼らは春になると母カモを先頭に道路を渡って池から皇居のお堀へと引越しするのだ。しかし場所は大都会東京。横断する道路の交通量は半端ではない。そこでカモ親子をサポートするためにわざわざ警官が交通整理をする、なんていう光景まで見られたりもする。そうやって周りの人の、恐らくカルガモには全く伝わっていないであろう親切によってカルガモ親子は無事引越しを完了するわけなのだ。

そう、カルガモ親子は東京のど真ん中を堂々と歩いた。

一休さん、カルガモ同様かどうかは知らないが、ど真ん中にこだわる者がもう一人現れた。その名は長州力。「業界のど真ん中を走る」、そう高らかと宣言したのである!

だがその言葉を聞いた時、私はわが耳を疑った。「長州がど真ん中を走る!?」私は信じることができなかった。想像してもらいたい。長州がど真ん中を走っている姿を。黒いタイツ一丁で走ってる姿を。腕を振り回しながら独特の姿勢で走ってる姿を。時折ストンピングをしながら走っている姿を。しかも道のど真ん中をだ。あまりにも滑稽ではないだろうか?

例えばヘルメットを被った自転車通学の中学生が大量にいる田舎の砂利道。その真ん中を長州が走っていたら!? しかも生徒たちとは逆走し、すれ違う自転車を次々となぎ倒し、ストンピングしながら走っていたら!?

また靴流通センターで奇抜な靴を買い、アメリカンカジュアル洋品店で見たことないジーンズを買い、ホームセンターで本人が歌ってないミュージックカセットテープを買い、そしてチェーン店のラーメン屋で食事をしながら、地方の国道の真ん中を長州が走っていたら!?

町工場の慰安旅行のバスのようにパーキングエリアがあるたびに必ず停まり、ホットドックとかあわびの串焼きとかを食べ、目的地に着く前にすでに酔っ払いながら高速道路のど真ん中を長州が走っていたら!?

道路でなくても良い。金八先生のオープニングに出てくる金八と挨拶をするジョギングしている外人女性。あれがもしも荒川土手の真ん中を走る長州だったら!?

どうであろうか。ど真ん中を走る長州がどれほど面白いものなのか理解していただけただろうか。さあ読者諸君もどんどん想像してもらいたい。ど真ん中を走る長州を! 走りまくる長州を! 長州の走る姿を! 1985年10月13日、北京マラソンで宗兄弟と同タイムで同時ゴールする長州を! 1964年10月21日、東京オリンピックのマラソンを裸足で走る長州を! 24時間テレビで100キロだかを走る長州を! 山梨学院大学のユニフォームを着て花の4区を走る長州を!

さあ、想像してごらん。長州に引退なんかないと思ってごらん。その気になればたやすいこと。WJという団体なんかないと思ってごらん。むずかしいことじゃない。長州に財産なんかないと思ってごらん。君にできるかな? 人はこんな私を夢想家だと言うかも知れない。けれどそれは私一人じゃない。いつの日か君たちも私の仲間になって、長州が走る姿を想像することで世界がひとつになったらいいと思う……。

などと、ジョン・レノンの曲の歌詞を無理矢理引用し、そこから話題をビートルズに繋げ、ビートルズが音楽史に残した功績を述べつつ、そのビートルズが大好きな越中へと繋げる。今回の検証はそんな感じの予定だ。もしろん途中は省略。

(省略後)そういうわけで越中なのだ! 長州が走ってる姿を想像すると面白くなってしまう。つまり長州がど真ん中を走ることはできない。やはりど真ん中を走るのは我らが越中詩郎なのだ!

そんな越中がなんと電流爆破を行うというではないか。相手はあの大仁田。大仁田といえばインディの大御所。越中が維震時代に突然口に出したは良いが、あやふやになったままの『インディ統一』という、斜めに掲げられた目標が今蘇った。大仁田を倒せばインディー全体を倒したも同然。数年越しの、しかも途中ブランクだらけの目標が達成だ。まるで何十年もかけて放送大学を卒業みたいな感慨深さがそこにはあるではないか。しかも大仁田は国会議員。「権力と闘うワーキングクラス(顔が)」みたいなカッコいいテーマも産まれてしまう!

そしてやはりなんといっても爆破だ。確か越中は爆破マッチの経験はないはずである。年齢から考えて戦争による空襲も知らないはず。また早朝バズーカで越中が起こされたこともないはずだ。クイズで間違ってアメリカ軍のヘリに爆撃される越中も見たことがない。越中はいままで爆破とは無縁の生活をしてきた。つまり越中にとって初の爆破ということになる。

このニュースを聞いた時、誰もが真っ先に頭に浮かんだであろう映像、ジャンピング・ヒップアタック失敗からの自爆。かなりの確率でこれはあり得ると私は考えた。下手するとテキサスクローバーホールドでの爆発だって大いにあり得る。今まで行われてきた電流爆破マッチでは決して見ることのできなかった光景が次々と浮かぶ。初物尽くしで、慣れていない分だけ次々とハプニングが起こり、そんな偶然が史上稀に見る不思議な試合になることは確実なのだ。いやが応でも高鳴る胸、&中年太りとしか思えない腹、階段の上り下りがきつくなった足、風邪でもないのに咳が出る気管支、遠くのものも近くのものもかすんで見える目、悪口だけは絶対に聞きのがさない耳。私の体全体が越中の試合を待ち望んでいた。

そして当日。会場に着くまでの間、私は何度も震えた。武者震いか!? いやただ単に寒いのだ。天候は雨。おまけに気温は低い。マグマでもなんでもいいから暖かいものが欲しかった……。

と、今回は越中の試合のレポートを書くつもりが、関係ないことを書きすぎスペースがなくなってしまったようだ(自己判断)。そういうわけで続きは次号で!

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

先日、なぜか田中正志先生が頼んでもいないのに書評を送り付けて来るというテロ行為を『紙プロ』編集部に敢行してきたわけなんだが、せっかくだから田中先生の書評（手直し済）を掲載した上で、その書評をボクが評することに緊急決定！　そんな出版史上稀に見る書評評コーナー……になるはずだったが、やっぱり田中正志先生の書評ではどんな内容なのかサッパリ伝わってこなかったから、いつものように書評もしてみま～す！　〈e-mail:go@kamipro.com〉

◆田中正志のシュート活字書評

『拝啓ミスター高橋様　ターザン山本様　暴露と闘え！　プロレスLOVE』（山口敏太郎／コスミック／1300円）

「書評に値しないものは載せない」吉田豪方針により、トンデモ・プロレス本を笑う役目が補欠に回ってきた。表紙には大きく「**拝啓　ミスター高橋様　ターザン山本様**」と印刷されている。『紙のプロレス』読者が読むに値しない、昨今の暴露本人気に乗った便乗企画のひとつであることは紹介しておきたい。

さんざん他人様のコンセプトを引用して、コメントらしき批評で再構成しただけの安易な作りに終始している。シュマーク（舞台裏の仕組みをわかってプロレスを楽しんでいると思い込んでいるだけの自称マニア層）による、シュマーク救済を目的とした作品なのだそうだ。

プロローグは「**プロレスファンよ　暴露本に立ち向かえ！**」と共闘を求めているが、事実誤認のオンパレード。1章は高橋本の分析から入ってるが、「**関係者暴露の発端が力道山vs木村政彦の真相**」という小見出し項では「**（なにが厳流島の決戦だ。てめえのほうから挑戦しておきながら、これはなんだ！　八百長のお願いじゃないか！）力道山は怒りでうちふるえた。（ドローで賞金75万円をせしめる気だったのか。おれが再戦を承知すれば、木村政彦は再戦で負けても45万入る。しめて120万円かせごうという寸法だったのか）**」と、その部分（モノローグ）が力道山の当時の考えであったかのように書かれてある。いや、確かに150万円の優勝賞金がこの日本選手権試合用にアングルとして公表されたのだが、ここで著者はプロレスの賞金というギミックすら不勉強なことがバレてしまっている。誤解なきよう。シロウトさんの書くプロレス論が面白い場合もあれば、すべての裏を知り尽くした業界記者が書いた単行本がつまらないケースもありうる。だから好きに書いてくれて情報が間違っていても面白ければ文句はない。ただ作品のテーマが過去の〝暴露本〟を次々にマナ板に載せて寸評する以上、著者本人にそれらの暴露本を上回る独自のプロレスLOVE論の中身が伴ってないなら、企画内容とライターの選択があってないことになる。

高橋の旧作『プロレスラーになる方法』を引き合いに、「**後輩をその業界に誘導するような本を書いておいて、その業界を壊しちゃうようなことを言う**」と厳しい。しかし、高橋は「今のままの騙しのビジネスを続けても、マット界のパイは縮小する一方だ」と心底心配したからこそ構造改革の必要性を書いたのであって、業界を壊すどころか、長期的には意識改革における多大な貢献をしたハズだ。それに十万部も売れた大ベストセラー作品を「**タイミングが悪い、只でさえ不況なのに**」と珍妙の理屈で批判する箇所は失笑もの。あの本以上にグッドタイミングだった企画なんかあるのだろうか？

最大のミスは故・門茂男に関する記述だ。門本人は典型的なマークとして業界に入り、長らくリングサイドで試合を見ていながら、かなり後になるまで気がつかなかったオクテ型として有名な日本プロレス協会のコミッショナー。ようやく勝者の認定書には最初から力道山の名前だけ書かれたものが一枚用意されている舞台裏に気がつくと、悪い意味での暴露を原稿にしてしまったタイプになる。今回の企画で取り上げられている「暴露本」の定義に当てはまる作品だ。

そうやって後天的に仕組みを教えられる形で知った者のなかには、破廉恥なケーフェイを書いてしまう傾向があり、業界用語ハイスパート（ハイスポット）の意味を聞き違えて覚えてしまったことを筆頭に、門の記述にいかに間違いが多いかは多数のスマートが20年前から詳細に指摘してきている。にもかかわらず、どうやら著者は門の間違いをそのまま継承してしまった。

まして85年、板坂剛の「カミソリで切って不正流血したブルーザー・ブロディー」などというのは、そもそも取り上げる価値すらない代物。日本のファンが遅れていることの象徴として語り継がれてきたのに、著者は「**凶器使用や不正流血はやめるべき**」との主張を展開されている。「流血の回数が多すぎる。一年に一回とかたまにやるから新鮮」という苦言なら賛成するが、業界用語ジュースがマット界からなくなることなんかありえない。著者はAIDS問題や女性客への配慮を訴えているが、それなら女性客を優遇している闘龍門に行けばよい。お客様の楽しみ方は様々であり、流血デスマッチが好きなファンもいるという現実を尊重すべきだろう。

本の中編は「**ターザン山本とマスコミの功罪**」「**猪木・佐山・前田・橋本のそれぞれの格闘プロレス**」といった章タイトル。活字プロレスを批判しておきながら、どう読んでもどっぷり活字プロレスに浸かっているオタクにしか読めない。たとえば「**要するに日本人にはプロレス＝あやふやな存在→カミングアウト＝エンタテインメント宣言で人気爆発という図式がどうもしっくりこない。そんな民族的本質をアントニオ猪木は見抜いた。だからプロレス→『アート』という日本流の新解釈を提示したのでしょう**」など、海外暮らしが長かった者を驚かせる曲解まであった。どうも日本人は自分たちだけが特殊な民族で独特な価値観を持っていると信じ込むことが大好きなようだが、北米でもプロレスは「アート」と定義されており、ビンス・マクマホンによる89年のエンタテインメント宣言より前だって、プロレス芸術論は世界標準の考え方だった。ガチンコ大会から最も残酷で過激なデスマッチまで、世界で一番幅の広い客層で知られる日本市場なのに、どうして「**日本とアメリカは違う**」にこだわるのだろう？　同じことは次の一節にも如実に現れている。

「**プロレスを居心地の良い予定調和、勧善懲悪の物語の世界として楽しむスマートな楽しみ方と、予定調和が崩れ騒乱状態になるデンジャラスな部分を楽しむという〝背徳〟チックな興味と、ふたつの部分を兼ね備えてプロレスを観戦している。前者の楽しみ方は米国にもあるものだが、後者の楽しみ方は『村松以降～週刊ファイトの井上編集長～週刊プロレスのターザン山本編集長』の流れで生まれた日本固有の味わい方である事は事実である**」と、書いてあるのだ。あれ？　北米にうじゃうじゃいる日本マニアが、こんな乱暴な解釈を聞けばどう思うだろうか？　なんで日本だけが固有だと書けば喜ばれるのか、そっちの思考回路は確かに日本人独自の奇妙な定義好きが原因かもしれない。

あやふやな記述は猪木の議員時代にも及ぶ。講演中に暴漢から切りつけられた事件だ。当事者が口を割らないまま告訴もなく事件としては迷宮入りだが、大人のファンの解釈は違ったものであったことを著者は知らないようだ。

最終章は「**新しいプロレスを〝ルール化〟〝数値化〟せよ**」という、とんでもない提言のクライマックスに突入する。なにしろオフェンスポイントの項目ではディープインパクトが3点、オフェンスマイナスポイントではビッグミステイクも3点、エントランスポイントではスタイリッシュだった入場シーンに3点、ユニークなのは1点など、それでお客様が試合を見ながら点数をつけるのだそうだ。

この結論は、シュマークによるプロレス・ファンタジーへの逃げ道であって、著者がこの作品で何を訴えたかったのか謎は残ったままだ。

「**シュート活字をわざわざ啓蒙して歩く必要はない。知りたいものだけが読めばいい。情報開示を要求しない自由だってある**」とのことだが、果たしてそんなノンキな態度でマット界の地盤沈下は食い止められるのだろうか？

大人の楽しみ方に染まりたくないグループに、無理矢理「真実の方がより深くジャンルを愛せるし永久に卒業しなくてよいから」と布教して回る予定はないが、スマートが既存の活字プロレスを購読しているとは到底思えない。それでいて、シュート活字専門誌が存在していない不幸によって、どれだけ業界全体のパイが縮小してしまったことだろう。本書にははっきり「**『カミングアウト』して『エンタテインメント』として堂々とソープオペラとして運営するのが生理的にダメな人々とどうやって折り合いをつけるのか？**」と、問題提起されている。しかし、生理的にダメな方々はどのみち数年間だけ熱中して冷めてしまう組を指しているので、折り合いなんか時間の無駄だろう。それよりこれまでプロレスに興味がなかった層に、あえて舞台裏の真実から楽しむ（長続きする）観戦法を提案するほうが、はるかに人気回復のカンフル剤効果が高い。それが日米逆転劇とアメプロ90年代躍進の正体だったのではなかろうか。

どうも著者は、自身がシュマークでしかないコンプレックス

から抜け出せず、具体的なマット界の改善策も提示できてない。極めて非現実な数値化による勝敗を採用する団体はひとつもないだろう。

◆吉田豪のウォーク活字書評

自分ではゲバラのつもりらしいが、ビジネスチャンスと見れば他人の褌でいくらでも相撲を取るため、同じゲバでも世間からは銭ゲバだとしか思われていない男・ターザン山本。

これは、ミスター高橋の『流血の魔術　最強の演技』の便乗本をリリースしたターザンの使い古した褌でさらに相撲を取ろうとしたら、なぜか勝手に褌が取れて負けを宣告されちゃったような、安直かつあまりにも低レベルすぎる便乗本である。

プロレス系の飲み屋で、ものすごく浅いプロレスファンから酔った勢いで事実誤認だらけのつまらないプロレス論を聞かされるような内容だと言えば、大体の想像は付くはずだろう。

なにしろ、「暴露と闘え！」とのテーマで本を出しておきながらターザンの便乗本すらろくに読みもせず（少なくともパート2に関しては確実に未読のはず）、『紙プロ』の引用は多いのに〝高橋本〟以前＆以降にやったミスター高橋インタビューも読んでない時点で問題ありすぎなんだが、それだけではない。

なんと石井館長の逮捕や森下社長の自殺にまで触れるほど期日的に余裕がありながら、**「（ミスター高橋は）内幕暴露本Part2の『マッチメイカー』を発売したそうです」**なんて他人事のように書き、それすら読んでいないことをあっさり告白しているほどなんだから、もはや完全にライター失格なのだ。

一体この作者は何者なのかと思えば、プロフィールによると学研『ムー』のミステリーコンテスト受賞者でありそっち系のHPも主宰しつつ、新生『ゴン格』の読者ページの一角でひっそりコラムを書いている「妖怪ライター」とのこと。

しかし、ボクに言わせればそんな彼の考え方自体が最大のミステリーなのであった。『ムー』以上に子供騙しだよ！

高橋本がリリースされたとき、なぜか彼は格闘技系の仕事もほとんどしてないのに一人で悩み抜いていたのだそうである。

「随分悩みました。確かにミスター高橋問題に触れない方が、無難な生き方ができるかもしれない。へたにふれる事で逆に『こいつは結果的にミスター高橋本の宣伝を宣伝をしている（原文ママ）。だからこいつもミスター高橋氏と同じように黙殺すべきである』というふうにライター業界でつまはじきにあうかもしれない」

「長いものには巻かれろ。調和をもってこそ社会人だ。心の中での暗闘は続きました。確かにこの場合、『臭いモノに蓋をする』のが素晴らしい生き方かもしれない」

は？　ミスター高橋同様に「黙殺」されるって、もともと注目すらされてないライターに対して黙殺するも何もないよ！

明らかに考え過ぎの被害妄想であり、それでも**「本当に言いたいことは言うべきである」**と決心してこれを出したらしいが、文字通り「へたにふれる」程度の内容なら出さない方が良かったとボクは思うのであった。むしろ、ただ不快に思われ**「ライター業界でつまはじきにあう」**確率が高くなるだけなのだから。「『ピーター』という愛称はなんでなんでしょう。どうもピーターラビットを想像してしまい、吹き出してしまいますね（笑）」

こんな調子で「（苦笑）」「（爆笑）」「（泣）」などのカッコを多用して感情表現しながらも、まったく笑えないどころか読んでるこっちが苦笑したくなるようなことばかり書き続ける彼氏。

ピーターを否定するのかと思えば、**「真面目な高橋氏の事であるから、本当にプロレス界の未来のために『エンターテインメント化』した方が良いと思ったのであろう」**と言い出したりで肝心の主張すらも隙だらけだったことは、ピーターの警備会社設立計画が頓挫した件（＝暴露本を出版した最大の原因）についてこう結論付けていることからも容易にわかるのであった。

「藤波は社長として、未挑戦の分野への進出を慎重に見送ったのでしょうね。（略）経営者藤波社長の慎重な経営手腕は、非難されるものではないはずではないでしょうか」

は？　藤波が慎重だって？　わずか8文字の間に**「ない」**を連発する悪文も問題だが、こうしたピントのズレた話を繰り返して、**「私のようにファン上がりのライターにすらわかる事です」**と言い張る姿勢自体が大問題だよ！　妖怪のことはわかってるのかもしれないけど、プロレスは全然わかってねえじゃん！

そして最後は、これからのプロレスは**「受けの美学」**や**「セールの巧さ」**といった**「暗黙の了解」**的要素をポイント制で採点すればいいとの発狂した主張をブチかますんだが……お前、全然暴露と闘ってないよ！　フルタイムで闘い得点を争うようにするから**「ジャブ＝負け役」**や**「ウォーク＝八百長」**もなくなるってことだけど、それじゃ何の解決にもならないって！

この本の帯には**「暴露本をさらに暴露する本」**と書かれているが、結局は何一つとして暴露できちゃいないという稀代のダメ本なのであった。本来なら書評する必要もなし！

で、最後に田中正志先生の書評について。

実際に会ったことがある人にだけは評判がいい田中先生ではあるが、ネットなどでは普段の腰の低さとはかけ離れた狂暴性を剥き出しにして全方位に噛み付きまくるナチュラルヒールとして活動し、一部で大いに嫌われまくっていたものである。

それなのに、どうしてここまで格好のターゲットが現れたときに限って、やけに大人しい文章を書いてしまうのだろうか？

しかも、文章にはいつもオチがないし、ことあるごとに「北米では」と引き合いに出すから「お前は一体何人だ！」と思わずザ・スターリンの遠藤ミチロウばりに叫びたくなるのだ。

アメリカでは云々って、そんなのはもうどうだっていいよ。大橋巨泉じゃないんだから。「ワタシの国では」なんて比較論は、フランソワーズ・モレシャンにでも任せておけばいい。

まあ、この人はいつでも自分の主張（日本特殊論は間違いだの、シュマークは悪だの、北米では常識だの）を繰り返すだけなのでそうなるのもしょうがないんだが、ボクは中途半端な暴露便乗本を出すような輩に対して、本物の暴露を見せ付けて欲しかっただけなのである。「拝啓田中正志様　暴露で闘え！」。

いま、マット界はこの男を中心に回っている!!

マット界の未来への扉はこの男が開く!! 新日本の大会場でメインを張り、ZERO－ONEで小川直也と乱闘を繰り広げ、ノアのリングでも大暴れ。声がかかれば『猪木祭』だろうと『PRIDE』だろうと出撃を厭わない。『週刊ファイト』には「年収1億円」と書かれるなど、リング内外で話題を提供し続ける快進撃は目覚しいものがある。巨大な肉体と明晰な頭脳を通行手形に団体間を自在にアクセスする、真の意味で「業界のド真ん中」な存在だ。そんな道なき道を切り開くノーフィアーな姿勢こそ、マット界の未来への扉を開く鍵ではないのか? ベルトとタイツを持って全米を転戦していた古き良き時代のチャンピオン像がダブってくるNWF王者・高山善廣の言葉をいまこそ聞け!! 痛快な言葉の数々は暴言のようにも聞こえるが、じつは至極まっとうな正論だ。

高山善廣

あらゆるリングにアクセスする第20代NWFヘビー級王者

聞き手／スモーノブ＆堀江ガンツ　撮影／緒方秀美

designed by matsu(Two three)

――え～、NWF王者としては初の『紙プロ』登場となる高山選手なんですが……。

高山 （遮って）取材に来るのが遅いだけじゃないですか（笑）。

――ベルト獲ってから2ヶ月経ってますもんね（笑）。あらためまして、おめでとうございます。

高山 「何をいまさら」って感じだけどね（ギロリ）。

――す、すいません。最近の高山さんはホントにいろんなリングで大活躍中ですけど、やはり、それぞれの団体で違った見せ方は意識してるんですか?

高山 自分の中では違うっていう感覚はないんですけどね。どこのリングで見ても「高山ってああいう選手だよな」っていうのは変わってないと思いますよ。極端な話、『PRIDE』のリングでも、プロレスのリングでもね。見せ方を変えるっていう感覚はなくて、闘う相手も違うから"見せる絵"が変わるっていう感じかな?

――じゃあ、まずリングに上がる前に頭の中で絵を描くわけですか。

高山 そうそう。「あ、これだったら面白そうだな」っていう絵をね。

――ここ最近で、最も印象的だった絵は3・2ZERO－ONE両国大会の大乱闘でしたよね。

高山 あの大人数の中に入るのはどうかなって、一瞬考えたんですけどね。最終的にはマイクアピールして目立ったからいいんだけど（笑）。ああいう乱闘になりそうな雰囲気は事前にあったし、雑魚の中の一匹じゃなくて、雑魚を引き連れる高山になればいいんだなと思って。

――あの乱闘は、いまのマット界の縮図というか、団体の枠がなくなりつつあることを感じさせるシーンでしたけど。あのシーンには、レスラー個人がそれぞれの看板を背負って集まって来たという印象を受けたんですよ。

高山 やっとそういう時代になりかけただけで、まだ団体っていうのはしっかりあると思いますけどね。

――選手個人がそれぞれ独立して、団体というか場に集まってくるようなマット界を望んでるわけではないんですか?

高山 どうだろう? 全部そうなっちゃうと、また面倒くさいことが起こるんだろうけど。僕が現役の間は団体がしっかりあってほしいです（笑）。

――ただ、いままでは総合格闘技といわれてる場で、腕に覚えのある人たちが集まって自分の腕を試してるって感じでしたけど、いまや新日本やZERO－ONEに、いろんな選手が集まってきて自己主張を始めてるじゃないですか? それで熱が生まれてきたんじゃないかと思うんですよね。

高山 まあ、本来はそうあるべきなんですよ。商売としては、そういうものを追求して新しい刺激を生むものが業務上大事なことじゃないですか? やっと団体がファンにサービスをするってことを考え始めたんじゃないですかね。いままでは各団体にしっかりした枠があって、「ウチはこれだけだから!」って決め付けてるような部分があったから。

――つまり、手持ちの駒だけで、広がりのないことをやっていたということですよね。

高山 たとえば、頑固オヤジのラーメン屋が「ウチはラーメン一本だから。他が食いたかったらヨソ行ってくれ」って店をやってるみたいな感じ（笑）。頑固オヤジでも腕が良ければいいんだろうけど、それさえも崩れてきてるのに相変わらず昭和の頑固オヤジみたいなことをやってたからね。それはダメでしょう。

――まずいラーメンしか食えない店って末期的ですよね（笑）。

高山 いまラーメンの話をしながら思い出したけど、お店ひとつでやってて行列が出来るようなところもいいけど、『ラーメン博物館』（以下、『ラー博』）に行っちゃえばいっぺんにいろんなものが食べられますよね。あれはあれでデメリットもあると思うんですよ。でも、『ラー博』に出店しつつも、自分の本店ではしっかりしたものを持ってないといけないから。

――『ラー博』を入り口にして、「じゃあ、今度は本店にも行ってみようか」という感じで、人の流れが出来るといいんでしょうけどね。

高山 うまくやればね。客が『ラー博』にだけ行っておけばいいや」みたいになっちゃったら、それも問題だしね。でも、プロレス業界はそういうのが多いでしょ? 自分の店ののれんをくぐらせようとしたら、客は『ラー博』だけで満足して帰っちゃって。そこは難しいところなんだけど。

――今度、新日本で「5・2東京ドームはプロレスとバーリ・トゥードを二本立てでやる」という方針が決まったみたいですよね。これなんか、新日本という『ラー博』にバーリ・トゥード店がオープンするよう

“王者(チャンピオン)”とは業界を引っ張ること
それが出来ないのなら
他人のパンツでも洗っとけ!!

撮影協力/渋谷ism

な感じじゃないですか？　高山さんはどんなスタンスで関わっていくんですか？

高山　たぶん、僕は（バーリ・トゥードを）やらないと思いますよ。それをやるんだったら向こうのリングに上がった方がいいって思いますね。

——それは何が違うんですか？

高山　僕の存在価値が薄れるんですよね、新日本でそれをやっちゃうと。プロレスのリングではプロレス、『PRIDE』のリングで総合格闘技、もしK—1に行ったらムエタイ・パンツを履くかもしれないし。全部同じリングで見れちゃうと、こっちは商売上がったりなんで（笑）。だから、『Dynamite!』みたいな大会をやられちゃうと嫌なんですよ！　変な話、もう一回『Dynamite!』をやるとして、「K—1ルールで誰かと試合してください」って言われても、僕はやりませんよ。K—1ルールの試合だったらK—1のリングでやりたい。そのへんを僕みたいな人間は特に気をつけないと。

——常に「特別参加」のポジションじゃないと意味がないですもんね。

高山　そうそう。付録のひとつみたいになっちゃうんで。

——高山さんの中に「ここが自分のホームリングだ」っていう団体はあるんですか？

高山　全然ない（キッパリ）。ファンの中にはあるみたいだけどね。俺はそこに上がると、そういうのを感じるんだけど（笑）。

——各団体のファンが高山さんを取り合ってる感じはしますよね（笑）。新日本の2・16両国大会を見た限り、新日本のファンからも信頼を得てるような印象は受けましたけど。

高山　たしかに信頼は得てるような気がするけど。いまはNWF王者だからいいけど、これがもしIWGP王者になったりして、ドンドン防衛を重ねたら新日本のファンもムッとするかもしれないから。去年のG1の準決勝、決勝なんてモロにそういう雰囲気だったし。まあ、僕自身もそういう雰囲気を望んでるし、面白いですけど。

——あくまでも外様なんだと。両国大会では、NWFの防衛戦で相手が柳澤龍志選手でしたけど、高山さんよりも柳澤選手の方が外様という感じですからね。

高山　まだ柳澤選手はプロレスっていうジャンルからの外様なんじゃないですか？

——試合中はもの凄い野次が飛んでましたよね。「プロレスしろよ！」って。

高山　ああ、聞こえてましたよ。それも変な野次ですよね、あそこでやってることは全部プロレスなんだから。そういう野次を飛ばした人の中の「プロレス」っていう感覚じゃなかっただけでしょ。まあ、お客さんを圧倒するようなプロレスは出来てなかったと思うけど。

——でも、試合後のマイクですっかりリカバーしてましたよね。「今日はポンコツ相手ですまなかった！」って（笑）。あれでお客さんの溜飲を下げて、「いくぞー!!　ノー・フィアー!!」で見事に締めてたし。

高山　あのマイクは、宮戸（優光）さんにも褒められましたよ。宮戸さんにマイクアピールを褒められるって、不思議な感じでしたけど（笑）。

——むしろ「マイクなんか」っていう人なのに（笑）。

高山　まあ、柳澤選手にはNWFのタイトルマッチに挑むっていう心構えが足りなさ過ぎたんじゃないかと思うんですよ。タイトルに挑戦するっていうことは、勝ったらベルト巻いてプロレス界を引っ張るってことですからね。それこそ2人（ガンツ&ノブ）みたいなライターの生活まで考えないといけないんだぞって。多分、彼はそこまで考えてないでしょ？　僕は少しずつだけど、そこまで考えてますよ。そういうことも考えないヤツが「タイトルに挑戦させろ」とか言ってんじゃねえよっていう怒りはありますけどね。

プロデューサー？　もし、やるなら5年後にやりたいですね!

——メインを張るとか、チャンピオンになるっていうのは、そういうことですもんね。

高山　そこまでの自負がないヤツは、黙って他人のパンツでも洗っとけって！

——まったく正論ですよね。チャンピオンや団体のトップ張ってる選手が、大一番に向けて発信する情報量ってもの凄く多いじゃないですか？

高山　それを経済的に金額で換算したら凄いことになると思いますよ。スポーツ新聞とか雑誌に同じだけのスペースの広告を取ると考えたら、一体いくらになるんだって（笑）。去年は僕も評価されていろんな賞をもらったけど、ノーフィアーをやり始めた頃から新聞には毎日のように出てたじゃないですか？　それでもベスト・タッグチームに選ばれなかったり、何の表彰もされなかった年もあったんですよね。それで一回、囲み取材の時に「俺はアンタらのために毎日しゃべってるのに、なんで業界を賑わしてるわけでもないヤツがアッサリと賞をもらうんだ!!　毎日記事を書いてるアンタらはどう思うんだよ!?」って言ったことありますよ（笑）。

——業界で最も権威があると言われてる『東スポ』大賞は、記者の投票で決まりますからね。去年の『東スポ』大賞、高山さんは惜しくもボブ・サップに次ぐ2位でした。

高山　まあ、ボブ・サップはしょうがないでしょう。ボブ・サップって名前がつくだけで『W—1』のTV番組がゴールデンタイムにポンっと行っちゃうんだから。プロレス村の人たちが、何をやってもゴールデンに持っていけないのにね。

——多くの人たちが見られる時間に放送されるっていうのは大きいですよね。有名選手が集まって、それぞれが自己主張をして、それがTVで放送されて、資金も豊富なのに、なぜああなっちゃったんだろうって思うんですけどね（笑）。

高山　やっぱりね、安易に考えてるからですよ。K—1も『PRIDE』もそれなりに凄い選手をラインナップしたから成功したわけであって、だからあれだけ爆発したけど。『W—1』に関しては最高のキャラなんて大していないじゃないですか。ボブ・サップ、武藤（敬司）さん、小島（聡）選手、ゴールドバーグ……あと、誰かいましたっけ？

——馳（浩）先生を忘れてます。

高山　う〜ん、最高のキャラとは言えないなぁ（笑）。そもそも『PRIDE』だって最初の方はダメだったじゃないですか。だんだん訳のわからない選手は排除されて、凄い選手ばっかり集まるようになったから安定してきた。そういうことを経験してるはずなのに、また同じことをやってる

柳澤戦は「人にお金を取って見せる"闘い"をしてなかった」と高山。「それは柳澤さんが、ですか？」と聞いてみると「試合をしたのは2人だから、大人な意見を言わせてもらえば『俺の責任でもあるかな』と。ワガママを言わせてもらえば『お前が名乗りをあげたんだから、もうちょっとやってくれよ』と（笑）」。

高山善廣

のは面白いですよね。
—同じTV局なんですけどねぇ。大会後、『W—1』について高山さんはいろいろ厳しい発言をしてましたよね？
高山　べつに厳しくないですよ。何も『W—1』なんて消えちまえ」って言ってるんじゃなくて、「こうした方がいい」ってことを言うことによってプロレスが後世に残れば業界のためになると思うから言ってるだけですよ。
—プロレスを後世に遺すために！
高山　そういう意味で、本気でプロレスをゴールデンタイムに戻そうと思ってる人がどれだけいるのか気になりますね（笑）。各団体にそういう部分はありますよ。
—高山さんの名前も『W—1』の出場選手として最後の方まで挙がってましたけど。
高山　興味はありましたよ。あの時間帯にTVで露出するのはプロレスラーとして大事なことだと思ったし。あの時点で僕はケガしてましたけど、ハルク・ホーガンと絡めるんだったら、出る価値はあるかもしれないって本気で考えましたから。ただ問題は、その時のシチュエーションでしょうね。いくらいい選手が相手でも、とんでもない絡み方をしちゃうと、つまらなく終わっちゃいますから。
—ホーガンも、その部分を気にしてたみたいですね。
高山　そうでしょ？　本来はそういう考え方なんですよ。やっぱり、ひらめく時とひらめかない時って違うんですよ。たとえば『PRIDE』に出る時、対戦候補が『PRIDE』側から来るんですけど、「それは違う」「これも違う」ってチョイスをしていった方がうまくいくんですよね。その相手を見たときに「あっ、この人とやったら、こういう試合になるな」っていう勘が働くじゃないですか？　自分が感じるものが正解だから。
—先ほど「頭の中で絵を描く」っていう話がありましたけど。
高山　そうそう、そういうことです。業界の中にそういうことを考えない人が多すぎるから！　全部をひっくるめて考えられる人がいないと思うんだよなぁ。たとえば、実際に自分がリングで闘ってきた人で、しかも前座を経験しながら最後はメインイベンターになって、すべてを分ってる人ですよね。前座で終わる、中堅で終わる、あるいはエリートでトップしかやったことがない、そんな人ばっかりでしょ？　なおかつ団体を経営して興行の流れが分ってて、世間が何を求めてるか鼻が利く人じゃないとね。

2月20日のアントニオ猪木還暦クルージング・パーティーに高山も出席。ピンクのシャツをアントン総帥にプレゼントした。つかの間の休日も猪木のいるパラオで過ごしたが、現地で闘魂注入は行われたのか!?

—なるほど。いま、パッと思いついたのは猪木さんの顔ですね。
高山　やっぱり限られてきますよ。かといって、そのプロデューサーが正解を出すかというと分らないでしょ？
—たとえば高山さんが、あと10年後とかにそういうことをやりたいという希望はあるんですか？
高山　もし、やるんだったら5年後にやりたいですね。
—5年後ですか！
高山　だって40歳ぐらいで辞めたいもん（笑）。もう5年もないんだけど。今年37歳になるんで。やっぱね、オッサンがいつまでもリングに上がってちゃダメでしょう。
—高山さんって全然オッサンのイメージはないですけどね。
高山　いや、僕もいまはそうだけど、50歳とか60歳とか、下手すりゃチャンピオンになったのが嬉しすぎて「70歳までやる!!」って言っちゃう、そんなマヌケなチャンピオンもいますからね（笑）。そこが彼の良さなんだけど、それじゃダメだと思うんですよね。「生涯現役」っていうのもジャイアント馬場だからこそ許される言葉だと思うんですよ。天然記念物だもん。凡人はやっちゃダメ！　馬場さんと自分が同じだと思っちゃダメですよ。猪木さんはそれが分ってるから「エキシビションでもやらない」って言ってるじゃないですか？
—まあ、タッキーとの余興はありましたけど（笑）。その猪木さんが、高山さんのことを非常に高く評価してますよね。「ベルトを巻いて客を呼べるのがチャンピオンだ」と猪木さんがしきりに最近言ってますけど、高山さんの中にNWFのベルトを巻いてお客さんを呼んでる感覚ってありますか？
高山　わかんないですね、いまのところ。

—でも、実際に2月の新日本のシリーズは各地でお客さんが入ってたらしいじゃないですか？
高山　入ってたらしいですね。「（客が）入ってるなぁ」って、みんな言ってたから。新日本のシリーズに通しで出たのは初めてだから、あまり比較も出来ないんですけど。以前のシリーズと2月のシリーズで何が違うかっていったら、俺がいるか、いないかでしょ？　「じゃあ、客が入ってるのは俺のおかげじゃん」って感じだけど（笑）。
—いまのお客さんが求めてるものを高山さんが提示しているから、ということも言えるんじゃないかと思うんですよね。
高山　プロレスリングだから客が「闘い」を求めるのは当然なんですけど……猪木さんがよく「客に媚びちゃいけない」とか言うじゃないですか？　でも、客には面白いと思わせないといけないわけですよ。客に「面白い」と思わせるために、みんな客の方を向いちゃってるから。客の方を向かなくても「面白い」と思わせることが大事なんじゃないの？
—よく客を手のひらに乗せる、という言い方をしますよね。
高山　そうですね。客の方に自分から行くんじゃなくて、反対の方向に行ったら後から客がついてくるような感じというか。理屈を度外視して、高いチケット代を出させてしまうわけでしょ？　プロレスって、マニアの人は理屈をこねるけど、地方の会場に行くと「うわっ、すげえ！」「面白い！」「また来たいね」って言わせるようなものじゃなきゃいけないと思うんですよ。難しくこねくりまわして考えたら、地方大会で熱なんて届かないですよ。
—いま、ZERO—ONEでも地方巡業にお客さんが入ってるんですよね。「ガ

高山善廣

ファリが来た！」「OH砲が来た！」っていうだけで超満員札止めになってしまうという現象が起こってるんですが。

高山　別に地方をバカにして言ってるわけじゃないんですけど、TVで毎週15分番組とかで面白いことをやってる人がいたとしますよね？　その人が地方に行ってライブをやれば、たとえ同じネタでも客は入りますよ。「TVでやってるあの人が、ここに来るんだ‼」っていうね。だから、OH砲が地方で受けるっていうのは、小川選手のイメージと橋本選手の何とも言えないあの雰囲気が（笑）、分りやすいんでしょうね。しかも、あの2人の対決はゴールデンタイムで放送されたし。

――「この人のこれが見たい！」っていうものを持ってる人が、地方では強いんでしょうね。高山さんの場合は、まずトップロープをまたいでリングインするシーンが強烈ですけど。

高山　こないだ新日本の巡業で感じたのは、僕がロープをまたいだだけで凄い盛り上がりなんですよ。今年に入ってから「ウオーッ！」のボリュームが全然違う！（キッパリ）。

――それがトップレスラーなんでしょうね。昔の猪木さんも、地方大会で何をやるっていうのはなくて、あのガウンを脱ぐ姿を見られるだけで満足でしたからね。

高山　あとは、これ（アゴを突き出して「来い、コノヤロー！」のポーズ）でしょ（笑）。昔は猪木さんのモノマネっていったら、このポーズだったじゃないですか？　それを本人がやってる場面を目の前で見れたら「オオーッ！」ってなりますよね（笑）。みんな闘ってるんだから、トップの選手とそれ以外の選手の違いって、そういう紙一重の部分だと思いますよ。

3月2日のZERO-ONE両国大会では横井宏考と組んでザ・プレデター＆ジミー・スヌーカJr.と対戦。試合で「暴れ足りなかった」という高山は、試合後も客席でプレデターと乱闘。メイン後のリングでは小川直也とも超ド迫力の乱闘！　この日、着火した2つの因縁は、どこで爆発するのか？

――たとえば、新日本では中西（学）選手が足をドンドン踏み鳴らすシーンなんていうのも、見せ場のひとつですよね？

高山　あれは結構盛り上がってるけどね。ただ、あれは明らかに客に対して「カモン！」って言ってるわけでしょ？　それは猪木さんに言わせると「媚びてる」ことになっちゃうのかもしれないけど。難しいですよね。

――じつは、高山さんは来週から、その猪木さんがいるパラオのイノキ・アイランドに行かれるんですよね？

高山　まあ、藤田（和之）選手も一緒ですけどね。

――現地で一体どんな闘魂注入が行われるのか楽しみですね！

高山　いやぁ、遊びに行くだけですよ。ちょうど休みが取れるし、海に行きたいなと思ってたんです。せっかくだから猪木さんもいるパラオに行こうかなって。

――高山さんはここ最近、全然休んでなかったんじゃないですか？

高山　1月30日からずっと休んでなかったですね。新日本のシリーズに行って、4日間空いて、ノアの巡業に行って、ZERO―ONEの両国に出て、また3日間空いて、新日本の開幕戦でしたから。

――凄いなぁ。試合に出てない日も、女子格闘技のTV解説とかやってましたもんね。

高山　何も仕事がなかった日はないですよ。

――でも、これだけタイトなスケジュールの中でZERO―ONEに出場したっていうのは、高山さんの中で「ここには何かある」っていう勘が働いたからなんですかね？

高山　ZERO―ONEとは接点が消えてただけなんですよ、僕の中で。ノアとZERO―ONEも離れちゃってたし。以前からノーフィアーvsOH砲っていうのも頭の中では考えてたんだけど、それも出来なくなっちゃったし。今回は横井（宏考）が橋を渡してくれたんでね。「じゃあ、行くべ」って（笑）。

――さきほども乱闘の話は出ましたけど、小川選手とも乱闘を繰り広げたじゃないですか？　あれを見ただけでも、高山さんとの相手としてOH砲はピッタリでしたからね。

高山　そうですよねぇ……これは、大森隆男とバリバリに組んでる時にやらなくちゃいけないカードだったんですよ。それは残念ですけど。

――ただ、プレデターとのタッグ結成という話も浮上してるみたいですけど、こちらはいかがですか？

高山　今回、闘って、確認したって感じです。だいたい予想通りでしたね。あいつが何かに気付いて、意識が変わったら凄くなるでしょう！

――やはりタッグを組む方向ですか？

高山　うん。いま僕とプレデターとシングルでやっても、そんなに凄くならないと思いますよ。だったら、まず組んで、プレデターを思い切り弾けさせて、それから対戦するんでもいいでしょ？　猪木さんがホーガンを育てて、やられたように（笑）。

――そこまで先の展開を考えてましたか（笑）。

高山　うん、俺がプレデターにやられてしまうというところまで（笑）。そういうことも王者の使命として、やらなきゃいけないと思うからね。業界のトップにいる選手の使命というか。自分を倒す相手を育て

自分を倒す相手を育てることも、業界のトップにいる選手の使命だと思う！

るということまで含めてね。

——いま、そこまで考えてプロレスやってる選手って、なかなかいないと思いますよ。

高山 「よし、よし」って頭なでて育てるんじゃなくて、いろんな角度から刺激を与えて凄いものにしたら、きっと僕のことを超えていくでしょ。そういうのが、ここ最近ないんですよね！ だから、つまんないのかもしれない。

——本来、日本マット界はそれを得意としてたんですけどね。

高山 そういうのが一番面白いのにねぇ。

——高山さんの上の世代って、あまりそういうことをしてこなかったですよね。

高山 いわゆる長州（力）さんの世代？ でも、（ジャンボ）鶴田さんはそれに徹してたよね。鶴田さんがそれをやったから、四天王はあそこまで行ったんじゃないですか？ そういう意味では長州さんや藤波さんが徹してこなかったから、三銃士はそういう意識が薄いのかもしれない……っていうか、猪木さんがいつまでも居過ぎたんでしょ（笑）。

——根源は猪木さんでしたか（笑）。

高山 馬場さんは結構引いてたから。

——長州、藤波がホントの意味でトップになったのは、かなり歳取ってからでしたからね。ちょっと話は戻りますけど、対戦相手としての小川直也にはどんな興味を持っていますか？

高山 興味は昔からあるんですよ。強いのは昔からみんなが知ってるし、闘うとしたらインパクトも大きいし。僕との日本人対決は、いま一番面白いんじゃないかなと。ただ、いま唐突にやるんじゃなくて、持っていき方が大事ですからね。そういう意味での〝ごあいさつ〟をこないだのZERO—ONEでしたわけですけど。

——これが動き出したら、今年の大きな流れになりますよ。

高山 どうなんでしょうね？ そうなればいいですね。あとは期待に応えるだけのものをZERO—ONEが用意できるかどうか、でしょうね。

——やるなら舞台はZERO—ONEですか？

高山 小川選手はZERO—ONEにしか出てないですからね。

——ただ、今年も『LEGEND』があるみたいだし、UFOもいよいよ再飛来するとかしないとか。そういった舞台でも面白いんじゃないですか？

高山 ああ、『LEGEND』が舞台でもいいですけどね、川村社長の凄いパワーでゴールデンタイムに放送されるなら（笑）。

——凄いパワーならありますからね（笑）。まあ、あの日のZERO—ONE両国大会はホントに力のある個人同士がぶつかり合う舞台になる可能性を秘めてたから、そこまで期待感が広がったんでしょうけどね。

高山 あの舞台は、ホントにうまくいけば凄いことが出来そうじゃないですか？ あの日、僕が出場したことによって、他のレスラーが上がってくる可能性も増えるなら、それで業界の熱も上がるし、それでいいと思うんですよ。僕もあっちこっちのリングに上がってますけど、そうやって業界が盛り上がることも考えないといけないと思うから。そういう意味で、あの日のZERO—ONEには行った価値がありましたね。

——ちなみに前日は、いろんな人が集まってきて熱を生むZERO—ONEとは正反対の性格を持つ、ノアという閉じた世界に出ていましたよね。目の前で見た三沢vs小橋はいかがでしたか？

高山 良かったですよ。単純に凄い試合だった。あの試合後にもコメントしたんですけど、「この試合を見ないヤツはバカだな」って。それはあの瞬間に出た言葉であって、嘘じゃない。ただ、TVで見直したら、そこまで言う必要はないかなって（笑）。変に否定するわけじゃないけど、もうちょっと冷静に見られるから。あの試合の盛り上がりは、全日本時代の四天王の試合の盛り上がり方でしたね。悪い盛り上がり方じゃないけど、僕が立つリングの盛り上がり方とは明らかに違う（キッパリ）。

——高山さんがリングに立ったときの期待感っていうのは「これから何が起こるんだろう⁉」っていう盛り上がり方じゃないですか。三沢さんと小橋さんの試合は、ある程度の形は想像できるから、「俺たちはこれが見たいんだ‼」っていう盛り上がり方ですからね。

高山 ある程度、答えの方向が約束された

……たとえば、映画の『007』シリーズを見に行くような感じ（笑）。必ずジェームス・ボンドは勝っちゃうんだけど、「面白かったなぁ」って興奮はするからね。

——何が起こるか分らない状態で熱を生み出してくれるのか、もしくは完全に答えが出てる中でもそれ期待感を持たせるだけのクオリティの試合が出来るのか。最近、プロレスもそういうふうに二分されてきてますよね。

高山　三沢vs小橋戦を見た秋山準が、引いたコメントをしてたのは面白かったなぁ。

——秋山さんは「俺はああいう試合はしない」「出来ないんじゃなくて、しないんだ」と言ってましたよね。

高山　する必要なんかないんですよ。あんなことしなくたって、凄さは出せるわけだから。っていうか、あの三沢さんが花道から場外にスープレックスしてましたけど、あれが僕のスープレックスだったら小橋さんは完全に死んでるでしょうね。ガハハハハ！　ただ、僕の場合はブリッジしても、自分だって脳天から落ちるだけなんでやらないです。冷静に考えれば、意味がないから。場外はあくまでも場外ですよ。

——でも、その場外のシーンが『週プロ』の表紙になってましたよね。

高山　あそこが一番驚いたところだったんでしょ？　でも、一番驚いたところがフィニッシュじゃないっていうのも、つまんないなって思いますよ。たぶん、『週プロ』の佐藤編集長が「場外」を表紙にしたのは、どう考えても『ゴング』が「ド真ん中」を表紙にするから対抗したんでしょう（笑）。

小川選手とやるなら『LEGEND』でもいい！ ゴールデンタイムに放送されるなら（笑）

——あ、なるほど！　「場外」vs「ド真ん中」でしたか（笑）。で、その「ド真ん中」の方は、映像をご覧になりましたか？

高山　テープを手に入れて、第一試合とアックスボンバーの試合だけ見ました。まあ、第一試合は、あの人たちなりにはいい試合をしたんだと思いますけど。

——アックスボンバーはいかがでしたか？

高山　面白かったよ（ニヤリ）。

——純粋な意味で「面白かった」んですか？

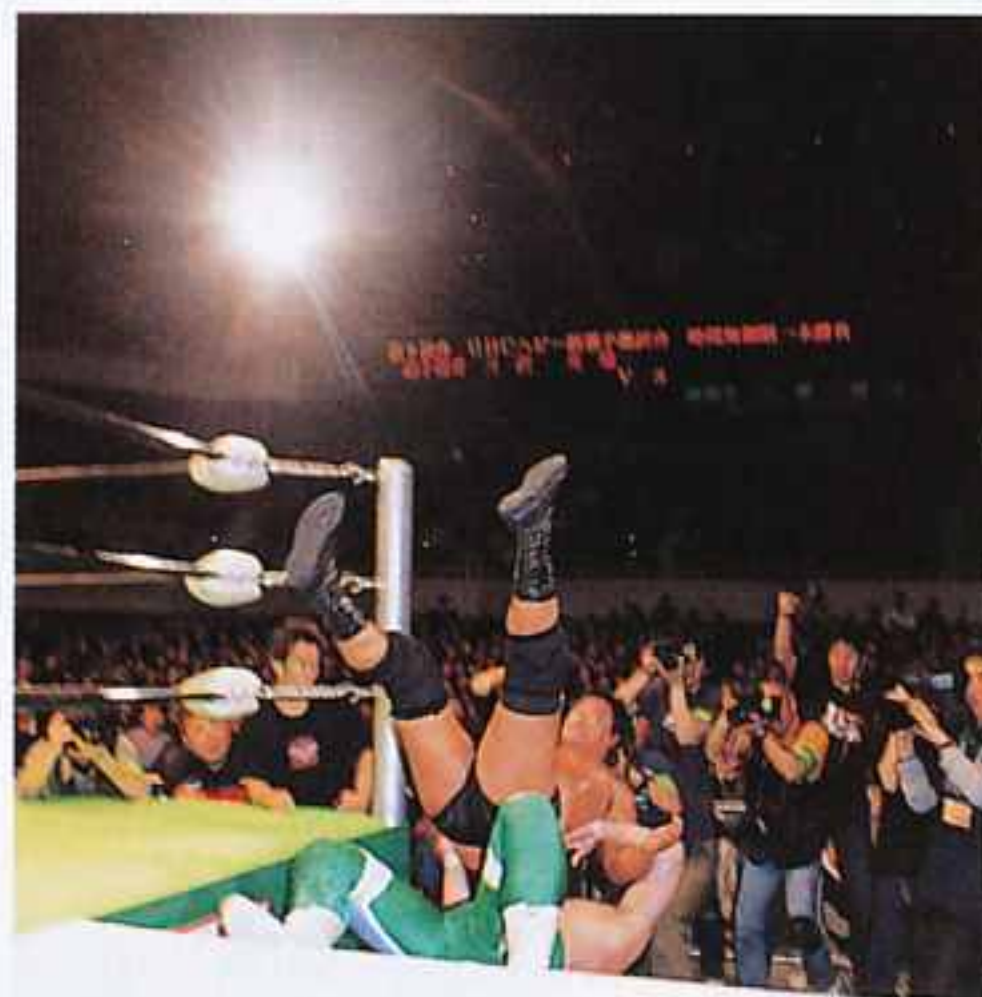
高山　ううん、ヒネくれた意味で（笑）。出番を待つ2人の表情が流れたんですけど、両方とも目が泳いでるから笑っちゃった（笑）。

——緊張してたんでしょうけどね。

高山　そういうのが、俺としては手に取るように分るから（笑）。あそこが試合より何より、一番面白かった。

——以前、高山さんが、大森選手と鈴木健想選手に「ノーフィアーになりきれなかった男たち、というチームを組め」と言ってたのは笑ってしまいましたけど（笑）。

高山　仲良くなれるんじゃないですか、彼ら。同じ匂いがするから、結構いいチームになったりして（笑）。

——そんなチームで何をするんですか？（笑）。

ノアの3月1日武道館大会で行われた三沢光晴vs小橋建太の一戦は、花道から場外へ向けての「殺人タイガースープレックス」が飛び出した。試合は小橋が33分28秒の激闘を制して第6代GHC王者となった。このGHCのベルトに、高山が挑む日も来るはずだ！

高山　2人で傷を舐めあうの。「頑張ろうな！」「はい！」って（笑）。

——健想選手は「WWEに行きたい」って入団会見からカッ飛ばしてましたけど。

高山　ホントにアメリカ行きたいなら、WJに入らなきゃいいのにね。

——いや、その通りですよね。でも、こないだWWEが来た時に、エージェントのジョニー・エースが「日本人で欲しい選手はタカヤマだ」って言ってたらしいですよ。

高山　ああ、その話は聞きましたよ。まあ、当然だろっていうか、長州力風に言えば「なあ、金沢」って感じ（笑）。

——こないだも『ゴング』で、金沢GK編集長相手にそのネタを使ってましたよね？

高山　昔から僕と金原（弘光）さんの間では、Uインター時代からずっと使ってるネタなんですけどね（笑）。長州力のインタビューって、必ずソファーにふんぞり返って、頭のところで手を組んで、「なあ、金沢」っていうイメージで……なんというか、かっこいいよね!!（笑）。

——アハハハハ！　WJの話に戻りますけど、高山さんのような各団体を渡り歩くホントの意味でのフリー・レスラーが誕生してきた一方で、長州力は「業界のド真ん中に行く〝団体〟」を作りましたよね。高山さんの目にWJはどう映りましたか？「またひとつ上がるリングが増えた」という感覚なんでしょうか？

高山　やりようによっては僕が上がるリングになる可能性もなくはないんですけど。まだ分らないですね。ただ、長州さんが団体を作ったというのは、ああしないと自分の居場所がなかったんだろうなと思いましたけど。いままではそんなことしなくても、「俺が長州力だ！」って言えばモーゼの十戒のように道が開けてたと思うんですよ。それが出来なくなったから、自分の団体を作ったんじゃないですか？

——いまやコメントルームでマスコミに頭を下げるという、低姿勢な長州力になってしまったんですけど。

高山　それは長州さんがダメですよね。別にあれを裏でやるならいいですよ。表ではちゃんと長州力じゃないと。そこが長州さんの中でバランスが崩れてる証拠でしょ。「ド真ん中」って言ってる割には、妙に謙虚だなぁって。

——「すいませんねぇ、ド真ん中を通らせて頂きますけど」っていう感じですもんね。

高山　ガハハハハ！　そうそう、そんな感じでしょ（笑）。

——精神的な支柱である長州力が、そんな調子だとWJという団体は厳しいという見方も出来ますよね。

高山　健介選手が、全盛期の長州力のように立ち振る舞えばOKじゃないですか？　それが出来ればね。長州さんが、昔のマサ（斉藤）さんみたいな立場になってね。そういうふうに一段ずつスライドすれば、やれないことはないんですよ。

——長州力は名言が多いですけど、健介選手は失言が多いのが気になりますよね。

高山　何言ってるんですか、健介さんには名言がいっぱいあるじゃないですか（笑）。僕もネタとして使わせてもらってるけど。

——WJになって、次から次へといいフレーズが飛び出してますからね。大丈夫かな

高山善廣

って感じなんですけど（笑）。

高山　ガハハハハ！　それって『紙プロ』的に「いいフレーズ」っていうことなんじゃないんですか？（笑）。

——まあ、それが定着して人気が出ないとも限らないですから。

高山　そうですね、橋本さんみたいな「カッコつけて笑われる」っていう素晴らしいキャラになる場合もあるし（笑）。

——いわゆるＷＪのような〝団体〟というのは、今後厳しくなると思いますか？　まあ、最近だとノアという成功例もありますけど。

高山　ノアが成功かというと……どの時点で成功か分らないですよ。ノアが完璧に成功だと言えるなら、僕がフリーになる理由はなかったように思いますけどね。やっぱりノアには何かがないから、僕はフリーになる必要があったわけで。

——「何か」っていうのは、言葉にはしづらいですか？

高山　何でしょう？　それは考えてください（笑）。

——これは団体というものとは違うと思うんですが、田村（潔司）選手が『Ｕ－ＳＴＹＬＥ』を旗揚げしたんですが、それを初めて聞いたときはいかがでしたか？

高山　ピンと来なかったですね。いまやって、意味あるのかなって。ＵＷＦって競技ではなくて、なんだかんだ言ってもキャラだったと思うんですよ。ＵＷＦが持っていた熱の根っこの部分はね。前田（日明）さんがいて、高田（延彦）さんがいて、藤原（喜明）さんがいて、もっと前には佐山（聡）さんがいて。競技としてのＵスタイルは、どうなんだろうっていう気持ちがあって。田村さんが立ち上げて、総合格闘技を練習してる選手が出るというのは、目新しくて新鮮かもしれないけど、そこに僕が行くのはちょっと違うかもしれない。

——高山さんにとってＵというのは試合スタイルのことではない？

高山　僕にとってはね。試合に出れば、ちゃんとルールにのっとってやりますけど。僕にとってのＵＷＦは田村さんしか持ってないから。最近、上山（龍紀）が上がってきたのは分るけど、彼は総合格闘技というジャンルで上がってきたからね。それは認めるけど、ＵＷＦというものとは違う。あくまで僕の中での感覚ですけどね。

——ファンも選手も、自分の中にあるＵＷＦって全然違うんですよね。だから復活しないんだろうし（笑）。

高山　そうでしょうね。だから、俺にとって上がる意味があるとしたら、田村さんとやる時。それか、多分ないとは思うけど、鈴木みのるさんが上がるとかね。そういうときに面白味は生まれるでしょうけど。『週プロ』のインタビューで田村さんが「（高山を）いまは呼べない」って語ってるんですよね。いい答え方をしてくれて良かったと思いますよ。「あいつは違う」なんて言われたら、ちょっと寂しいんで（笑）。

たかやま・よしひろ■昭和41年9月19日、東京都墨田区出身。平成4年6月28日、UWFインターナショナルの博多スターレーン大会、vs金原弘光戦でデビュー。Uインター崩壊後、キングダム、全日本、ノアと渡り歩き現在はフリーとして、様々なリングで活動中。今年1月4日、NWF王座を獲得。リング外での活動にも積極的に取り組んでおり、3月30日NHK総合19:20～の「新・クイズ日本人の常識」（最終回）に出演する。196センチ、125キロ。

——しかし、高山さんはいろんな媒体に目を通してますよね。情報収集はどういうふうにやってるんですか？

高山　ファンと一緒ですよ。ネットとか、雑誌と新聞には全部目を通して、あとは業界人の噂話が回ってくるんで。

——でも、プロレスラーの中では一番活字を読んでるんじゃないですか？

高山　僕はそんなに読んでないですよ。興味のあるところは読んでますけど、それ以外は全然読んでないですから。他の選手が読まなさ過ぎるんじゃない？　読んでもクソと一緒に流しちゃうんでしょ？

——消化が悪いんですね（笑）。

高山　僕の場合は、ただ読んで「ふ～ん」って思ったら頭に残りますからね。

——それをメモしたり、そういうことはしてないんですか？

高山　ネタ帳なんかないですよ（笑）。猪木さんじゃないんですから。だから、もっといい言葉を逃してるかもしれないけど、こんなもんでいいとは思いますけどね。

——高山さんがシリーズに通して出てる間は、物語がしっかり線になって繋がるから、毎日の新聞を読んでても面白いですよね。

高山　僕の中では、いまはまだ「新春ノーフィアー・シリーズ」の真っ最中ですからね。

——それが3月9日の新日本・名古屋大会で最終戦を迎える、ということでしたよね。

高山　やっと終わりますよ（笑）。

——でも、「新春ノーフィアー・シリーズ追撃戦」は5月2日の新日本・東京ドーム大会まで続いて行きそうですね（笑）。

高山　あるいは「ブラッディ・ノーフィアー・シリーズ」とか「サマー・アクション・ノーフィアー・シリーズ」とかいうタイトルでね（笑）。

——その次は「サマー・アクション・ノーフィアー・シリーズ2」とか（笑）。今年は一年中「ノーフィアー」になりそうですけど、期待してます!!

【3月7日、渋谷ノ－ｓｍにて収録】

※映画『ジェイ＆サイレント・ボブ　帝国への逆襲』の広告にもコメントを寄せていた高山が、同映画のトーク・イベントに出演する。3月27日（木）渋谷シネ・アミューズで、16:00～の回の上映後（17:45～18:15）と18:45～の回の上映前（18:45～19:05）の2回登場するぞ！　ちなみに「ケビン・スミス監督なら『モール・ラッツ』が好き」とのこと。

言っちゃうぞ、バカヤロー!!

コジ、1年ぶりの『紙プロ』登場で赤裸々に語りまくる！　そして、衝撃のカミングアウト!?

BAPE

俺は『ギブUPまで待てない!』が大好きだったんだ!

小島聡

A.P. COZY INTERVIEW

コジ、1年ぶりの『紙プロ』登場で赤裸々に語りまくる! そして、衝撃のカミングアウト!?

3.2両国で炎上! 小川直也戦間近!?

なんだかわからないが、
異常な"熱"を発した3・2ZERO-ONE両国の大乱闘。
その中でもっとも熱くなって燃えていたのが
この小島聡だ。このところ『W-1』の不発、
内部の不協和音と明るい話題がなかった全日本。
背水の陣で挑む対抗戦の主役はやはりこの男だ!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/松本崇　designed by matsu(Two three)

――どうもお久しぶりです！

小島　『紙プロ』のインタビューはホント久しぶりですよね。全日本に来て最初だけ呼んでくれて、あとは用なしの一発屋みたいな扱いだったんで、凄いショックだったんですけど（笑）。

――いやいや、前回のインタビューは非常に好評だったんで、しばらく温存してたんですよ（笑）。

小島　ホントかなぁ。武藤さんは定期的に呼ばれてるのになぁ（笑）。

――ま、あまり深く考えずによろしくお願いします！（笑）。ウチでは1年ぶりのインタビューになるわけですけど、この1年は小島さんにとっても激動の1年だったんじゃないですか？

小島　そうですね。まず（全日本に）移ったばっかりの時がもの凄く順調で、「武藤、小島、カシンが入って地方でもお客さんがいっぱい入るようになった」とか言われて、一気に全日本プロレス自体が活気づいたじゃないですか？

――リングがパッと明るくなったっていう感じでしたよね。

小島　そのイメージがもの凄く強かったんで、去年末ぐらいから急に「全日本は危ないんじゃないのか？」とか言われだした時は、突然だったんで自分でもビックリして、心配になったりはしましたね。

――それはやっぱり試合会場でも感じましたか？

小島　いや、会場のお客さんが少なくなったというイメージはそんなにはないんですよ。ただやっぱり全日本プロレスの″危機説″っていうものが言われるようになって、会社内部の雰囲気が変わっちゃったなという部分は少しありましたね。

――その内部の不協和音がなぜかファンにまで伝わって、より危機説が大きくなってしまいましたよね（笑）。

小島　それは社長である武藤さんの性格が会社にもの凄い出てるからだと思うんですよ。武藤さんってなんにも隠さない人じゃないですか。インタビューにしても、例えば蝶野さんとか天山なんかは雑誌用のコメントで話して、普段自分たちに見せる素の姿っていうのは別の姿なんですけど、武藤さんだけは俺たちに喋ってる時と雑誌のインタビューが全く同じなんですよね（笑）。それで武藤さん自身が「危ねぇんだよ！」って言ってることが自然に伝わっちゃったんじゃないかと。

――社長自ら″危機説″を宣布しちゃったわけですね（笑）。

小島　ただ、あそこまで裏表がないっていうのはある意味尊敬できますよね。俺は絶対、表の仕事の顔と素の顔っていう違うものを作ってしまうから。

――レスラーに限らず、本音と建前、公と私っていうは誰でもありますからね。武藤さんが特別なんですよ（笑）。でも、その全日本内部の不協和音というのも、武藤さんの個人事務所ができたという形で、一応収束した感はありますよね。

小島　そうですね。でも、そうしたら今度は『W-1』の延期が決定したり、なかなかうまくいかないんですけどね。まぁ、いまは「いろいろあるから面白いのかな」って開き直って、明るく乗り切っていきたいですよね（笑）。

「ZERO-ONEは熱いリングだ」と言ったのは、決して「全日本は冷めてる」という意味じゃないですから（笑）

Satoshi KOJIMA

――いま行っているZERO・ONEとの対抗戦っていうのは、そんな状況を打破するひとつの手段でもあると思いますけど、3・2両国メイン後の乱闘&マイク合戦はその突破口になりそうな″熱″を感じましたよ。

小島　あれは俺自身、久々に熱くなりましたね。あの試合はもともと俺が「出る出ない」とか言われていて、ZERO・ONEからもガタガタ言われたりしてたんで、セコンドに付こうかとも思ってたんですけど、試合が変な方向にいってもいけないんで、控え室のモニターで見てたんですよ。でも、試合後の大谷の行動を見てビビッと来ましたね、松田聖子じゃないですけど（笑）。

――あれは″ビビビ乱入″でしたか（笑）。

小島　それでリングに駆け上がって、まず何が自分の目に入ってきたかって言ったら、ガファリなんですよ（笑）。

――なぜガファリなんだ（笑）。

小島　みんな熱くなってる中でガファリが誰かれ構わずビヨーンビヨーンっと飛びついてるんですよね、しかも笑いながら（笑）。それだけはいまだに謎なんですよね。

――まぁ、ガファリはともかく、小島選手から見て、あれだけの熱が生まれたのはなぜだと思いますか？

小島　みんな心のどこかにZERO・ONEの両国だから、2年前の旗揚げのイメージがあったと思うんですよ。正直言って、ボクもあんなふうになったらなっていうイメージはあったんですよね。それがその通りになったんでビックリしたのもあり、面白かったのも有りみたいな。

――自己主張の″場″になっているのが、ZERO・ONEの魅力でもありますよね。

小島　でも、その自己主張の″場″でも武藤さんは自分が試合に出ていたにも関わらず、背を向けてさっさと帰ったんですよね。

――あっという間に帰っちゃいましたよね。

小島　でも、あれが武藤さんの自己主張だったような気がするんですよ。あの場から去ることで逆に存在感が出たじゃないですか。だから頭がいいっていうか、凄いなって思ったんですけど、後で武藤さんに聞いたら「ああいうの嫌いなんだよな！」ってただそれだけでした（笑）。

――ガハハハ！　ただ単に乱闘が嫌いなだけでしたか（笑）。

小島　でも絶対、武藤さん独特の感性で「あそこにいても逆にみんなと同じように見られてしまう」っていうのがあったんだと思うんですよね。俺なんか無我夢中になってしまったんですけど（笑）。

――小島さんがそこまで熱くなれたのはなぜだと思います？

小島　やっぱり「お客さんがもの凄い熱狂している」っていう、あのシチュエーションが自分にとって凄い興奮できるものだったんですよ。それでその後「あの熱いリングで俺も闘いたい」ってコメントしたんですけど、そうしたらネットとかで、「小島はZERO・ONEに入りたいんじゃな

いか」っていう話になってるんですよ（苦笑）。「全日本よりZERO-ONEの方が熱くていいリングだ」っていう意味に勘違いした人がいて、全然そんな意味で言ったつもりはないんですけどね（笑）。

——まぁ、それぐらい3・2は熱かったということでしょう。全日本とZERO-ONEの対抗戦って、やる前は「苦し紛れだ」とか、「単なる交流戦だ」みたいに揶揄されることもありましたけど、いざやってみたら予想以上に盛り上がってますからね。

小島　関わった選手はみんな熱くなってますよ。でも関わるところに行くまでに障害があるというか、（全日本の）フロントの方は俺や全日本のことを考えて3・2両国に俺を出さなかったっていうのはわかるし、凄く感謝もしてるんですけど、やっぱり組んでほしかった。俺は武藤さんクラスの大物じゃないんだから、負けてもいいから出ていきたいという気持ちは強かったですね。

3・2ZERO-ONE両国でのマイク合戦＆大乱闘でも、「橋本、小川！　テメエらまとめて、やっちゃうぞバカヤロー！」のキメ台詞で堂々存在感を示した小島。はたしてvsＯＨ砲は実現するか!?

——大谷さんなんかは、そういう状況なのをホントはわかってるクセに「小島はなんで出て来ないんだ」とか「全日本ナンバー2の嵐はどうした?　下っ端は引っ込んでろ」とか挑発してきますしね（笑）。

小島　そうなんですよ。だから余計、大谷の挑発に最初は熱くなって言い返してたんですけど、いまはもう「ダメだ、口ではかなわない」って諦めました（笑）。やっぱり大谷のプロレス頭っていうのはプロレス界の中でもホント最高レベルだと思うんですよ。コメントの出し方一つにしても、試合中の喋りにしても凄いウマいですよね。俺なんか臆病でカッコつけしいだから、「悪く思われたら嫌だな」って思って、どうしても良い子ちゃんなコメントを出したりしちゃうので、大谷のプロレスに憧れる部分はありますね。

——アラッ、大谷さんに憧れてましたか（笑）。その憧れの大谷コメントに、ZERO-ONEは中村（祥之）部長まで加わってましたから、このハンディキャップマッチはキツいですよね（笑）。

小島　そうなんですよ。全日本のフロントで強気なコメントを出す人はいないし、武藤さんも口で勝負するような人じゃないじゃないですか。だからそういう部分が全部俺のところにまわってきて、マスコミの人もなんかあると「こんなこと言ってましたよ」って振ってくるんで、コメントのアイデアが尽きちゃうんですよね（苦笑）。

——まぁ、その大谷&祥之コンビに散々言われた3・2の武藤&嵐組でしたけど、結果的にはこの組み合わせで正解だったと言えるほど盛り上がりましたよね。

小島　そうですね。やっぱり対抗戦って〝化ける人〟がいなきゃダメだと思うんですよ。そういう意味でも今回、嵐さんがいい感じで上がってきたので、それは対抗戦のいい効果だと思いますね。

——これまでスポットライトは当たりませんでしたけど、嵐さんの実力はディープなファンだったら誰もが認めてるところですからね（笑）。

小島　そうそう、コアな人には大人気だか

ら（笑）。その実力が表にでるキッカケをくれたのは対抗戦だったと思うんですよ。だから両国は嵐さんの良さも凄く出てたし、大谷は大谷で受けっぷりの良さがあって、橋本さんも攻めっぷりの良さがあって、そう考えると大谷、橋本コンビって凄いバランスが取れてるんですよね。

——「攻め」と「受け」のスペシャリスト同士だから、確かにそうですね。

小島　やっぱり大谷と田中選手が評価されてる理由って受けっぷりの良さだと思うんですよ。田中選手とも最近やり始めましたけど、俺がやったラリアートでもバックドロップでも、もの凄い受け身を取るんですよね。あの受けっぷりは最上級ですよ。

——だからこそ、大谷＆田中組は誰とでもいい試合ができるわけですよね。

小島　その受けっぷりの良さっていうのはプロレスラー独特のものだと思うんですよ。他の格闘技で受けが凄いからって別に評価されないじゃないですか。プロレスだからこそ凄い評価されるわけですよね。

——小島選手もそういう部分で評価されてるんじゃないですか？

小島　いや〜俺はねぇ、まだスペシャリストまで行ってないですよ。だから大谷・田中とはどんどんやって、思い切り攻めて、思い切り受ける試合をやりたいですよね。

——いま小島さんが新聞紙上でやりあってる小川直也選手は、そういう意味では大谷＆田中とまったく逆のタイプだと思いますけど、小川選手の印象はどうですか？

小島　あ〜、小川さんの話が来たらイヤだなと思ってたんですけど（笑）。俺にとって小川さんっていうのは、橋本さんとの一騎打ちのイメージがいまでも焼きついてるんですよ。

——あの〝1・4〟ですか？

小島　はい。実はあの試合の直後って俺たちの試合だったんですよ。

——あ、そうでしたっけ？

小島　みんなあの試合の印象が強すぎて誰も覚えていてくれないんですけど（笑）、俺と天山が組んで、天龍さんエッチューさんとのＩＷＧＰタッグ戦だったんです。だからあの試合の最中は、天山と俺でバックステージで出番を待ってたんですけど、試合が終わってもザワザワしていて、自分たちが入場しても誰も俺たちのこと見てないんですよ（笑）。それで「おかしいな」とは思ってたんですけど、後でじっくりビデオを見たらそういう試合だったんですよね。だからあの時の小川さんの印象が凄く強くて、いまでも強くて怖いっていうイメージがボクの頭の中に残ってるんですよ。

——ただ、その１・４のイメージがあるにも関わらず、いまの小川さんはあまり怖い部分が見せられてない部分がありますよね？

小島　それは小川さんにとっていいことなのか悪いことなのかわからないけど、最近の小川さんの試合を見てると「プロレスが凄く好きなんだな」っていうのが伝わってくるんですよね。実際、大谷とかとも試合をしてるし、こないだもトム・ハワードとアメプロの雰囲気が出た試合をしてたし、そういう意味ではプロレスの奥深い部分に入って来てるっていうか、プロレスだったら俺の付け入る隙もあるんじゃないかって。

——「付け入る隙」どころか、プロレスラーの評価としたら、ある意味、小島さんの方が上じゃないですか？

小島　いや、確かに俺のキャリア、小川さんの10倍以上試合してるっていう部分で勝ってるところはあると思いますけど、例えばＯＨ砲と武藤＆小島がやった場合、やっぱり俺一人だけ格落ちしますよ。それに小川さんは元柔道世界チャンピオンっていうネームバリューがあって、プロレス界でも一目置かれてる存在だし、俺なんか高校で柔道やってたんで当時から憧れてた部分がありますからね（笑）。

高校柔道地区大会3位の俺だけどプロレスなら小川さんに負けない

——大谷さんに続いて、小川さんにも憧れてましたか（笑）。

小島　小川さんは年齢でいうと俺の一つか二つ上なんですよ。だからちょうど俺が高校で柔道やってたころ、小川さんは19歳で世界チャンピオンになって、柔道界のホントのスーパースターでしたからね。そのとき俺の成績はというと、個人で地区大会3位が最高ですから（笑）。

——世界チャンピオンと地区大会3位だと、さすがに格は違いますね（笑）。

小島　もう名前を出すこともおこがましいですよ。だから3・2両国は地区大会3位とオリンピックのメダリストがリング上で対峙するということだけで、俺は凄い感慨深かったですね。だって柔道やってた人だったらわかると思いますけど、小川さんって全日本大会レベルの人でも「顔じゃねぇ」っていうくらいの人ですからね。そんな人が相手でもプロレスのリングに上がれば対等に近い立場ですから、もし小川さんと試合が組まれたらやっぱり嬉しいですよね。

——そこまでリスペクトしてましたか（笑）。

小島　まぁ、あんまり褒めすぎてもしょうがないんで、ちょっと毒を吐かせてもらうと、プロレスラーとしての小川さんには、ひとつ決定的に欠けてる部分があると思うんですよ。

——ほう！　それはゼヒ聞かせてもらいたいですね。

小島　小川さんのプロレスって「喜怒哀楽」で言うと、「喜怒楽」はあるんですけど、「哀」がないんですよ。なぜ「哀」がないかと言うと、プロレスラーってやっぱりやられてやられて、そこでお客さんが感情移入するところってあるじゃないですか？　それがないんですよね。

——あ〜、それは確かに言えますね。

小島　小川さんに言わせたら、「強すぎるからしょうがないだろ」って言うかもしれないですけど、プロレスだからこそ「哀」の部分って重要だと思うんですよ。だから例えば小島聡も小川直也も知らない、なんの先入観もない人に「小島聡の試合と小川直也の試合、どっちが心に残りました？」っていう質問をしたら、自分の試合の方が「心に残りました」って言わせる自信はありますよ。それはなぜかと言うと、俺は「喜怒哀楽」を表現してるけど、小川さんは「喜怒楽」しか表現できてないっていう、その部分だと思うんですよね。

——考えてみれば、小川さんが憧れてるハルク・ホーガンとか師匠の猪木さんって、その「哀」を表現するのが抜群に上手いんですよね。だから小川直也が猪木、ホーガンになれない部分はやっぱりそこですよ。じゃあ、この場で小川さんに「お前の足りないものをリング上で教えてやる」って挑発しときましょうか？（笑）。

小島　それはどうかなぁ（笑）。試合自体がどういうふうに噛み合うかっていうのが全く予想がつかないけど、やれば俺も熱くなるし、小川さんも熱くさせる自信はありますよね。ま、小川さんに関してはそんな感じです（笑）。

——では、もうひとり3・2の乱闘に参加した大物に高山善廣選手がいますけど、高山さんについてはどう思いますか？

小島　高山選手も日本プロレス界の一番の広告塔みたいな存在になってますけど、ボクは高山選手と昔から面識があるんですよ。

Satoshi KOJIMA
BAPE.

Zeppツアーでは Tシャツ目当てでくる プロレスに興味がない 人たちを開拓したい

——新日本vsUインター対抗戦のときですか？

小島　いや、もっと前ですね。95年に俺がドイツに海外遠征してたときに一回、高山選手もドイツで試合をしたことがあるんですよ。確か高山選手はトニー・セントクレアーとやっていて、自分の相手は忘れましたけど、同じ興行に出て会ったことはあるんですよね。だから全く触ったこともないっていうことでもないんですけど、あんなに大きくなった高山選手とはやってないんで、ゼヒやりたいですね。やっぱり高山選手もプロレスラーとして頭がいいですよ。3・2の乱闘のときも、真っ先に小川さんに突っかけていきましたからね、俺もそれを見た瞬間、「あ、これは！」って思いましたから（笑）。

——乗り遅れちゃいけない、と（笑）。

小島　それで俺も「ワー」って突っ込んでったんですよ。その輪に入ればカメラに収まるんじゃないかって（笑）。でも、新聞に載ったのは高山選手が小川さんに突っかけて行った時だけで、俺は無理矢理割ってはいるように手だけが入ってました（笑）。

——そういう〝目立とう合戦〟が見れたから3・2の乱闘は面白かったんだと思いますよ。マイクも皆さん最高だったし。特に橋本さんの「俺もいっちゃうぞバカヤロー！」は爆笑しましたね（笑）。

小島　いや～、あの時はさすがにカチンときたんですけど、あとでVTRを見たら俺も笑っちゃいましたね（笑）。

——いまプロレス界に必要なのは、3・2で感じたような明るさというか、熱だと思うんですよ。ファンもそういう熱があるところにチケットを買っていきますよね。

小島　だからレスラー自身が本気になって熱くなるから、お客さんも熱くなってくれると思うんですよね。レスラーがどこかで「これは仕事だからな」って冷めた部分を持ってたら観てるお客さんもきっと冷めちゃうと思いますよ。

——ということは『W-1』は格闘家が「これは仕事だから」と思ってたから、熱が伝わらなかったんですかね？（笑）。

小島　『W-1』もねぇ……。

——『W-1』の話になったら急に言葉少なになりましたね（笑）。

小島　いや、総合格闘技の選手も一生懸命、本気になって取り組んでくれたとは思うんですよ。でも、あの場に出てきた選手って、みんな総合格闘技のビッグネームばかりじゃないですか。そういう人がプロレスをやる場合、いままで培ってきて体で覚えてる格闘技の動きが逆に邪魔してしまう部分もあったんじゃないかと思うんですよ。だからボクが新日本プロレスに入門したときも、何もやってない素人のほうがレスリングの全日本チャンピオンが入門した時より受身の取り方とかの覚えが早いんですよね。レスリングの人は自分たちに完璧に備わってる技術があるから、違うものを取り入れる時に自分たちより遅くなっちゃうんですよ。だから総合格闘技の人がプロレスの動きをするっていう部分では似てるのかなっていう気もするんですよね。

——格闘家がプロレスをやるには時間がかかるってことですよね。だから試合については練習とキャリアを積むしかないと思うんですけど、肝心の『W-1』はこれからも続くんでしょうか？（笑）。

小島　続けばいいんですけどねぇ（苦笑）。このまま終わっちゃったら『ギブUPまで待てない！』みたいになっちゃうじゃないですか（笑）。

——すでにその兆候はありますよね（笑）。

小島　でもね、俺は『ギブアップまで待てない』は大好きだったんですよ！（笑）。

——『ギブUPまで待てない！』が大好き！　それは衝撃のカミングアウトですよ（笑）。

小島　いや、別に男闘呼組がコメントしてるとか、なぎら健壱さんが変なことをしてるとかそういうのが好きだったわけじゃないですよ（笑）。

——ということは、何もしない志村香が好きだったわけでもない（笑）。

小島　そうじゃない（笑）。選手の練習風景とか、ちゃんこを喰って座談会をしてるとかああいうリング外のレスラーの姿が見られるのが凄い好きだったんですよ。だから『ギブUPまで待てない！』も苦情が多かったみたいですけど、例えば試合中に突然、山田邦子さんのアップが映るとか、そういうのは途中からなくなったじゃないですか。だから『W-1』も改善すべき部分を改善していったら、絶対に面白くなると思うんですけどね。

──確かに『ギブUPまで待てない！』って後半はいい企画多かったんですよね。『W-1』でも馳先生が格闘家にプロレスを教えてるシーンを流すっていう案もあったらしいですけど、それがあったら全然違ったと思うんですけどね。

小島 それもいいですよね。もちろんおふざけでやってるわけじゃなくて、ホントに真剣に馳さんがプロレスというものを教えて、それを格闘家が真剣に習ってるシーンだったら凄くいい企画だったと思いますよ。

──あと、ゴールデンの番組はダメでしたけど、深夜にやった『W-1』は面白かったんですよね。

小島 そうですよね。なんかゴールデンのほうが逆に力を入れ過ぎちゃってるのかなっていうのも感じました。

──やっぱり、ゴールデンタイムだと「どんな方法を使ってでも視聴率を取らなければいけない」っていうのが強すぎて、逆に言うと、ゴールデンで流すなら、プロレスそのままでは不可能ということですよね。だから『W-1』ってマジックの暴露番組みたいなもんだと思うんですよ。あれも普通のマジックショーじゃゴールデンの特番は組めないけど、暴露番組としてなら組まれる。それで『W-1』にプロレスマニアが怒ったと同じように、マジックのコアなファンはあの番組に凄く怒ってるんですけど、暴露番組見てマジックに興味持った視聴者も逆に凄く多いじゃないですか。だから『W-1』もそういう新規ファンの開拓になれば、どんなに批判されてもいいと思うんですよ。

小島 そうですよね。だからMrマリックさんなんか、ただ単に暴露番組に出るんじゃなくて、暴露したことよりももっと凄いマジックをするじゃないですか。それをプロレスにも当てはめればいいと思うんですよ。別にプロレスに暴露することなんてないけど、ボブ・サップでアピールしたことよりももっと凄いことを俺たちがすればいいんですよね。それがまた難しいことなんですけど。

──だから武藤さんが『W-1』の後落ち込んでたのは、サップを見に来た人を自分の試合で掴もうとしてたのに、ドームではそれができなかったからでしょうね。

小島 武藤さんはホントにあの日は落ち込んでましたからね。「俺がやってきたことって何だったんだよ！」って。

──でも、あの時間帯で視聴率10％取ったってことは、ボクらが考えてる以上に大きいことだと思うんですよ。平日の夜7時だから、きっとこの10％の大半はプロレスを普段見ない層ですよね。

小島 そうらしいですね。ホントに奥様やお子さんの時間帯らしくて、あれがもっと遅い時間帯のほうがプロレス好きにとっては優位な時間帯だって聞きました。

──だからこの10％って貴重だと思うんですよ。いまってホントにプロレスファンになる入り口が狭いというか、入り口がどこにあるのかもわからないような状態じゃないですか。だからサップだろうが、暴露番組だろうが、その入り口を作るって凄く重要なことだと思うんですよ。今度やる『BAPESTA!!』だって、その"入り口"を作る作業ですよね？

Satoshi KOJIMA
昭和45年9月14日、東京都出身。平成3年新日本プロレス入門。天山広吉との名コンビ"テンコジ"として大活躍するが、昨年1月、武藤らと共に全日本に移籍。現MLWヘビー級王者。183cm、112kg。

小島 そうですね。今回もTシャツ目当ての人がたくさんくると思うんですけど、その中にはAPEには興味があるけどプロレスに興味がない人も多いと思うんで、そういう人たちを上手く開拓できればと思いますね。

──Zeppツアーはアシスタント・プロデューサー、略してAP・KOZYとしては、何か考えているんですか？

小島 う〜ん、例えば俺がDJやるとかどうですか？

──DJ・KOZYですか！ でも、そうなったら歌謡曲ばかり流しそうですね（笑）。

小島 そうなりますね。有線放送ベスト10になっちゃうからダメだ、これは（笑）。まぁ、でも試合自体が変わるってことはないでしょうし、去年に一回やってるっていうこともあって何となくイベントのイメージっていうものはできてるんですよ。テーマはやっぱり「格好よくいこうぜ！」っていう（笑）。俺自身が格好よくないからどうしようっていうのがあるんですけど、そういう部分でもどんなに周りが飾ってくれてもやってる人本人が格好悪ければ台無しになっちゃうんで、なんとか格好よくなりたいなとは思ってるんですけどね。

──他団体の選手の参加とかも考えてるんですか？

小島 そうですね。地方に沿ったレスラーの人とか、いろいろアイディアはあるみたいですけどね。

──では普段見られないかもしれないメンバーかもしれないわけですね。

小島 あとはポスターにもいろんな色のAPEMANが載ってますけど、これもヒントのひとつですね。やっぱり会場も小さいし、プレミア性を大事にしたいんで限定のTシャツをゲットしたり、限定の試合を楽しんでもらって、後々語られるっていうような大会になればいいなって。グッズも前回よりたくさんでてますんで、そっちも期待してください。

──わかりました！ では、最後になるんですけど、小島選手自身の今後のテーマみたいなものはありますか？

小島 やっぱり『紙プロ』にも定期的に出れるレスラーになりたいですね（笑）。

──あ、ありがとうございます（笑）。

小島 『紙プロ』でしか言えないコメントとかもあるじゃないですか。他の雑誌では恥ずかしくて言いづらいことも、なぜかここでは言えるんで（笑）、また違う小島の一面も見てもらえれば嬉しいかなって。

──では、これからもいろいろ企画を考えますんでよろしくお願いします！

【03年3月11日／「LEGLOCK」にて収録】

3.2 ZERO-ONE 両国大会大爆発!!
この面白さを「再録」という超原始的手法で探ってみよーッ!!

乱闘だよ、全員集合ッ!!

〜甦ったプロレス戦国絵巻から、プロレスにしか出せない“リアル感”が漂った〜

乱闘だよ、全員集合〜ッ!! 全日本の武藤&嵐組を破った破壊王&大谷のZERO―ONE最強コンビ。勝ち名乗りを受けた後、ZERO―ONE内では反旗を翻している大谷が破壊王をドロップキックで吹っ飛ばした。そこに小島が飛んできた。カシンもいる。カズ・ハヤシもあるでよぉ〜。チェーンを持ったプレデターが暴走。ガファリもなんだか嬉しそうに腹を揺らしながら全日本勢を投げ捨て潰している。コリノもちゃっかりいる。高山が来た！小笠原先生も血相を変えている。そして元祖・騒乱男、小川直也がスッ飛んできた。ドン荒川が大声で止めに入る。

小川と高山がやり合い、破壊王と高山がド迫力のツバ競り合い。その横でなぜかガファリが小島を投げ、カシンがカズと言い争い！

リングにはいない武藤もいないことで参戦している。まさにシッチャカメッチャカだ。

まったくZERO―ONEは〝宇宙〟だ。

まさか小川と高山、破壊王と高山、小川と全日本勢、ガファリと全日本勢が絡むとは思わなかった。

冬木弘道がガンで死期が近いことを知っていた破壊王は、それでも対戦を受諾し、本気で「手加減しないゾ!!」と叫び返した。本気で叫び返したのだ。本当に涙が出るほど〝いいプロレス〟だった。こんな芸当、いつ何時でもエッジを歩く破壊王にしかできない。

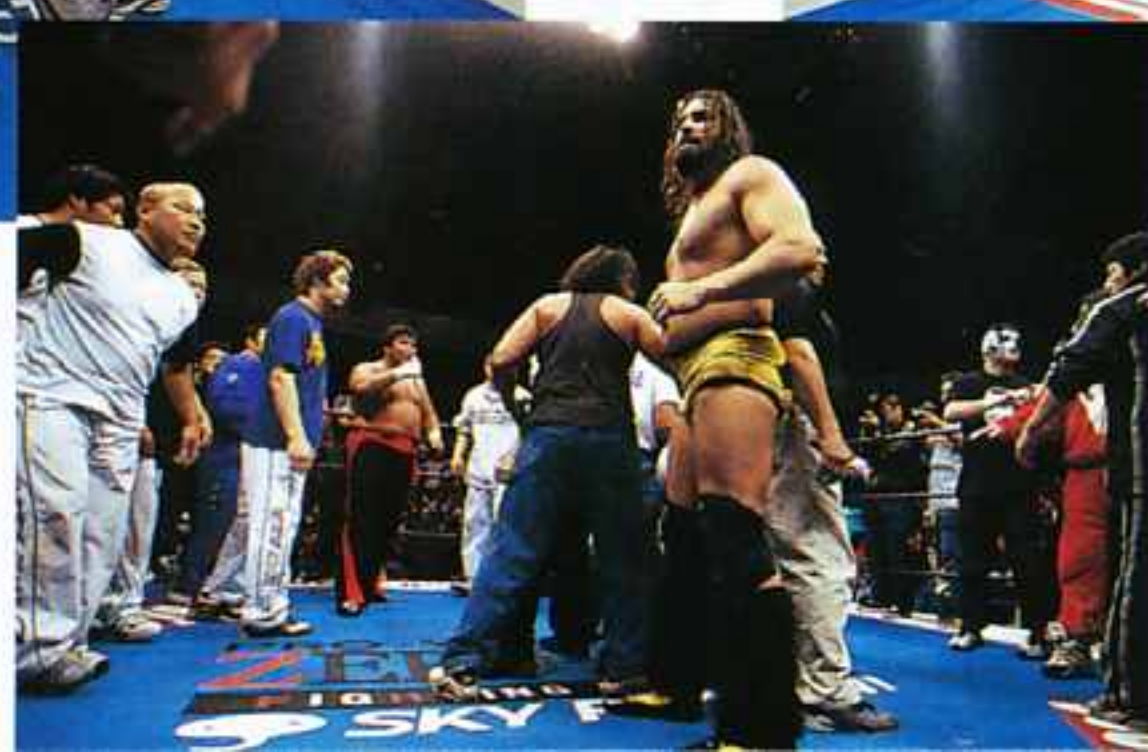
真剣と演劇。劇画と現実。真実と嘘。好きと嫌い。遠心力と求心力。アングルと本音。ビジネスと怒り――相反するものを無意識に呑み込む破壊王は、まさに〝人間宇宙〟だ。

その破壊王が主宰するリングに、強者どもが集まってきた。みんなこの〝宴会〟を思いきり楽しんで酔っぱらっているかのような、奇妙な迫力があった。ZERO―ONEはまさに〝場〟だ。

純プロレスにおける闘いは、イニシアチブの奪い合いだ。イニシアチブを譲り合うな！ イニシアチブの奪い合いなのに「あいつとは絡みたくない」とスネるヤツが続出したから、日本のプロレスはつまらなくなったな〜んて言われるのだ。イニシアチブの奪い合いが、プロレスならではの〝リアル感〟を紡ぎ出すのだ。

破壊王は「俺は決断しかしない男や！」とよく言う。破壊王の決断とは「闘え！」ということだ。

3・2両国でのカオスを活字でもう一度確認して、この面白さがなんなのか考えてくれ。

「じゃあ、乱闘の再録行くゾー？ もう映像で見た？ 恥ずかしがるな。〝ズリー、ツー、ワン、ゼロワン〟です。行くゾーッ!! スリー、ツー、ワン……………」（3・2両国PPV中継と同じようにブツリと切れる）

嵐を仕留めた破壊王が片手を高々と突き上げる横で、宙を見つめる大谷。破壊王は大谷に握手を求めるが、大谷はこれを無視。しかし、破壊王が目をそらした隙に、大谷の正面からのドロップキックで吹っ飛ぶ破壊王の姿に場内は騒然！ 沖田リングアナがゴングを打ち鳴らすなか、大谷はさらに破壊王にストンピングで追い打ち!! そこへ、この日カードに名前が入っていない小島聡がリングに駆け上がり大谷を襲撃！ その後ろから田中将斗が殴りかかると、これを合図にZERO—ONE軍からカズ・ハヤシ、ケンドー・カシンら全日本軍が入り乱れての大乱闘がボッ発!! 場内が異様な盛り上がりを見せるなか、この輪に加わるのを嫌った武藤はそそくさと控室へ。

しかし、それでも乱闘は収まることなく、逆に激しさは増す一方！ 小島はターゲットを大谷から破壊王へ変え再び突っかかると、チェーンを振り回しながらプレデターらZERO—ONEガイジン勢が大挙乱入!! やや遅れてリングに駆け上がったガファリが騒動の中心へ向かってダイブ！ さらにはなんと、あの高山善廣までがロープを跨いでリングイン!! 大歓声も鳴りやまぬうちに因縁を引きずるプレデターが高山に襲いかかるなど、リングはもはや無法地帯！ 標的を探しキョロキョロする小笠原先生、破壊王と殴り合う高山、乱闘がますます激化してくると、黙っていられなくなったか、ついに小川直也が登場！ 小川の姿を確認すると高山がすぐさま突撃！ その輪の中にプレデターも加わり、リング上は、管理のずさんなサファリパーク状態！ 収拾のつかなくなったリングを見回し、破壊王がマイクを握った。

橋本　おいコラーッ!! 次はいったいどいつだ、コノヤローッ!! 高山ァ、お前かコラッ!! 大谷、ケンカ売ったからにはわかってんだろうな!?（鬼の形相で、小島を指差しながら）全日本、根性ナシ!! 来いオラーーッ!!

これを合図に全日本勢がZERO—ONE軍へ突進!! ガファリが奥村をリング外へ吹っ飛ばし、その勢いで葛西まで突き落とす。一方では、熱くなりすぎた小島をカズ&カシンが二人掛かりで押さえるも、今度は、その二人が言い争いを始める始末。

ドン荒川　（カン高い声で）やめろ、オマエラ！ オイ、やめろッ、本当にッ!!

3・2両国大会 PUTIT LEVIEW

3/2『真世紀創造.'03』
東京・両国国技館
観衆 10500人(超満員)

10.○橋本真也&大谷晋二郎[23:00 三角絞め→レフェリーストップ]武藤敬司&嵐●

しかし、武藤組の猛攻及ばず。大谷が武藤をコブラホールドで捕らえる間に、破壊王が嵐を成敗!! DDT2連発から三角絞めで嵐を仕留め、三冠初防衛に弾みをつけた！ やったぜ、アッポーッ！ 20分を超える激闘は本日のベストバウトだ。

大谷が武藤組に捕獲されロンリーバトルを続ける展開に破壊王が満を持して登場!!「成敗ッ！」と叫んだがどうかは知らないが、袈裟斬りチョップで武藤組を追い込む!! が、一瞬のスキを突いて武藤のドラスクが炸裂！ 嵐も肉弾攻撃で追撃した!!

4・12全日本の武道館大会で三冠初防衛の相手となる"NO.2"嵐と前哨戦!! 汗がマス席に飛び散らんばかりの肉弾相打つ攻防をみせた！ 破壊王にも劣らないガファリっぷり度満点の嵐だけに、武道館でもドッシドシとド迫力の闘いをしてくれそうだ!!

全日本のリングでムタを破り、三冠王者に君臨した破壊王が、ホームリングで武藤を迎え撃つ!! 容赦しねぇぞコラァ!! ……と、意気込む破壊王ではあるが 新日本出身の両雄らしく、まずはグラウンドで手探りをする静かな立ち上がりとなった。

小川　オメエら、マジでやってやるぞ、コノヤローッ!!

高山　（エプロンに仁王立ちして周囲を見下しながら）オイオイ、オメーら！　ザコが何人かかって来てもな、プロレス界、オレがいなきゃ面白くねえんだよ！　オラァー!!

このマイクで、またしてもスイッチが入ってしまったプレデターが高山に突っかけ、これにアダモ、コリノ、そして、わざわざ巨腹を出したガファリが、みんなまとめてガファリプレス!!　ガイジン勢のあまりの暴走ぶりに破壊王は「下りろッ！」と命令。そして小島にマイクを投げつけた。

小島　（険しい表情で）橋本ォ、小川ァ!!　テメエら、まとめてやっちゃうぞ、バカヤローッ!!

【客席から「小島」コールが発生】

橋本　（投げつけられたマイクを拾い、小島を睨み返しながら）俺もいっちゃうぞ、バカヤローッ!!

【場内大興奮＆大爆笑】

ブチ切れた小島は破壊王に殴りかかったものの、それをカシンが連れ戻し、怒りの表情を浮かべながら小島退場。ここで、自然発生的に「大谷」コールが起こる。

大谷　（大谷コールに気をよくし、笑みを浮かべながら）最後においしいところはオレが持っていくんだよ！　高山も小島もオレの獲物なんだよ!!　横からチョコチョコ出てくんじゃねえよ!!　オラッ!!（とマイクを投げ捨てる）。

【小川が、そのマイクを拾い上げると、今度は客席から大「小川」コール】

3・2両国大会 PUTIT LEVIEW

6.○田中将斗&佐藤耕平
[13:06 ローリングエルボー→片エビ固め]
池田大輔&杉浦貴●

こちらはZERO-ONEvsノアの対抗戦。"熱い奴ら"同士のタッグマッチに場内は大ヒートだ!!　まさに肉弾相打つという表現に相応しい、見事なプロレスで大いに観客を沸かせまくった!!　イナズマッ！

7.○マット・ガファリ&スティーブ・コリノ&キング・アダモ
[11:20 ガファリプレス→体固め]
藤原喜明&藤井克久&坂田亘●

驚ガク！　小池栄子の彼氏がガファリの肉布団の餌食になった！　坂田のUスタイルがその巨腹にどこまで通用するか注目されたが、結果的にガファリの圧力と巨腹パワーが目立ちまくった一戦となった。

8.○高山義廣&横井宏考
[13:59 ジャーマン・スープレックス・ホールド]
ザ・プレデター&ジミー・スヌーカJr.●

日米超獣対決に両国激震!!　久しぶりにZERO-ONEに乗り込んだ高山は、同じく規格外の怪物プレデターとド迫力の場外大乱闘を展開!!「これぞ子供のころ見たプロレス！」との声も挙がった。ウガーッ!!

9.○小川直也
[12:32 レフェリーストップ]
トム・ハワード●

顔合わせは魅力的ながら、マニアから内容を心配されたオーちゃんのシングルマッチ。しかし、STO6連発にコリノがタオル投入という抜群のシチュエーションで決着！　セコンドの米軍との絡みも良かったです。

小川　大谷ィ、マイクは10年早ぇんだ、コノヤロー！（タメをきかせて）小島ァ、お前誰だ!?　いつやってもいいんだぞ、オッ!?　ＯＨ砲は逃げねぇぞ、どこでも来い!!

【会場から「いいぞ、やっちまえ!!」との掛け声&大歓声】

橋本　ありがとう!!　2年前の約束、絶対守るからな。いま、このリングでケンカ売ったヤツ。ひとりも逃がさねえぞ！　全日本、聞いてんのか、コラ!!

【すでに、みんなリングを去ってしまったあとで返答はなし】

橋本　……（小声で）オイ、締めちゃうゾ！

【ここで佐藤耕平が三冠ベルトを破壊王へ手渡す】

小川　（なぜか司会者調で）三冠、拍手!!　……では、最後、破壊王に（人差し指を1本、突きだして）ひとつ！　言ってもらいましょう!!

【場内、"なんで小川が司会者になってんだ!?"と戸惑い気味に拍手】

橋本　押忍!!　みなさん、ホントにありがとうございましたッ!!　今日のような、闘いの舞台でありたいと思います。オレは命懸けで頑張ります!!　最後、みなさん一斉に"スリー、トゥー、ワン、ゼロ、ワン!!"でお願いします。（ニコッと笑って）イチ、ニー、サン、ダァーじゃないぞ!!【場内爆笑】いくぞーーッ！　スリー、トゥーッ、ワンッ、ゼロ、ワンッ!!

【リング上のＯＨ砲と共に観客も一斉に唱和】

破壊王　ありがとうございましたッ!!

1.○日高郁人
[7:51 ショーン・キャプチャー]
ペンタゴン●

直後にみちプロ参戦を控えていたため大乱闘には加われなかった日高だが、しっかりオープニングマッチの役割は遂行。ちなみに第0試合には夢路vs和牛太の名物コンビの決別マッチが行われた。勝敗は各自調査!!

2.○葛西純&ドン荒川
[10:44 スピンキック→片エビ固め]
高橋冬樹&山笠Z"信介●

もはやZERO-ONE両国大会には欠かせなくなった荒川さん。若手のジェットと高橋も精一杯存在感を示そうとしたが、ある意味、この試合の焦点は葛西と荒川のどちらが観衆を沸かすかであった。ウッキーッ！

3.○高岩竜一&ヴァンサック・アシッド
[15:22 デスバレーボム→片エビ固め]
Lowki&ポール・ロンドン●

マッチメイクされた時点で会場を沸かすことが容易に想像できたこのカード。ロンドンのシューティング・スタープレスが炸裂も、ここ最近、評価上昇中の高岩が餅つきパワーボムからのデスバレーでボムで勝利!!　男はシブさで勝負だ!!

4.○ケンドー・カシン&カズ・ハヤシ&土方隆司
[15:46 腕ひしぎ逆十字固め]
星川尚浩&小笠原和彦&佐々木義人●

全日本では敵対しているカズとカシンが、対ZERO-ONEということでトリオを結成したが、タッチワークはギクシャクしっ放し。佐々木を丸め込んだカズだが、カシンが勝利を横取り。試合後、やっぱり仲間割れ。

5.○テングカイザー
[4:45 テングトルネード→片エビ固め]
小林昭男●

京都鞍馬山400年の眠りから覚めたテングカイザーが遂に両国初見参!!　大会場に神風を吹かせようと、必殺テングトルネードを決めて勝利したが、いまひとつ存在感はは高い鼻のように示せず。

面白かったのは両国だけじゃない!! 地方でも行ってみようーッ!!

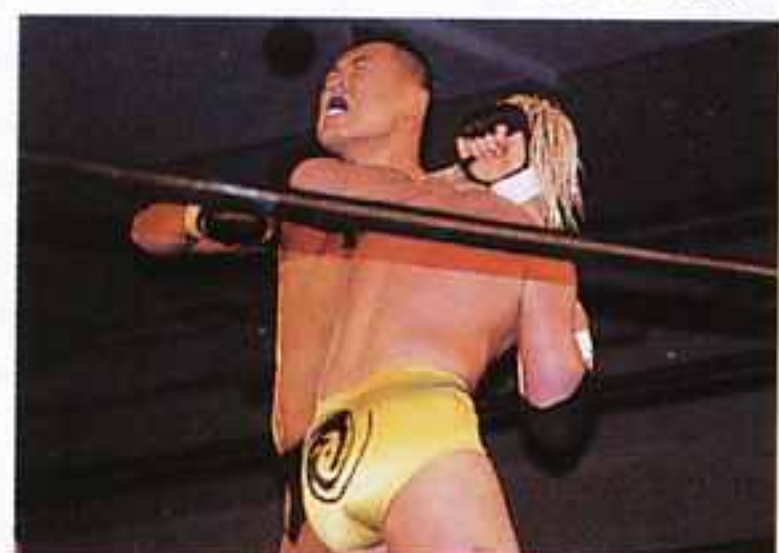
ZERO-ONE 早春事件FILE

3・2両国大会をはさんで行われたZERO-ONE2月～3月シリーズ『EPICENTER2』。小川直也参戦の仙台大会・札幌2連戦を中心に、印象的な事件を追ってみた。OH砲・炎武連夢・高岩竜一・佐藤耕平ら各選手が地方大会でどんなふうに暴れ回ってきたのか、読めばすぐわかる（かもしれない）!! いくゾーッ!! スリー、トゥー、ワン、ゼロ、ワーン!!

イラスト／中川画伯

小川直也

6年ぶりの北海道上陸!! コリノと夢の対決!! OH砲人気も異常沸騰!!

「小島ァ、お前誰だ!?」――面と向かって「小島」と名指ししているにもかかわらず「お前誰だ」と続く、衝撃のマイクを披露した暴走王・小川直也。両国大会での破壊王の完全勝利により、全日本とZERO-ONEの対抗戦にひとまず幕を下ろしたと判断した小川は、6年ぶりに札幌の地へ登場。本人も「思い入れが深い」と語る場所で、策略男爵・スティーブ・コリノと夢の対戦。破壊王が「アイツに勝たれたら、オレの立場がないよ」と見守る中、ファンが見慣れない技を披露して見事勝利した。6年前、デビュー3戦目、山崎一夫に勝利した必殺技、それがこの日見せた"三所絞め"だった。試合後「札幌は思い出の場所。実は完成している新技があるんだけど、それは出さずに、自分の中で歴史にこだわりたかった」とコメント。「新技は、ガファリとかに対抗するグラウンドの技」とだけ明かした暴走王。「相手は誰でもいい」と、ガイジン勢、そして3/2両国で敵対した猛者たちに闘志を燃え上がらせていた。新技披露はいつか、そしてその犠牲者になるのは誰なのか!?

コリノの急所攻撃、バンテージでコーナーに縛り付け攻撃などのダーティー・インサイドワークに苦しめられる暴走王だが、STK（スペース・トルネード・コリノ）披露は断固許さなかった

翌日は、結成1年3カ月目にして、OH砲が札幌初上陸!! 札幌テイセンホールに響き渡る大・大・オガワ・コールの中、宿敵ザ・プレデター＆ジミー・スヌーカJr.相手に、勝利をきめると「札幌が好きです!! サイコーだ!!」と叫んだ。破壊王も「札幌、次は勝負かけるゾ!!」とブチあげ、「小川、また次も来てくれるか!?」と呼びかけた。これに、小川は「もちろん!!」と即答。「スリー、トゥー、ワーン、ゼロ、ワーン!!」＆「オー、エイチ、ホー!!」の、2度にわたるシメの後、小川は、だいぶ板についてきたホーガン・ポーズを幾度も披露。暴走王が「ありがとう!!」と、最後まで観客に手を振る中、札幌2連戦の幕は下ろされた。

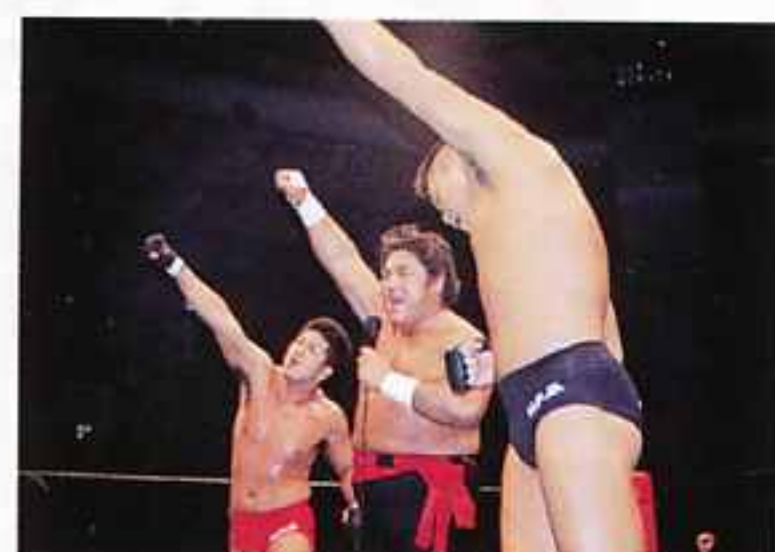
試合後は"両国の変"以降期待される対全日本について「こっち（ZERO-ONE＆UFO軍）は勝ってるわけだから、こっちから行く問題じゃない。オレが次に出るのは破壊王の地元（土岐）。4月3日、やりたいヤツはそこへ来い」と挑発した。「OH砲は逃げない」と言い切る小川は「全日本、根絶やしっていうか、もう根は絶えてる」とまでこきおろし、破壊王も「残ってるとしたら川田（利明）だけ。黙ってちゃしょうがないだろう。全日本がなくなっちまったら、どうする」と、アドバイスまで送る始末だった。小川直也の行くところ、常に騒動あり!! 4月3日土岐大会では、何が起こるのか!?

「スリー、トゥー、ワン、ゼロ、ワン!!」の後に、「オー、エイチ、ホー!!」まで繰り出して2度場をしめた2人。札幌大会への満足感、ファンへの感謝の気持ちが、2人を自然とそうさせたのだろう

橋本真也

三冠を携えてススキノに凱旋!! ムルアカとも遭遇だ!! 破壊王、絶好調!!

「オレもいっちゃうぞ、バカヤロー!!」――破壊王の絶好調ぶりは、両国のみにあらず!! 2月28日仙台大会では、小川直也＆藤井克久とのタッグで、ガファリ＆トム・ハワード＆スティーブ・コリノ組と因縁の激突。殺人凶器・ガファリ腹の誤爆から仲間割れしたガイジン組のスキをつき、"オレごと刈れ"が炸裂。これには、久々登場のMr.フレッドもマットを3回叩くしかなく、タッグとはいえ、見事、ガファリ組からの初勝利をあげてみせた。

試合後は「出る杭も、出きってしまえば立派な杭となる。くだらない常識をうち破って、これからも破壊・創造・誕生をかかげていく」と、宣言。翌日は、朝11時に東京に戻り、任侠映画『首領への道』の舞台挨拶に登場。なんと、あのムルアカも登場した舞台上で「俺は、プロレス界の『首領への道』を突き進んでいきますよ！」と力強く言い切り「やっぱり両国は何か起こらなきゃダメやろ。でもそれは作るもんじゃなくて、本人達の意識がぶつかり合ったときに生まれるわけで、何かが生まれればいいなとは思うけど、それは俺にも予測が付かない」と、今思えば、予告とも取れるようなコメントを残していた。続く3・2両国大会を大成功に導いた後は、北の街へ登場!! 札幌大会2連戦の試合前、破壊王は「永ちゃん（矢沢永吉）は、『黒く塗りつぶせ』って歌っていたけど、ZERO-ONEは白く塗りつぶす（意味不明）」「ZERO-ONEは北海道から侵略していく。オセロみたいに、はじっこからひっくり返していくゾ!!」と、マット・ガファリ風にタオルをぐるぐる回しながら意気込んだ。破壊王節、零下8度の地でも絶好調ッ!!

最後は「スリー、トゥー、ワン、ゼロ、ワン!!」で見事シメた仙台大会。OH砲だけでなく、藤井克久も大健闘。破壊王は「藤井、その調子でかき回して、ちょっとやせさせてやれ」とアドバイス

シリーズ最終戦の2日目、小川直也とのタッグでメインに登場した破壊王は、大歓声を受けながら「全日本プロレス、三冠ヘビー級チャンピオン」のコールを受けた。一度は"オレごと刈れ"を返されるピンチに陥りながらも最後は見事、刈り返して勝利。勝利＆超満員のファンが集まったことを喜ぶ破壊王が、札幌の地で絶叫!! 「アリガトーッ!! オレもカニが好きです!!」――なぜだ!? 大忙し破壊王の爆進撃は、まだまだ留まることを知らない!! 止まらずにいっちゃってくれ、破壊王!!

報道陣の誰もが「朝11時なんて絶対無理」と思っていた（?）舞台挨拶だったが、破壊王はきちんと登場。ムルアカとの対戦について聞かれると「安くしてもらってお願いしようかな」と答えていた

高岩竜一

アシッドのソリッド＆デンジャーなヒザで沈んだ後、ハードコア大健闘!!

プロレスラーの引き出しの多さと実力の高さを見せつけていた高岩竜一。ZERO-ONEでも最近は正統派レスリングからハードコアまで大活躍!! 2・28仙台ではアメリカ系ムエタイ戦士（アメリカ国家斉唱時には胸に手を置く）ヴァンサック・アシッドと異種格闘技戦を行い、一瞬のアシッドの“わがままなヒザ小僧”をミゾオチに受け撃沈。2分ほどもだえ苦しむ高岩を見て、盟友・大谷らがリングに駆け込む大騒ぎになった（アシッドは3・9札幌でも星川を瞬殺）。

所変わって“大日本の聖地”札幌では、タッグパートナー・葛西純の「聞いてくれよ。アイツらが、いつもオレッちのことをイジメるんだよ」という懇願を聞き入れ、金村キンタロー＆黒田哲広のハードコア・プロレスにどっぷり浸かった。久々のハードコアに血が騒いで浮かれる葛西とともに、積み上げたイスの上に金村を投げ返し、机の破片で打ち返した。観客の大歓声を受けながらも敗北したおサルに、バナナを食べさせてあげる優しい面も見せた高岩。力を出し尽くした表情の金村は「……こんな助っ人連れてくるのズルイよ。どこやろうと、オマエ（おサル）のことは、イジメるからな。強い助っ人は、これからナシや!!」と、最大級のエールを送っていた。

佐藤耕平

耕平が雪の札幌で血ダルマ大ブレイク!!

色白の風貌からか、近頃「モヤシ」という、嬉しくないニックネームが定着しつつある佐藤耕平。耕平に対する、炎武連夢の“かわいがり”は、札幌の地でリンチに近いレベルにまで発展。大流血する顔面を踏みつけられながら「それで終わりか、モヤシ！」と罵倒されまくった耕平は、大谷の、力の差を誇示するような逆片エビで敗北。負けた耕平を、破壊王は「血を流しても、目は死んでいなかった」と高く評価。「オレがシメていいのか、橋本ォー！」と大谷が叫ぶリングに戻った耕平は、「大谷、田中ァ、炎武連夢！　ありがとうございましたァ」と、ふてくされ気味＆多少感謝気味に睨み返した。大谷は、その背に「耕平、期待してっからよ！」と、吐き捨てる。それを聞いた耕平の口許が、ぎりりと歪んだ。翌日も、高岩竜一＆小笠原和彦のエゲツない攻めに流血、敗北した耕平。だが、札幌の地で、モヤシは大きく成長。確実な芽を伸ばしつつあった（モヤシって呼ぶな！）。

ZERO-ONEシリーズ日程

『Spring Field'03』
3月27日(木)東京・後楽園ホール(18：30)
4月3日(木)岐阜・セラトピア土岐(18：30)
4月4日(金)兵庫・神戸サンボーホール(18：30)
4月5日(土)愛媛・松山市総合コミュニティセンター(18：30)
4月6日(日)和歌山・和歌山県立橋本体育館(18：00)
4月24日(木)東京・後楽園ホール(18：30)
4月26日(土)大阪・大阪府立体育会館・第2競技場(18：00)
4月27日(日)福岡・博多スターレーン(17：00)
4月29日(火・祝)愛知・名古屋国際会議場(18：30)
5月1日(木)千葉・成田市体育館(18：30)
『01 WORLD』
5月2日(金)東京・後楽園ホール(18：30)

※小川直也は4／3土岐、4／5松山、4／27博多、4／29名古屋、5／1成田の5大会に出場予定
問:ZERO-ONE TEL.03-5730-3401
問:ダイサン東京 TEL.03-5476-9889(成田大会)

炎武連夢
大谷晋二郎＆田中将斗

いつ何時でも熱い2人は、田中の誕生日を経てタッグ王座防衛＆返上

全国各地を、炎武連夢旋風が吹き荒れる!! 2・28仙台大会前に田中将斗の30歳の誕生日を祝う会（？）が報道陣を交えて行われた。「ありがとうございます」とテレ笑いし、ロウソクの火を吹き消した田中。大谷晋二郎の「ケーキと一緒に写真を撮りましょう」という声に応えた田中の顔が、ぐしゃりとケーキに押しつけられた。

「おめでとう！」――やるだけやってさっさと逃げた大谷に代わって、黒毛和牛太とレフェリーのデューク佐渡が、田中の“ケーキ・プレス”の餌食になっていた。炎武連夢内（＆佐渡レフェリー）の力関係がよくわかる象徴的な出来事である（？）。同日、藤原組長と対戦した大谷は、試合になると一転してシリアスな表情に。「くそじじぃ！」と叫びながら責め立て、逆エビ固めで勝利した後、突如「藤原ァ！　テメェの時代は終わってるんだよ。いつまでお客様気分でやってんだ、死ぬ気でかかってこい」とマイク。組長も「それを言っちゃぁ、おしめぇよ」とスゴミをきかせてニラミ返した。今まで、誰もが一目置いてきた、不可侵の存在に近かった組長に向かっての大谷の突然の炎上。「これが、どれだけ勇気いることか、わかってるのか。全員火をつけてやる。どんな相手でもかかってこい。このちっちぇぇ体で、全部受け止めてやる」と熱く吠えた。

一瞬のうちに、田中の顔にケーキを押しつけた大谷。「やられた～……」と苦笑しながらも「あ～、もったいない……」と、ケーキをおいしそうに食べる田中が、和牛太＆デュークにお据分けしていた

顔面ケーキを味わう佐渡レフェリー（なぜかnWoのTシャツ）。誕生日会というと、誰かが脱ぐのが恒例だったらしいZERO-ONEでは、比較的おとなしい誕生会だったと言えるだろう

最終戦の3・9札幌では、トム・ハワード＆キング・アダモ組相手にPWFタッグ王座を2度目の防衛。が、直後に「ひとつの団体にベルトは2つもいらねぇ」と、その場で中村渉外部長へ返上!!「時期を見て、NWAのベルトに挑戦する」と言う大谷＆田中からベルトを受け取った中村部長は「PWF本部に連絡を取り、処遇を決める」とした後、3月27日ZERO-ONE後楽園大会のカードとして「炎武連夢vs小島聡＆保坂秀樹」「土方隆司vs山笠Z”信介」「カズ・ハヤシ＆ジミー・ヤンvsLowki＆星川尚浩」の3カードを発表した。

これを聞いた大谷は「ヘッ」と笑い「小島ァ、かわいそうになぁ！　このパートナー、第2の嵐になるんじゃねぇのか。おい小島、どんどん全日本でのランクが下がってるな。炎武連夢に入れてやろうか？」とあざ笑った。中村部長は全日本に対しては「本当に終わりにしたい。ウチとの対抗戦を終わりにして、WJとの対抗戦に専念してほしい」と辛ラツ。今月号の発売される3・27、後楽園で何が起こっているのか!?

炎武連夢の勢いはまったく止まらない!! 夜はススキノを熱く炎上させたのか？　対全日本にしてもZERO-ONE内の世代闘争にしても、こいつらがシーマン……もとい、キーマンだ

（昨年12月29日　後楽園ホールのリング上で）

冬木「橋本、俺はガンだ!!　肝臓に転移した…」

橋本「冬木さん、気持ちはわかった。
あと何ヶ月かしか生きられないんだったら、
最後までプロレスラーで死んでくれ!!」

冬木「死ぬまで大暴れしてやる!!」

橋本「手加減しねェぞ!!　もっと早くブチ壊すゾ!!」

これぞプロレス!! 破壊王との"ラストマッチ"を闘わずして闘い抜いた冬木弘道氏、逝く……

3月19日 ガンで死去…

死の3時間前 奇跡写真
本紙独占
壮絶がん死
冬木さん

亡くなった翌日、東スポに昏睡状態の写真が掲載された。薫夫人の「パパ、お仕事よ」という呼びかけに対し、冬木は確かに反応を見せたという

試合に乱入、ラリアットを放つ冬木に対して、破壊王は手加減なしで対峙。病人ではなく、あくまでレスラー冬木に接していた

2月、ディファ有明のリングで対戦の了承を迫る冬木。黒田、金村は試合をしようとする冬木を必死に引き止め、その体を支える

"理不尽大王"冬木弘道が、3月19日、ガン性腹膜炎により入院先の横浜市民病院で亡くなった。橋本真也とのラストマッチを果たす前に、ラストマッチ正式決定の、わずか8日後に……。

昨年4月、直腸ガンの診断を受け、手術後、WEWを旗揚げしたものの、9月にガンは肝臓へ転移、今年2月には腸閉塞で入院。それでも最後の最後まで、観客に命懸けのプロレスを見せつけて、冬木弘道は、この世を去った。

冬木と破壊王、ふたりの"プロレス"は、昨年12・29、金村キンタローvs橋本真也の一戦の後に、起きた。金村のハードコア攻撃を受けきった後、鬼と化した破壊王は、強烈なパンチやキックを叩き込んだ後DDTを決め、マットに沈めた。勝利後も、なおも攻め立てる破壊王から金村をかばう冬木。その冬木の背に、渾身のストンピング。冬木が息を切らしながらマイクを持った。

「俺はガンだよ。肝臓に転移してる。あと何ヶ月生きられるか、わかんねぇよ。でもな、死ぬまでコイツらの面倒見る。死ぬときはリングの上だ！」

観客の何割かから起きた"またやってるよ"という失笑。冬木が現役の時の何分の一の力としか思えないラリアットを放つと、破壊王は、たった今、ガンだとカミングアウトした男に向けて、袈裟切りチョップを容赦なく放つ。

「冬木さん、気持ちはわかりましたよ。あと何ヶ月生きられるかわかんねぇんなら、最後までプロレスラーで死んで下さいよ。もう一回、タイツはいてきてください。（観客に向かい）みんな！　レスラーが命懸けるって、そういうことじゃねぇのかよ！　アンタの生き様を見せてくれ!!」

冬木が、か細い声でガナる。

「死ぬまで大暴れしてやる!!」

「手加減しねェぞ!!　もっと早くブチ壊すゾ!!」

リング上での激しい命懸けの言葉のプロレス。それは、失笑していた観客から笑いを消すに充分な迫力だった。

「俺は知ってたよ。冬木さんが、もしかしたら、もう数ヶ月もないってのは。ただ、レスラーは一度やったら一生レスラーでいなきゃいけないってところがある。レスラーは最後までレスラーらしく生きてほしい！」

破壊王はバックステージでそうつぶやいた。冬木は、無理をすれば、即命が危なくなる状況でリングに登場し、橋本真也に全てを預けた。残り数ヶ月という寿命を宣告された時点で、観客と自分に、橋本真也戦という目標を授け、"見せ場"を創ったのだ。橋本真也は、そんな冬木を"レスラー"だと認めた。認めたからこそ、寿命が残り少ない病人と知った上での袈裟斬りチョップ。

ガンを抱えた冬木弘道と、橋本真也のこの闘いは、泣くに泣きされない、感動するにしきれない、まして生き死にがかかっているだけに笑うこともできない、こちらの全ての感情に揺さぶりをかける名勝負だった。

死の8日前、リングに登場した冬木は、ふらつく身体で、脂汗を流しながら、破壊王とガッチリ握手を交わし、観客の前で5・5の対決を宣言した。

「精神的には満足だけど、試合できる身体にするのはしんどいよ。初めてアングル抜きでの試合をするなぁ。（記者に向かって）書きがいがあるだろ？」と言い残し、「いいですか？」と会見を打ちきって会場を去り、そして病室へと消え、この世を去った。

ガン治療に専念したとしても全く非難されない状況で、冬木はあえて、橋本真也へ抗争を仕掛け、観客に己の死ぬ3時間前の姿までもさらけ出し、もうひとつの命懸けのプロレスを見せつけた。"プロレスラー"という言葉通りに生き抜き、最後まで闘い抜いた男は、42年の短い生涯を終えた。

さようなら、理不尽大王。心より御冥福をお祈り申し上げます。（編集部）

ジャンルを超えた

頂上対決ド直前!!

あとはもう見るしかない!!

頂上対決ド直前!!　3月30日、石井元館長の件以降、一発目となる『K—1GP』で行われるミルコvsサップが目前に迫ってきた！

カード発表当初から、脅威的なチケットの売れ行きをみせ、〝一般大衆〟の視界にもしっかりと届ききっているこの超ド級の一戦。カード決定後の、サップの怒濤の営業活動の成果も大きいが、これまで1ミリ足りとも接点のなかった両雄である。まったくのノーアングルでここまでの遠心力を発揮できるのは、ファイターとしての「凄み」「期待感」「緊張感」を併せ持つサップとミルコだからこそだ。

今回はK—1ルールでの対戦となるが、総合を経験することでファイターとしてスケールアップをしてきたミルコと、〝競技〟の壁をブチ壊し突進を続けるサップだけに、VTルールでの対決に想像を巡らす上でも非常に興味深い。はたまた『W—1』でも……!?ん〜っ、ミルコのバトルエンターテインメントっ!!（ミルコ張りに無表情で）。

そしてこの、K—1というジャンルのワクを超えた頂上対決の結果は、K—1にとどまらず、『PRIDE』、プロレス、様々な方面に多大なる影響を及ぼすことになる!!

3・16『PRIDE.25』において、氷の拳でノゲイラを粉砕したヒョードルにサップが挑戦を表明。〝頂上対決〟を制したサップが、〝世界最強決定戦〟の勝者・ヒョードルと雌雄を決する！……という、心臓バクバクモノのストーリーもほのかに見えてきた。逆にミルコがサップを下せば、賞金首としてのブランドはさらに上昇。〝ミルコ狩り〟はますます白熱！

「N田、恥ずかしげもなくチャンプだ、IWGPだなんて言ってる場合じゃないよ」（高田総裁調）。

大衆、コアファン……あらゆる層に強烈なエネルギーを放射するミルコvsサップ。そのエネルギーで、キミのハートは逮捕されちゃうのか？　結果がどっちに転ぶにしても、『PRIDE』ファン、プロレスファン双方にとっても見逃せないこの一戦。あとはもう見るしかない!!

ホーストの相手が変更!!
話題の"トーア"はそれでも来日!!

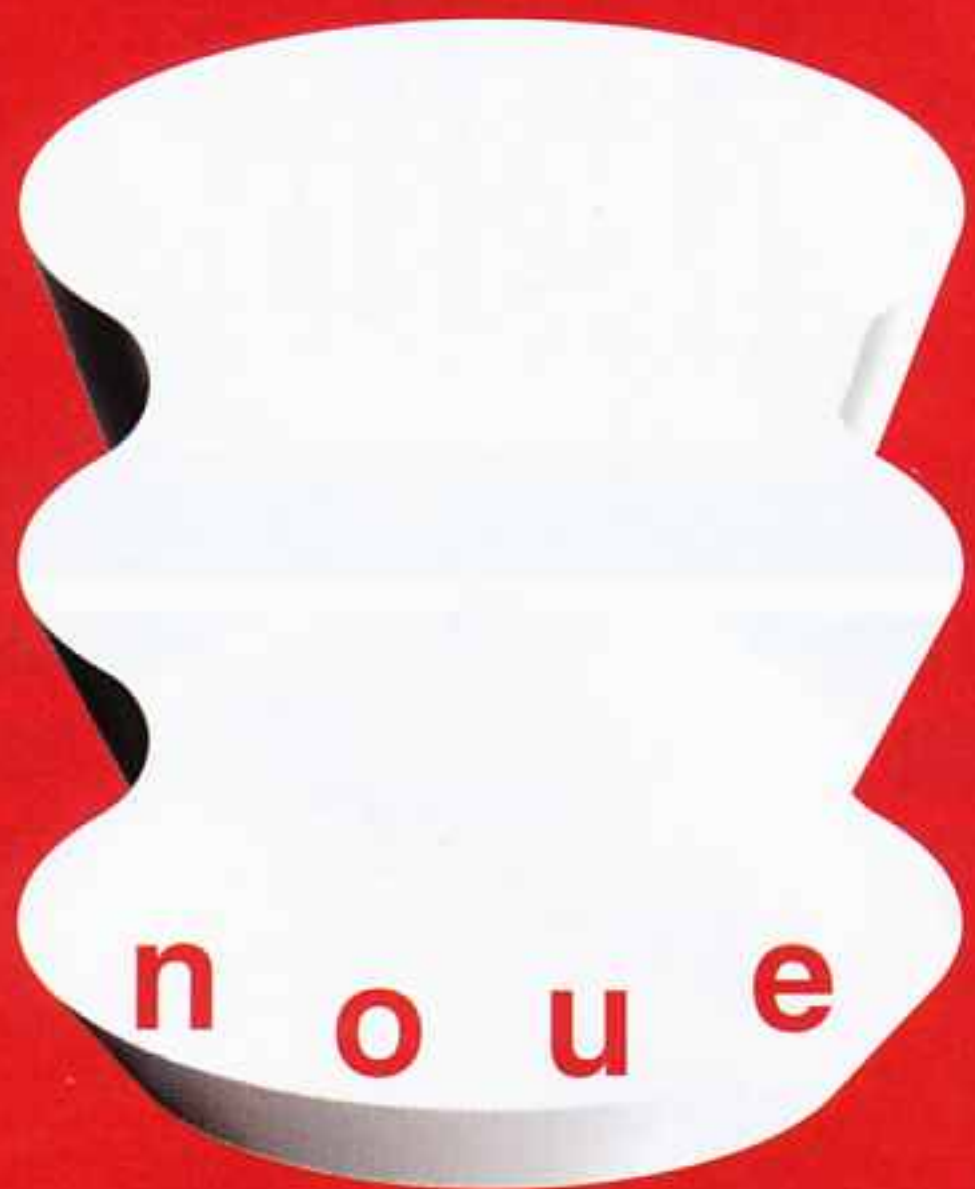
3月30日(日)　さいたまスーパーアリーナ 16:00〜

- ●ボブ・サップvsミルコ・クロコップ
- ●アーネスト・ホーストvsジェファーソン"タンク"シウバ
- ●ピーター・アーツvsステファン"ブリッツ"レコ
- ●レイ・セフォーvsペレ・リード
- ●レミー・ボンヤスキーvsビヨン・ブレギー
- ●ヤン"ザ・ジャイアント"ノルキヤvsエヴジェニー・オルロフ

2メートル、200キロのサモア最強戦士"TOA（トーア）"がホーストの相手として浮上したが、負傷により今回の出場は消滅。デモンストレーションのために来日は果たすが、サップを超える巨体、仰天なビジュアル、土木作業中に丸太に足を挟み転倒した負傷理由など、期待大な怪人だ！

K-1オフィシャルサイト
http://www.k-1.co.jp/top.htm

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝　編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

――さて、井上さん、3・1のWJ旗揚げ戦はどうご覧になられましたか。

井上　これはもうハッキリ言って一生懸命やってるのはわかるんだから頭ごなしに貶すもんでもないけど、もうちょっとメリハリをピシッとつけたほうが良かったな。

――具体的には、どのへんですか？

井上　やっぱりやってることが中途半端なんですよ。長州にしても「バード（バーリ・トゥードの井上用語）は嫌い」っていうところがあったと思う。だけどそれはハッキリ言って捨てて欲しかったのね。「プロレスでいくんだったら、ガチンコに近いプロレスだ」という意識を持って、すべてのものを仕切って欲しかったと。中途半端にプロレスが残ってたからな。こっちではラリアートがあり、クラッシャーズが出てきて、何か知らんけど長州と天龍がメインイベントでやってるとかね。長州がカムバックして出てくるのはいいけど、自分が中心になって闘ったらダメなんですよ。自分がメインイベントで横綱だってなったら、絶対に破綻がくるんだから！　それをハッキリ示したのがあの試合であって、旗揚げだから形の上でメインイベントだけど、実質的なメインイベントじゃないってことは旗揚げ前からしゃべってるわけ。言うちゃ悪いけど、そこらへんを平成のデルフィンたちはわかってない！

――わかってませんでしたか？

井上　これだけ金を払ってるんだから値打ちのあるメインイベントを見せてくれるなんて思ってたらとんでもない話ですよ。言うちゃ悪いけど、長州と天龍で金を取れる試合を見せられるはずがないんですよ！

――まあ、2人合わせて104歳ですからね（笑）。

井上　メインは、ホント言うと健介vs（ダン・）ボビッシュで殴り合いをやってほしかったんだけどね。ダブルメインイベントで健想とフライがやってもいいし。健想を売り出すんであれば、勝っても負けても印象付けるような大事なところに持ってこないといけませんよ。大森も確かに時の人だけども、団体が考えてるほどインパクトがないわな。だから大森と健想の試合なんかハッキリ言うたら何のことはない、新日とノアの試合をそのまんまもってきてテープで貼り付けたようなもんで、新鮮味なんて全然ないからね。ガンガン殴り合うとかいうようなガチプロを示したらまだ僕らも納得できたんだけど、全く中身が変わってないからね。

――見事なくらいに変わってませんでしたね（笑）。

井上　だから、「新しい団体なんだから別のものが出てくるだろう」と思って見とったファンが怒ったんですよ。そこらへんを読み違えたのが痛恨ですよ。やっぱりもう少しプロレスとは離れたところから試合をして欲しかったというね。決して悪い方向じゃないんだけど、何か歯切れが悪くてね。健介とボビッシュでバードまがいの試合をやらせたのはいいんだけもやね、やっぱりラリアートが出てくると、ファンからしたら「健介、何も変わってないじゃねぇか」となるわけですよ。まあ、BI時代だったら誰もそんなことは言いませんよ。本来なら、新しい団体はあれでもいいわけです。別にローラーが尻出したわけじゃないしね。だけど、いまは新日にしたって1～2年したらプロレスがなくなるからね！

――えっ？　新日からプロレスがなくなっちゃいますか！

井上　そんなもん5・2（新日本・東京ドーム）でガラっと変わりますよ！　5・2で首脳陣の口から「これからプロレスは辞めてバーリ・トゥード一本でいきます」って言われても驚きませんよ（キッパリ）。

――そこまで思い切って新日は転換するんですか？

井上　もう、時代はそこまで来てますよ！　他の団体はどうなってもいいんですよ。武藤にしても闘龍門にしても、あの路線は決して悪いと思わないし、エンタメ路線なんだからこれはこれでいいんですよ。アンタもデルフィンアリーナに行ってみなさい！　毎日あんな試合をやっとるんだから。

――そうでしょうね（笑）。

井上　ところが、新日はそうはイカンから。新日といったら、あくまで強面で、ガチプロでいく団体なんだから！　（ジョーニー・）ローラーとか出しとったらダメですよ。魔界倶楽部にしたってふざけてるように見えるけど、決してそうじゃないからね。あれは純然たる格闘集団であって、プロレス集団じゃないんだから！

――まあ、純然かどうかはともかく、格闘集団ですよね（笑）。

井上　今度の5・2で、棚橋とか真壁とかそういう連中が、ガチガチの試合を前半の5試合でやって、真ん中に藤田とか何だかんだが4試合やって、そして最後はIWGPとGHCのWタイトルマッチをやると。これしかないです！

――えっ？　NWFじゃなくて、GHCなんですか！

井上　そりゃそうでしょう、アンタ！　5・2に小橋が出て来て、IWGP

今月のお題

3・1、WJ旗揚げ戦は「ど真ん中」を走ったのか？

常に時代の三歩先を読み続けるマット界の哲人・I編集長が、今月はプロレス界の話題をかっさらった長州力の新団体WJを新日5・2ドームも絡めつつぶった切ります！ I編集長が遂に「ど真ん中」を定義づけたぞ！ 必読！

構成／スモーノブ

チャンピオンになってるであろう中西とやると。これがハッキリ言ってメインイベントでしょうが。1ヶ月ぐらい前の新聞にもそう書いとるから、引っ張り出して読んでみなさい。3～4ヶ月前にそれが読めとらんかったら困っちゃいますよ！

—しかもIWGPを持ってるのは中西なんですね？

井上 当分は永田かなと思ったけど、ここに来て中西ということがハッキリしたからね。どんなに遅くとも3月9日（新日本・名古屋レインボーホール）には交代すると見とるけども（このインタビューは3月5日収録）、交代しなくても5・2の前には交代してますよ。中西がチャンピオンになってIWGPを仕切っとると。だからこの2人が闘うわけですよ。他にメインイベントは考えられないでしょうが！

—永田vs高山でIWGPとNWFのWタイトルっていう見方もありますが？

井上 永田vs高山なんて言うちゃ悪いけど、セミ・ファイナル以下ですよ！ 永田と高山が闘ってどうなるの？

—まあ、去年も同じ会場でやってましたからね。

井上 永田と高山がやるって言うんだったら、ガチガチの喧嘩プロレスか、バードをやるしかないですよ！ 永田がこれから新日本プロレスの格闘集団を引っ張っていくんだから、そんな男をいつまでもIWGPのチャンピオンだNWFだとか言うとったらおかしいですよ！ だからこういったもんから卒業する、その卒業式が9日なんですよ！（ドン！と机を叩く）。まあ、9日に永田が踏ん張ったら、それはまたその時の話だけど、いずれにしたって永田が格闘集団を背負っていかんと。やっぱり格闘技っていうのはリーダーがいるからね。

—格闘技にはリーダーが必要でしたか（笑）。

井上 中邑（真輔）じゃ、もう一つもの足りんわ。藤田にやれっていうわけにもイカンでしょ。新日本プロレスの中からそういった連中を表に立てて、旗を振るっていったら永田しかおらんのよ。永田が卒業するためにも、今日にでも「IWGPのタイトルは返上します」と言って欲しいんですよ。もう、闘わずして「中西！ お前がチャンピオンだから誰でも挑戦者を選んでやってくれ。中邑を選んでバーリ・トゥードマッチをやってもいいじゃないか！」と、そう言ったらみんな拍手しますよ！ 少なくと僕は拍手しますよ！ 闘って負けるっていう図式はもう古いんですよ。そんなもんアンタ、神武天皇から見ても「これは古い！」って言いそうなことをやっとったらダメですよ。

—神武天皇はプロレス見るんですか？（笑）。

井上 アンタ、今年が平成の何年だと思う？ 僕は平成の元年が来た時にはえらい時代が来たなと思うたけども、考えたら14年間経ってるんだぜ!? 平成が！

—あっと言う間ですね。

井上 他はどうだっていいですけど、新日本がエンタメだ何だかんだ言うとったらダメですよ。おそらく5・2で大革命が起こるかどうかわからんけども、少なくとも誰かの口から「今日をもって新日本はガラっと変わります。これがホントの意味での『格闘記念日』です！」と、そういう言葉が出ますよ。まあ、坂口の口から出るとは思われんけど。それを猪木が言ったら身も蓋もないんでね。いずれにしたって蝶野や藤波の口から出て、「え！ 新日がプロレスを卒業するの!?」と言わんばかりの驚きの声が会場から上がるということが5・2の意味でしょう！

—ほぉ～、5・2は「プロレス卒業式」になるわけですね。

井上 本来、それを睨んでいたのがWJなんですよ。新日本はWJがそれをやるんじゃないかと戦々恐々としとったはずなんですよ。新日は怖かったと思うわな。バードを入れた理由はそこですよ。まあ、あの程度だったからやれやれとは思ったと思うけどね。同時にあれと同じことをやっとったら、我々も同じ鉄を踏むぞ、中西と。

—藤波社長がメインとか（笑）。

永田はプロレスを卒業して、新日格闘集団を背負ってけ！

井上　でも、結局ＷＪはガチプロ止まりだったからね。長州が「旗を振るな、花火も上げるな！」と、そういうことをみんなに示したわけだから、ストプロ（ストロングプロレスの井上用語）の上を行くガチプロを睨んでの方向は間違ってなかったんだけど、残念ながら消化不良だったと。だから、ハッキリ言うたらブン回し（ジャイアントスイング）とかそういうものを入れるんじゃなくて、ボビッシュなんていうのをあの試合でとことんやらせるべきだったんだよな！

——あれは拾い物でいい選手ですね。

井上　あれがエンタメプロレスやっとってごらんなさいよ、ハッキリ言って猿芝居ですよ！　あの選手を呼んできてフライを呼んできたらもうＵＦＣでしょうが。

——厳密には、ボビッシュはＵＦＣじゃなくて別の大会のチャンピオンだったんですけどね。

井上　なんべんも言うてるように、馳自身やろうと思えばバードをやれるんだけど、新日本プロレス、全日本プロレスのイメージでブン回しをやってるでしょ？　全日であれをやったら大拍手でも、ＷＪであれをやったらダメなの。そのへんの認識が欠けとるところが、あの試合が不評を買った大きな理由ですよ。それが時代なんですよ。昔のノアの旗揚げの時には誰もそんなことは言わなかったやないか。ＷＪだけが言われとるんだから。それはやっぱり旗揚げしたのが長州だからですよ。しかも、新日のガチガチのトップだった長州がやるんだったら凄い試合だろうと、甘いところは全然ないぞと、そういうものをみんな期待してたんですよ。そんな糖尿病のおしっこみたいな甘いもんじゃないですよ、コレ！

——どんな例えですか（笑）。

井上　そりゃみんな文句を言いますよ。ファンがここまで期待してたかと、むしろマスコミの方が「え！　何だこれは」と驚いたんじゃないの？　マスコミっていうのは旗揚げだから悪いことは書けないと、書いたらいっぺんに取材拒否を喰らうからね。だからみんな甘いことを書いとるんですよ。僕も『週刊ファイト』に書いたけど、ハッキリ言って言いたいことの半分も書いてませんよ。でも、そういうことがなかったら、ハッキリ言って僕は凄いことを言ってると思いますよ。僕の意見が必ずしも正しいとは限らないけど、僕の目を通して見ると「何ですかアレは」と、この一言になる。それをひしひしと感じてるのが長州と永島の旦那だから、「次はご祝儀マッチじゃなくてガチガチの試合でいったるぞ」と、だからど真ん中を走るというのはそういう意味ですよ。大体、〝ど真ん中を走る〟っていう定義がされてなさ過ぎる！

——どういう意味なのか誰もわかってないですよね（笑）。

井上　長州にしても永島の旦那にしても、誰もその意味を言ってないのよ。「ど真ん中を走る」っていう言葉の意味は、とにかくガチガチで妥協しない目ン玉の飛び出るような試合をやるんだ、と。それがど真ん中を「のけぇい！」と言って走る意味なんだ、と。僕はそう解釈したんですよね。ハッキリ言って「これからガチンコの試合をやるぞ」と、これがＷＪの言いたいことだったんじゃないかと思いますよ。

——ど真ん中はガチンコという意味でしたか!?

井上　だから今度のＷＪの試合評とか記事も、みんなピントが外れてる！　なまじっか悪い試合じゃなかったし、誰もどう書いたらいいかわからないんだよな。しかし、ファンは文句を言うてる。こういうものをハッキリと是正するのが長州の仕事でしょうが。ＷＪは他のところに流れて行くことはできないんだから、新日本の上をいくハードなことをやらなければいけない。だから3・1は絶好のチャンスだったんですよ。新日本の5・2より2カ月早いんだから、先にやったもん勝ちだったんですよ。

——見事にそのチャンスを逃してしまったんですね。

井上　そこでチャンスを全部逃したわけじゃないけども、見てるお客さんの大半に文句を言われたんじゃダメですよ。水戸黄門を見てるファンは文句を言わないわけですからね。ＮＨＫの『武蔵』にしても文句を言う人は誰もいないんだから。何やったって、金を払って見てるお客さんに文句を言われたら負けですよ。このままやってたらＷＪは潰れますよ！

——潰れますか！

井上　越中と大仁田の爆破マッチにしたって、初めから「凶器持ち込みＯＫの試合です」と謳っとったらイスを持ち込もうが、葉巻に火を点けてコスリつけようが、誰も文句を言いませんよ！　とことん立ち上がれなくなるまでやったら、大仁田にし

ても越中にしても株が上がってたわけですよ。あんなもん、ボーンって行ってても爆発しなかったんだから！
——作動しませんでしたね（笑）。
井上　イスをぶつけて初めて爆発するなんてことで、どうするんだよ!? 爆破マッチも底が見えてるし、誰も感動しないし、そういったことをやって「WJのプロレスは凄いぞ」と客が思うだろうと考えとったところが間違いの始まりですよ！　でも、最初に大仁田が万博公園で爆破マッチをやった時は、ホントに凄かったね！　俺もそばに行って大仁田の皮膚をジーっと見とったけども、裂けとったもんな。裂けて焦げて身が出てるんだから「凄いなぁ」と思って大仁田のところに行って「お前、こんなことやっとったら死ぬぞ」と言いに行きましたよ。「編集長、それはわかってます。だけどトコトンいくしかないんです。これで死ぬまでいくしか他に道がないんです」って。俺は黙ってましたけどね、それが爆破マッチですよ。いまの爆破マッチはなんか知らんけど映画のワンシーンを見てるようで迫力がないですよ。あれは何なんだよ!?
——何度もやって体にそんなに危なくない爆弾を見つけたんでしょうね（笑）。
井上　爆破してるのに柔らかいTシャツが破れないわけでしょ。しょうがないから越中あたりが自分で破ってるわけですよ。そういったことになるんだったら、初めから「爆破マッチは辞めます」と、それがWJじゃないの？　見てくれがどうのこうのじゃなくてホントの真実っていうか、紛れもない本物を見せますと。籠に入れて全部で一万五千円の腐ったようなリンゴだのメロンが入ってるのを売るんじゃなくてね。大阪では、トラックに積んできたみかんをヘナヘナのバケツにダーンと入れて「五百円で持ってけドロボー！」って売ってますよ！　WJなんかもあれを見習わんといけませんよ。包装紙なんかに包んどったらアカンわ！
——飾りっ気なしのプロレスが必要だということですね。
井上　問題は中身だけ！　そうでなかったら、WJは新日本とかノアとかと区別がつかなくなりますよ。だから今回は素直に反省して「次はこういきます」と、黙っとらずに次の日に何か言えばよかったんですよ。
——最近は記者会見も減っちゃいましたからね。
井上　『週刊ファイト』を読んだかどうか知りませんけどね、あれが『週刊ファイト』の論調だと思ったら大きな間違いですよ。甘いことを書いとりますよ。団体が旗揚げしたばっかりだから厳しい事を言ったらイカンのはわかりますけど、長州が偉いのはそういう批判を甘んじて受けようというふうにしてるからね。長州は「どんな批判も甘んじて受けよう」と言ったんだから！　大会前から長州はボロクソに言われることはわかってたんですよ。でも、マスコミも批判するだけで、救いの手を差し伸べなかったらダメですよ。批判はするんだけど、「今度はこういうふうにもっていくだろう」とかね、春風のようなところが筆の先に残ってないと。
——筆の先に春風！
井上　「お前ら、アホか」みたいな書き方をしたら身も蓋もないからね。やっぱり読者もファンもそれを期待してるからね。貶すけども、どこかで弁護士的な論調があるだろうと思ってるから。逆に、それがないと困っちゃうんですよ。だからそれがない人が書いたものは、ボロカスに言われるんですよ。WJは、そういうことで第2ラウンドがありますよということですよ。
——逆に今後は大注目ですよね。
井上　だから早めに「次はこうしますと」というPR作戦が必要なんですよ。それで口先だけじゃなくてホントにやってみなさいと。やる方はしんどいですよ。プロレスでも命懸けなのに、ましてやバードでやるってことになってみなさいよ。越中にしたって「俺を殺す気か！」って言いますよ。WJに身を投じたんだから、身を投じた以上は「エンタメをやります」では生きていく道はないですよ。まあ、長州もしんどいですな（笑）。
——しんどいですねぇ（笑）。
井上　とにかく団体が潰れないように儲かって欲しいと思いますよ。
——わかりました！　しんどいですけど次が正念場ということですね。

言うちゃ悪いけど今日の結論

糖尿病のおしっこみたいな甘いもんじゃなく、ガチガチのバードを期待してたんだよ！

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。『週刊ファイト』の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミで一編集長に影響を受けた人間は数知れない。

超読者プレゼント邪ッ!!

KEIJI&GENKI

各1名様

☆LEGROCK Tシャツ

☆LEGROCKトレーナー

☆武藤敬司&須藤元気サイン色紙

新しく設立された武藤の個人事務所「レッグロック」からさっそくTシャツ&トレーナーが登場! 対談が実現した須藤元気とのスペシャルサイン色紙は超貴重なん邪ッ!! 【レッグロック提供】
お問い合わせ【TEL】03-3234-0969

EMELIANENKO FEDOR

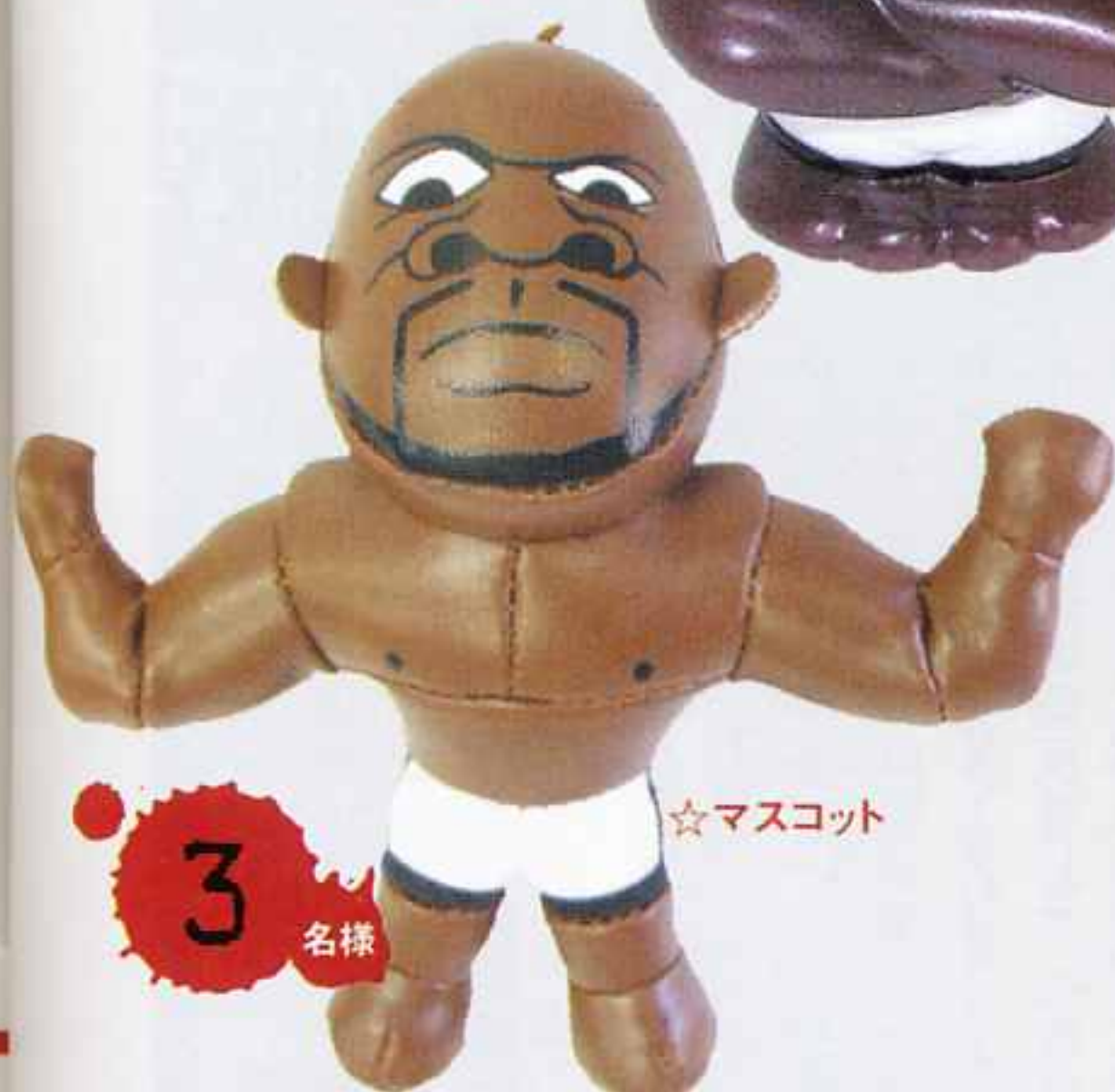
☆ヒョードルTシャツ(サイン入り)

『PRIDE.25』会場で爆発的に売れたヒョードルTシャツに王者の印を入れてプレゼント!! とっても強い男のTシャツなん邪ッ! 【編集部提供】

SIZE S / SIZE M / SIZE L / SIZE XL 各1名様

BOB SAPP

原宿に期間限定ショップが開店する人気絶頂のボブ・サップ! 一般世間に届いたのは俺以来なん邪ッ! 【ハピネット・ロビン提供】
お問い合わせ【TEL】03-5828-6351
【URL】http://www.happinetrobin.co.jp/

☆指サップ 3名様

☆マスコット 3名様

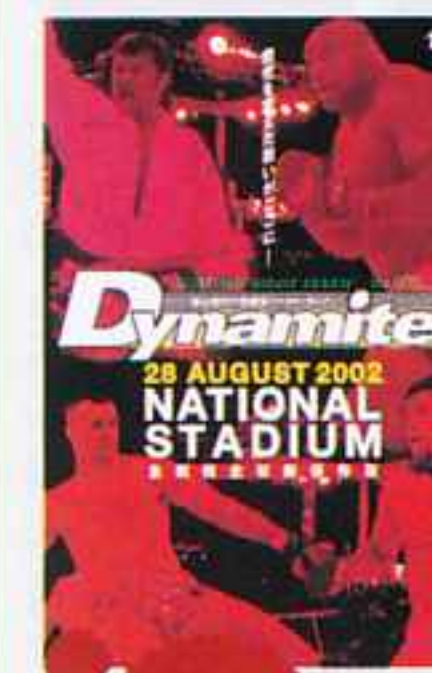
☆缶バッチ(1box) 1名様

☆ステッカー(1box) 1名様

『PRIDE.23』

☆『PRIDE.23』DVD
涙なしでは凝視できない高田延彦引退試合を始め、ノゲイラの大巨人狩り、ヒョードルの荒馬撲殺など好試合連発だった東京ドームの模様がDVDで甦る! みんな男の中の男なん邪ッ!
【パイオニアLDC(株)提供】
お問い合わせ【TEL】03-5721-9876
月・火・木・金13:00~16:00

3名様

『Dynamite!!』

☆『Dynamite!』DVD
9万人の観客で膨れあがった国立競技場を揺るがしたサクvsミルコ、サップvsノゲイラ、吉田vsホイス!! そしてアントン総帥の闘魂ダイブ!! 爆発モノのDVDなん邪ッ!! 【パイオニアLDC(株)提供】
お問い合わせ【TEL】03-5721-9876
月・火・木・金13:00~16:00

3名様

PS2/『PRIDE』

念願のゲーム化!! 『PRIDE』が遂にPS2で登場だ! 実在する25人の『PRIDE』ファイターの操作が可能で、本物と見間違う選手紹介&入場シーンの演出の中で思う存分『PRIDE』ワールドの体感できる。オリジナルファイターも作成できるん邪ッ! 【カプコン/DSE提供】

6名様

『INOKI BOM-BA-YA』

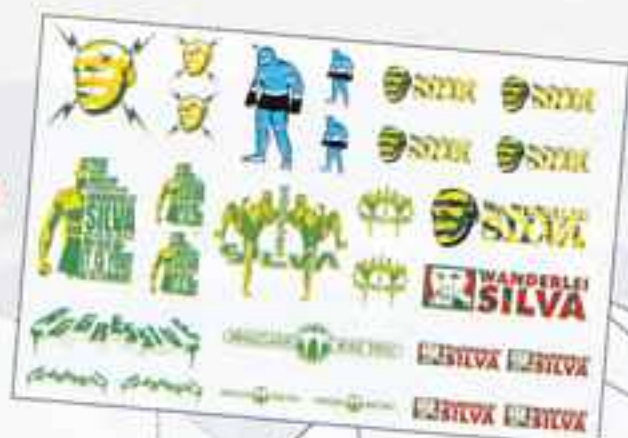
☆『INOKI BOM-BA-YA 2002』DVD
NHK紅白歌合戦を向こうにまわして脅威の視聴率を獲得した大晦日『猪木祭り』!! サップvs高山、ミルコvs藤田などマット界の話題とさらった大会をDVDで振りかえるん邪ッ!! 【メディアファクトリー提供】
お問い合わせ【TEL】03-5469-4880
月~金10:00~18:00

2名様

『PRIDE』

リスタートした『PRIDE』からニューグッズが続々と登場!! コラボTシャツ、ノゲイラTシャツなど、魅力的なグッズがズラリだ! これこそ業界のド真ん中グッズ邪ッ!
【DSE提供】
お問い合わせ『PRIDE』ナビダイヤル【TEL】03-5775-5882【URL】http://www.so-net.ne.jp/pride/

各1名様

☆ヴァンダレイ・シウバ ステッカー〈¥1,000〉
☆サク×キン肉マン MASKTシャツ〈¥4,500〉
☆シウバ&ゴリラーマン Tシャツ〈¥3,800〉
☆シウバーマン Tシャツ〈¥3,800〉
☆ノゲイラ／ミノタウロ Tシャツ〈¥4,800〉
☆ノゲイラ／トライアングル Tシャツ〈¥4,800〉

JET-SHIN

1名様

☆JET-SHIN パーカー
☆JET-SHIN Tシャツ②
☆JET-SHIN Tシャツ①

あらゆる雑貨を取り揃え、バーリ・トゥード古本屋の看板を掲げる「JET-SHIN」からTシャツを頂きました。こっちの横浜は熱いん邪ッ!
【JET-SHIN提供】
【住所】横浜市港北区網島西2-5-13【TEL】045-531-5902【URL】http://www.jet-shin.com/

TSUBASA

5名様

☆翼鍛錬所Tシャツ
翼トレーニングスクール・原校長より噂のTシャツをプレゼント!! 悪い子はいねえが!! 教育指導に励む邪ッ!
【原輝尚提供】

ANTON

【PCCWジャパン提供】
お問い合わせ【URL】http://www.pccw.co.jp

☆闘魂 猪木道～ぱずるDEダァーッ!～
「元祖! 浦安鉄筋家族」の浜岡先生が、新日レスラーのキャラクターデザインを手掛けた対戦型アクションパズルゲーム! ゲーム中には迫力のカットインアニメーション、アントン総帥の歴代名勝負ムービーや本人肉声による猪木語録も飛び出すん邪ッ!

各3名様

☆ゲームボーイアドバンス「闘魂ヒート」
ヒートを操り実名で登場する新日本の選手を相手にバトルを繰り広げる! 通信対戦も可能なので友達と燃える闘いで火を付けろ! 仰天なことにアントン総帥プロデュースゲームなん邪ッ!

TIGHR MASK

3名様

☆タイガーマスク・フィギュア
アニメ「タイガーマスク」がDVDで復刻されるなど、いまだ人気が衰えない虎戦士。佐山先生も復活間近なん邪ッ!
【虎の穴提供】

ZERO-ONE

1名様

☆橋本真也ディフォルメ貯金箱（限定ゴールドバージョン）
破壊王をデフォルメするという奇跡の作業により驚愕の貯金箱が完成!! これは通常とは異なる50体限定のゴールドバージョンだ!! カネがジャブジャブ貯まるん邪ッ!
【インスパイア提供】
お問い合わせ【URL】http://www.inspire.co.jp/

応募要項

応募券

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦好きな選手&嫌いな選手

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「戦争と邪道」係まで
※締切は2003年4月25日(金)当日消印有効

I.W.A

3名様

☆I.W.Aジャパンプロレス嵐の8周年大会 番外編～第"ゼロ"試合～ ゴージャス松野プロレスラーへの道
特典としてジェット・シン、ジプシー・ジョー、河童小僧のミニ・インタビュー、テリー・ゴディの日本ラストマッチ、カブキの復活を収録! IWAのDVDはホントに面白いん邪ッ!
【IWAジャパン提供】
お問い合わせ【TEL】03-3352-3366

TSUJI

1名様

☆辻結花パーカー
辻ちゃん本人が着ているパーカーをスペシャルプレゼント!! 辻ちゃんのぬくもりを感じるん邪～ァ
【辻結花提供】

J STAR

大阪・京橋のプロレスショップからシークとサブゥの師弟コンビなグッズが飛んできたん邪ッ!! シークさん、永遠に!
【ジェイスター提供】
お問い合わせ【TEL】06-6926-2888
【URL】http//:www.jstar.co.jp/

☆シークフィギュア

☆サブゥTシャツ

セットで1名様

No.60
2003年4月25日発行

No.61は 4月下旬発売予定!
※多分にです。地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（タマちゃんを想うため非番）

スーパーバイザー
吉田豪

助っ人
片山ボン
ジャイ子

電気部
さざきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）

海老沢勇
古賀ゆきえ（以上Zero graphics）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫
緒方秀美

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

出前
出前持ち入江（TwoThree）

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス

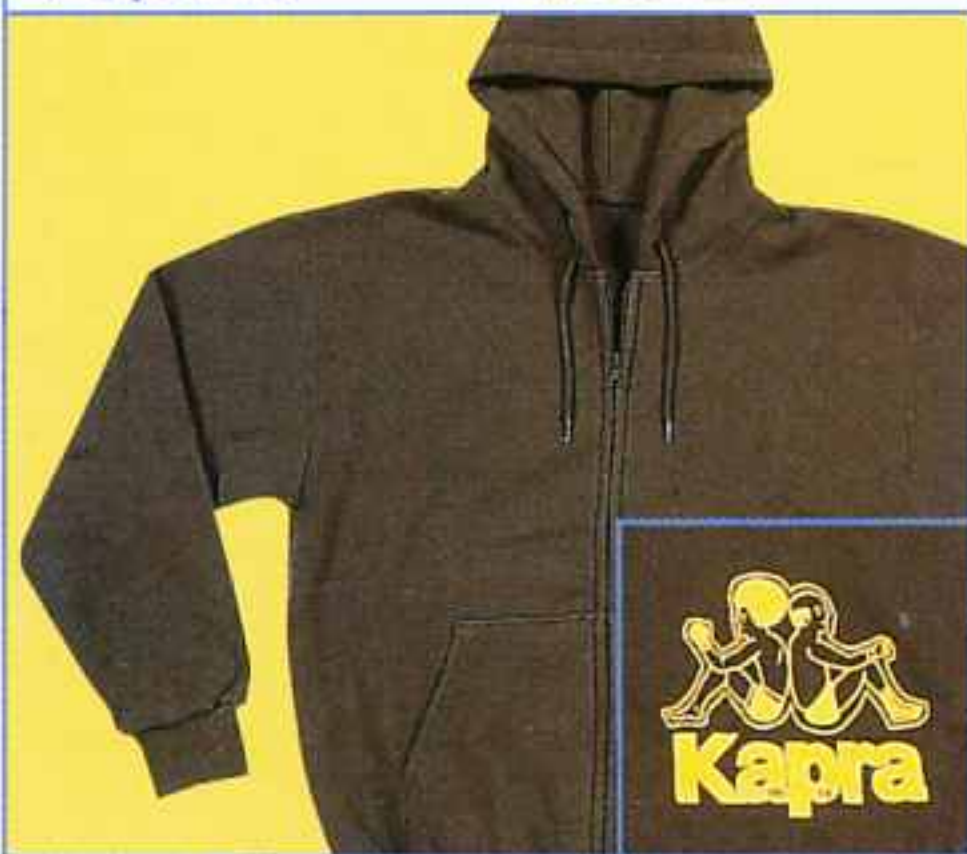
印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元 株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元 株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188（編集・制作）

先月までは「まとめて売っちゃうぞバカヤローッ!」なKapraギフトセットでしたが

今月からはバラして売っちゃうぞバカヤローッ!!

Kapraパーカー〈ブラック〉
¥6,000 M or L

トートバック〈ブラック〉
¥1,500

Kapraパーカー〈ネイビー〉
¥6,000 M or L

トートバック〈ネイビー〉
¥1,500

『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引 郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留 希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替 希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

●問い合わせ●
（株）ダブルクロス 03-3403-5188

紙プロネックピース
¥~~1,200~~ ➡大特価 ¥600

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL

リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉
¥3,800 S or M or ~~L~~ SOLD OUT

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥4,500 S or M or L

『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,000 S or M or L or XL

『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 S or M or L or XL

通販完売商品は直販店にある!?
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン（TEL.03-3221-6237）★東京イサミ（TEL.03-3352-4083）★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）★グレート・アントニオ（TEL.03-3219-9550）★三恵格闘技SHOP長崎（TEL.095-824-8658）★三恵格闘技SHOP諫早（TEL.0957-22-4646）★浜松市・Buddy（TEL.053-450-7888）

日本で初めてエビネを育毛剤に添加する事に成功

エビネ(Calanthe discolor 東洋蘭の一種)は古来から中国では、九子連還草と呼ばれ血の巡りを良くする生薬の一つとして知られています。内服では肺疾患や打撲傷の改善に、また外用では絞り汁が痔疾などに効果があるとされ一部で民間薬として用いられています。ノムラでは、このエビネに注目し天然物の新素材として研究を重ねた結果、育毛に大切な3要素(皮膚保護作用・血流促進作用・抗フケ菌作用)が含まれていることを発見、製品化することに成功しました。

TV・雑誌・新聞で取り上げられた話題の育毛剤。

MYLEBEN 蘭
育毛剤マイ・レーベン

40ml×2本セット 定価 13,000円

医薬部外品 承認番号：21000DZZ01689000

製造元：(株)ノムラ 〒889-1602 宮崎県宮崎郡清武町大字今泉丙1864-16

資料請求および商品のお申し込みは お電話かFAX、おハガキ又はインターネットで。

お電話
電話受付時間（月～金）9:00～18:00
☎03-3711-5447

FAX
FAX.03-5704-0700

ホームページアドレス
http://www.mmjp.or.jp/myleben

おハガキ
（オモテ面）50円 152-0004 東京都目黒区鷹番3の1の3 朝日生命ビル5F マイレーベン・ジャパン 行

（ウラ面）マイレーベン購入希望
●金額／数量（13,000円×
●ご住所（フリガナ）
●お名前（フリガナ）
●お電話番号／FAX番号

■お支払いは商品到着時に代金引換でお願いします。
■商品到着後7日以内で未開封の物のみ返品・交換ができます。ただし返品送料はご負担ください。

販売：マイレーベン・ジャパン
〒152-0004 東京都目黒区鷹番3-1-3 朝日生命ビル5F TEL.03-3711-5447 FAX.03-5704-0700

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK224 2003 NO.60
マット界が生まれ変わる!!
平成15年4月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体838円＋税

9784898297049
ISBN4-89829-704-8
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌 69860—24

印刷：図書印刷株式会社

☎INDEX

*50音及びアルファベット順

団体名	電話番号	住所
アルシオン	➡03-5745-6101	〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-24　サンハイツ1004
大阪プロレス	➡06-6636-6672	〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36　フェスティバルゲート2F
怪獣王国	➡03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
キャプチャー	➡044-959-3333	〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘2-2-1　横山ビルB1
キングダム・エルガイツ	➡0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
栗栖ジム	➡06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
喧嘩プロレス二瓶組	➡044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2　二瓶ビル
国際プロレス	➡0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
修斗コミッション	➡03-5824-1324	〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8　若山ビル201
新日本プロレス	➡03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
掣圏道	➡042-544-6979	〒196-0013 東京都昭島市大神町1-2-22
全日本女子プロレス	➡03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
全日本プロレス	➡03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
大日本プロレス	➡045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
ダイプロデュース(大仁田興行)	➡03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3　大北ビル3F
髙田道場	➡03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワールドパレス武蔵小山1F-B1
高山堂	➡03-5464-2806	〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803ジェイパーク渋谷イーストスクエア
闘龍門JAPAN	➡078-333-9797	〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18　メープル中山手210
トータルワークアウト	➡03-3280-5557	〒108-0073 東京都芝区三田4-7-24　明るいビル
ドリームステージエンターテインメント	➡03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4　ルーメリ赤坂103
バトラーツ	➡0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
パンクラス	➡03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
プロレスリング・ノア	➡03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
みちのくプロレス	➡019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
DDT	➡03-3868-9181	〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7　MORIMOTO FLATS 4F
DEEP事務局	➡052-339-0303	〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
GAEA JAPAN	➡03-5459-3101	〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
GCM COMUNICATION	➡03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10　松楠ビル9F
IWAジャパン	➡03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401
Jd'	➡03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4　ランディック赤坂ビル4F
JWP	➡03-5849-2341	〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
K－1事務局	➡03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
KAIENTAI DOJO	➡043-214-6960	〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
LLPW	➡03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ピクセル文京105
NEO	➡044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
SMACK GIRL実行委員会	➡03-5545-4766	〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-5　ノアビル12階
SPWF	➡0475-42-6687	〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮10073-2
U-FILE CAMP	➡044-932-0282	〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
UFO	➡03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5　OK白金台ビル7F
UNW	➡03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
U.W.F.スネークピット・ジャパン	➡03-3337-1889	〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
WEW	➡03-5958-5651	〒176-0005 東京都豊島区南大塚3-34-4ニューヴァリー2F
WJプロレス	➡03-5458-5915	〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-10-9　東信青葉台ビル4F
WMF	➡03-5362-7364	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-26　テクノ四谷ビル2F
WWS	➡0495-24-6900	〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23　レインボー本庄106
ZERO-ONE	➡03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
ZST	➡03-5321-9595	〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2　廣川ビル4F

市議会議員候補

せきかわ哲夫 てつお

-1 BEAST
2003
YAMAGATAGENERALSPORTSCENTER
4.6 PM 3:00 GONG!
K-1 JAPAN VS TEAM BOB SAPP
MUSASHI VS GARY GOODRIDGE
HI NAKASAKO VS MIKE BERNARDO
HIROMI AMADA VS TOM ERIKSON
HINGO KOYASU VS CYRIL ABIDI
TSUYOSHI VS MAURICE SMITH
UKE FUJIMOTO VS KEVIN KING
FUMI TOMIHIRA VS CHAD BANNON

K-1
YAMAGATAG
4.6 P
K-1 JAP
MUSA
TSUYOSHI NAKASA
HIROMI AMA
SHINGO KOY
TSUYO
YUSUKE FUJIMO
TATSUFUMI TOMIH

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　◎ ジャン斉藤
♠ 松澤チョロ　♥ さささぃ
◆ 堀江ガンツ　● スモーノブ

)★

ター(18:30)★

ホール(18:00)

)

)

18:00)★

00)

8 TUE.

全日本■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
ノア■岡山・岡山武道館(18:30)

9 WED.

全日本■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)

10 THU.

全日本■広島・広島グリーンアリーナ小ホール(18:30)
ノア■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)
LLPW■東京・大田区体育館(19:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

11 FRI.

ノア■愛知・豊田市体育館(18:30)
WMF■東京・後楽園ホール(19:00)

12 SAT.

全日本■東京・日本武道館(18:00)
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■香川・善通寺市民体育館(18:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■埼玉・川口オートレース場横駐車場(18:30)

13 SUN.

ノア■東京・有明コロシアム(15:00)
バトラーツ■埼玉・桂スタジオ(17:00)♥
大阪■大阪・なんばマザーホール(17:00)
闘龍門■山口・海峡メッセ下関(17:00)
Jd' ■東京・後楽園ホール(12:00)
華☆激■福岡・さざんぴあ博多・多目的ホール(13:00)
JWP■東京・ディファ有明(17:00)
SB■東京・後楽園ホール(17:30)
全女■東京・全女事務所ガレージマッチ(12:00)

15 TUE.

闘龍門■大阪・IMPホール(18:30)

17 THU.

DDT■東京・渋谷clubATOM (19:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

18 FRI.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)●

19 SAT.

新日本■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)
闘龍門■埼玉・桂スタジオ(18:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
全女■栃木・矢板市農業者トレーニングセンター(時間未定)
WJ■東京・後楽園ホール(12:30)♠◎

20 SUN.

闘龍門■埼玉・ぺぺホールアトラス(13:00)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
K−DOJO ■東京・ディファ有明(15:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
Jd' ■東京・板橋区立産文ホール(16:00)
GAEA■大阪・大阪ドーム・スカイホール(15:00)

21 MON.

新日本■山口・宇部市俵田翁記念体育館(18:30)

22 TUE.

新日本■福岡・西日本総合展示場(18:30)
闘龍門■東京・国立代々木競技場第二体育館(18:30)◆♥

23 WED.

新日本■広島・広島サンプラザホール(18:30)

24 THU.

新日本■島根・松江市総合体育館(18:30)
ZERO−ONE■東京・後楽園ホール(18:30)★♥
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
DDT■東京・渋谷clubATOM (19:00)

25 FRI.

新日本■大分・日田市総合体育館(18:30)

26 SAT.

BAPE STA!!■大阪・Zepp Osaka(19:00)
ZERO−ONE■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:00)★
新日本■大分・別府ビーコンプラザ(18:30)
闘龍門■島根・松江くにびきメッセ(18:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
LLPW■埼玉・越谷桂スタジオ(17:00)

27 SUN.

BAPE STA!!■大阪・Zepp Osaka(15:00)
ZERO−ONE■福岡・博多スターレーン(17:00)★
新日本■長崎・長崎県立総合体育館(15:00)
闘龍門■岡山・岡山市卸センター・オレンジホール(16:00)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(16:00)

28 MON.

新日本■福岡・博多スターレーン(18:30)

29 TUE.

BAPE STA!!■福岡・Zepp Fukuoka(15:00)
ZERO−ONE■愛知・名古屋国際会議場(18:30)★
新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ(15:00)
WJ■鳥取・県立米子産業体育館(16:00)
闘龍門■愛知・名古屋国際会議場イベントホール(14:00)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
WEW■東京・ディファ有明(15:00)

RADICAL CALENDAR

3 March

27 THU.

ZERO－ONE■東京・後楽園ホール（18:30）★♥
闘龍門■秋田・大館市民体育館（18:30）
みちのく■宮城・気仙沼市総合体育館サブアリーナ（18:30）
大日本■長野・長野運動公園総合運動場（18:30）
K－DOJO ■千葉・Bule Field（19:00）
TRIAL おやじの逆襲!■東京・北沢タウンホール（18:30）

28 FRI.

全日本■北海道・北海道立総合体育センター（18:30）
みちのく■秋田・秋田テルサ（18:30）
闘龍門■岩手・和賀多目的催事場（18:30）
ノア■熊本・熊本市総合体育館（18:30）

29 SAT.

新日本■新潟・苗場プリンスホテル（18:30）
みちのく■福島・郡山市総合体育館（18:30）
闘龍門■岩手・一関文化センター体育館（18:30）
WMF■千葉・君津市民体育館（18:00）
アルシオン■三重・三重県営サンアリーナ（18:30）
大日本■新潟・新潟フェイズ（17:00）
K－DOJO ■千葉・Bule Field（19:00）
NEO■東京・板橋区立産文ホール（18:30）
ARKADIA■長野・ウイング21（19:30）♠
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
全女■静岡・富士川町総合体育館（18:30）

30 SUN.

K－1■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）♦♥
闘龍門■宮城・Zepp Sendai（16:00）
みちのく■宮城・ニューワールド仙台（16:00）♥
K－DOJO ■千葉・ポートアリーナ（13:00）
大日本■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
SPWF■千葉・SPWF道場（14:00）
GAEA■大阪・大阪ドーム・スカイホール（16:00）
ノア■福岡・博多スターレン（17:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
全女■千葉・夷隅町多目的研修センター（16:00）

31 MON.

全日本■北海道・函館市民体育館（18:30）
ノア■鹿児島・鹿児島アリーナ（18:00）

4 April

1 TUE.

みちのく■北海道・函館市民体育館（18:00）

2 WED.

ノア■大分・県立荷揚町体育館（18:30）
SMACK GIAL■東京・六本木velfarre（19:30）♠

3 THU.

ZERO－ONE■岐阜・セラトピア土岐（18:30）★
全日本■福島・富岡町総合体育館（18:30）
ノア■広島・広島市東区スポーツセンター（18:00）
K－DOJO ■千葉・Bule Field（19:00）
NEO■東京・渋谷clubATOM（19:00）

4 FRI.

全日本■福島・ビックパレットふくしま（18:30）
ZERO－ONE■兵庫・神戸サンボーホール（18:30）★
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
Jd' ■東京・北沢タウンホール（18:30）
全女■愛知・津島市文化会館大ホール（18:30）

5 SAT.

ZERO－ONE■愛媛・松山市総合コミュニティセンター（18:30）★
全日本■新潟・長岡市厚生会館（18:30）
ノア■石川・石川県産業展示館3号館（18:00）
闘龍門■愛知・刈谷市産業振興センター・あいおいホール（18:00）
DDT■東京・バトルスフィア東京（18:30）
JWP■東京・金町地区センター文化ホール（18:30）
K－DOJO ■千葉・Bule Field（19:00）

6 SUN.

U－STYLE■東京・ディファ有明（17:00）◎
K－1■ 山形・山形市総合スポーツセンター（15:00）
ZERO－ONE■和歌山・和歌山県立橋本体育館（18:00）★
ノア■三重・四日市オーストラリア記念館（17:00）
闘龍門■静岡・アクトシティ浜松（18:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
GAEA■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
アルシオン■大阪・デルフィンアリーナ（17:00）
全女■静岡・ツインメッセ静岡（15:30）

7 MON.

全日本■富山・富山産業展示館テクノホール（18:00）
全女■栃木・小山ゆうえんち駐車場（18:30）

8 TUE.

全日本■岐阜・岐阜
ノア■岡山・岡山武

9 WED.

全日本■大阪・大阪
NEO■東京・北沢タ

10 THU.

全日本■広島・広島
ノア■大阪・大阪府
LLPW■東京・大田
K－DOJO ■千葉・

11 FRI.

ノア■愛知・豊田市
WMF■東京・後楽園

12 SAT.

全日本■東京・日本
パンクラス■東京・後
闘龍門■香川・善通
K－DOJO ■千葉・B
大阪■大阪・デルフィ
全女■埼玉・川口オー

13 SUN.

ノア■東京・有明コロ
バトラーツ■埼玉・桂
大阪■大阪・なんばマ
闘龍門■山口・海峡メ
Jd' ■東京・後楽園ホ
華☆激■福岡・さざん
JWP■東京・ディファ
SB■東京・後楽園ホ
全女■東京・全女事務

15 TUE.

闘龍門■大阪・IMPホ

17 THU.

DDT■東京・渋谷clu
K－DOJO ■千葉・B

18 FRI.

新日本■東京・後楽園

19 SAT.

新日本■静岡・キラメ
闘龍門■埼玉・桂スタ
K－DOJO ■千葉・B
全女■栃木・矢板市
WJ■東京・後楽園ホー